

Collaboration - Mail システム管理者ガイド

解説・手引書

3020-3-H07-D0

■ 対象製品

P-2646-6364 Groupmax Collaboration Portal 07-91 (適用 OS: Windows Server 2012*, Windows Server 2012 R2*, Windows Server 2008 R2*, Windows Server 2008 x64*, Windows Server 2008 x86)

P-2746-E464 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-91 (適用 OS: Windows Server 2012*, Windows Server 2012 R2*, Windows Server 2008 R2*, Windows Server 2008 x64*, Windows Server 2008 x86)

注※ WOW64 環境だけで使用できます。

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	製品名
Internet Explorer	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft(R) Windows(R) Internet Explorer(R) 8• Microsoft(R) Windows(R) Internet Explorer(R) 9• Microsoft(R) Windows(R) Internet Explorer(R) 11
Windows 7	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise 日本語版 (32 ビット版)• Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise 日本語版 (64 ビット版)• Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional 日本語版 (32 ビット版)• Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional 日本語版 (64 ビット版)• Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate 日本語版 (32 ビット版)• Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate 日本語版 (64 ビット版)
Windows 8.1	<ul style="list-style-type: none">• Windows(R) 8.1 Enterprise 日本語版 (32 ビット版)• Windows(R) 8.1 Enterprise 日本語版 (64 ビット版)• Windows(R) 8.1 Pro 日本語版 (32 ビット版)• Windows(R) 8.1 Pro 日本語版 (64 ビット版)
Windows Server 2008 R2	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise 日本語版• Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard 日本語版
Windows Server 2008 x64	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 日本語版• Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 日本語版

表記	製品名
Windows Server 2008 x86	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 32-bit 日本語版 • Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 32-bit 日本語版
Windows Server 2012	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter 日本語版 • Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard 日本語版
Windows Server 2012 R2	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter 日本語版 • Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard 日本語版
Windows Vista	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft(R) Windows Vista(R) Business 日本語版 (32 ビット版) • Microsoft(R) Windows Vista(R) Business 日本語版 (64 ビット版) • Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise 日本語版 (32 ビット版) • Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise 日本語版 (64 ビット版) • Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate 日本語版 (32 ビット版) • Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate 日本語版 (64 ビット版)

このマニュアルでは、特に断りのない場合は、Windows 7, Windows 8.1, Windows Server 2008 R2, Windows Server 2008 x64, Windows Server 2008 x86, Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2, および Windows Vista を総称して Windows と表記しています。

■ 発行

2015 年 4 月 3020-3-H07-D0

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2004, 2015, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容(3020-3-H07-D0) Groupmax Collaboration Portal 07-91, Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-91

追加・変更内容	変更箇所
次の OS を対象製品の適用 OS に追加しました。 <ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2012 R2	-

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、Collaboration - Mail の機能、システム構成、および環境の設定方法について説明したものです。

■ 対象読者

Collaboration - Mail を使用したシステムの環境を管理および運用するシステム管理者、またはシステムインテグレーターを対象としています。なお、次に示す項目を熟知していることを前提としています。

- 使用する OS (Operating System) および Web ブラウザの操作
- Collaboration - Mail の各機能および操作 (マニュアル「Collaboration - Mail ユーザーズガイド」をお読みください)
- Groupmax Address Server Version 7 および Groupmax Mail Server Version 7 の操作
- データベース (HiRDB) の操作
- HiRDB Text Search Plug-in の操作

■ このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する主な記号を次に示します。

記号	意味
	横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し、「または」の意味を表します。 (例) A B A または B を指定することを示します。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目のうちから一つを選択することを意味します。項目が横に並べられ、記号 で区切られている場合は、そのうちの一つを選択します。 (例) {A B C} A, B, または C のどれかを指定することを示します。
[]	メニュー、コマンド、ウィンドウ、ダイアログの名称、ボタンおよびキーボードのキーを示します。
「 」	ユーザが指定する内容を示します。
[]	この記号で囲まれている項目は、何も表示されないか、または任意の個数表示されることを示します。 (例) [A, A, …] 「何も表示されない」か「A が任意の個数表示される」ことを示します。
ファイル名	文字列が斜体になっている項目は、可変の文字列を表します。

目次

1	Collaboration - Mail の概要	1
1.1	Collaboration - Mail とは	2
1.2	Collaboration - Mail のシステム構成	5
1.2.1	Collaboration - Mail の前提プログラム	5
1.2.2	Collaboration - Mail の前提 OS	6
2	Collaboration - Mail の環境設定	7
2.1	Collaboration - Mail の環境構築の前提条件	8
2.2	Collaboration - Mail の環境設定の流れ	9
2.3	前提となる環境の設定	11
2.4	Collaboration - Mail のインストール	12
2.5	パーソナライズ情報の見積もり	13
2.6	Collaboration - Mail のデータベース構築	14
2.6.1	データベース構築の前提条件	14
2.6.2	文字コードの変更	14
2.6.3	ユーザ権限の設定	14
2.6.4	HiRDB Text Search Plug-in の設定	14
2.6.5	データベース容量の見積もり	15
2.6.6	HiRDB ファイルシステム領域の作成	16
2.6.7	RD エリアの作成	17
2.6.8	グローバルバッファの設定	24
2.6.9	HiRDB のシステム共通定義の追加	25
2.6.10	テーブルおよびインデクスの作成	26
2.6.11	マスタレコードの作成	26
2.6.12	HiRDB の環境変数グループの設定	28
2.7	Cosminexus DABroker Library の設定	30
2.8	J2EE Resources のデータソースの指定	31
2.9	DB connector の設定	32
2.10	ほかのコンポーネントとコネクションを共有する場合の設定	33
2.10.1	コネクションを共有できるコンポーネントと共有イメージ	33
2.10.2	コネクションを共有する場合に必要な設定項目	33
2.11	Collaboration - Mail のプロパティ (hptl_clb_cml.properties) の設定	36
2.11.1	Collaboration - Mail のプロパティの設定方法	36
2.11.2	プロパティファイルの記述形式と格納先 (Collaboration - Mail)	41
2.11.3	プロパティファイルの記述例 (Collaboration - Mail)	41
2.11.4	プロパティファイルの詳細 (Collaboration - Mail)	43

2.12	[メール] ポートレットの環境設定に関するプロパティ (hptl_clb_cml_set.properties) の設定	70
2.12.1	[メール] ポートレットの環境設定に関するプロパティの設定方法	70
2.12.2	プロパティファイルの記述形式と格納先 ([メール] ポートレットの環境設定)	76
2.12.3	プロパティファイルの記述例 ([メール] ポートレットの環境設定)	77
2.12.4	プロパティファイルの詳細 ([設定] 画面の状態に関する設定)	78
2.12.5	プロパティファイルの詳細 (画面の表示に関する設定)	79
2.12.6	プロパティファイルの詳細 (一覧画面に関する設定)	80
2.12.7	プロパティファイルの詳細 (一覧画面に表示するフィルタリング条件の設定)	82
2.12.8	プロパティファイルの詳細 (一覧画面に表示する項目の設定)	85
2.12.9	プロパティファイルの詳細 (宛先台帳の表示に関する設定)	96
2.12.10	プロパティファイルの詳細 (メール送信の設定)	99
2.12.11	プロパティファイルの詳細 (新着メールの監視に関する設定)	102
2.12.12	プロパティファイルの詳細 (印刷画面の設定)	103
2.12.13	プロパティファイルの詳細 (メールファイル作成に関する設定)	107
2.12.14	プロパティファイルの詳細 (メールの振り分けに関する設定)	108
2.13	Groupmax 通信ライブラリのプロパティ (hptl_clb_mrc.properties) の設定	109
2.13.1	Groupmax 通信ライブラリのプロパティの設定方法	109
2.13.2	プロパティファイルの記述形式と格納先 (Groupmax 通信ライブラリ)	110
2.13.3	プロパティファイルの記述例 (Groupmax 通信ライブラリ)	111
2.13.4	プロパティファイルの詳細 (Groupmax 通信ライブラリ)	111
2.14	メソッドキャンセル機能を利用する場合の注意事項	115
3	Collaboration - Mail の運用	117
3.1	全文検索の準備	118
3.1.1	メールの主題, またはメールの本文に対する全文検索の準備	118
3.1.2	添付ファイルに対する全文検索の準備	119
3.1.3	システムの負荷軽減と実行頻度	120
3.2	メールの本文に挿入した配布 URL にアクセス権を設定する機能の設定	121
3.3	ファイルが添付されたメールが送信された場合にメッセージを表示させる機能の設定	122
3.3.1	メッセージ定義ファイルの作成方法	123
3.3.2	メッセージ定義ファイルの記述形式	124
3.3.3	メッセージ定義ファイルの記述例	124
3.3.4	メッセージ定義ファイルの設定内容	125
3.4	不要なデータの削除	127
3.4.1	メール保存用のフォルダの削除	127
3.4.2	宛先台帳の削除	127
3.5	グループ宛先台帳の所有者の変更	128
3.6	ドラッグ & ドロップで添付ファイルをダウンロードできなかった場合の対処	129

4	Collaboration - Mail のコマンド	131
4.1	コマンド一覧	132
4.2	コマンドの詳細	133
	コマンドの実行条件	133
	CalDelAddressList.bat (宛先台帳削除)	133
	CalChangeOwnerGrp.bat (所有者変更)	134
	ログファイルの形式	135

付録		137
付録 A	Collaboration - Mail のインストールディレクトリ構成	138
付録 B	モデルケースごとのデータベース容量	140
	付録 B.1 モデルケースごとの RD エリアの容量	142
	付録 B.2 モデルケースごとのテーブルおよびインデクスのセグメント数	149
付録 C	データベース容量の見積もりで使用する値	192
	付録 C.1 容量見積もりの前提条件	192
	付録 C.2 値の説明で使用する記号	192
	付録 C.3 ユーザ用 RD エリアの容量見積もりで使用する値	193
	付録 C.4 表の格納ページ数の見積もりで使用する値	195
	付録 C.5 インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する値	224
	付録 C.6 ユーザ LOB 用 RD エリアの見積もりで使用する値	239
付録 D	旧バージョンから移行する場合の設定	242
	付録 D.1 旧バージョンから移行する場合の注意事項	242
	付録 D.2 Collaboration - Mail 01-85 から移行する場合の作業	242
	付録 D.3 Collaboration - Mail 01-70, 01-71 または 01-82 から移行する場合の作業	243
	付録 D.4 Collaboration - Mail 01-50 または 01-52 から移行する場合の作業	243
	付録 D.5 Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業	243
	付録 D.6 Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業	244
	付録 D.7 Collaboration - Mail 01-32 から移行する場合の作業	246
	付録 D.8 Collaboration - Mail 01-30 から移行する場合の作業	246
	付録 D.9 Collaboration - Mail 01-20 から移行する場合の作業	247
	付録 D.10 Collaboration - Mail 01-10 から移行する場合の作業	248
	付録 D.11 Collaboration - Mail 01-00 から移行する場合の作業	248
	付録 D.12 旧バージョンから引き継がれる設定内容	250
付録 E	メール保存用のデータベースを使用しない場合の作業	251
	付録 E.1 メール保存用のデータベースを使用しない場合の設定	251
	付録 E.2 メール保存用のデータベースを使用しない場合の注意事項	251
付録 F	Groupmax サーバを利用する場合の注意事項	253
付録 G	Collaboration - Mail の障害対策	254

付録 G.1 障害対策の流れ	254
付録 G.2 Groupmax 通信ライブラリのトレースファイル	254
付録 G.3 RAS 用 Conf ファイルの設定	256
付録 H 兼任機能使用時の Groupmax Address Server の設定	257
付録 I Collaboration - Mail の監査ログ	258
付録 I.1 監査ログが出力される操作	258
付録 I.2 監査ログに出力されるオブジェクト情報と動作情報	262
付録 J メール の自動転送・自動返信機能の詳細メッセージ	264
付録 J.1 メール の自動転送・自動返信機能の詳細メッセージの形式	264
付録 J.2 メール の自動転送・自動返信機能の詳細メッセージの記載形式	264
付録 J.3 メール の自動転送・自動返信機能のメッセージの詳細	264
付録 K 監査ログのメッセージ	268
付録 K.1 監査ログのメッセージの記載形式	268
付録 K.2 監査ログのメッセージの詳細	269
付録 L このマニュアルの参考情報	313
付録 L.1 関連マニュアル	313
付録 L.2 このマニュアルでの表記	316
付録 L.3 英略語	318
付録 L.4 KB (キロバイト) などの単位表記について	318
付録 M 用語解説	319

索引

323

1

Collaboration - Mail の概要

この章では、Collaboration - Mail の機能、システム構成、および Collaboration のほかのコンポーネントとの関係について説明します。

1.1 Collaboration - Mail とは

Collaboration - Mail は、メールの機能を持ったポータルです。メールサーバと連携して、ポータル画面からメールの送受信ができます。

(1) Collaboration - Mail の特長

Collaboration - Mail には、次のような特長があります。

メールの受信

受信メールの一覧表示画面には、受信日時、メールの状態（既読／未読）、属性（至急／返信要求／親展）、主題、および送信者が表示されます。受信メールの一覧はコミュニティのメンバや未読などの条件を指定してフィルタリングできるので、読みたいメールを素早く探せます。一覧に表示されているメールをプレビュー表示領域に表示したり、別ウィンドウに表示したりできます。そのため、同時に複数のメールを表示できます。

メールに添付されているファイルを PC にドラッグ & ドロップしてダウンロードできます。

また、新着メールがある場合に、自動的に通知画面を表示させて、新着メールを通知させることができます。新着メールを通知させるように設定しておく、システムがメールサーバを定期的を確認します。

通知画面から一覧画面を表示して、受信したメールを確認することもできます。

メールの返信、および転送もできます。送信者に返信、全員に返信の 2 とおりの方法で返信できます。[返信] を選択すると、メール送信者を To として、メール送信者だけに返信します。[全員に返信] を選択すると、メール送信者を To、そのほかの受信者を Cc として、宛先に表示されているメンバ全員に返信します。

転送は、受信したメールを第三者に転送できます。添付ファイルは、自動的に付けられます。ご使用の環境によっては、メールを転送する際に、受信したメールに添付されているファイルをファイル共有に格納して、配布 URL を挿入できます。

メールの送信

メール作成時、主題、宛先（To/Cc/Bcc）、属性（至急／返信要求／親展）、本文、添付ファイル（添付する場合）、署名、および配信日時を指定できます。添付ファイルは、PC またはファイル共有に格納されているファイルから指定できます。

PC に格納されているファイルをドラッグ & ドロップしてメールに添付できます。

すでに送信したメールを再送することもできます。ご使用の環境によっては、メールを再送する際に、再送したいメールに添付されているファイルをファイル共有に格納して、配布 URL を挿入できます。

また、メール送信時、自分宛に Bcc で送信するかどうかを選択できます。自分宛に Bcc で送信すると、送信内容、送信日時などを受信したメールから確認できます。

送信先の宛先の確認

メール送信時に、次のことを確認できます。

- E-mail アドレスが Groupmax Mail Server、ディレクトリサーバまたは宛先台帳に登録されているかどうか
- Groupmax のニックネームが Groupmax Mail Server に登録されているかどうか
- Groupmax のニックネーム、または E-mail アドレスの形式が正しいかどうか

メールの送信履歴の確認

送信したメールの一覧表示画面には、メールの状態、主題、宛先および送信日時が表示されます。また、メールの送信状態がアイコンから確認できます。このため、相手がメールを読んだかどうかや、メール送信時にエラーが発生したかどうかなどを確認できます。

代行受信者の指定

出張や休暇などでメールを受信できない場合、代行受信者を指定することで、代行者にメールを受信してもらうことができます。

メールの自動転送・自動返信

特定の主題のメールや、特定の送信者から送られたメールを自動的に転送したり、返信したりできます。

作成中のメールの保存

作成中のメールをデータベース、または自分の PC に保存できます。また、作成中に保存したメールは編集できます。よく使う文章を保存しておけば、それを編集するだけでメールを作成できます。ご使用の環境によっては、メールを編集する際に、編集したいメールに添付されているファイルをファイル共有に格納して、配布 URL を挿入できます。

受信したメールや送信したメールの保存

受信したメールや送信したメールをデータベース、または自分の PC に保存できます。また、保存したメールを転送したり、再送したりすることもできます。

データベースに保存したメールの検索

データベースに保存したメールを検索できます。主題に含まれている単語だけでなく、本文に含まれている単語も検索できます。また、オプションを設定することで、添付ファイルに含まれる単語も検索できます。

メールファイルの表示

自分の PC に保存したメールファイルや、受信したメールに添付されているメールファイルを表示できます。なお、メールファイルとは、拡張子が「mlf」の、Groupmax 独自のファイルです。

メールの振り分け

メールの振り分けルールを設定して、振り分けルールに合ったメールを [ファイル共有] ポートレットのフォルダに振り分けられます。

振り分けルールには、メールの主題、送信者名、送受信日などを設定できます。メールの振り分けを実行すると、主題、送信者名、送受信日などで分類されてメールファイル形式で格納されます。例えば、主題に「Collabo」を含むメールを [ファイル共有] ポートレットのフォルダ A に振り分けるような振り分けルールを設定すると、主題が「Collaboration 会議」、「Collabo 打ち合わせ資料」などのメールがフォルダ A に振り分けられます。

また、振り分けたメールを格納するフォルダへのショートカットをナビゲーションビューに表示できます。

宛先台帳への宛先の登録

受信したメールや [ユーザ検索] ポートレットから、宛先台帳に宛先を登録できます。メールを作成するときに宛先台帳から宛先を指定できるため、宛先を入力する手間が省けます。

また、登録した宛先は、組織やグループごとにフォルダに分類して管理できます。例えば、組織を横断したプロジェクトのフォルダを作成し、プロジェクトのメンバの宛先を登録できます。

グループ宛先台帳の作成

特定の組織やユーザ間で共有できる宛先台帳を作成できます。グループ宛先台帳は、プロパティを設定することで作成できるようになります。

なお、グループ宛先台帳のルートフォルダは、権限を持っているユーザだけが作成できます。グループ宛先台帳のルートフォルダの作成権限を与えるユーザを決め、権限を与えるユーザの内容に基づいて環境を構築してください。

ユーザ検索, コミュニティ管理, ファイル共有との連携

メールの宛先を, ユーザ検索または現在選択されているコミュニティのメンバリストから指定できます。指定したいメンバのアイコンをドラッグ & ドロップして簡単に指定できます。

また, ファイル共有に格納されているファイルを添付ファイルとしたり, ファイルの所在を示す URL (配布 URL) を本文の先頭に挿入したりできます。ファイル共有の個人フォルダに格納されているファイルの配布 URL をメールに挿入すると, メール送信時にファイルのアクセス権が自動的に設定されます。このため, あらかじめファイルにアクセス権を設定する必要がありません。また, メール宛先に指定したユーザ全員にアクセス権を設定できるため, アクセス権の設定し忘れを防げます。

これらの操作も, メール本文の領域にドラッグ & ドロップするだけで簡単にできます。

監査ログの出力

ユーザが [メール] ポートレットに対して実行した操作の履歴が監査ログに出力されます。監査ログの概要や設定方法については, マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

監査ログが出力される操作, および監査ログのメッセージについては, 次の個所を参照してください。

- 付録 I Collaboration - Mail の監査ログ
- 付録 K 監査ログのメッセージ

(2) Collaboration - Mail で利用できる機能

ポートレット間通信インタフェースによって, Collaboration の各コンポーネント間でのデータ連携や各コンポーネントからのメール送信ができます。Collaboration - Mail が, Collaboration の各コンポーネントで利用できる機能を次に示します。

ユーザ検索機能 (Collaboration - Directory Access)

- [宛先指定] 画面の中で Collaboration - Directory Access を起動して, 追加操作またはドラッグ & ドロップしてメールの宛先を指定できます。
- フォルダの編集画面の中で Collaboration - Directory Access を起動して, 追加操作またはドラッグ & ドロップして宛先台帳に宛先を登録できます。

コミュニティ管理機能 (Collaboration - Online Community Management)

- コミュニティのメンバを条件にして, メールをフィルタリングします。指定したコミュニティのメンバから送信されたメールや, 指定したコミュニティのメンバに送信したメールだけを表示できます。
- [宛先指定] 画面の中で Collaboration - Online Community Management を起動して, 追加操作またはドラッグ & ドロップしてメールの宛先を指定できます。

ファイル共有機能 (Collaboration - File Sharing)

- メール作成画面から Collaboration - File Sharing を起動して, 追加操作またはドラッグ & ドロップしてメールに共有ファイルを添付できます。
- 共有ファイルを本文領域にドラッグ & ドロップして, ファイルの配布 URL をメール本文に添付できます。
- メール振り分けルールを設定して, 振り分けルールに合ったメールをフォルダに格納できます。

スケジュール機能 (Collaboration - Schedule)

スケジュール画面からメール作成画面を起動して, スケジュール予約状況をメールで送信できます。

新着情報機能 (Information View)

- 受信メールの一覧やメールの内容を, 新着情報画面に表示できます。
- 新着情報画面から, メール返信や転送ができます。

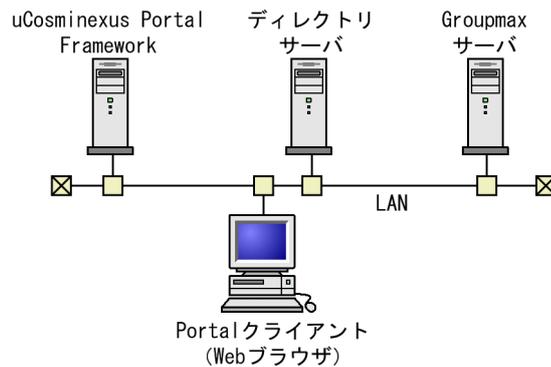
1.2 Collaboration - Mail のシステム構成

Collaboration - Mail のハードウェア構成およびソフトウェア構成について説明します。

- ハードウェア構成

Collaboration - Mail のハードウェア構成を次の図に示します。

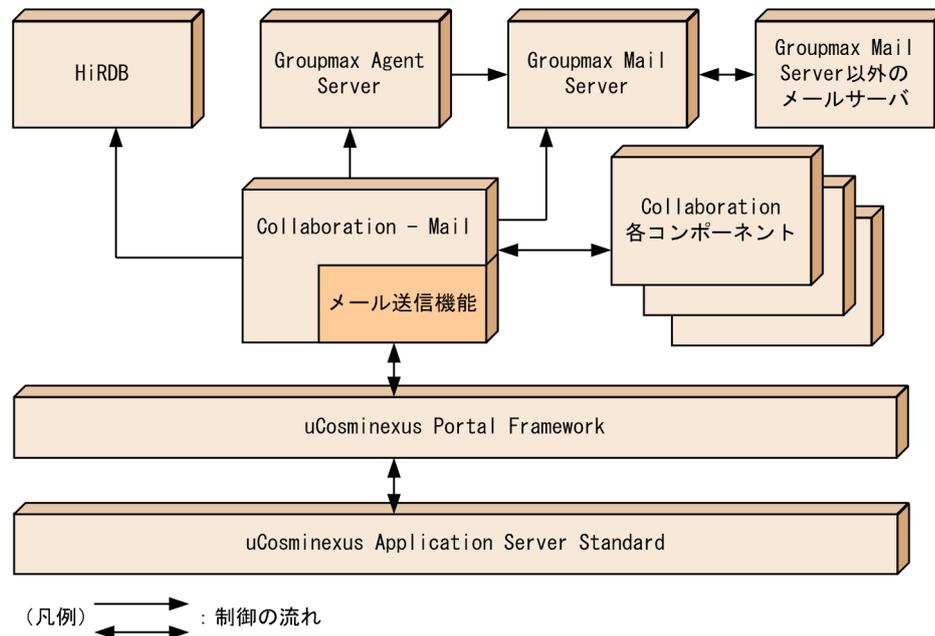
図 1-1 Collaboration - Mail のハードウェア構成



- ソフトウェア構成

Collaboration - Mail のソフトウェア構成を次の図に示します。

図 1-2 Collaboration - Mail のソフトウェア構成



Collaboration 全体の構成例は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。また、Collaboration - Mail で利用できる Web ブラウザは、マニュアル「Collaboration ユーザーズガイド」を参照してください。

1.2.1 Collaboration - Mail の前提プログラム

Collaboration - Mail を動作させるために必要なプログラムを次に示します。すべてサーバで動作するプログラムです。

- uCosminexus Portal Framework
企業ポータルを構築および運用するフレームワークです。Web サーバやグループウェアサーバなどから情報を取り込み、アクセスしたユーザに必要な情報をポータル画面に表示します。
- Groupmax Mail Server Version 7
電子メール機能とメッセージング基盤を提供するプログラムです。
- Groupmax Mail - SMTP Version 7
Groupmax Mail とそれ以外のメールシステムが、SMTP プロトコルを通してデータを送受信するためのゲートウェイシステムです。

1.2.2 Collaboration - Mail の前提 OS

Collaboration - Mail の前提 OS を次に示します。

- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2008 x64
- Windows Server 2008 x86
- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2

2

Collaboration - Mail の環境設定

この章では、Collaboration - Mail を利用するために必要な設定について説明します。

2.1 Collaboration - Mail の環境構築の前提条件

この節では、Collaboration - Mail の環境を構築するための前提条件について説明します。

Collaboration - Mail の環境を構築するための前提条件を次に示します。

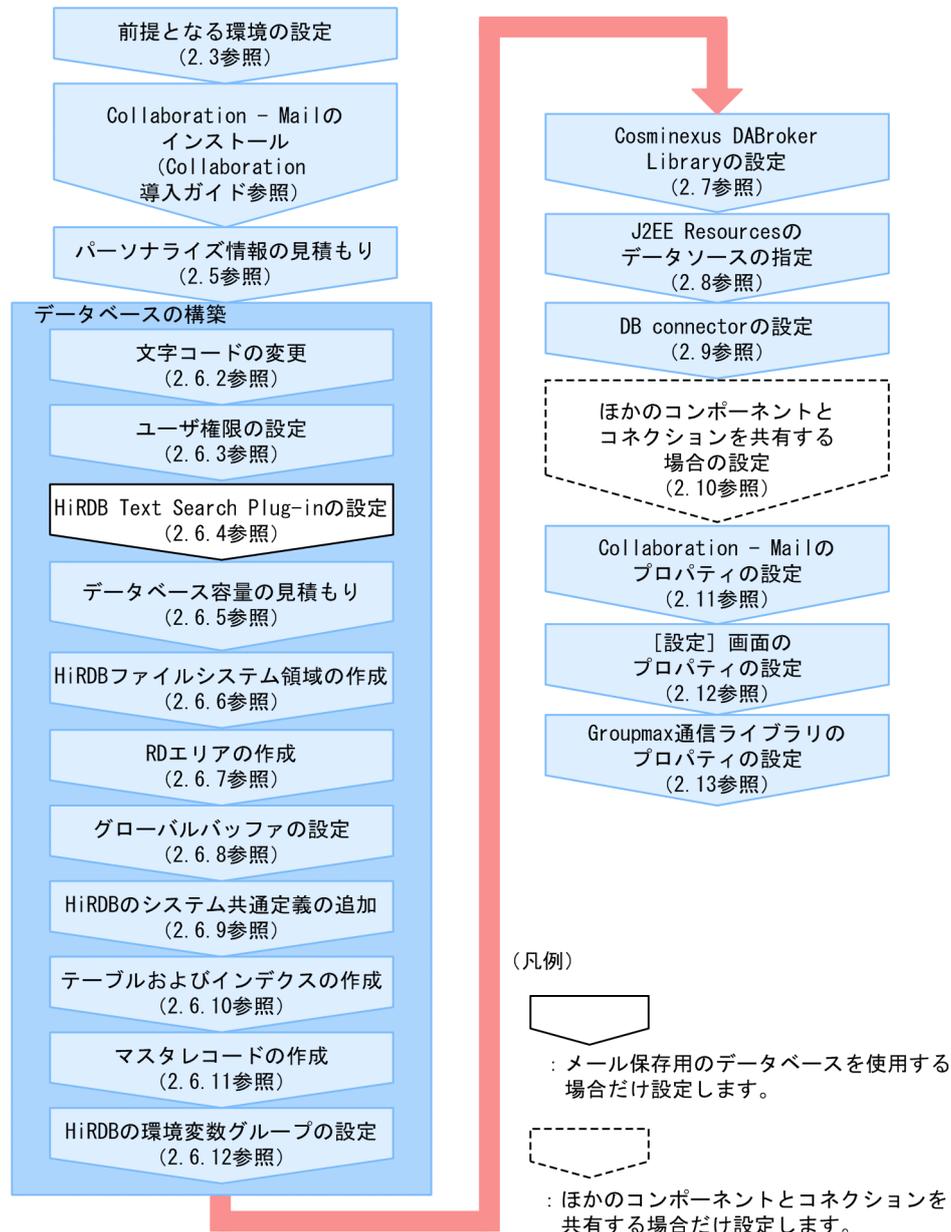
- Collaboration が動作する環境が構築されていること
- Groupmax Mail Server が動作する環境が構築されていること
- Groupmax と uCosminexus Portal Framework の ID およびパスワードが一致していること
- Collaboration に登録されている自分の名称は、JIS で 64 バイト以内であること（終端に ASCII 戻しのための制御コードを含む）
- Collaboration に登録されている自分の E-mail アドレス長が 128 バイト以内であること
- Groupmax Mail Server およびディレクトリサーバに登録されている E-mail アドレスが一致していること
- ディレクトリサーバに登録されているユーザ情報に、メールアドレスとして E-mail アドレスが設定されていること
- ファイル共有と連携する場合は、ファイル共有の機能が利用できる状態にすること（ファイル共有機能の詳細は、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」を参照のこと）
- メールの自動転送・自動返信機能を利用する場合は、Groupmax Agent Server が動作する環境が構築されていること

2.2 Collaboration - Mail の環境設定の流れ

この節では、Collaboration - Mail の環境設定の流れについて説明します。

Collaboration - Mail の環境を設定する手順を次の図に示します。

図 2-1 Collaboration - Mail の環境設定の流れ



Collaboration - Mail では、メール保存用のデータベースを使用するかどうかを指定できます。メール保存用のデータベースを使用しない場合は、宛先台帳用のデータベース構築に必要な作業だけを実施して、データベースを構築してください。

宛先台帳用のデータベース構築に必要な作業を次の表に示します。

表 2-1 宛先台帳のデータベース構築に必要な作業

項番	作業	参照先
1	文字コードの変更	2.6.2
2	ユーザ権限の設定	2.6.3
3	データベース容量の見積もり	2.6.5
4	HiRDB ファイルシステム領域の作成	2.6.6
5	RD エリアの作成方法	2.6.7 (3)
6	グローバルバッファの設定	2.6.8
7	HiRDB のシステム共通定義の追加	2.6.9
8	テーブルおよびインデクスの作成	2.6.10
9	マスタレコードの作成	2.6.11
10	HiRDB の環境変数グループの設定	2.6.12

メール保存用のデータベースを使用するかどうかを指定する方法の詳細は、「2.11.4(41) メール保存用のデータベースを使用するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_useDatabase)」を参照してください。

また、メール保存用のデータベースを使用しない場合、メールの検索機能も使用できなくなります。このため、メールの全文検索に必要な作業を実施する必要はありません。

メールの全文検索に必要な作業の詳細は、「3.1 全文検索の準備」を参照してください。

2.3 前提となる環境の設定

Collaboration - Mail では、日本語および英語以外の言語のメールを Groupmax 以外のメールサーバで送受信する場合、Groupmax Mail - SMTP の設定が必要です。設定方法の詳細は、マニュアル「Groupmax Mail - SMTP Version 7 運用ガイド」の、「本文/主題を無変換で受信したい」を参照してください。

また、Groupmax Address Server の認証方法をアドレス認証から、ディレクトリ認証に切り替えてください。ディレクトリ認証に切り替える方法の詳細は、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。なお、Groupmax Address Server とディレクトリサーバでは、パスワードに使用できる文字種、文字数、および有効期限が異なるため、ディレクトリ認証に切り替える際は注意してください。

2.4 Collaboration - Mail のインストール

Collaboration - Mail のインストール方法は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

なお、Collaboration - Mail 01-00 からリビジョンアップする場合は、必ず Collaboration - Mail 01-00 で設定した *Collaboration Portal* インストールディレクトリ¥clb_home¥lib¥hptl_clb_mrc.jar およびクラスパスに追加した hptl_clb_mrc.jar を削除してください。削除しないと、今バージョンの Collaboration - Mail を使用できません。

旧バージョンから移行する場合の作業の詳細は「付録 D 旧バージョンから移行する場合の設定」を参照してください。

2.5 パーソナライズ情報の見積もり

Collaboration - Mail は、一覧画面の表示内容など、画面の表示や機能をユーザ単位でカスタマイズできます。

カスタマイズされた結果は、パーソナライズ情報として uCosminexus Portal Framework に登録されます。

Collaboration - Mail が、カスタマイズで必要とするデータベース容量の計算式を次に示します。

ユーザ数 × (約 3,600 バイト + 1 ユーザあたりの振り分けルール数 × 800 バイト)

パーソナライズ情報の設定方法の詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」を参照してください。

2.6 Collaboration - Mail のデータベース構築

この節では、Collaboration - Mail のデータベースの構築方法について説明します。

なお、グループ宛先台帳の作成数の上限は決められていません。このため、作成数が増え過ぎると、データベースの容量を圧迫します。データベースの容量を定期的に確認して、必要に応じてデータベースの容量を増やしてください。

2.6.1 データベース構築の前提条件

データベースを構築するための前提条件を次に示します。

- HiRDB で使用する文字コード種別は UTF-8 です。
- 実行するユーザは、HiRDB 管理者とします。ただし、テーブルおよびインデクスの作成は HiRDB 管理者以外でも実行できます。
- HiRDB が起動できる状態にしておきます。
- RD エリア用制御文ファイルの認可識別子に指定したユーザに、定義系 SQL の GRANT で CONNECT 権限とスキーマ定義権限を与えておきます。そのほかの権限については必要に応じて設定します。
- HiRDB ファイルシステム領域名の中で使用するディレクトリを作成しておきます。
- クライアント環境定義として、PDHOST、PDNAMEPORT、および PDUSER を設定しておきます。ただし、PDUSER については RD エリア用制御文ファイルの認可識別子に指定したユーザを指定します。また、UNIX 版の HiRDB を使用している場合、PDLANG に UTF-8 が設定済みであることが条件です。

2.6.2 文字コードの変更

Collaboration - Mail で使用する文字コードは UTF-8 を前提としています。このため、データベースを構築する前に、HiRDB の動作環境の設定 (pdntenv) コマンドで、使用する文字コードを UTF-8 に変更する必要があります。

文字コードの変更方法の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

2.6.3 ユーザ権限の設定

Collaboration - Mail から HiRDB に接続するためのユーザ権限を設定します。

ユーザ権限の設定方法の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム運用ガイド(Windows(R)用)」を参照してください。

2.6.4 HiRDB Text Search Plug-in の設定

HiRDB Text Search Plug-in を設定するとき使用するプラグイン、および環境定義ファイルに指定するパラメタについて説明します。

なお、データベースに保存されたメール、および添付ファイルを検索できるようにするには、HiRDB Text Search Plug-in のインデクス作成開始ユーティリティ (phnstartidx) を使用して n-gram インデクスを作成

する必要があります。全文検索機能を使用する場合の、HiRDB Text Search Plug-in のインデクス作成開始ユーティリティ (phnstartidx) の設定方法の詳細は、「3.1 全文検索の準備」を参照してください。

(1) 使用するプラグイン

Collaboration - Mail では、メールの主題や添付ファイルなどの全文検索に Text Search Plug-in を使用します。

Text Search Plug-in を設定するときは、文書検索プラグインとして SGML プラグインおよび n-gram インデクスプラグインを指定してください。また、HiRDB のシステム共通定義を変更するときも、同様に文書検索プラグインとして SGML プラグインおよび n-gram インデクスプラグインを指定してください。

また、メールの保存および検索を同時に実行できるように、Text Search Plug-in を設定してください。

Text Search Plug-in の設定の詳細は、マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」を参照してください。

(2) 環境定義ファイルに指定するパラメタ

SGML プラグインおよび n-gram インデクスプラグインの環境定義ファイルで指定するパラメタを次に示します。

表 2-2 SGML プラグインで指定するパラメタ

項番	パラメタ	値
1	phs_search_wait	nowait_with_update

表 2-3 n-gram インデクスプラグインで指定するパラメタ

項番	パラメタ	値
1	phn_lock_pool_size	Text Search Plug-in の見積もり式に従って指定します。
2	phn_mem_build	添付されるファイルのサイズの平均の 10 倍を目安に指定します。
3	phn_mem_search	使用できる物理メモリ ÷ 同時実行数を目安に指定します。 ただし、十分なメモリサイズを確保できない場合は、不足分を補うためにワークファイルを使用できます。この場合は、項番 4 および項番 5 の定義項目を指定してください。
4	phn_opt_search*	file
5	phn_dir_search*	ワークファイルの作成ディレクトリを指定します。

注※

十分なメモリサイズを確保できなかった場合だけ指定します。

2.6.5 データベース容量の見積もり

Collaboration - Mail では次に示す条件ごとのモデルケースを提供しています。

メール保存用データベースのモデルケース

- ・ ユーザ数
- ・ 100 人

- ・ 500 人
- ・ 1,000 人
- ・ 5,000 人
- ユーザ当たりの保存するメールの最大数
 - ・ 100 通
 - ・ 500 通
- メール 1 通当たりの添付ファイル数
 - ・ 一つ
 - ・ 二つ

宛先台帳用データベースのモデルケース

- ユーザ数
 - ・ 100 人
 - ・ 500 人
 - ・ 1,000 人
 - ・ 5,000 人
- システム内に作成されるグループ宛先台帳の数
 - ・ 100 個
 - ・ 500 個
- 一つのグループ宛先台帳を参照するユーザ
 - ・ 50 人
 - ・ 100 人

次の条件をすべて満たす場合は、「付録 B モデルケースごとのデータベース容量」に示すモデルケースを使用して、データベースを構築してください。

メール保存用データベースの場合

- ユーザ数が 5,000 人以下
- ユーザ当たりの保存するメールの最大数が 500 通以下
- メール 1 通当たりの添付ファイル数が二つ以下

宛先台帳用データベースの場合

- ユーザ数が 5,000 人以下
- システム内に作成されるグループ宛先台帳の数が 500 個以下
- 一つのグループ宛先台帳を参照するユーザ数が 100 人以下

これらの条件を一つでも満たさない場合は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に「付録 C データベース容量の見積もりで使用する値」に示す値を代入して、データベース容量を見積もってください。

2.6.6 HiRDB ファイルシステム領域の作成

Collaboration - Mail が使用する HiRDB ファイルシステム領域を HiRDB の運用コマンド pdfmkfs を使って作成します。なお、pdfmkfs コマンドはメール保存用のデータベースで 2 回、宛先台帳用のデータベースで 1 回実行します。

pdfmkfs のオプションは、次のように指定します。

-r オプション

-r をそのまま指定します。

-n オプション

HiRDB ファイルシステム領域のサイズ（単位：MB）を指定します。

-l オプション

使用する HiRDB ファイルのファイル数以上の値を指定します。

-e オプション

HiRDB ファイルシステム領域内の HiRDB ファイルの増分回数の上限值を指定します。

-k オプション

「DB」を指定します。

-i オプション

-i をそのまま指定します。

ファイル名

RD エリア用制御文ファイルの file name オペランドで指定した「HiRDB ファイルシステム領域名」を指定します。

コマンドの入力例

メール保存用のデータベース

```
pdfmkfs -r -n 2047 -l 100 -e 1 -k DB -i D:%Hitachi%hirdb_s%area%cmlsv
pdfmkfs -r -n 2047 -l 100 -e 1 -k DB -i D:%Hitachi%hirdb_s%area%cmlsvlob
```

宛先台帳用のデータベース

```
pdfmkfs -r -n 200 -l 100 -e 10 -k DB -i D:%Hitachi%hirdb_s%area%cmlsvadr
```

2.6.7 RD エリアの作成

Collaboration - Mail の RD エリアを HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ（pdmod）を使って作成します。

RD エリアを作成するときの注意事項、および作成方法について説明します。

(1) RD エリアを作成するときの注意事項

RD エリアを作成するときの注意事項を次に示します。

- テーブルとインデクスは、RD エリアを別に設定します。
- 容量が大きくなるテーブルは、専用の RD エリアを設定します。この場合、テーブルに対するインデクスの RD エリアも専用に設定します。
- 容量が小さいテーブルは、複数のテーブルで同一の RD エリアを設定します。この場合、テーブルに対するインデクスの RD エリアも同様とします。なお、RD エリアのセグメント数には、各テーブルのセグメント数の総和を指定してください。
- BLOB のカラムは、専用の RD エリアを設定します。
- 全文検索用テキストデータ（SGMLTEXT）のカラムは、専用の RD エリアを設定します。
- 全文検索用テキストデータ（SGMLTEXT）のカラムに対するインデクス（NGRAM インデクス）は、専用の RD エリアを設定します。

- 頻繁にアクセスするテーブルは、専用の RD エリアを設定します。

(2) RD エリアの作成方法 (メール保存用)

次の手順でメール保存用の RD エリアを作成します。

1. テーブルの容量の算出
2. RD エリア作成 SQL の編集
3. データベース構成変更ユーティリティ (pdmod) の実行

なお、データベース構成変更ユーティリティ (pdmod) の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

作成する RD エリアの一覧 (メール保存用)

表 2-4、表 2-5 および表 2-6 に、作成する RD エリアの一覧を示します。

表 2-4 テーブルごとの RD エリアの一覧 (メール保存用)

項番	RD エリア	テーブル	グローバルバッファ
1	CMLRDDATA10	メールテーブル	CMLGBUFDATA10
2	CMLRDDATA20	本文テーブル	CMLGBUFDATA20
3	CMLRDDATA30	添付ファイルテーブル	CMLGBUFDATA30
4	CMLRDDATA40	既読テーブル	CMLGBUFDATA40
5	CMLRDDATA50	採番管理 1 テーブル	CMLGBUFDATA50
6	CMLRDDATA60	採番管理 2 テーブル	CMLGBUFDATA60
7	CMLRDDATA70	<ul style="list-style-type: none"> • フォルダテーブル • メインフォルダ ID テーブル • ユーザアクセス権テーブル • 重要度テーブル • 属性テーブル • 状態テーブル • 属性マスタテーブル • 重要度マスタテーブル • 状態マスタテーブル • パラメタ管理テーブル • 予備テーブル 1 • 予備テーブル 2 • 予備テーブル 3 • 予備テーブル 4 • 予備テーブル 5 	CMLGBUFDATA70

表 2-5 カラムごとの RD エリアの一覧 (メール保存用)

項番	RD エリア	カラム	グローバルバッファ
1	CMLRDLOBB10	添付ファイルテーブルの内容カラム	CMLGBUFLOBB10

項番	RD エリア	カラム	グローバルバッファ
1	CMLRDLOBB10	添付ファイルテーブルの内容カラム	CMLGBUFLOBB11
2	CMLRDLOBD10	本文テーブルの全文検索用テキストデータカラム	CMLGBUFLOBD10 CMLGBUFLOBD11
3	CMLRDLOBD20	添付ファイルテーブルの全文検索用テキストデータカラム	CMLGBUFLOBD20 CMLGBUFLOBD21

表 2-6 インデクスごとの RD エリアの一覧 (メール保存用)

項番	RD エリア	インデクス	グローバルバッファ
1	CMLRDINDX10	メールテーブルのインデクス	CMLGBUFINDX10
2	CMLRDINDX20	本文テーブルのインデクス (全文検索用テキストデータのインデクスは除く)	CMLGBUFINDX20
3	CMLRDINDX30	添付ファイルテーブルのインデクス (全文検索用テキストデータのインデクスは除く)	CMLGBUFINDX30
4	CMLRDINDX40	既読テーブルのインデクス	CMLGBUFINDX40
5	CMLRDINDX50	次に示すテーブルのインデクス <ul style="list-style-type: none"> • フォルダテーブル • メインフォルダ ID テーブル • ユーザアクセス権テーブル • 重要度テーブル • 属性テーブル • 状態テーブル • 属性マスタテーブル • 重要度マスタテーブル • 状態マスタテーブル • パラメタ管理テーブル • 予備テーブル 1 • 予備テーブル 2 • 予備テーブル 3 • 予備テーブル 4 • 予備テーブル 5 	CMLGBUFINDX50
6	CMLRDINDX60	次に示すテーブルのインデクス <ul style="list-style-type: none"> • 採番管理 1 テーブル • 採番管理 2 テーブル 	CMLGBUFINDX60
7	CMLRDLOBI10	本文テーブルの全文検索用テキストデータのインデクス	CMLGBUFLOBI10 CMLGBUFLOBI11
8	CMLRDLOBI20	添付ファイルテーブルの全文検索用テキストデータのインデクス	CMLGBUFLOBI20 CMLGBUFLOBI21

RD エリア作成 SQL の編集

RD エリアを作成するには、RD エリア作成 SQL (*Collaboration - Mail* インストールディレクトリ `¥sample¥hptl_clb_cml_area.sql`) をコピーして使用してください。

`hptl_clb_cml_area.sql` は次のユーザ環境を想定して記述されています。

- ユーザ数
1 システム当たり 1,000 人
- 保存するメールの数
1 ユーザ当たり 1,000 通

RD エリア作成 SQL の記述例を次に示します。

```
create rdarea CMLRDDATA70 for user used by CML
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name "¥tmp¥CMLRDDATA70"
initial 20 segments
;
create rdarea CMLRDDATA10 for user used by CML
page 8192 characters
storage control segment 20 pages
file name "¥tmp¥CMLRDDATA10"
initial 16114 segments
;
create rdarea CMLRDDATA20 for user used by CML
page 8192 characters
storage control segment 20 pages
file name "¥tmp¥CMLRDDATA20"
initial 1594 segments
;
create rdarea CMLRDDATA30 for user used by CML
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name "¥tmp¥CMLRDDATA30"
initial 214 segments
;
create rdarea CMLRDDATA40 for user used by CML
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name "¥tmp¥CMLRDDATA40"
initial 22339 segments
;
create rdarea CMLRDDATA50 for user used by CML
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name "¥tmp¥CMLRDDATA50"
initial 1 segments
;
create rdarea CMLRDDATA60 for user used by CML
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name "¥tmp¥CMLRDDATA60"
initial 1 segments
;

create rdarea CMLRDINDX10 for user used by CML
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name "¥tmp¥CMLRDINDX10"
initial 2338 segments
;
create rdarea CMLRDINDX20 for user used by CML
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name "¥tmp¥CMLRDINDX20"
initial 49 segments
;
create rdarea CMLRDINDX30 for user used by CML
page 4096 characters
```

```

storage control segment 20 pages
file name "%tmp%CMLRDINDX30"
initial 15 segments
;
create rdarea CMLRDINDX40 for user used by CML
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name "%tmp%CMLRDINDX40"
initial 3296 segments
;
create rdarea CMLRDINDX50 for user used by CML
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name "%tmp%CMLRDINDX50"
initial 11 segments
;
create rdarea CMLRDINDX60 for user used by CML
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name "%tmp%CMLRDINDX60"
initial 5 segments
;

create rdarea CMLRDLOBB10 for LOB used by CML
file name "%tmp%CMLRDLOBB10"
initial 1875000 segments
;

create rdarea CMLRDLOBD10 for LOB used by CML
file name "%tmp%CMLRDLOBD10"
initial 14000 segments
;

create rdarea CMLRDLOBD20 for LOB used by CML
file name "%tmp%CMLRDLOBD20"
initial 4750000 segments
;

create rdarea CMLRDLOBI10 for LOB used by CML
file name "%tmp%CMLRDLOBI10"
initial 35000 segments
;

create rdarea CMLRDLOBI20 for LOB used by CML
file name "%tmp%CMLRDLOBI20"
initial 23750000 segments
;

```

ファイル内の「used by CML」は、実際にデータベースで使用するスキーマ名に変更してください。同様に、「file name」に続くファイル名も実際にデータベースで使用するファイル名に変更してください。

なお、パラレルサーバ使用時に RD エリアを作成する場合は、RD エリア作成 SQL に create rdarea 文の server name オペランドを追加し、RD エリアを管理するサーバを指定してください。create rdarea 文の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス (Windows(R)用)」を参照してください。

また、次の項目は実際のユーザ環境に合わせて変更してください。

- 認可識別子
- セグメント情報 (ページ数, 初期セグメント数, 増分など)

なお、初期セグメント数には、次に示す最小セグメント数以上の値を指定してください。

表 2-7 RD エリアの最小セグメント数 (メール保存用)

項番	RD エリア	最小セグメント数
1	CMLRDDATA10	1
2	CMLRDDATA20	1
3	CMLRDDATA30	1
4	CMLRDDATA40	1
5	CMLRDDATA50	1
6	CMLRDDATA60	1
7	CMLRDDATA70	15
8	CMLRDINDEX10	14
9	CMLRDINDEX20	1
10	CMLRDINDEX30	4
11	CMLRDINDEX40	1
12	CMLRDINDEX50	20
13	CMLRDINDEX60	2
14	CMLRDLOBB10	1
15	CMLRDLOBD10	500
16	CMLRDLOBD20	500
17	CMLRDLOBI10	48,758
18	CMLRDLOBI20	48,758

データベース構成変更ユーティリティ (pdmod) の実行

HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を実行して、RD エリアを作成します。
pdmod のオプションは、次のように指定します。

-a オプション

RD エリア作成 SQL のファイル名を指定します。

コマンドの入力例

```
pdmod -a D:*sample#hptl_clb_cml_area.sql
```

コマンドに記述するファイル名は、実際に使用するファイル名に変更してください。

(3) RD エリアの作成方法 (宛先台帳用)

次の手順でメール保存用の RD エリアを作成します。

1. テーブルの容量の算出
2. RD エリア作成 SQL の編集
3. データベース構成変更ユーティリティ (pdmod) の実行

なお、データベース構成変更ユーティリティ (pdmod) の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

作成する RD エリアの一覧 (宛先台帳用)

作成する RD エリアの一覧を次の表に示します。

表 2-8 テーブルごとの RD エリアの一覧 (宛先台帳用)

項番	RD エリア	テーブル	グローバルバッファ
1	CMLADBKDATA1	<ul style="list-style-type: none"> 宛先台帳用 ID 管理テーブル 宛先台帳テーブル アクセス権テーブル フォルダテーブル 	CMLADBKDATA1
2	CMLADBKDATA2	宛先情報テーブル	CMLADBKDATA2

表 2-9 インデクスごとの RD エリアの一覧 (宛先台帳用)

項番	RD エリア	インデクス	グローバルバッファ
1	CMLADBKIDX1	次に示すテーブルのインデクス <ul style="list-style-type: none"> 宛先台帳用 ID 管理テーブル 宛先台帳テーブル アクセス権テーブル (IDX_ACCOBJID 以外) フォルダテーブル 	CMLADBKIDX1
2	CMLADBKIDX2	宛先情報テーブルのインデクス	CMLADBKIDX2
3	CMLADBKIDX3	アクセス権テーブルのインデクス (IDX_ACCOBJID)	CMLADBKIDX3

RD エリア作成 SQL の編集

RD エリアを作成するには、RD エリア作成 SQL (*Collaboration - Mail* インストールディレクトリ `¥sample¥hptl_clb_cml_adbk_area.sql`) をコピーして使用してください。

`hptl_clb_cml_adbk_area.sql` は次のユーザ環境を想定して記述されています。

- ユーザ数
1 システム当たり 1,000 人
- 登録する宛先の数
1 ユーザ当たり 200 件

RD エリア作成 SQL の記述例を次に示します。

```
create rdarea CMLADBKDATA1 for user used by CMLADBK
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name "¥tmp¥CMLADBKDATA1"
initial 50 segments;
```

```
create rdarea CMLADBKDATA2 for user used by CMLADBK
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name "¥tmp¥CMLADBKDATA2"
initial 1400 segments;
```

```
create rdarea CMLADBKIDX1 for user used by CMLADBK
page 4096 characters
```

```

storage control segment 20 pages
file name "#tmp#CMLADBKIDX1"
initial 70 segments;

create rdarea CMLADBKIDX2 for user used by CMLADBK
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name "#tmp#CMLADBKIDX2"
initial 800 segments;

create rdarea CMLADBKIDX3 for user used by CMLADBK
page 4096 characters
storage control segment 20 pages
file name "#tmp#CMLADBKIDX3"
initial 5 segments;

```

ファイル内の「used by CMLADBK」は、実際にデータベースで使用するスキーマ名に変更してください。同様に、「file name」に続くファイル名も実際にデータベースで使用するファイル名に変更してください。

なお、パラレルサーバ使用時に RD エリアを作成する場合は、RD エリア情報ファイルに create rdarea 文の server name オペランドを追加し、RD エリアを管理するサーバを指定してください。create rdarea 文の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス (Windows(R)用)」を参照してください。

また、次の項目は実際のユーザ環境に合わせて変更してください。

- 認可識別子
- セグメント情報（ページ数、初期セグメント数、増分など）

なお、初期セグメント数には、次に示す最小セグメント数以上の値を指定してください。

表 2-10 RD エリアの最小セグメント数（宛先台帳用）

項番	RD エリア	最小セグメント数
1	CMLABRDDATA1	4
2	CMLABRDDATA2	1
3	CMLABRDIDX1	6
4	CMLABRDIDX2	3
5	CMLABRDIDX3	1

データベース構成変更ユーティリティ (pdmod) の実行

HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を実行して、RD エリアを作成します。

pdmod のオプションは、次のように指定します。

-a オプション

RD エリア作成 SQL のファイル名を指定します。

コマンドの入力例

```
pdmod -a D:#work#pdmod_rdarea.sql
```

コマンドに記述するファイル名は、実際に使用するファイル名に変更してください。

2.6.8 グローバルバッファの設定

グローバルバッファを設定するときの注意事項やグローバルバッファの容量の計算方法などについて説明します。

(1) グローバルバッファ設定時の注意事項

グローバルバッファ設定時の注意事項を次に示します。

- RD エリアのページ長によってバッファを分けます。
- インデクス用 RD エリアには、専用のバッファを設定します。このバッファは、メモリ常駐となるような容量を確保してください。
- BLOB 用 RD エリアには、専用のバッファを設定します。このバッファは、LOB 用エリアの管理領域用バッファです。LOB 用エリア (LOB データ用バッファ) はメモリ常駐しません。BLOB 用 RD エリアの設定方法の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド(Windows(R)用)」を参照してください。
- 採番管理 1 テーブルおよび採番管理 2 テーブル用 RD エリアには、専用のバッファを設定します。このバッファは、メモリ常駐となるような容量を確保してください。

(2) RD エリアへの割り当て

RD エリアの分類に従って、RD エリアとグローバルバッファを 1 対 1 で割り当てます。RD エリアの詳細は、「2.6.7 RD エリアの作成」を参照してください。

(3) グローバルバッファの容量の計算

グローバルバッファの容量は、ユーザの環境に合わせて設定します。グローバルバッファは共用メモリ上に確保されるため、共有メモリの上限を考慮して設定する必要があります。また、グローバルバッファのバッファページ数を必要以上に設定すると、共用メモリが増加してシステムのディスク容量およびメモリを圧迫し、グローバルバッファを検索するためのオーバヘッドも大きくなります。したがって、バッファヒット率を考慮し、必要最低限の入出力性能が得られるように設定する必要があります。

グローバルバッファの計算方法の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド(Windows(R)用)」を参照してください。

2.6.9 HiRDB のシステム共通定義の追加

pdstop コマンドでデータベースを停止してから、HiRDB のシステム共通定義に次の記述を追加し、グローバルバッファを割り当てます。グローバルバッファの割り当てが終わったら、pdstart コマンドでデータベースを起動してください。

データベースのグローバルバッファの例 (メール保存用)

```

pdbuffer -a CMLGBUFDATA10 -r CMLRDDATA10 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFDATA20 -r CMLRDDATA20 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFDATA30 -r CMLRDDATA30 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFDATA40 -r CMLRDDATA40 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFDATA50 -r CMLRDDATA50 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFDATA60 -r CMLRDDATA60 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFDATA70 -r CMLRDDATA70 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFINDX10 -r CMLRDINDX10 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFINDX20 -r CMLRDINDX20 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFINDX30 -r CMLRDINDX30 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFINDX40 -r CMLRDINDX40 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFINDX50 -r CMLRDINDX50 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFINDX60 -r CMLRDINDX60 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFLOBB10 -r CMLRDLOBB10 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFLOBB11 -b CMLRDLOBB10 -n 10
pdbuffer -a CMLGBUFLOBD10 -r CMLRDLOBD10 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFLOBD11 -b CMLRDLOBD10 -n 10
pdbuffer -a CMLGBUFLOBD20 -r CMLRDLOBD20 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFLOBD21 -b CMLRDLOBD20 -n 10
pdbuffer -a CMLGBUFLOBI10 -r CMLRDLOBI10 -n 100

```

```
pdbuffer -a CMLGBUFLOBI11 -b CMLRDLOBI10 -n 10
pdbuffer -a CMLGBUFLOBI20 -r CMLRDLOBI20 -n 100
pdbuffer -a CMLGBUFLOBI21 -b CMLRDLOBI20 -n 10
```

データベースのグローバルバッファの例 (宛先台帳用)

```
pdbuffer -a CMLADBKDATA1 -n 100 -r CMLADBKDATA1
pdbuffer -a CMLADBKDATA2 -n 100 -r CMLADBKDATA2
pdbuffer -a CMLADBKIDX1 -n 100 -r CMLADBKIDX1
pdbuffer -a CMLADBKIDX2 -n 100 -r CMLADBKIDX2
pdbuffer -a CMLADBKIDX3 -n 100 -r CMLADBKIDX3
```

2.6.10 テーブルおよびインデクスの作成

HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、テーブルおよびインデクスを作成します。テーブルおよびインデクスを作成する場合は、次のテーブル・インデクス作成 SQL を使用してください。

- *Collaboration - Mail* インストールディレクトリ%sample%hptl_clb_cml_table.sql
- *Collaboration - Mail* インストールディレクトリ%sample%hptl_clb_cml_adbk_table.sql

テーブル・インデクス作成 SQL は次のユーザ環境を想定して記述されています。これらの値を実際のユーザ環境に合わせた値に変更して、テーブルおよびインデクスを作成してください。

hptl_clb_cml_table.sql

- ユーザ数
1 システム当たり 1,000 人
- 保存するメールの数
1 ユーザ当たり 1,000 通

hptl_clb_cml_adbk_table.sql

- ユーザ数
1 システム当たり 1,000 人
- 登録する宛先の数
1 ユーザ当たり 200 件

データベース定義ユーティリティ (pddef) の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

! 注意事項

テーブルを作成する前に、HiRDB Text Search Plug-in を設定してください。HiRDB Text Search Plug-in を設定する前にテーブルを作成するとエラーになり、テーブルを作成できません。

2.6.11 マスタレコードの作成

HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用してマスタレコードを作成します。

マスタレコードを作成するには、テキストエディタなどを使用します。ただし、Windows のメモ帳を使用してマスタレコードを作成すると、ファイルを保存したときに、ファイルの先頭に「BOM」と呼ばれる制御コードが自動的に挿入されてしまいます。このため、Windows のメモ帳で作成したマスタレコードを使用すると、エラーになる場合があります。マスタレコードを作成する場合は、必ず Windows のメモ帳以外のテキストエディタを使用してください。

また、マスタレコードを作成する場合は、マスタレコードファイル (*Collaboration - Mail* インストールディレクトリ¥sample¥hptl_clb_cml_master.sql)、および次に示すシーケンスマスタレコードファイルを使用してください。

- *Collaboration - Mail* インストールディレクトリ¥sample¥hptl_clb_cml_master_sequence.sql
- *Collaboration - Mail* インストールディレクトリ¥sample¥hptl_clb_cml_adbk_sequence.sql

マスタレコードファイルは次のユーザ環境を想定して記述されています。これらの値を実際のユーザ環境に合わせた値に変更して、マスタレコードを作成してください。

- ユーザ数
1 システム当たり 1,000 人
- 保存するメールの数
1 ユーザ当たり 1,000 通
- 添付ファイルの合計の最大サイズ
5MB
- 添付ファイルの 1 ファイル当たりの最大サイズ
5MB
- DABroker のデータ受信バッファサイズ
1 ユーザ当たり 2,097,152 バイト
- 保存するメールの最大格納サイズ
1 ユーザ当たり 10,485,760 バイト

これらの値を実際のユーザ環境に合わせて変更するには、pvalue の値を変更します。

修正する項目、および指定できる値を次に示します。ここで示した項目以外は変更しないでください。なお、修正する項目とは、pkey の値を指します。

例えば、ユーザ数を変更する場合は、pkey の値が max_forumnum の行の、pvalue の値を変更します。

ただし、指定できる値の上限は使用しているデータベースの容量によって異なります。

ユーザ数

修正する項目：max_forumnum
指定できる値：1~2,147,483,647

1 ユーザが保存するメールの数

修正する項目：max_opinion
指定できる値：1~2,147,483,647

添付ファイルの合計の最大サイズ※1

修正する項目：max_apdfiletotalsize
指定できる値：1~20 (単位：MB)

添付ファイルの 1 ファイル当たりの最大サイズ

修正する項目：max_apdffilesize
指定できる値：1~ [max_apdfiletotalsize] で指定した値 (単位：MB)

1 ユーザ当たりの DABroker のデータ受信バッファサイズ

修正する項目：dab_buffsize

指定できる値：131,072～2,147,483,647（単位：バイト）

1 ユーザ当たりの、メール保存用のデータベース使用量の上限値^{※2}

修正する項目：def_limitvalue

指定できる値：-1～2,147,483,647（単位：バイト）

注※1

日本語または英語以外の言語のメールを保存すると、メールの主題のサイズが添付ファイルの合計サイズに含まれます。このことを考慮して、添付ファイルの合計の最大サイズを指定してください。

注※2

-1 を指定すると、メール保存用のデータベース使用量の上限がなくなります。また、0 を指定するとメールを保存できなくなります。

1 ユーザ当たりの、メール保存用のデータベース使用量の上限値を変更する場合は、def_limitvalue の値を変更してください。

また、HiRDB SQL Executer がない場合は、データベース作成ユーティリティ (pdload) コマンドで使用できるマスタレコードファイルを使用してください。

会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsqll), およびデータベース作成ユーティリティ (pdload) の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

! 注意事項

マスタレコード作成後に各項目の上限値を変更する場合は、次の SQL を使用して変更してください。

```
update TBL_PARAM set PVALUE= 'pvalueの値' where PKEY = 'pkeyの値';
```

「pvalue の値」には変更後の上限値、「pkey の値」には上限値を変更したい項目の pkey の値を指定してください。

マスタレコードファイル、およびシーケンスマスタレコードファイルを使用して再登録すると、シーケンス番号が初期化され、システムが正常に動作しなくなるおそれがあります。

データベースのレコードを更新する方法の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド」を参照してください。

2.6.12 HiRDB の環境変数グループの設定

Collaboration - Mail は、uCosminexus Portal Framework 上で動作するアプリケーションです。このため、HiRDB の設定がほかのアプリケーションと干渉しないように、HiRDB の環境変数グループを設定します。この環境変数グループを uCosminexus Application Server Standard に引き継ぎます。

なお、この環境変数グループの名称は「HPTLCLBCML」としてください。

HiRDB クライアント環境変数登録ツールを使って、環境変数グループに設定する項目を次の表に示します。

表 2-11 設定項目

項番	項目	機能	設定内容
1	PDCLTCNVMODE	文字コード変換をしないで、データをそのまま受け渡します。	NOUSE

項番	項目	機能	設定内容
2	PDBLKF	HiRDB サーバから HiRDB クライアントに検索結果を転送するときの、1 回の転送処理で送られる行数を指定します。	50 性能測定を実施し、サーバマシンの性能に見合った数値を指定します。
3	PDISLLVL	SQL 文のデータ保証レベルを指定します。	0
4	PDLOCKSKIP	無排他条件判定をするかどうかを指定します。	YES
5	PDIPC	サーバとクライアントが同一ホストにある場合の、プロセス間の通信方法を指定します。	アプリケーションサーバとデータベースサーバが同一マシンにある場合、MEMORY を指定します。
6	PDSWATCHTIME	トランザクション外の HiRDB サーバが、HiRDB クライアントからの要求に回答してから、次に HiRDB クライアントから要求があるまでの HiRDB サーバの最大待ち時間を指定します。	0
7	PDCWAITTIME	HiRDB クライアントが HiRDB サーバに要求をしてから、回答が戻ってくるまでの HiRDB クライアントの最大待ち時間を指定します。	180
8	PDSWAITTIME	トランザクション中の HiRDB クライアントに、HiRDB サーバが回答してから、次に要求があるまでの最大待ち時間を指定します。	180
9	PDCLTPATH	HiRDB クライアントが作成する SQL トレースファイルおよびエラーログファイルの格納先ディレクトリを指定します。	任意で指定します。 値を指定する場合は、接続単位で指定してください。

PDHOST などデータベース接続に必要な項目は、システムに合わせて設定してください。

設定方法の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド」を参照してください。

2.7 Cosminexus DABroker Library の設定

Cosminexus DABroker Library の環境設定ユーティリティを使用して設定する項目を次の表に示します。

表 2-12 Cosminexus DABroker Library の設定項目

項番	タブ名称	項目	値
1	リモートアクセス設定※1	BLOB/LONG/CLOB 型データ受信バッファサイズグループの HiRDB 部分	パラメタ管理テーブル (tbl_param) の DABroker のデータ受信バッファサイズ (dab_buffsize) より大きい値を指定します。
2	共通設定※2	表検索カラム数	60 を指定します。
		更新・検索条件カラム数	60 を指定します。

注※1

添付できる 1 ファイルサイズの条件に影響します。

注※2

検索性能に影響します。

この設定は、システム全体に影響するため、ほかのアプリケーションが表に示す項目で別の設定を要求している場合は、アプリケーション間で設定内容を調整してください。

Cosminexus DABroker Library の環境設定ユーティリティの詳細は、Cosminexus 付属の DABroker のドキュメントを参照してください。

2.8 J2EE Resources のデータソースの指定

uCosminexus Portal Framework で Collaboration - Mail が提供するポートレットを使用して Web アプリケーションを構築する場合、登録した環境変数グループのグループ名称を Web アプリケーションの J2EE Resources のデータソースとして設定します。環境変数グループの名称は、「2.6.12 HiRDB の環境変数グループの設定」を参照してください。

Collaboration - Mail を動作させるには DB Connector の設定が必要です。リソースアダプタとして uCosminexus Application Server Standard の DB Connector を使用します。リソースアダプタへの組み込み方法の詳細は、マニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ システム構築・運用ガイド」を参照してください。

2.9 DB connector の設定

Collaboration - Mail を組み込んだ Collaboration システムを起動する前に Connector 属性ファイルを取得し、編集してください。編集後、Connector 属性ファイルをリソースアダプタに反映してください。詳細は、マニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。

コンフィグレーションプロパティ、および実行時プロパティの項目を設定してください。これらのプロパティで設定する項目を次に示します。そのほかの項目については環境に合わせて設定してください。

表 2-13 コンフィグレーションプロパティの設定項目

項番	コンフィグレーションプロパティ名	コンフィグレーションプロパティの値
1	networkProtocol	lib
2	databaseName	HIRDB
3	description	@DABENVGRP=HPTLCLBCML
4	encodLang	UTF-8
5	bufSize	保存するメールの本文、主題、送信者、および宛先の、それぞれの最大サイズの合計を KB 単位で指定します。 [hptl_clb_cml_maxSaveMailSize に指定した値 × 1.5 + 10] より大きい値を指定してください。 hptl_clb_cml_maxSaveMailSize に指定する値の詳細は、 「2.11.4(42) データベースに保存できるメールのサイズの上限値の指定 (hptl_clb_cml_maxSaveMailSize)」を参照してください。

表 2-14 実行時プロパティの設定項目

項番	実行時プロパティ名	実行時プロパティの値	備考
1	MinPoolSize	webserver.connector.ajp13.max_threads に指定した値	MaxPoolSize の接続ができる値を HiRDB の pd_max_users に設定してください。なお、pd_max_users には同時に実行するユティリティコマンドに合わせた値を加算して設定してください。
2	MaxPoolSize	webserver.connector.ajp13.max_threads に指定した値より大きい値	

これ以外の設定項目の詳細は、マニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(アプリケーション/リソース定義)」を参照してください。

2.10 ほかのコンポーネントとコネクションを共有する場合の設定

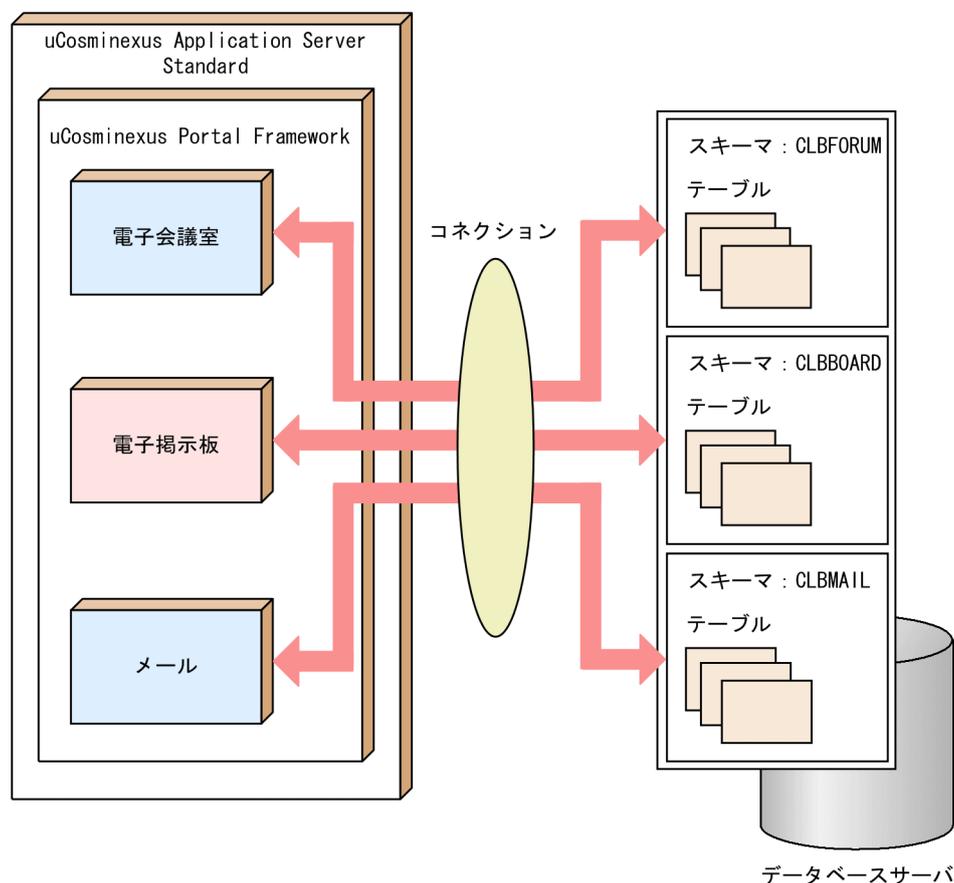
2.10.1 コネクションを共有できるコンポーネントと共有イメージ

Collaboration - Mail では、uCosminexus Application Server Standard の DB Connector を利用して、データベースサーバとのコネクションを確立します。このとき、データベースサーバが 1 台の場合でも、ほかのコンポーネントとコネクションを共有できます。共有できるコンポーネントを次に示します。

- Collaboration - Bulletin board
- Collaboration - Forum

コネクションを共有できるコンポーネントと、コネクションを共有した場合のイメージを次の図に示します。

図 2-2 コネクションの共有イメージ



2.10.2 コネクションを共有する場合に必要な設定項目

コネクションを共有する場合に、次の項目の設定を切り替えます。

(1) 共通な認可識別子

各コンポーネントで共通に使用するための認可識別子を用意します。各コンポーネントで用意しているテーブルに対して、CONNECT 権限、およびアクセス権限を設定します。スキーマ名は、ほかのコンポーネントと異なる名称にしてください。

ただし、Collaboration - Mail ではメール保存用のデータベースおよび宛先台帳用のデータベースという二つのデータベースを使用しているため、それぞれのテーブルを作成するスキーマが異なります。

メール保存用のテーブル

共有する認可識別子のスキーマと別のスキーマに作成します。

宛先台帳用のテーブル

共有する認可識別子のスキーマに作成します。また、別のスキーマに作成したメール保存用のテーブルにアクセスするためのアクセス権限を設定します。

それぞれの認可識別子の設定方法を次に示します。

Collaboration - Mail (メール保存用)

```
GRANT CONNECT TO 認可識別子(共通) IDENTIFIED BY パスワード(共通);
GRANT ALL ON CLBMAIL.TBL_FORUM TO 認可識別子(共通);
:
: (すべてのテーブルに対して、全アクセス権を設定します。)
```

Collaboration - Bulletin board

```
GRANT CONNECT TO 認可識別子(共通) IDENTIFIED BY パスワード(共通);
GRANT ALL ON CLBBOARD.TBL_FORUM TO 認可識別子(共通);
:
: (すべてのテーブルに対して、全アクセス権を設定します。)
```

Collaboration - Forum

```
GRANT CONNECT TO 認可識別子(共通) IDENTIFIED BY パスワード(共通);
GRANT ALL ON CLBFORUM.TBL_FORUM TO 認可識別子(共通);
:
: (すべてのテーブルに対して、全アクセス権を設定します。)
```

(2) クライアント環境変数グループ

クライアント環境変数グループは、コネクションを共有するコンポーネントで同じ変数を使用します。名称は次のように変更できます。

クライアント環境変数グループ : HPTLCLBFMB

各コンポーネントで調整したクライアント環境変数グループに設定された項目がある場合、コネクションを共有するすべてのコンポーネントで問題ない値を設定してください。

(3) DB Connector の設定

指定した認可識別子、パスワード、およびクライアント環境変数グループ名を DB Connector の設定に指定します。

実行時プロパティとコンフィグレーションプロパティで設定する項目を次の表に示します。

表 2-15 実行時プロパティの設定項目

項番	実行時プロパティ名	実行時プロパティの値
1	User	認可識別子 (共通)

項番	実行時プロパティ名	実行時プロパティの値
2	Password	「User」で示すユーザのパスワード（共通）

表 2-16 コンフィグレーションプロパティの設定項目（ほかのシステムとコネクションを共有する場合の設定）

項番	コンフィグレーションプロパティ名	コンフィグレーションプロパティの値
1	Description	@DABENVGRP= HPTLCLBFMB 変更したクライアント環境変数グループ

2.11 Collaboration - Mail のプロパティ (hptl_clb_cml.properties) の設定

この節では、Collaboration - Mail のプロパティの設定方法および各プロパティの詳細を説明します。

なお、Collaboration - Mail には、このほかにもプロパティがありますが、ここで挙げているもの以外は修正しないでください。

2.11.1 Collaboration - Mail のプロパティの設定方法

Collaboration - Mail の動作をプロパティファイルに設定します。プロパティファイルには、Collaboration - Mail 固有のプロパティファイル (hptl_clb_cml.properties) と共通プロパティファイル (hptl_clb_ccu.properties) の二つがあります。

プロパティファイルを変更するには、テキストエディタなどを使用します。ただし、Windows のメモ帳を使用してプロパティファイルを編集すると、ファイルを保存したときに、ファイルの先頭に「BOM」と呼ばれる制御コードが自動的に挿入されてしまいます。このため、Windows のメモ帳で編集したプロパティファイルを使用すると、エラーになる場合があります。プロパティファイルを変更する場合は、必ず Windows のメモ帳以外のテキストエディタを使用してください。

プロパティファイルは uCosminexus Portal Framework の起動時に一度だけ参照されます。ポートレットの動作中にプロパティファイルを変更した場合は、その内容をポートレットに反映するために uCosminexus Portal Framework を再起動してください。

Collaboration - Mail のプロパティファイルの設定内容を表 2-17 に示します。

表 2-17 Collaboration - Mail のプロパティファイルの設定内容

項番	プロパティ名	設定内容	デフォルト値	省略の可否
1	hptl_clb_cml_gmax_hostname	Groupmax Mail Server アドレス	localhost	×
2	hptl_clb_cml_gmax_mail_port	Groupmax Mail Server のポート番号	9,100	×
3	hptl_clb_cml_gmax_auth_port	Groupmax Mail Server の認証ポート番号	9,052	×
4	hptl_clb_cml_max_attached_filesize	添付ファイルのサイズの合計の上限値	5 (MB)	×
5	hptl_clb_cml_logPath	ログファイルの出力先のフォルダ	Collaboration Portal インストールディレクトリ¥ ¥clb_home¥ ¥log	×
6	hptl_clb_cml_logLevel	ログレベル	20	×
7	hptl_clb_cml_logFileNum	ログファイルの面数	16	×
8	hptl_clb_cml_logfileSize	ログファイルのサイズ	10,485,760 (バイト)	×
9	hptl_clb_cml_logEncoding	ログファイルの文字コード	UTF-8	×

項番	プロパティ名	設定内容	デフォルト値	省略の可否
10	hptl_clb_cml_db_schema	メール保存用のデータベースのスキーマ名	空白行	△
11	hptl_clb_cml_filter_history	フィルタリング条件として指定した主題, 送信者および宛先を履歴として保存する個数	15	○
12	hptl_clb_cml_workFolderPath	ワークファイルを作成するフォルダ	カレントディレクトリ*1	○
13	hptl_clb_cml_addressCheck	メール送信時に、「@」を含む宛先を E-mail アドレスとして判別するかどうか	auto	○
14	hptl_clb_cml_mainWindowWidth	[メール] ポートレットを別ウィンドウに表示させたときの幅	750 (ピクセル)	○
15	hptl_clb_cml_mainWindowHeight	[メール] ポートレットを別ウィンドウに表示させたときの高さ	570 (ピクセル)	○
16	hptl_clb_cml_editmailWidth	[メール作成] 画面の幅	670 (ピクセル)	○
17	hptl_clb_cml_editmailHeight	[メール作成] 画面の高さ	480 (ピクセル)	○
18	hptl_clb_cml_viewmailWidth	別ウィンドウ表示画面(受信, 送信共通)の幅	670 (ピクセル)	○
19	hptl_clb_cml_viewmailHeight	別ウィンドウ表示画面(受信, 送信共通)の高さ	480 (ピクセル)	○
20	hptl_clb_cml_addressbookWidth	[宛先台帳] 画面の幅	810 (ピクセル)	○
21	hptl_clb_cml_addressbookHeight	[宛先台帳] 画面の高さ	490 (ピクセル)	○
22	hptl_clb_cml_application_name	アプリケーション名	hptlclbcml	×
23	hptl_clb_cml_character_encoding	文字コード	UTF-8	×
24	hptl_clb_cml_jsp_content_type	コンテンツタイプ	text/html;charset=UTF-8	×
25	hptl_clb_cml_jndi_datasource_name	データソース名	java : comp/env/jdbc/CMLDB	×
26	hptl_clb_cml_single_sign_on_login	uCosminexus Portal Framework 以外のシングルサインオンプログラムでユーザ認証して, Groupmax Mail Server へ接続するかどうか	false	○
27	hptl_clb_cml_unchangeableAddressCheck	[設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合) の, [メール送信時, 宛先確認画面を必ず表示する。] チェックボックスを変更可能にするかどうか	Off	○

項番	プロパティ名	設定内容	デフォルト値	省略の可否
28	hptl_clb_cml_useEmailComment	宛先に E-mail コメントとして名前を設定してメールを送信できるようにするかどうか	Off	○
29	hptl_clb_cml_max_signature_num	保存できる署名の数の上限	3	○
30	hptl_clb_cml_fromMLF	メールに添付されているメールファイル（ファイル名.mlf）を表示させる際に、ファイルを開くのか、またはダウンロードするのを確認するかどうか	confirm	○
31	hptl_clb_cml_max_signature_name_size	署名のタイトルに指定できる文字数の上限	25	○
32	hptl_clb_cml_checkEmailAddressLevel	メール送信時の E-mail アドレスの確認レベル	1	○
33	hptl_clb_cml_displayOrgName	【宛先確認】画面の【所属組織】に表示される組織名	OrgName	○
34	hptl_clb_cml_useAgent	エージェント機能を使用するかどうか	Off	○
35	hptl_clb_cml_agent_server_num	使用する Groupmax Agent Server の台数	空白行	△
36	hptl_clb_cml_agent_hostname_XX*2	Groupmax Agent Server のホスト名または IP アドレス	空白行	△
37	hptl_clb_cml_agent_port_XX*2	Groupmax Agent Server のポート番号	空白行	△
38	hptl_clb_cml_agent_name_XX*2	Groupmax Agent Server の名称	空白行	△
39	hptl_clb_cml_agent_timeout_XX*2	Groupmax Agent Server とのソケット通信時のタイムアウト時間	30,000 (ミリ秒)	△
40	hptl_clb_cml_standard_language	送信者または宛先の表示言語	Ja	○
41	hptl_clb_cml_useDatabase	メール保存用のデータベースを使用するかどうか	On	○
42	hptl_clb_cml_maxSaveMailSize	データベースに保存できるメールのサイズの上限值	-1	○
43	hptl_clb_cml_receiveSizeMax	メールサーバから取得するメールの上限数	0	○
44	hptl_clb_cml_addrJudgeLogic	宛先台帳に宛先を登録する際に、宛先が E-mail アドレスなのか、またはニックネームなのかということを判別する方法	format	○
45	hptl_clb_cml_maxParseCount	メール送信時にアクセス権を設定する対象に数える配布 URL の最大値	0	○

項番	プロパティ名	設定内容	デフォルト値	省略の可否
46	hptl_clb_cml_attention_AttachedFile	ファイルが添付されているメールが送信された場合に、メッセージを表示するかどうか	Off	○
47	hptl_clb_cml_getMainEmailAddress	兼任ユーザの宛先から主体ユーザの E-mail アドレスを取得するかどうか	Off	○
48	hptl_clb_cml_displayCopyClipboardMenu	[宛先をクリップボードへコピー] メニューを表示するかどうか	On	○
49	hptl_clb_cml_saveFileShare	メール作成時にファイルの添付方法を選択できるようにするかどうか	Off	○
50	hptl_clb_cml_errorSaveFile	ファイル共有に登録できなかったファイルをメールに添付するかどうか	cancel	○
51	hptl_clb_cml_warnAttachedFileSharing	ファイル共有に登録されているファイルをメールに添付しようとしたときに、警告メッセージを表示させるかどうか	Off	○
52	hptl_clb_cml_AutomaticInsertionPoint	署名および配布 URL の、メール本文への挿入位置を変更できるようにするかどうか	Off	○
53	hptl_clb_cml_cacheTemporaryList	受信メールおよび送信済みメールの一覧情報をキャッシュに保存するかどうか	On	○
54	hptl_clb_cml_saveMailListScreen	[受信メール一覧] 画面、および [送信済みメール一覧] 画面から、データベースへメールを保存できるようにするかどうか	Off	○
55	hptl_clb_cml_moveMailListScreen	[受信メール一覧] 画面、および [送信済みメール一覧] 画面から、データベースへメールを移動できるようにするかどうか	Off	○
56	hptl_clb_cml_attachFileDisplayStyle	添付ファイルを表示する形式	oneLine	○
57	hptl_clb_cml_priorityExternalAddressType	外部宛先の E-mail コメントと E-mail アドレスのどちらを優先して表示するか	comment	○
58	hptl_clb_cml_checkNewMail	定期的に新着メールの有無を確認できるようにするかどうか	Off	○
59	hptl_clb_cml_checkIntervalMin	新着メールの有無を確認する間隔の最小値	30 (分)	○
60	hptl_clb_cml_adbk_maxEntryNum	一つの宛先台帳に登録できるフォルダおよび宛先の上限	1,000	×
61	hptl_clb_cml_adbk_group_access_set	グループ宛先台帳を使用するかどうか	none	○

項番	プロパティ名	設定内容	デフォルト値	省略の可否
62	hptl_clb_cml_adbk_group_create_user_list	グループ宛先台帳を作成できるユーザ	空白行	△
63	hptl_clb_cml_adbk_group_create_org_list	グループ宛先台帳を作成できる組織	空白行	△
64	hptl_clb_cml_adbk_specify_owner_create_group	グループ宛先台帳作成時に、所有者を変更できるかどうか	true	○
65	hptl_clb_cml_adbk_specify_owner_edit_group	グループ宛先台帳の設定変更時に、所有者を変更できるかどうか	false	○
66	hptl_clb_cml_adbk_group_delete	グループ宛先台帳の所有者が、所有しているグループ宛先台帳を削除できるかどうか	true	○
67	hptl_clb_cml_adbk_sort_address_list	宛先台帳の宛先一覧をソートできるようにするかどうか	false	○
68	hptl_clb_cml_sortOut	メールの振り分けができるようにするかどうか	Off	○
69	hptl_clb_cml_displaySortOutFolderShortcut	ナビゲーションビューに振り分けフォルダへのショートカットを表示できるようにするかどうか	Off	○

(凡例)

- ：省略できる
- ×：省略できない
- △：条件によって省略できる

注※1

この項目は、インストール時の初期値には「*Collaboration - Mail* インストールディレクトリ¥¥temp¥¥cml¥¥work」が指定されていますが、設定を省略した場合（デフォルト）はカレントディレクトリが指定されます。

注※2

「XX」には、1 から hptl_clb_cml_agent_server_num で指定した数までの数値を指定します。

旧バージョンの設定内容を引き継ぐ場合

旧バージョンの *Collaboration - Mail* の設定内容を引き継ぐ場合は、旧バージョンのプロパティファイルを使用します。

- **Collaboration - Mail 01-00 からバージョンアップする場合**

表 2-17 の項番 9～項番 69 のプロパティをコピーして、*Collaboration - Mail 01-00* のプロパティファイルに追加してください。

- **Collaboration - Mail 01-10 からバージョンアップする場合**

表 2-17 の項番 14 の値を 750 に変更してください。また、項番 20、項番 21 および項番 27～項番 69 のプロパティをコピーして、*Collaboration - Mail 01-10* のプロパティファイルに追加してください。

- **Collaboration - Mail 01-20 以降のバージョンからバージョンアップする場合**

移行前のバージョンの hptl_clb_cml.properties のバックアップを取ります。今バージョンの hptl_clb_cml.properties に、バックアップを取った hptl_clb_cml.properties の内容を反映してください。

旧バージョンから移行する場合の作業の詳細は「付録 D 旧バージョンから移行する場合の設定」を参照してください。

2.11.2 プロパティファイルの記述形式と格納先 (Collaboration - Mail)

プロパティファイルの記述形式および格納先について説明します。

プロパティファイルは、Java 2 Platform, Standard Edition のプロパティファイル形式です。

(1) 記述形式

プロパティファイルの記述形式を次に示します。

プロパティ名 = 値

- 改行までが値になります。
- プロパティ名と値は「= (半角のイコール)」でつなぎます。
- 行頭が「# (シャープ)」および「! (感嘆符)」の行はコメントと見なされます。
- 値の後ろには、空白やコメントなどの文字列を指定しないでください。指定した場合、不正な値と解釈されます。

[不正なコメントの例]

```
プロパティ名 = 値 #コメント
```

[正しいコメントの例]

```
プロパティ名 = 値
```

```
#コメント
```

- スペースだけの行は無視されます。
- 行頭および行末にスペースを指定しないでください。
- ファイルの中に日本語名が含まれる場合は、Java ツールの native2ascii を使ってエンコードする必要があります。Java ツールの詳細は、Java のドキュメントを参照してください。
- 出力先のディレクトリを指定する場合、区切り文字 (記号) には、「`¥¥`」または「`/`」を使用してください。

```
例 : hptl_clb_cml_logPath=C:¥¥tmp¥¥trace
```

- 指定した値の大文字と小文字を区別します。

(2) 格納先

プロパティファイルの格納先を次に示します。

Collaboration - Mail 固有のプロパティファイル (hptl_clb_cml.properties)

```
Collaboration Portal インストールディレクトリ¥clb_home¥conf
```

2.11.3 プロパティファイルの記述例 (Collaboration - Mail)

Collaboration - Mail が提供するプロパティファイルの記述例を次に示します。記述例で使用している値は、最初に各プロパティに設定されている値です。

```
hptl_clb_cml_gmax_hostname = localhost
hptl_clb_cml_gmax_mail_port = 9100
```

```
hptl_clb_cml_gmax_auth_port = 9052
hptl_clb_cml_max_attached_filesize = 5
hptl_clb_cml_logPath =
hptl_clb_cml_logLevel = 20
hptl_clb_cml_logFileNum = 16
hptl_clb_cml_logfileSize = 10485760
hptl_clb_cml_logEncoding = UTF-8
hptl_clb_cml_db_schema =
hptl_clb_cml_filter_history = 15
hptl_clb_cml_workFolderPath =
hptl_clb_cml_addressCheck = auto

# For Address Book Setting
hptl_clb_cml_addrJudgeLogic = format
hptl_clb_cml_adbk_maxEntryNum = 1000
#hptl_clb_cml_adbk_group_access_set = none
#hptl_clb_cml_adbk_group_create_user_list =
#hptl_clb_cml_adbk_group_create_org_list =
#hptl_clb_cml_adbk_specify_owner_create_group = true
#hptl_clb_cml_adbk_specify_owner_edit_group = false
#hptl_clb_cml_adbk_group_delete = true
#hptl_clb_cml_adbk_sort_address_list = false

# For Window Style
hptl_clb_cml_mainWindowWidth = 750
hptl_clb_cml_mainWindowHeight = 570
hptl_clb_cml_editmailWidth = 670
hptl_clb_cml_editmailHeight = 480
hptl_clb_cml_viewmailWidth = 670
hptl_clb_cml_viewmailHeight = 480
hptl_clb_cml_addressbookWidth = 810
hptl_clb_cml_addressbookHeight = 490

# For Mail and Address Book Common Setting
hptl_clb_cml_application_name = hptlclbcml
hptl_clb_cml_character_encoding = UTF-8
hptl_clb_cml_jsp_content_type = text/html;charset=UTF-8

# For DB Setting
hptl_clb_cml_jndi_datasource_name = java:comp/env/jdbc/CMLDB

# For Single Sign On Login Setting
hptl_clb_cml_single_sign_on_login = false

# For Insert Signature
hptl_clb_cml_max_signature_num = 3
hptl_clb_cml_max_signature_name_size = 25

# For MLF
hptl_clb_cml_fromMLF = confirm

#For Confirm Address
hptl_clb_cml_checkEmailAddressLevel = 1
hptl_clb_cml_displayOrgName = OrgName

hptl_clb_cml_useAgent = Off

# For Use DB setting
hptl_clb_cml_useDatabase = On
hptl_clb_cml_maxSaveMailSize = -1

# For I18n Standard language
hptl_clb_cml_standard_language = Ja

# For Maximum number of mail
hptl_clb_cml_receiveSizeMax = 0

# For Environmental Setting
hptl_clb_cml_unchangeableAddressCheck = Off
hptl_clb_cml_useEmailComment = Off

# For set Permission File Sharing
hptl_clb_cml_maxParseCount = 0
```

```

# For Clipboard menu
hptl_clb_cml_displayCopyClipboardMenu = On

# For send check setting
hptl_clb_cml_attention_AttachedFile = Off

# For Additional Post setting
hptl_clb_cml_getMainEmailAddress = Off

# For File Registration setting
hptl_clb_cml_saveFileShare = Off
hptl_clb_cml_errorSaveFile = cancel
hptl_clb_cml_warnAttachedFileSharing = Off
hptl_clb_cml_AutomaticInsertionPoint = Off

# For Temporary List
hptl_clb_cml_cacheTemporaryList = Off

# For Save Mail From List Screen
hptl_clb_cml_saveMailListScreen = Off
hptl_clb_cml_moveMailListScreen = Off

# For AttachedFile Display Style
hptl_clb_cml_attachFileDisplayStyle = oneLine

# For External Address Type
hptl_clb_cml_priorityExternalAddressType = comment

# For check New Mail
hptl_clb_cml_checkNewMail = Off
hptl_clb_cml_checkIntervalMin = 30

# For Sort Out Mail
hptl_clb_cml_sortOut = Off

# For Sort Out Folder Shortcut
hptl_clb_cml_displaySortOutFolderShortcut = Off

```

2.11.4 プロパティファイルの詳細 (Collaboration - Mail)

Collaboration - Mail の各プロパティの詳細について説明します。

(1) Groupmax Mail Server アドレスの指定 (hptl_clb_cml_gmax_hostname)

Groupmax Mail Server のアドレスを指定します。この設定は初期状態でコメントアウトされていますので、必ずコメント記号を削除し、必要に応じて指定値を変更してください。

デフォルト値：localhost

(2) Groupmax Mail Server のポート番号の指定 (hptl_clb_cml_gmax_mail_port)

Groupmax Mail Server のポート番号を指定します。この設定は省略できません。

デフォルト値：9100

(3) Groupmax Mail Server の認証ポート番号の指定 (hptl_clb_cml_gmax_auth_port)

Groupmax Mail Server の認証ポート番号を指定します。この設定は省略できません。

デフォルト値：9052

(4) 添付ファイルサイズ合計の上限値の指定 (hptl_clb_cml_max_attached_filesize)

メールに添付できるファイルのサイズの合計の制限値を MB 単位で指定します。値は 1MB～10MB の範囲で指定してください。この設定は省略できません。

デフォルト値：5

！ 注意事項

Groupmax Mail Server の gmpublicinfo ファイルに設定されている環境変数 MAX_MAIL_SIZE（送信メールサイズの最大値）の値を超えないように設定してください。

Groupmax Mail Server の gmpublicinfo ファイルの詳細は、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

(5) ログ出力先のフォルダの指定 (hptl_clb_cml_logPath)

ログファイルの出力先のフォルダを指定します。ただし、日本語を含むフォルダは指定できません。また、フォルダの区切りには「¥」を使用してください。

この設定は省略できません。

なお、出力されるログファイルの名称は「hptl_clb_cmlX.log」です。[X] にはログファイルの面数が表示されます。

デフォルト値：Collaboration Portal インストールディレクトリ¥¥clb_home¥¥log

！ 注意事項

Groupmax 通信ライブラリのプロパティファイルのトレース出力先および RAS 用 conf ファイルのログ出力先は、ここで指定したフォルダと同じフォルダを指定してください。

Groupmax 通信ライブラリのプロパティファイルの設定項目「トレース出力先」については、「2.13.4(1) トレース出力先の指定 (TracePath)」を参照してください。RAS 用 Conf ファイルについては、「付録 G.3 RAS 用 Conf ファイルの設定」を参照してください。

(6) ログレベルの指定 (hptl_clb_cml_logLevel)

ログレベルを指定します。値は-1, 10, 20, 30, 40 のどれかを指定してください。この設定は省略できません。

デフォルト値：20

ログレベルと出力基準を次の表に示します。

表 2-18 ログレベルと出力基準

ログレベル	出力基準
-1	トレース情報を出力しません。
10	発生したすべての例外をトレースし、出力します。
20	再現性のある障害に対し、障害の発生元となるコンポーネントを明確に切り分けるために使用するログレベルです。
30	障害の個所を詳細に特定するために使用するログレベルです。主なメンバ関数の開始や終了の情報を取得します。
40	障害の個所を詳細に特定するために使用するログレベルです。すべてのメンバ関数の開始や終了の情報を取得します。

(7) ログファイル面数の指定 (hptl_clb_cml_logFileNum)

ログファイルの面数を指定します。値は 1 面～16 面の範囲で指定してください。この設定は省略できません。

デフォルト値：16

(8) ログファイルサイズの指定 (hptl_clb_cml_logfileSize)

ログファイルのサイズをバイト単位で指定します。値は 4,096～2,147,483,647 バイトの範囲で指定してください。この設定は省略できません。

デフォルト値：10485760

(9) ログファイルの文字コードの指定 (hptl_clb_cml_logEncoding)

ログファイルの文字コードを指定します。指定できる文字コードは HNTRLib2 の設定に従います。この設定は省略できません。

デフォルト値：UTF-8

(10) メール保存用のデータベースのスキーマ名の指定 (hptl_clb_cml_db_schema)

メール保存用のデータベースのスキーマ名を指定します。hptl_clb_cml_useDatabase に「On」を指定した場合は、必ず指定してください。

メール保存用のデータベースを使用しない場合は、指定しません。

デフォルト値：空白行

(11) フィルタリング条件の履歴を保存する個数の指定 (hptl_clb_cml_filter_history)

フィルタリング条件として指定した主題、送信者および宛先を履歴として保存する個数を指定します。値は 1～15 の範囲で指定してください。

フィルタリング条件の履歴が設定した値を超えた場合、古いものから順に削除されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「15」が設定されます。

デフォルト値：15

(12) ワークファイルを作成するフォルダの指定 (hptl_clb_cml_workFolderPath)

受信メール・送信済みメールの本文および添付ファイルの取得時にワークファイルを使用する場合は、ワークファイルを作成するフォルダを指定します。ただし、日本語を含むフォルダは指定できません。また、フォルダの区切りには「¥¥」を使用してください。

このプロパティは、インストール時の初期値には「Collaboration - Mail インストールディレクトリ¥¥temp¥¥cml¥¥work」が指定されていますが、設定を省略した場合（デフォルト）はカレントディレクトリが指定されます。

通常はこのプロパティを指定する必要はありません。

デフォルト値：カレントディレクトリ

(13) E-mail アドレスとして判別するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_addressCheck)

メールを送信するときに、「@」を含む宛先を E-mail アドレスとして判別するかどうかを指定します。「auto」または「nickname」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「auto」が設定されます。

「auto」を指定した場合

「@」を含む宛先が E-mail アドレスとして判別されます。それ以外の宛先はニックネームとして判別されます。

「nickname」を指定した場合

すべての宛先がニックネームとして判別されます。

デフォルト値：auto

! 注意事項

ニックネームに「@」が含まれる運用をしている場合だけ、「nickname」を指定してください。それ以外の場合は、「auto」を指定してください。

(14) [メール] ポートレットを別ウィンドウに表示させたときの幅の指定 (hptl_clb_cml_mainWindowWidth)

[メール] ポートレットを別ウィンドウに表示させた場合の、画面の幅をピクセル単位で指定します。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「750」が設定されます。

デフォルト値：750

(15) [メール] ポートレットを別ウィンドウに表示させたときの高さの指定 (hptl_clb_cml_mainWindowHeight)

[メール] ポートレットを別ウィンドウに表示させた場合の、画面の高さをピクセル単位で指定します。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「570」が設定されます。

デフォルト値：570

(16) [メール作成] ウィンドウの幅の指定 (hptl_clb_cml_editmailWidth)

[メール作成] 画面を表示させた場合の、画面の幅をピクセル単位で指定します。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「670」が設定されます。

デフォルト値：670

(17) [メール作成] ウィンドウの高さの指定 (hptl_clb_cml_editmailHeight)

[メール作成] 画面を表示させた場合の、画面の高さをピクセル単位で指定します。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「480」が設定されます。

デフォルト値：480

(18) 別ウィンドウ表示画面の幅の指定 (hptl_clb_cml_viewmailWidth)

次に示す画面を表示させた場合の、画面の幅をピクセル単位で指定します。

- [受信メール] (別ウィンドウ表示) 画面
- [送信済みメール] (別ウィンドウ表示) 画面
- [下書きメール] (別ウィンドウ表示) 画面
- [保存メール] (別ウィンドウ表示) 画面

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「670」が設定されます。

デフォルト値：670

(19) 別ウィンドウ表示画面の高さの指定 (hptl_clb_cml_viewmailHeight)

次に示す画面を表示させた場合の、画面の高さをピクセル単位で指定します。

- [受信メール] (別ウィンドウ表示) 画面
- [送信済みメール] (別ウィンドウ表示) 画面
- [下書きメール] (別ウィンドウ表示) 画面
- [保存メール] (別ウィンドウ表示) 画面

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「480」が設定されます。

デフォルト値：480

(20) [宛先台帳] 画面の幅の指定 (hptl_clb_cml_addressbookWidth)

[宛先台帳] 画面を表示させた場合の、画面の幅をピクセル単位で指定します。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「810」が設定されます。

デフォルト値：810

(21) [宛先台帳] 画面の高さの指定 (hptl_clb_cml_addressbookHeight)

[宛先台帳] 画面を表示させた場合の、画面の高さをピクセル単位で指定します。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「490」が設定されます。

デフォルト値：490

(22) アプリケーション名の指定 (hptl_clb_cml_application_name)

アプリケーション名を指定します。「hptlclb_cml」で固定です。この設定は省略できません。

デフォルト値：hptlclbcm1

(23) 文字コードの指定 (hptl_clb_cml_character_encoding)

文字コードを指定します。「UTF-8」で固定です。この設定は省略できません。

デフォルト値：UTF-8

(24) コンテントタイプの指定 (hptl_clb_cml_jsp_content_type)

コンテントタイプを指定します。「text/html;charset=UTF-8」で固定です。この設定は省略できません。

デフォルト値：text/html;charset=UTF-8

(25) データソース名の指定 (hptl_clb_cml_jndi_datasource_name)

データソース名を指定します。「java:comp/env/jdbc/CMLDB」で固定です。この設定は省略できません。

デフォルト値：java:comp/env/jdbc/CMLDB

(26) uCosminexus Portal Framework 以外のシングルサインオンプログラムでユーザ認証して、Groupmax Mail Server へ接続するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_single_sign_on_login)

uCosminexus Portal Framework 以外のシングルサインオンプログラムでユーザ認証して、Groupmax Mail Server へ接続するかどうかを指定します。「true」または「false」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「false」が設定されます。

「true」を指定した場合

uCosminexus Portal Framework 以外のシングルサインオンプログラムでユーザ認証して接続します。

「false」を指定した場合

必ずユーザ認証をしてから接続します。

デフォルト値：false

ユーザの認証（ログイン）をポータルではなく、そのほかのシングルサインオンプログラムで実行する場合、値を true に設定する必要があります。ほかのシングルサインオンプログラムで実行すると、ポータルには認証結果とユーザ ID の情報だけが渡されます。このような場合、ポータルのメールサーバも、ユーザ ID の情報だけで認証および動作する必要があるため、Groupmax Mail Server の設定も認証なしで接続できるようにします。

ただし、true を指定する場合は、Groupmax Mail Server でパスワード認証をしません。セキュリティ確保のため、必ずシングルサインオン認証機能を持ったプログラムで認証チェックを実行するようにしてください。

● true を指定した場合の設定

true を指定した場合は、Groupmax Mail Server の gmpublicinfo ファイルに、TRUSTED_IP 環境変数を設定してください。TRUSTED_IP 環境変数の指定を追加、変更した場合は、Groupmax Address Server を再起動してください。

gmpublicinfo ファイル格納先

Groupmax Address/Mail Server インストールディレクトリ¥nxcdir

Groupmax Mail Server の gmpublicinfo ファイルの詳細は、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

TRUSTED_IP 環境変数の指定方法

TRUSTED_IP=値[,値]

値

ユーザ認証チェックなしでログインする IP アドレスを指定します。Collaboration をインストールしているマシンの IP アドレスを指定してください。複数の値を指定した場合は、指定したすべての IP アドレスがユーザ認証チェックなしでログオンできます。指定できる値の個数は 1~16 個です。

形式

次のどちらかの形式で指定します。

- フルアドレス指定

ユーザ認証チェックなしでの要求を受け付ける IP アドレスをフルアドレス形式で指定します。この形式では、指定した IP アドレスからの要求を受け付けます。

(例)

TRUSTED_IP=192.10.12.55

192.10.12.55 からの要求を受け付けます。

- ネットワークアドレス指定

ユーザ認証チェック要求を受け付ける IP アドレスを IP アドレスと有効長で指定します。この形式では、指定した IP アドレスと有効長で示す長さの上位ビットが一致する IP アドレスからの要求を受け付けます。有効長として指定できる値は 1~31 です。

(例)

TRUSTED_IP=192.10.12.0/24

192.10.12.0 と上位 24 ビットのビットパターンが一致する IP アドレス (192.10.12.10, 192.10.12.55, 192.10.12.128 など) からの要求を受け付けます。

(27) [メール送信時、宛先確認画面を必ず表示する。] チェックボックスを変更可能にするかどうかの指定 (hptl_clb_cml_unchangeableAddressCheck)

[設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合) の、[メール送信時、宛先確認画面を必ず表示する。] チェックボックスを変更可能にするかどうかを指定します。

なお、[メール送信時、宛先確認画面を必ず表示する。] チェックボックスを変更できない設定にした場合は、html_clb_cml_set.properties の hptl_clb_cml_setAddressCheck で指定した値が、デフォルト値として設定されます。

「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

[メール送信時、宛先確認画面を必ず表示する。] チェックボックスを操作できない状態にします。このため、エンドユーザはデフォルト値から変更できません。

なお、html_clb_cml_set.properties の hptl_clb_cml_setAddressCheck で指定した値が、[メール送信時、宛先確認画面を必ず表示する。] チェックボックスのデフォルト値に設定されます。

hptl_clb_cml_setAddressCheck の詳細は、「2.12.10(2) メール送信時に必ず [送信の確認] 画面を表示するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_setAddressCheck)」を参照してください。

[Off] を指定した場合

[メール送信時、宛先確認画面を必ず表示する。] チェックボックスを操作できる状態にします。このため、エンドユーザはデフォルト値から変更できます。

なお、html_clb_cml_set.properties の hptl_clb_cml_setAddressCheck で指定した値が、[メール送信時、宛先確認画面を必ず表示する。] チェックボックスのデフォルト値に設定されます。

hptl_clb_cml_setAddressCheck の詳細は、「2.12.10(2) メール送信時に必ず [送信の確認] 画面を表示するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_setAddressCheck)」を参照してください。

デフォルト値：Off

ポイント

[メール送信時、宛先確認画面を必ず表示する。] チェックボックスの状態をデフォルトの状態から変更させたくない場合は、hptl_clb_cml_unchangeableAddressCheck に「On」を指定します。

「On」を指定すると、hptl_clb_cml_setAddressCheck で指定した値がデフォルトとして指定され、エンドユーザは [メール送信時、宛先確認画面を必ず表示する。] チェックボックスをデフォルトの状態から変更できなくなります。

例えば、メールを送信する時に必ず [宛先確認] 画面を表示させる運用にしたい場合は、次のようにプロパティを指定します。

hptl_clb_cml_unchangeableAddressCheck

「On」を指定します。

hptl_clb_cml_setAddressCheck

「On」を指定します。

hptl_clb_cml_setAddressCheck の詳細は、「2.12.10(2) メール送信時に必ず [送信の確認] 画面を表示するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_setAddressCheck)」を参照してください。

(28) 宛先に E-mail コメントとして名前を設定してメールを送信できるようにするかどうかの指定 (hptl_clb_cml_useEmailComment)

メールの送信時に「To」または「Cc」に指定した宛先および送信者の宛先に、E-mail コメントとして名前を設定できるようにするかどうかを指定します。

[On]、[Sender]、または [Off] を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、[Off] が設定されます。

[On] を指定した場合

[設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合) に [メールアドレスに名前を付加してメールを送信する。] チェックボックスが表示されます。

[メールアドレスに名前を付加してメールを送信する。] チェックボックスをチェックした場合、メールの送信時に「To」または「Cc」に指定した宛先および送信者の宛先に、E-mail コメントとして名前が設定されます。

[Sender] を指定した場合

[設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合) に [送信者のメールアドレスに名前を付加してメールを送信する。] チェックボックスが表示されます。

[送信者のメールアドレスに名前を付加してメールを送信する。] チェックボックスをチェックした場合、メールの送信時に、送信者の宛先に E-mail コメントとして名前が設定されます。

「Off」を指定した場合

[設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合) に [メールアドレスに名前を付加してメールを送信する。] チェックボックスは表示されません。

メールの送信時に、宛先に E-mail コメントは設定できません。

デフォルト値：Off

(29) 保存できる署名の数の上限の指定 (hptl_clb_cml_max_signature_num)

保存できる署名の数の上限を指定します。値は 1 ~ 10 の範囲で指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「3」が設定されます。

デフォルト値：3

(30) メールファイル (ファイル名.mlf) を表示する前に確認するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_fromMLF)

メールに添付されているメールファイル (ファイル名.mlf) を表示させる際に、ファイルを開くのか、またはダウンロードするのかを確認するかどうかを指定します。「open」または「confirm」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「confirm」が設定されます。

「open」を指定した場合

ファイルを開くのか、またはダウンロードするのかを確認しません。必ずファイルの内容が表示されます。

「confirm」を指定した場合

ファイルを開くのか、またはダウンロードするのかを確認します。

デフォルト値：confirm

(31) 署名のタイトルに指定できる文字数の上限の指定 (hptl_clb_cml_max_signature_name_size)

署名のタイトルに指定できる文字数の上限を指定します。値は 1 ~ 100 の範囲で指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「25」が設定されます。

デフォルト値：25

(32) E-mail アドレスの確認レベルの指定 (hptl_clb_cml_checkEmailAddressLevel)

メール送信時に宛先を確認する場合の、E-mail アドレスの確認レベルを指定します。値は 1, 2, 3 のどれかを指定してください。

例えば、社内のディレクトリサーバまたは宛先台帳に登録されていない E-mail アドレスを確認してからメールを送信したい場合、「2」を指定します。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「1」が設定されます。

「1」を指定した場合

E-mail アドレスが、ディレクトリサーバまたは宛先台帳に登録されているかどうかを確認しません。

「2」を指定した場合

E-mail アドレスが、ディレクトリサーバまたは宛先台帳に登録されているかどうかを確認します。ディレクトリサーバまたは宛先台帳に登録されていない E-mail アドレスがある場合、[宛先確認] 画面に  アイコンが表示されます。確認した E-mail アドレスが、ディレクトリサーバまたは宛先台帳に登録されていなくても、メールが送信されます。

「3」を指定した場合

E-mail アドレスが、ディレクトリサーバまたは宛先台帳に登録されているかどうかを確認します。ディレクトリサーバまたは宛先台帳に登録されていない E-mail アドレスがある場合、[宛先確認] 画面に  アイコンが表示されます。確認した E-mail アドレスがディレクトリサーバまたは宛先台帳に登録されていない場合は、メールが送信されません。

また、メール送信時に宛先を確認しない設定の場合でも、E-mail アドレスがディレクトリサーバまたは宛先台帳に登録されているかどうかを確認します。確認した E-mail アドレスが、ディレクトリサーバまたは宛先台帳に登録されていない場合、[メール作成] 画面にエラーメッセージが表示されます。

デフォルト値：1

(33) 【宛先確認】画面の【所属組織】に表示される組織名の指定 (hptl_clb_cml_displayOrgName)

[宛先確認] 画面の [所属組織] に表示される組織名を指定します。次に示す値のどれかを指定してください。

- OrgName
- OrgNickname
- rootOrgName

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「OrgName」が設定されます。

「OrgName」を指定した場合

所属している組織の名称が [宛先確認] 画面の [所属組織] に表示されます。

「OrgNickname」を指定した場合

所属している組織の略称が [宛先確認] 画面の [所属組織] に表示されます。

「rootOrgName」を指定した場合

所属している組織の最上位の組織、および所属している組織の名称が [宛先確認] 画面の [所属組織] に表示されます。このとき、組織の名称は次の形式で表示されます。

最上位の組織の名称 / 所属している組織の名称

デフォルト値：OrgName

(34) エージェント機能を使用するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_useAgent)

エージェント機能を使用するかどうか、および使用する Groupmax Agent Server の台数を指定します。「Single」, 「Multiple」, 「Off」のどれかを指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

「Single」を指定した場合

エージェント機能を使用します。この場合、Groupmax Agent Server を 1 台だけ使用します。

「Multiple」を指定した場合

エージェント機能を使用します。この場合、Groupmax Agent Server を複数台使用します。

「Off」を指定した場合

エージェント機能を使用しません。

デフォルト値：Off

(35) 使用する Groupmax Agent Server の台数の指定 (hptl_clb_cml_agent_server_num)

使用する Groupmax Agent Server の台数を指定します。値は 1~64 の間で指定してください。hptl_clb_cml_useAgent に「Multiple」を指定した場合は、必ず指定してください。

デフォルト値：空白行

(36) Groupmax Agent Server のホスト名または IP アドレスの指定 (hptl_clb_cml_agent_hostname_XX)

Groupmax Agent Server のホスト名または IP アドレスを指定します。半角英数字 32 文字以内で指定してください。

必ず、hptl_clb_cml_agent_server_num で指定した Groupmax Agent Server の台数分指定してください。例えば、hptl_clb_cml_agent_server_num に「2」を設定した場合は、ホスト名または IP アドレスを二つ指定します。

また、hptl_clb_cml_useAgent に「Single」または「Multiple」を指定した場合は、必ず指定してください。

なお、「XX」には、1 から hptl_clb_cml_agent_server_num で指定した数までの数値を指定します。

デフォルト値：空白行

(37) Groupmax Agent Server のポート番号の指定 (hptl_clb_cml_agent_port_XX)

Groupmax Agent Server のポート番号を指定します。

必ず、hptl_clb_cml_agent_server_num で指定した Groupmax Agent Server の台数分指定してください。例えば、hptl_clb_cml_agent_server_num に「2」を設定した場合は、ポート番号を二つ指定します。

また、hptl_clb_cml_useAgent に「Single」または「Multiple」を指定した場合は、必ず指定してください。

なお、「XX」には、1 から hptl_clb_cml_agent_server_num で指定した数までの数値を指定します。

デフォルト値：空白行

(38) Groupmax Agent Server の名称の指定 (hptl_clb_cml_agent_name_XX)

hptl_clb_cml_agent_hostname_XX で指定した、Groupmax Agent Server のホスト名および IP アドレスに対応した名称を指定します。ここで指定した名称は、[設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合) の [接続先の名称] テキストボックスに入力します。半角英数字 32 文字以内で指定してください。

必ず、hptl_clb_cml_agent_server_num で指定した Groupmax Agent Server の台数分指定してください。例えば、hptl_clb_cml_agent_server_num に「2」を設定した場合は、接続先の名称を二つ指定します。

また、hptl_clb_cml_useAgent に「Multiple」を指定した場合は、必ず指定してください。

なお、[XX] には、1 から hptl_clb_cml_agent_server_num で指定した数までの数値を指定します。

デフォルト値：空白行

(39) Groupmax Agent Server のタイムアウト時間の指定 (hptl_clb_cml_agent_timeout_XX)

Groupmax Agent Server とのソケット通信時の、タイムアウト時間をミリ秒単位で指定します。値は 0～2,147,483,647 の間で指定してください。

なお、[XX] には、1 から hptl_clb_cml_agent_server_num で指定した数までの数値を指定します。hptl_clb_cml_useAgent に「Single」を指定した場合は、「1」を指定します。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「30000」が設定されます。

デフォルト値：30000

(40) 送信者または宛先の表示言語の指定 (hptl_clb_cml_standard_language)

メールの送信者、または宛先の表示言語を指定します。「En」または「Ja」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Ja」が設定されます。

[En] を指定した場合

ポータル画面で、表示言語を日本語に設定している場合は、送信者または宛先の日本語名が表示されます。

表示言語を日本語以外に設定している場合は、送信者または宛先の英語名が表示されます。

[Ja] を指定した場合

ポータル画面で、表示言語を英語に設定している場合は、送信者または宛先の英語名が表示されます。

表示言語を英語以外に設定している場合は、送信者または宛先の日本語名が表示されます。

デフォルト値：Ja

(41) メール保存用のデータベースを使用するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_useDatabase)

メール保存用のデータベースを使用するかどうかを設定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

メール保存用のデータベースを使用します。

「Off」を指定した場合

メール保存用のデータベースを使用しません。

デフォルト値：On

(42) データベースに保存できるメールのサイズの上限値の指定 (hptl_clb_cml_maxSaveMailSize)

データベースに保存できるメールのサイズの上限値を KB 単位で指定します。

値は-1~1024 の間で指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「-1」が設定されます。

「-1」を指定した場合

データベースに保存できるメールのサイズの上限値は設定されません。

「0」～「1024」のどれかを指定した場合

データベースに保存できるメールのサイズの上限値が設定されます。

指定した値よりサイズの大きいメールは、データベースに保存できません。

データベースに保存できるメールのサイズの上限値には、次に示すメールの構成要素のサイズを見積もり、見積もった値の合計を指定してください。

- 主題
- 本文
- 受信者の情報^{※1}
- 送信者の情報^{※2}
- 本来受信者の情報^{※2}
- 代表受信者の情報^{※2}

注

メールのサイズの確認時、文字はすべて 2 バイトとして扱われます。

注※1

日本語名、英語名、ニックネーム、E-mail コメント、E-mail アドレス、および宛先種別 (To, Cc, または Bcc) の合計に受信者の人数を掛けたサイズを見積もってください。

注※2

日本語名、英語名、ニックネーム、E-mail コメント、および E-mail アドレスの合計のサイズを見積もってください。

それぞれの構成要素の上限値を次に示します。

表 2-19 メール構成要素の上限値

メールの構成要素	上限値
主題	255 バイト
本文	2,147,483,647 バイト
受信者の情報	426 バイト × 256 人 [※] = 109,056 バイト
送信者の情報	416 バイト
本来受信者の情報	416 バイト
代表受信者の情報	416 バイト

注※

受信者の人数の上限値です。

メールの構成要素のサイズの見積もり例を次に示します。

表 2-20 メール構成要素のサイズの見積もり例

メールの構成要素	見積もり値
主題	255 バイト
本文	50,000 バイト
受信者の情報	426 バイト × 50 人 = 21,300 バイト
送信者の情報	416 バイト
本来受信者の情報	0 バイト
代表受信者の情報	416 バイト

表のようにメールの構成要素のサイズを見積もった場合、見積もり値の合計は 72,387 バイトのため、約 70KB となります。この場合、`hptl_clb_cml_maxSaveMailSize` には「70」と指定します。

デフォルト値：-1

(43) メールサーバから取得するメールの上限数の指定 (`hptl_clb_cml_receiveSizeMax`)

メールサーバから取得するメールの上限数を指定します。値は 0~2,147,483,647 の間で指定してください。「0」を指定した場合、メールサーバ上のすべてのメールを取得します。なお、メールサーバに保存されているメールの数がここで指定した値より多い場合は、新しいものから順に指定したメール件数まで取得されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「0」が設定されます。

デフォルト値：0

メールサーバから取得するメールの種別を次の表に示します。

表 2-21 メールサーバから取得するメールの種別

項番	画面名またはポートレット名	メールサーバから取得するメールの種別	フィルタリングされるメールの対象	ソートされるメールの対象	画面に表示されるメールの件数
1	[受信メール一覧] 画面 ([未読] チェックボックスをチェックしている場合)	未読のメール	メールサーバから取得したメール	メールサーバから取得したメール	メールサーバから取得したメールの件数
2	[受信メール一覧] 画面 ([未読] チェックボックスをチェックしていない場合)	すべてのメール	メールサーバから取得したメール	メールサーバから取得したメール	メールサーバから取得したメールの件数
3	[送信済みメール一覧] 画面	すべてのメール	メールサーバから取得したメール	メールサーバから取得したメール	メールサーバから取得したメールの件数
4	[新着情報] ポートレット	未読のメール	—	—	メールサーバから取得したメールの件数

(凡例)

— : 該当しない

(44) 宛先の判別方法の指定 (hptl_clb_cml_addrJudgeLogic)

宛先台帳に宛先を登録する際に、宛先が E-mail アドレスなのか、またはニックネームなのかということを判別する方法を指定します。「format」または「groupmax」を指定してください。

この設定は省略できません。

「format」を指定した場合

「@」を含む宛先が E-mail アドレスとして判別されます。それ以外の宛先はニックネームとして判別されます。

「groupmax」を指定した場合

「@」を含まない宛先がニックネームとして判別されます。それ以外の宛先は Groupmax サーバのデータと照らし合わせた上で判別されます。Groupmax サーバにニックネームとして登録されていた宛先はニックネーム、それ以外の宛先は E-mail アドレスとして判別されます。

デフォルト値 : format

! 注意事項

ニックネームに「@」が含まれる運用をしている場合だけ、「groupmax」を指定してください。それ以外の場合は、「format」を指定してください。

(45) メール送信時にアクセス権を設定する対象に数える配布 URL の最大値の指定 (hptl_clb_cml_maxParseCount)

メールの送信時にアクセス権を設定する個人フォルダのファイルの配布 URL の最大値を指定します。値は 0~10 の間で指定してください。

メール送信時にアクセス権を設定する場合は、「0」以外の値を指定してください。「0」を指定すると、アクセス権は設定されません。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「0」が設定されます。

デフォルト値：0

(46) ファイルが添付されているメールが送信された場合にメッセージを表示するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_attention_AttachedFile)

ファイルが添付されているメールが送信された場合に、[送信の確認] 画面にメッセージを表示させるかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

なお、[送信の確認] 画面に表示されるメッセージは、システム管理者が作成します。メッセージの作成方法の詳細は、「3.3 ファイルが添付されたメールが送信された場合にメッセージを表示させる機能の設定」を参照してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

ファイルが添付されているメールが送信された場合に、[送信の確認] 画面にメッセージが表示されます。

「Off」を指定した場合

ファイルが添付されているメールが送信されても、[送信の確認] 画面にメッセージが表示されません。

デフォルト値：Off

(47) 兼任ユーザの宛先から主体ユーザの E-mail アドレスを取得するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_getMainEmailAddress)

兼任機能を使用している場合に、兼任ユーザの宛先から主体ユーザの E-mail アドレスを取得するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

主体ユーザの E-mail アドレスを取得する設定の場合、兼任ユーザにファイル共有のファイルのアクセス権を設定すると、主体ユーザにアクセス権が設定されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

主体ユーザの E-mail アドレスを取得します。

「On」を指定した場合は、必要に応じて Groupmax Address Server の設定を変更します。Groupmax Address Server の設定方法の詳細は、「付録 H 兼任機能使用時の Groupmax Address Server の設定」を参照してください。

「Off」を指定した場合

主体ユーザの E-mail アドレスを取得しません。

デフォルト値：Off

(48) [宛先をクリップボードへコピー] メニューを表示するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_displayCopyClipboardMenu)

次の画面の [アクション▼] メニューを選択したときに、[宛先をクリップボードへコピー] メニューを表示するかどうかを指定します。

- [受信メール] (別ウィンドウ表示) 画面
- [送信済みメール] (別ウィンドウ表示) 画面
- [保存メール] (別ウィンドウ表示) 画面
- [メール作成] 画面

[On] または [Off] を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、[On] が設定されます。

[On] を指定した場合

[宛先をクリップボードへコピー] メニューを表示します。

[Off] を指定した場合

[宛先をクリップボードへコピー] メニューを表示しません。

デフォルト値：On

(49) メール作成時にファイルの添付方法を選択できるようにするかどうかの設定 (hptl_clb_cml_saveFileShare)

メール作成時にファイルの添付方法を選択できるようにするかどうかを指定します。

[On] または [Off] を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、[Off] が設定されます。

[On] を指定した場合

メール作成時にファイルの添付方法を選択できます。

[Off] を指定した場合

メール作成時にファイルの添付方法を選択できません。

デフォルト値：Off

(50) ファイル共有に登録できなかったファイルをメールに添付するかどうかの設定 (hptl_clb_cml_errorSaveFile)

配布 URL を挿入するために、ファイルをファイル共有に登録する際に、エラーが発生して登録できなかった場合に、ファイルをそのままメールに添付するかどうかを指定します。「attach」または「cancel」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「cancel」が設定されます。

「attach」を指定した場合

ファイル共有に登録できなかったファイルをそのままメールに添付します。この場合、[メール作成]画面の添付ファイル表示領域にファイル名が表示されます。

「cancel」を指定した場合

ファイル共有に登録できなかったファイルをメールに添付しません。

デフォルト値：cancel

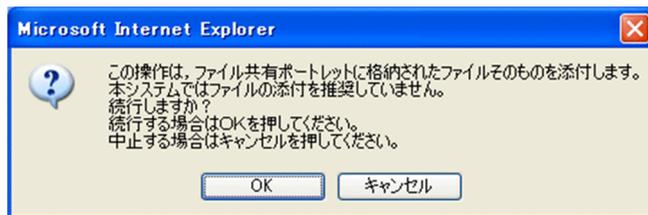
(51) ファイル共有のファイルを添付するときに警告メッセージを表示させるかどうかの設定 (hptl_clb_cml_warnAttachedFileSharing)

ファイル共有に登録されているファイルをそのままメールに添付しようとしたときに、警告メッセージを表示させるかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

ファイル共有に登録されているファイルをメールに添付しようとする、次の警告メッセージが表示されます。



「Off」を指定した場合

ファイル共有に登録されているファイルをメールに添付しようとしても、警告メッセージは表示されません。

デフォルト値：Off

(52) 署名および配布 URL のメール本文への挿入位置を変更できるようにするかどうかの設定 (hptl_clb_cml_AutomaticInsertionPoint)

メール本文に署名および配布 URL を挿入したときの、挿入位置を変更できるようにするかどうかを指定します。挿入位置を変更できるようにすると、[設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合) に挿入位置を変更するためのラジオボタンが表示されます。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

署名および配布 URL の挿入位置を変更できます。

「Off」を指定した場合

署名および配布 URL の挿入位置を変更できません。この場合、メールの本文の最後に署名および配布 URL が挿入されます。

デフォルト値：Off

(53) 一覧情報をキャッシュに保存するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_cacheTemporaryList)

受信メール、および送信済みメールの一覧情報をキャッシュに保存するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

一覧情報をキャッシュに保存すると、メールサーバに対して一覧情報の取得処理が実行されません。このため、キャッシュを保存しないときに比べて [受信メール一覧] 画面、および [送信済みメール一覧] 画面の次の動作が速くなります。ただし、メモリの所要量が増加します。

- ページの切り替え
- メールフィルタリング
- メールのソート

また、一覧情報をキャッシュに保存する場合と保存しない場合とでは、メールの一覧をソートしたときに、ソートキーの値が同じメールの並び順が異なることがあります。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

一覧情報をキャッシュに保存します。

「Off」を指定した場合

一覧情報をキャッシュに保存しません。

インストール時の値：Off

デフォルト値：On

(54) [受信メール一覧] 画面、および [送信済みメール一覧] 画面から、データベースへメールを保存できるようにするかどうかの指定 (hptl_clb_cml_saveMailListScreen)

[受信メール一覧] 画面、および [送信済みメール一覧] 画面から、データベースへメールを保存できるようにするかどうかを指定します。「Single」、「Multiple」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

「Single」を指定した場合

メールを1通ずつデータベースに保存できます。

[受信メール一覧] 画面、および [送信済みメール一覧] 画面の [アクション▼] メニューに、[保存] が表示されます。この場合、一覧画面の主題を右クリックして保存することもできます。

「Multiple」を指定した場合

1通または複数のメールを一度にデータベースに保存できます。

[受信メール一覧] 画面、および [送信済みメール一覧] 画面の [アクション▼] メニューに、[保存] が表示されます。この場合、一覧画面の主題を右クリックして保存することもできます。

また、保存時には、[メールの保存] 画面が表示されて、メールの保存の進捗よく状況を確認できます。

「Off」を指定した場合

[受信メール一覧] 画面、および [送信済みメール一覧] 画面からは、メールをデータベースに保存できません。

この場合は、プレビュー画面、または別ウィンドウ表示画面からだけ、メールをデータベースに保存できます。

なお、プレビュー画面、および別ウィンドウ表示画面とは次に示す画面のことです。

- [受信メール] (プレビュー) 画面
- [受信メール] (別ウィンドウ表示) 画面
- [送信済みメール] (プレビュー) 画面
- [送信済みメール] (別ウィンドウ表示) 画面

デフォルト値：Off

(55) [受信メール一覧] 画面、および [送信済みメール一覧] 画面から、データベースへメールを移動できるようにするかどうかの指定 (hptl_clb_cml_moveMailListScreen)

[受信メール一覧] 画面、および [送信済みメール一覧] 画面から、データベースへメールを移動できるようにするかどうかを指定します。「Single」、「Multiple」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

[Single] を指定した場合

メールを1通ずつデータベースに移動できます。

[受信メール一覧] 画面、および [送信済みメール一覧] 画面の [アクション▼] メニューに、[移動] が表示されます。この場合、一覧画面の主題を右クリックして移動することもできます。

[Multiple] を指定した場合

1通または複数のメールを一度にデータベースに移動できます。

[受信メール一覧] 画面、および [送信済みメール一覧] 画面の [アクション▼] メニューに、[移動] が表示されます。この場合、一覧画面の主題を右クリックして移動することもできます。

また、移動時には、[メールの移動] 画面が表示されて、メールの移動の進捗よく状況を確認できます。

[Off] を指定した場合

メールをデータベースに移動できません。

デフォルト値：Off

(56) 添付ファイルを表示する形式の指定 (hptl_clb_cml_attachFileDisplayStyle)

プレビュー画面、および別ウィンドウ表示画面での、添付ファイル名および添付ファイルのサイズの表示形式を指定します。

なお、プレビュー画面、および別ウィンドウ表示画面とは次に示す画面のことです。

- [受信メール] (プレビュー) 画面
- [受信メール] (別ウィンドウ表示) 画面
- [送信済みメール] (プレビュー) 画面
- [送信済みメール] (別ウィンドウ表示) 画面
- [保存メール] (プレビュー) 画面
- [保存メール] (別ウィンドウ表示) 画面

「eachLine」または「oneLine」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「oneLine」が設定されます。

「eachLine」を指定した場合

添付ファイルが複数ある場合、添付ファイル名およびサイズは1ファイルごとに改行して表示されま
す。

「oneLine」を指定した場合

添付ファイルが複数ある場合、すべての添付ファイルの添付ファイル名およびサイズが続けて表示され
ます。

デフォルト値：oneLine

(57) 外部宛先の E-mail コメントと E-mail アドレスのどちらを優先して表示するかの指定 (hptl_clb_cml_priorityExternalAddressType)

外部宛先を表示するとき、E-mail コメントと E-mail アドレスのどちらを優先して表示するかを指定しま
す。「comment」または「email」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「comment」が設定されます。

「comment」を指定した場合

E-mail コメントが優先して表示されます。

「email」を指定した場合

E-mail アドレスが優先して表示されます。

デフォルト値：comment

(58) 定期的に新着メールの有無を確認できるようにするかどうかの指定 (hptl_clb_cml_checkNewMail)

定期的に新着メールの有無を確認できるようにするかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定し
てください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

定期的に新着メールの有無を確認できるようになります。

[設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合) に [定期的に未読メールを監視する] チェックボック
スが表示されます。[定期的に未読メールを監視する] チェックボックスをチェックすると、定期的に
新着メールの有無が確認されます。

この場合、新着メールがあるときは、[未読メール通知] 画面が表示されます。

「Off」を指定した場合

新着メールの有無は確認できません。

[設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合) に [定期的に未読メールを監視する] チェックボック
スは表示されません。

デフォルト値：Off

(59) 新着メールの有無を確認する間隔の最小値の指定 (hptl_clb_cml_checkIntervalMin)

定期的に新着メールの有無を確認する場合に、確認する間隔の最小値を分単位で指定します。値は 5~30 の間で指定してください。

なお、hptl_clb_cml_checkNewMail に「Off」を指定している場合、hptl_clb_cml_checkIntervalMin に指定した値は無視されます。

hptl_clb_cml_checkNewMail の詳細は、「2.11.4(58) 定期的に新着メールの有無を確認できるようにするかどうかの指定 (hptl_clb_cml_checkNewMail)」を参照してください。

注意

ユーザが新着メールの有無を確認する間隔を指定している場合、hptl_clb_cml_checkIntervalMin の値を変更しても、そのユーザの新着メールの有無を確認する間隔は変更されません。そのため、hptl_clb_cml_checkIntervalMin の値を前に指定した値より大きくした場合、すでに新着メールの有無を確認する間隔を指定しているユーザは、変更後の hptl_clb_cml_checkIntervalMin の値より短い間隔で新着メールの有無を確認することがあります。

例えば、hptl_clb_cml_checkIntervalMin に「5」を指定しているときに、5 分間隔で新着メールの有無を確認するように指定したユーザは、hptl_clb_cml_checkIntervalMin の値を「30」に変更しても、5 分間隔で新着メールの有無を確認します。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「30」が設定されます。

デフォルト値：30

(60) 一つの宛先台帳に登録できるフォルダおよび宛先の上限の指定 (hptl_clb_cml_adbk_maxEntryNum)

一つの宛先台帳に登録できるフォルダと宛先の合計の上限を指定します。値は 100~5,000 の間で指定してください。

この設定は省略できません。

デフォルト値：1000

(61) グループ宛先台帳を使用するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_adbk_group_access_set)

グループ宛先台帳を使用するかどうかを指定します。また、グループ宛先台帳を使用する場合は、グループ宛先台帳を作成できるユーザを指定します。次に示す値のどれかを指定してください。

- none
- userlist
- orglist
- orguserlist
- all

この設定は初期状態でコメントアウトされていますので、必ずコメント記号を削除し、必要に応じて指定値を変更してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「none」が設定されます。

none を指定した場合

グループ宛先台帳を使用しません。この場合、[宛先台帳] 画面に宛先台帳登録フォルダが表示されません。

userlist を指定した場合

グループ宛先台帳を使用します。この場合、[宛先台帳] 画面に宛先台帳登録フォルダが必ず表示されます。また、`hptl_clb_cml_adbk_group_create_user_list` で指定したユーザが、グループ宛先台帳を作成できます。

`hptl_clb_cml_adbk_group_create_user_list` の詳細は、「2.11.4(62) グループ宛先台帳を作成できるユーザの指定 (`hptl_clb_cml_adbk_group_create_user_list`)」を参照してください。

orglist を指定した場合

グループ宛先台帳を使用します。この場合、[宛先台帳] 画面に宛先台帳登録フォルダが必ず表示されます。また、`hptl_clb_cml_adbk_group_create_org_list` で指定した組織に所属するユーザが、グループ宛先台帳を作成できます。

`hptl_clb_cml_adbk_group_create_org_list` の詳細は、「2.11.4(63) グループ宛先台帳を作成できる組織の指定 (`hptl_clb_cml_adbk_group_create_org_list`)」を参照してください。

orguserlist を指定した場合

グループ宛先台帳を使用します。この場合、[宛先台帳] 画面に宛先台帳登録フォルダが必ず表示されます。また、`hptl_clb_cml_adbk_group_create_user_list` で指定したユーザ、および `hptl_clb_cml_adbk_group_create_org_list` で指定した組織に所属するユーザが、グループ宛先台帳を作成できます。

`hptl_clb_cml_adbk_group_create_user_list` の詳細は、「2.11.4(62) グループ宛先台帳を作成できるユーザの指定 (`hptl_clb_cml_adbk_group_create_user_list`)」,

`hptl_clb_cml_adbk_group_create_org_list` の詳細は、「2.11.4(63) グループ宛先台帳を作成できる組織の指定 (`hptl_clb_cml_adbk_group_create_org_list`)」をそれぞれ参照してください。

all を指定した場合

グループ宛先台帳を使用します。この場合、[宛先台帳] 画面に宛先台帳登録フォルダが必ず表示されます。また、すべてのユーザが、グループ宛先台帳を作成できます。

デフォルト値：none

! 注意事項

旧バージョンから移行する場合や、途中からグループ宛先台帳を使用する運用に変更した場合は、宛先台帳で必要とする RD エリアのサイズが大きくなります。運用に合わせて RD エリアのサイズを見直してください。詳細は、「付録 D.9 Collaboration - Mail 01-20 から移行する場合の作業」の「グループ宛先台帳の機能を利用する場合の作業」を参照してください。

(62) グループ宛先台帳を作成できるユーザの指定 (`hptl_clb_cml_adbk_group_create_user_list`)

グループ宛先台帳を作成できるユーザを指定します。指定するユーザは 256 人までにするをお勧めします。

グループ宛先台帳を作成できるユーザを指定するには、まずグループ宛先台帳を作成できるユーザのユーザ ID を記載したテキスト形式のファイルを作成します。

ファイルを作成する際は、1 行にユーザ ID を一つだけ記述してください。

作成したファイルのフルパスを `hptl_clb_cml_adbk_group_create_user_list` の値に指定します。

`hptl_clb_cml_adbk_group_access_set` に「`userlist`」または「`orguserlist`」を設定した場合は、必ず指定してください。

この設定は初期状態でコメントアウトされていますので、必ずコメント記号を削除し、必要に応じて指定値を変更してください。

デフォルト値：空白行

(63) グループ宛先台帳を作成できる組織の指定 (`hptl_clb_cml_adbk_group_create_org_list`)

グループ宛先台帳を作成できる組織を指定します。指定する組織は、256 個までにすることをお勧めします。

グループ宛先台帳を作成できる組織を指定するには、まずグループ宛先台帳を作成できる組織の組織 ID を記載したテキスト形式のファイルを作成します。

組織 ID は、Collaboration - Directory Access で指定したものを使用してください。組織 ID の詳細は、マニュアル「Collaboration - Directory Access システム管理者ガイド」を参照してください。

ファイルを作成する際は、1 行に組織 ID を一つだけ記述してください。

作成したファイルのフルパスを `hptl_clb_cml_adbk_group_create_org_list` の値に指定します。

`hptl_clb_cml_adbk_group_access_set` に「`orglist`」または「`orguserlist`」を設定した場合は、必ず指定してください。

この設定は初期状態でコメントアウトされていますので、必ずコメント記号を削除し、必要に応じて指定値を変更してください。

デフォルト値：空白行

(64) グループ宛先台帳の作成時に所有者を変更できるかどうかの指定 (`hptl_clb_cml_adbk_specify_owner_create_group`)

グループ宛先台帳の作成時に、グループ宛先台帳の所有者を変更できるかどうかを指定します。「`true`」または「`false`」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「`true`」が設定されます。

この設定は初期状態でコメントアウトされていますので、必ずコメント記号を削除し、必要に応じて指定値を変更してください。

「`true`」を指定した場合

グループ宛先台帳の所有者を変更できます。

「`false`」を指定した場合

グループ宛先台帳の所有者を変更できません。この場合、グループ宛先台帳を作成したユーザが、所有者に設定されます。

デフォルト値：`true`

(65) グループ宛先台帳の設定変更時に所有者を変更できるかどうかの指定
(hptl_clb_cml_adbk_specify_owner_edit_group)

グループ宛先台帳の設定を変更する際に、グループ宛先台帳の所有者を変更できるかどうかを指定します。「true」または「false」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「false」が設定されます。

この設定は初期状態でコメントアウトされていますので、必ずコメント記号を削除し、必要に応じて指定値を変更してください。

「true」を指定した場合

グループ宛先台帳の所有者を変更できます。

「false」を指定した場合

グループ宛先台帳の所有者を変更できません。

デフォルト値：false

(66) グループ宛先台帳の所有者がグループ宛先台帳を削除できるかどうかの指定
(hptl_clb_cml_adbk_group_delete)

グループ宛先台帳の所有者が、所有しているグループ宛先台帳を削除できるかどうかを指定します。「true」または「false」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「true」が設定されます。

この設定は初期状態でコメントアウトされていますので、必ずコメント記号を削除し、必要に応じて指定値を変更してください。

「true」を指定した場合

グループ宛先台帳を削除できます。

「false」を指定した場合

グループ宛先台帳を削除できません。

デフォルト値：true

(67) 宛先台帳の宛先一覧をソートできるようにするかどうかの指定
(hptl_clb_cml_adbk_sort_address_list)

宛先台帳の宛先一覧をソートできるようにするかどうかを指定します。

宛先台帳の宛先一覧とは、次の領域に表示される宛先一覧のことです。

- [宛先台帳] 画面の宛先一覧領域
- 宛先追加画面の宛先表示領域
- 宛先台帳参照画面の宛先一覧領域

「true」または「false」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「false」が設定されます。

この設定は初期状態でコメントアウトされていますので、必ずコメント記号を削除し、必要に応じて指定値を変更してください。

[true] を指定した場合

宛先台帳の宛先一覧をソートできるようになります。

[false] を指定した場合

宛先台帳の宛先一覧をソートできません。

デフォルト値：false

(68) メールの振り分けができるようにするかどうかの指定 (hptl_clb_cml_sortOut)

メールの振り分けルールを設定して、振り分けルールに合ったメールを [ファイル共有] ポートレットのフォルダに格納できるようにするかどうかを指定します。

[On] または [Off] を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、[Off] が設定されます。

[On] を指定した場合

メールの振り分けができるようになります。

メールの振り分けルールを設定して、振り分けルールに合ったメールを [ファイル共有] ポートレットのフォルダに格納できます。

次のように画面の内容が変更されます。

- [受信メール一覧] 画面, [受信メール] (別ウィンドウ表示) 画面, [送信済みメール一覧] 画面, および [送信済みメール] (別ウィンドウ表示) 画面の [アクション▼] メニューに [振り分け] が表示されます。
- [受信メール] (プレビュー) 画面, [受信メール] (別ウィンドウ表示) 画面, [送信済みメール] (プレビュー) 画面, および [送信済みメール] (別ウィンドウ表示) 画面に  アイコンが表示されます。
- [設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合) に [受信メール一覧または送信済みメール一覧からメールを削除する] チェックボックス, および [振り分けルールの一覧] ボタンが表示されます。

[Off] を指定した場合

メールの振り分けはできません。

注意

指定値を [On] にする場合は、事前に File Sharing サーバのサービスプロセス数を見直してください。詳細については、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」を参照してください。

デフォルト値：Off

(69) ナビゲーションビューに振り分けフォルダへのショートカットを表示できるようにするかどうかの指定 (hptl_clb_cml_displaySortOutFolderShortcut)

ナビゲーションビューに振り分けフォルダへのショートカットを表示できるようにするかどうかを指定します。

[On] または [Off] を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

ナビゲーションビューに振り分けフォルダへのショートカットを表示できるようになります。

次のように画面の内容が変更されます。

- ナビゲーションビューに「振り分けフォルダ」が表示されます。
- 「振り分けルールの設定」画面に「ナビゲーションビューの振り分けフォルダにショートカットを追加する」ラジオボタンおよび「ナビゲーションビューの振り分けフォルダにショートカットを追加しない」ラジオボタンが表示されます。

「Off」を指定した場合

ナビゲーションビューに振り分けフォルダへのショートカットは表示できません。

デフォルト値：Off

2.12 [メール] ポートレットの環境設定に関するプロパティ (hptl_clb_cml_set.properties) の設定

この節では、[メール] ポートレットの環境設定に関するプロパティファイル [hptl_clb_cml_set.properties] の設定方法および各プロパティの詳細を説明します。

なお、[設定] 画面にはこのほかにもプロパティがありますが、ここで挙げているもの以外は修正しないでください。また、2.12.4~2.12.13 で説明されている設定値以外は設定しないでください。

2.12.1 [メール] ポートレットの環境設定に関するプロパティの設定方法

[メール] ポートレットの環境設定に関するプロパティでは、[設定] 画面のデフォルトの状態をプロパティファイルに設定します。

プロパティファイルを変更するには、テキストエディタなどを使用します。ただし、Windows のメモ帳を使用してプロパティファイルを編集すると、ファイルを保存したときに、ファイルの先頭に「BOM」と呼ばれる制御コードが自動的に挿入されてしまいます。このため、Windows のメモ帳で編集したプロパティファイルを使用すると、エラーになる場合があります。プロパティファイルを変更する場合は、必ず Windows のメモ帳以外のテキストエディタを使用してください。

プロパティファイルは uCosminexus Portal Framework の起動時に一度だけ参照されます。ポートレットの動作中にプロパティファイルを変更した場合は、その内容をポートレットに反映するために uCosminexus Portal Framework を再起動してください。

[メール] ポートレットの環境設定に関するプロパティファイルの設定内容を表 2-22 に示します。

表 2-22 [メール] ポートレットの環境設定に関するプロパティファイルの設定内容

項番	プロパティ名	設定内容	デフォルト値	省略の可否
1	hptl_clb_cml_setSystemSetUpWhole	[システムの設定に従う] チェックボックスがチェックされた状態にするかどうか ([設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合))	On	○
2	hptl_clb_cml_setBccAddress	[メール作成] 画面を表示させたときに、自動的に自分のアドレスを Bcc に追加するか	Off	○
3	hptl_clb_cml_setAddressCheck	メール送信時に必ず [送信の確認] 画面を表示するか	Off	○
4	hptl_clb_cml_editmailScreenAddressType	[メール作成] 画面に表示される宛先をメールアドレスと名前のどちらで表示するか	address	○
5	hptl_clb_cml_setEmailComment	宛先に E-mail コメントとして名前を設定してメールを送信するか	Off	○
6	hptl_clb_cml_setSenderEmailComment	送信者に E-mail コメントとして名前を設定してメールを送信するか	Off	○

項番	プロパティ名	設定内容	デフォルト値	省略の可否
7	hptl_clb_cml_setAutomaticInsertionPoint	メールの本文に署名および配布 URL を挿入したときの挿入位置	bottom	○
8	hptl_clb_cml_multiByteCharCount	画面に表示される文字の数え方	On	○
9	hptl_clb_cml_setShowYear	一覧画面で、日時の「年」を表示するかどうか	On	○
10	hptl_clb_cml_setShowSecond	一覧画面で、日時の「秒」を表示するかどうかの指定	On	○
11	hptl_clb_cml_setDisplayNum	一覧画面に表示されるメールの件数	100 (件)	○
12	hptl_clb_cml_printSetShowTitle	印刷画面に主題を表示するかどうか	On	○
13	hptl_clb_cml_printSetShowAddress	印刷画面に宛先一覧を表示するかどうか	On	○
14	hptl_clb_cml_printSetShowSendPerson	印刷画面に送信者を表示するかどうか	On	○
15	hptl_clb_cml_printSetShowOriginalRecipient	印刷画面に本来受信者を表示するかどうか	On	○
16	hptl_clb_cml_printSetShowDate	印刷画面に受信/送信日時を表示するかどうか	On	○
17	hptl_clb_cml_printSetShowAttribute	印刷画面にメールの属性を表示するかどうか	On	○
18	hptl_clb_cml_printSetAttachedFile	印刷画面に添付ファイルの一覧を表示するかどうか	On	○
19	hptl_clb_cml_printSetShowDeliveryDate	印刷画面に配信日時を表示するかどうか	On	○
20	hptl_clb_cml_setChangeLine	印刷画面に表示される文字列を折り返す位置	Auto	○
21	hptl_clb_cml_setChangeLineNumber	指定された半角換算文字数で折り返す場合の半角換算文字数	80 (文字)	○
22	hptl_clb_cml_setCheckNewMail	定期的に新着メールの有無を確認するかどうか	Off	○
23	hptl_clb_cml_setCheckInterval	新着メールの有無を確認する間隔	30 (分)	○
24	hptl_clb_cml_setMLFNameItem	自分の PC にメールを保存するときのファイル名に含まれる項目と項目の並び順	SDTN	○

項番	プロパティ名	設定内容	デフォルト値	省略の可否
25	hptl_clb_cml_setMLFEditSubject	自分の PC にメールを保存するときのファイル名から、「Re:」および「Fw:」を削除するかどうか	On	○
26	hptl_clb_cml_setMLFFileChar	保存しようとしたメールのファイル名に使用できない文字が含まれていた場合に置き換わる文字	_	○
27	hptl_clb_cml_setDeleteSortedOutMail	振り分けたメールを一覧画面から削除するかどうか	Off	○
28	hptl_clb_cml_setADBK_useWrap	宛先台帳の宛先一覧に表示される項目を折り返すかどうか	Off	○
29	hptl_clb_cml_setADBK_wrapName	宛先台帳の宛先一覧に表示される名前を折り返すかどうか	On	○
30	hptl_clb_cml_setADBK_wrapAddress	宛先台帳の宛先一覧に表示される宛先を折り返すかどうか	On	○
31	hptl_clb_cml_setADBK_wrapComment	宛先台帳の宛先一覧に表示されるコメントを折り返すかどうか	On	○
32	hptl_clb_cml_setADBK_nameWidth	宛先台帳の宛先一覧に表示される名前の表示文字数	255 (文字)	○
33	hptl_clb_cml_setADBK_addressWidth	宛先台帳の宛先一覧に表示される宛先の表示文字数	255 (文字)	○
34	hptl_clb_cml_setADBK_commentWidth	宛先台帳の宛先一覧に表示されるコメントの表示文字数	255 (文字)	○
35	hptl_clb_cml_setSystemSetUpWp	【システムの設定に従う】チェックボックスがチェックされた状態にするかどうか ([設定] 画面 ([ワークスペースごとの設定] タブを選択している場合))	On	○
36	hptl_clb_cml_setMax_DefaultTab	【宛先指定】画面、および【代行受信者指定】画面を開いたときに最初に表示される画面の指定	DirectoryAccess	○
37	hptl_clb_cml_setMax_showNoReadMail	【受信メール一覧】画面に未読のメールだけを表示するかどうか (ワークスペースモードの場合)	NoReadMail	○
38	hptl_clb_cml_setMax_showPreview	一覧画面を表示させたときにプレビュー表示領域を表示するかどうか (ワークスペースモードの場合)	On	○
39	hptl_clb_cml_setMax_listPreviewRate	一覧表示領域とプレビュー表示領域の割合 (ワークスペースモードの場合)	40 (パーセント)	○
40	hptl_clb_cml_setMax_filterUnread	一覧画面のフィルタリング条件に「未読フィルタ」を追加するかどうか (ワークスペースモードの場合)	On	○

項番	プロパティ名	設定内容	デフォルト値	省略の可否
41	hptl_clb_cml_setMax_filterUrgent	一覧画面のフィルタリング条件に「至急フィルタ」を追加するかどうか（ワークスペースモードの場合）	On	○
42	hptl_clb_cml_setMax_filterConfidential	一覧画面のフィルタリング条件に「親展フィルタ」を追加するかどうか（ワークスペースモードの場合）	On	○
43	hptl_clb_cml_setMax_filterRecvType	一覧画面のフィルタリング条件に「To/Cc/Bcc フィルタ」を追加するかどうか（ワークスペースモードの場合）	Off	○
44	hptl_clb_cml_setMax_filterSubject	一覧画面のフィルタリング条件に「主題フィルタ」を追加するかどうか（ワークスペースモードの場合）	On	○
45	hptl_clb_cml_setMax_filterSender	一覧画面のフィルタリング条件に「送信者/宛先フィルタ」を追加するかどうか（ワークスペースモードの場合）	On	○
46	hptl_clb_cml_setMax_filterCommunity	一覧画面のフィルタリング条件に「コミュニティフィルタ」を追加するかどうか（ワークスペースモードの場合）	On	○
47	hptl_clb_cml_setMax_showCheckBox	メールを選択するためのチェックボックスを一覧画面に表示するかどうか（ワークスペースモードの場合）	On	○
48	hptl_clb_cml_setWp_ShowAssortMent	メールの種別を【保存メール一覧】画面に表示するかどうか（ワークスペースモードの場合）	On	○
49	hptl_clb_cml_setMax_showState	メールに設定されている属性およびメールの状態を一覧画面に表示するかどうか（ワークスペースモードの場合）	On	○
50	hptl_clb_cml_setMax_showRecvType	受信種別を一覧画面に表示するかどうか（ワークスペースモードの場合）	On	○
51	hptl_clb_cml_setMax_sendPerson	送信者および宛先を一覧画面に表示するかどうか（ワークスペースモードの場合）	On	○
52	hptl_clb_cml_setMax_showDate	受信日時，送信日時，および保存日時を一覧画面に表示するかどうか（ワークスペースモードの場合）	On	○
53	hptl_clb_cml_setMax_showSize	メールのサイズを一覧画面に表示するかどうか（ワークスペースモードの場合）	On	○
54	hptl_clb_cml_setMax_showDeliveryTime	メールの配信日時を一覧画面に表示するかどうか（ワークスペースモードの場合）	Off	○
55	hptl_clb_cml_setMax_checkBoxOrder	メールを選択するチェックボックスの表示位置（ワークスペースモードの場合）	1	○

2 Collaboration - Mail の環境設定

項番	プロパティ名	設定内容	デフォルト値	省略の可否
56	hptl_clb_cml_setWpAssortMentOrder	メールの種別の表示位置（ワークプレースモードの場合）	2	○
57	hptl_clb_cml_setMax_stateOrder	メールに設定されている属性およびメールの状態の表示位置（ワークプレースモードの場合）	3	○
58	hptl_clb_cml_setMax_recvTypeOrder	受信種別の表示位置（ワークプレースモードの場合）	4	○
59	hptl_clb_cml_setMax_titleOrder	主題の表示位置（ワークプレースモードの場合）	5	○
60	hptl_clb_cml_setMax_sendPersonOrder	送信者および宛先の表示位置（ワークプレースモードの場合）	6	○
61	hptl_clb_cml_setMax_dateOrder	受信日時、送信日時、および保存日時の表示位置（ワークプレースモードの場合）	7	○
62	hptl_clb_cml_setMax_sizeOrder	メールのサイズの表示位置（ワークプレースモードの場合）	8	○
63	hptl_clb_cml_setMax_deliveryTimeOrder	メールの配信日時の表示位置（ワークプレースモードの場合）	9	○
64	hptl_clb_cml_setMax_titleWidth	主題の幅（ワークプレースモードの場合）	50（文字）	○
65	hptl_clb_cml_setMax_sendPersonWidth	送信者および宛先の幅（ワークプレースモードの場合）	12（文字）	○
66	hptl_clb_cml_setSystemSetUpLay	【システムの設定に従う】チェックボックスがチェックされた状態にするかどうか（【設定】画面（【レイアウトごとの設定】タブを選択している場合）	On	○
67	hptl_clb_cml_setDig_showNoReadMail	【受信メール一覧】画面に未読のメールだけを表示するかどうか（レイアウトモードの場合）	NoReadMail	○
68	hptl_clb_cml_setDig_showPreview	一覧画面を表示させたときにプレビュー表示領域を表示するかどうか（レイアウトモードの場合）	Off	○
69	hptl_clb_cml_setDig_listPreviewRate	一覧表示領域とプレビュー表示領域の割合（レイアウトモードの場合）	40（パーセント）	○
70	hptl_clb_cml_setDig_filterUnread	一覧画面のフィルタリング条件に「未読フィルタ」を追加するかどうか（レイアウトモードの場合）	On	○
71	hptl_clb_cml_setDig_filterUrgent	一覧画面のフィルタリング条件に「至急フィルタ」を追加するかどうか（レイアウトモードの場合）	On	○

項番	プロパティ名	設定内容	デフォルト値	省略の可否
72	hptl_clb_cml_setDig_filterConfidential	一覧画面のフィルタリング条件に「親展フィルタ」を追加するかどうか（レイアウトモードの場合）	On	○
73	hptl_clb_cml_setDig_filterRecvType	一覧画面のフィルタリング条件に「To/Cc/Bcc フィルタ」を追加するかどうか（レイアウトモードの場合）	Off	○
74	hptl_clb_cml_setDig_filterSubject	一覧画面のフィルタリング条件に「主題フィルタ」を追加するかどうか（レイアウトモードの場合）	Off	○
75	hptl_clb_cml_setDig_filterSender	一覧画面のフィルタリング条件に「送信者/宛先フィルタ」を追加するかどうか（レイアウトモードの場合）	Off	○
76	hptl_clb_cml_setDig_filterCommunity	一覧画面のフィルタリング条件に「コミュニティフィルタ」を追加するかどうか（レイアウトモードの場合）	Off	○
77	hptl_clb_cml_setDig_showCheckBox	メールを選択するためのチェックボックスを一覧画面に表示するかどうか（レイアウトモードの場合）	On	○
78	hptl_clb_cml_setLayShowAssortMent	メールの種別を「保存メール一覧」画面に表示するかどうか（レイアウトモードの場合）	On	○
79	hptl_clb_cml_setDig_showState	メールに設定されている属性およびメールの状態を一覧画面に表示するかどうか（レイアウトモードの場合）	On	○
80	hptl_clb_cml_setDig_showRecvType	受信種別を一覧画面に表示するかどうか（レイアウトモードの場合）	On	○
81	hptl_clb_cml_setDig_sendPerson	送信者および宛先を一覧画面に表示するかどうか（レイアウトモードの場合）	On	○
82	hptl_clb_cml_setDig_showDate	受信日時，送信日時，および保存日時を一覧画面に表示するかどうか（レイアウトモードの場合）	On	○
83	hptl_clb_cml_setDig_showSize	メールサイズを一覧画面に表示するかどうか（レイアウトモードの場合）	Off	○
84	hptl_clb_cml_setDig_showDeliveryTime	メールの配信日時を一覧画面に表示するかどうか（レイアウトモードの場合）	Off	○
85	hptl_clb_cml_setDig_checkBoxOrder	メールを選択するためのチェックボックスの表示位置（レイアウトモードの場合）	1	○
86	hptl_clb_cml_setLayAssortMentOrder	メールの種別の表示位置（レイアウトモードの場合）	2	○

項番	プロパティ名	設定内容	デフォルト値	省略の可否
87	hptl_clb_cml_setDig_stateOrder	メールに設定されている属性およびメールの状態の表示位置（レイアウトモードの場合）	3	○
88	hptl_clb_cml_setDig_recvTypeOrder	受信種別の表示位置（レイアウトモードの場合）	4	○
89	hptl_clb_cml_setDig_titleOrder	主題の表示位置（レイアウトモードの場合）	5	○
90	hptl_clb_cml_setDig_sendPersonOrder	送信者および宛先の表示位置（レイアウトモードの場合）	6	○
91	hptl_clb_cml_setDig_dateOrder	受信日時，送信日時，および保存日時の表示位置（レイアウトモードの場合）	7	○
92	hptl_clb_cml_setDig_sizeOrder	メールサイズの表示位置（レイアウトモードの場合）	8	○
93	hptl_clb_cml_setDig_deliveryTimeOrder	メールの配信日時の表示位置（レイアウトモードの場合）	9	○
94	hptl_clb_cml_setDig_titleWidth	主題の幅（レイアウトモードの場合）	28（文字）	○
95	hptl_clb_cml_setDig_sendPersonWidth	送信者および宛先の幅（レイアウトモードの場合）	12（文字）	○

（凡例）

○：省略できる

2.12.2 プロパティファイルの記述形式と格納先（[メール] ポートレットの環境設定）

プロパティファイルの記述形式および格納先について説明します。

プロパティファイルは、Java 2 Platform, Standard Edition のプロパティファイル形式です。

(1) 記述形式

プロパティファイルの記述形式を次に示します。

プロパティ名 = 値

- 改行までが値になります。
- プロパティ名と値は「=（半角のイコール）」でつながります。
- 行頭が「#（シャープ）」および「!（感嘆符）」の行はコメントと見なされます。
- 値の後ろには、空白やコメントなどの文字列は追加できません。追加した場合、不正な値と解釈されます。

[不正なコメントの例]

プロパティ名 = 値 #コメント

[正しいコメントの例]

プロパティ名 = 値
#コメント

- スペースだけの行は無視されます。
- 行頭および行末にスペースは入力できません。
- 値が存在しない行（「プロパティ名 = 」だけの行）を定義した場合、その行は無視されます。
- ファイルの中に日本語名が含まれる場合は、Java ツールの `native2ascii` を使ってエンコードする必要があります。Java ツールの詳細は、Java のドキュメントを参照してください。
- 出力先のディレクトリを指定する場合、区切り文字（記号）には、「`¥¥`」または「`/`」を使用してください。

例：`hptl_clb_cml_logPath=C:¥¥tmp¥¥trace`

- 指定した値の大文字と小文字を区別します。

(2) 格納先

プロパティファイルの格納先を次に示します。

[メール] ポートレットの環境設定に関するプロパティファイル (`hptl_clb_cml_set.properties`)
Collaboration Portal インストールディレクトリ¥`clb_home¥conf`

2.12.3 プロパティファイルの記述例（[メール] ポートレットの環境設定）

[メール] ポートレットの環境設定に関するプロパティファイルの記述例を次に示します。記述例で使用している値は、最初に各プロパティに設定されている値です。

```
hptl_clb_cml_setSystemSetUpWhole = On
hptl_clb_cml_setBccAddress = Off
hptl_clb_cml_setAddressCheck = Off
hptl_clb_cml_editmailScreenAddressType = address
hptl_clb_cml_setEmailComment = Off
hptl_clb_cml_setSenderEmailComment = Off
hptl_clb_cml_setAutomaticInsertionPoint = bottom
hptl_clb_cml_multiByteCharCount = On
hptl_clb_cml_setShowYear = On
hptl_clb_cml_setShowSecond = On
hptl_clb_cml_setDisplayNum = 100
hptl_clb_cml_printSetShowTitle = On
hptl_clb_cml_printSetShowAddress = On
hptl_clb_cml_printSetShowSendPerson = On
hptl_clb_cml_printSetShowOriginalRecipient = On
hptl_clb_cml_printSetShowDate = On
hptl_clb_cml_printSetShowAttribute = On
hptl_clb_cml_printSetAttachedFile = On
hptl_clb_cml_printSetShowDeliveryDate = On
hptl_clb_cml_setChangeLine = Auto
hptl_clb_cml_setChangeLineNumber = 80
hptl_clb_cml_setCheckNewMail = Off
hptl_clb_cml_setCheckInterval = 30
hptl_clb_cml_setMLFNameItem = SDTN
hptl_clb_cml_setMLFEditSubject = On
hptl_clb_cml_setMLFFileChar = _
hptl_clb_cml_setDeleteSortedOutMail = Off
hptl_clb_cml_setADBK_useWrap = Off
hptl_clb_cml_setADBK_wrapName = On
hptl_clb_cml_setADBK_wrapAddress = On
hptl_clb_cml_setADBK_wrapComment = On
hptl_clb_cml_setADBK_nameWidth = 255
hptl_clb_cml_setADBK_addressWidth = 255
hptl_clb_cml_setADBK_commentWidth = 255
```

```

hptl_clb_cml_setSystemSetUpWp = On
hptl_clb_cml_setMax_DefaultTab = DirectoryAccess
hptl_clb_cml_setMax_showNoReadMail = NoReadMail
hptl_clb_cml_setMax_showPreview = On
hptl_clb_cml_setMax_listPreviewRate = 40
hptl_clb_cml_setMax_filterUnread = On
hptl_clb_cml_setMax_filterUrgent = On
hptl_clb_cml_setMax_filterConfidential = On
hptl_clb_cml_setMax_filterRecvType = Off
hptl_clb_cml_setMax_filterSubject = On
hptl_clb_cml_setMax_filterSender = On
hptl_clb_cml_setMax_filterCommunity = On
hptl_clb_cml_setMax_showCheckBox = On
hptl_clb_cml_setWpShowAssortMent = On
hptl_clb_cml_setMax_showState = On
hptl_clb_cml_setMax_showRecvType = On
hptl_clb_cml_setMax_sendPerson = On
hptl_clb_cml_setMax_showDate = On
hptl_clb_cml_setMax_showSize = On
hptl_clb_cml_setMax_showDeliveryTime = Off
hptl_clb_cml_setMax_checkBoxOrder = 1
hptl_clb_cml_setWpAssortMentOrder = 2
hptl_clb_cml_setMax_stateOrder = 3
hptl_clb_cml_setMax_recvTypeOrder = 4
hptl_clb_cml_setMax_titleOrder = 5
hptl_clb_cml_setMax_sendPersonOrder = 6
hptl_clb_cml_setMax_dateOrder = 7
hptl_clb_cml_setMax_sizeOrder = 8
hptl_clb_cml_setMax_deliveryTimeOrder = 9
hptl_clb_cml_setMax_titleWidth = 50
hptl_clb_cml_setMax_sendPersonWidth = 12

```

```

hptl_clb_cml_setSystemSetUpLay = On
hptl_clb_cml_setDig_showNoReadMail = NoReadMail
hptl_clb_cml_setDig_showPreview = Off
hptl_clb_cml_setDig_listPreviewRate = 40
hptl_clb_cml_setDig_filterUnread = On
hptl_clb_cml_setDig_filterUrgent = On
hptl_clb_cml_setDig_filterConfidential = On
hptl_clb_cml_setDig_filterRecvType = Off
hptl_clb_cml_setDig_filterSubject = Off
hptl_clb_cml_setDig_filterSender = Off
hptl_clb_cml_setDig_filterCommunity = Off
hptl_clb_cml_setDig_showCheckBox = On
hptl_clb_cml_setLayShowAssortMent = On
hptl_clb_cml_setDig_showState = On
hptl_clb_cml_setDig_showRecvType = On
hptl_clb_cml_setDig_sendPerson = On
hptl_clb_cml_setDig_showDate = On
hptl_clb_cml_setDig_showSize = Off
hptl_clb_cml_setDig_showDeliveryTime = Off
hptl_clb_cml_setDig_checkBoxOrder = 1
hptl_clb_cml_setLayAssortMentOrder = 2
hptl_clb_cml_setDig_stateOrder = 3
hptl_clb_cml_setDig_recvTypeOrder = 4
hptl_clb_cml_setDig_titleOrder = 5
hptl_clb_cml_setDig_sendPersonOrder = 6
hptl_clb_cml_setDig_dateOrder = 7
hptl_clb_cml_setDig_sizeOrder = 8
hptl_clb_cml_setDig_deliveryTimeOrder = 9
hptl_clb_cml_setDig_titleWidth = 28
hptl_clb_cml_setDig_sendPersonWidth = 12

```

2.12.4 プロパティファイルの詳細（[設定] 画面の状態に関する設定）

[メール] ポートレットの [設定] 画面の状態に関するプロパティについて説明します。

設定した内容は、[設定] 画面（[全般] タブを選択している場合）、[設定] 画面（[ワークスペースごとの設定] タブを選択している場合）、および [設定] 画面（[レイアウトごとの設定] タブを選択している場合）の [システムの設定に従う] チェックボックスに反映されます。

(1) [システムの設定に従う] チェックボックスがチェックされた状態にするかどうかの指定

[設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合), [設定] 画面 ([ワークスペースごとの設定] タブを選択している場合), および [設定] 画面 ([レイアウトごとの設定] タブを選択している場合) の [システムの設定に従う] チェックボックスがチェックされた状態にするかどうかを指定します。

どの [設定] 画面の [システムの設定に従う] チェックボックスの状態を設定するかによって, 指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- [設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合) : `hptl_clb_cml_setSystemSetUpWhole`
- [設定] 画面 ([ワークスペースごとの設定] タブを選択している場合) :
`hptl_clb_cml_setSystemSetUpWp`
- [設定] 画面 ([レイアウトごとの設定] タブを選択している場合) : `hptl_clb_cml_setSystemSetUpLay`

[On] または [Off] を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合, または不正な値を指定した場合は, [On] が設定されます。

[On] を指定した場合

[システムの設定に従う] チェックボックスがチェックされた状態になります。

ユーザは, [システムの設定に従う] チェックボックスのチェックを外さないと, [設定] 画面の [メールの自動転送/自動返信に関する設定], および [その他の設定] 以外の項目を変更できなくなります。

[Off] を指定した場合

[システムの設定に従う] チェックボックスがチェックされていない状態になります。

ユーザは, [設定] 画面のすべての項目を変更できます。

デフォルト値 : On

2.12.5 プロパティファイルの詳細 (画面の表示に関する設定)

[メール] ポートレットの画面の表示に関するプロパティについて説明します。

設定した内容は, [設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合) の [表示に関する設定] の [半角を 1 文字, 全角を 2 文字として数える] チェックボックスに反映されます。

(1) 画面に表示される文字の数の指定 (`hptl_clb_cml_multiByteCharCount`)

[メール] ポートレットの画面に表示される文字を, 半角を 1 文字, 全角を 2 文字として数えるかどうかを指定します。

なお, 次のプロパティで指定する文字数の数え方は `hptl_clb_cml_multiByteCharCount` の設定内容に従います。

- `hptl_clb_cml_setMax_titleWidth` (ワークスペースモードの場合に, 一覧画面に表示される主題の文字数の指定)
- `hptl_clb_cml_setDig_titleWidth` (レイアウトモードの場合に, 一覧画面に表示される主題の文字数の指定)

- hptl_clb_cml_setMax_sendPersonWidth (ワークスペースモードの場合に、一覧画面に表示される送信者および宛先の文字数の指定)
- hptl_clb_cml_setDig_sendPersonWidth (レイアウトモードの場合に、一覧画面に表示される送信者および宛先の文字数の指定)
- hptl_clb_cml_setADBK_nameWidth (宛先台帳の宛先一覧に表示される名前の表示文字数の指定)
- hptl_clb_cml_setADBK_addressWidth (宛先台帳の宛先一覧に表示される宛先の表示文字数の指定)
- hptl_clb_cml_setADBK_commentWidth (宛先台帳の宛先一覧に表示されるコメントの表示文字数の指定)
- hptl_clb_cml_setChangeLineNumber (印刷画面に表示される文字列を指定された半角換算文字数で折り返す場合の、半角換算文字数の指定)

「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

[半角を 1 文字、全角を 2 文字として数える] チェックボックスがチェックされた状態になります。

この場合、半角を 1 文字、全角を 2 文字として数えます。例えば、「Collaboration 会議」

(Collaboration: 半角文字、会議: 全角文字) という文字列の文字数は、「Collaboration」は 13 文字、「会議」は 4 文字になるので、17 文字になります。

「Off」を指定した場合

[半角を 1 文字、全角を 2 文字として数える] チェックボックスがチェックされていない状態になります。

この場合、半角、全角共に 1 文字として数えます。例えば、「Collaboration 会議」という文字列の文字数は、「Collaboration」は 13 文字、「会議」は 2 文字になるので、15 文字になります。

デフォルト値: On

2.12.6 プロパティファイルの詳細 (一覧画面に関する設定)

[メール] ポートレットの一覧画面に関するプロパティについて説明します。

設定した内容は、[設定] 画面 ([ワークスペースごとの設定] タブを選択している場合)、および [設定] 画面 ([レイアウトごとの設定] タブを選択している場合) の [一覧表示に関する設定] の各項目に反映されます。

(1) 【受信メール一覧】画面に未読のメールだけを表示するかどうかの指定

[受信メール一覧] 画面に未読のメールだけを表示するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合: hptl_clb_cml_setMax_showNoReadMail
- レイアウトモードの場合: hptl_clb_cml_setDig_showNoReadMail

「NoReadMail」または「All」を指定してください。指定内容は [フィルタ条件の初期値] の設定内容に反映されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「NoReadMail」が設定されます。

「NoReadMail」を指定した場合

[未読メールだけ表示] ラジオボタンが選択された状態になります。[受信メール一覧] 画面には、未読のメールだけが表示されます。

「All」を指定した場合

[すべてのメールを表示] ラジオボタンが選択された状態になります。[受信メール一覧] 画面には、すべてのメールが表示されます。

デフォルト値：NoReadMail

(2) 一覧画面を表示させたときに、プレビュー表示領域を表示するかどうかの指定

一覧画面を表示させたときに、プレビュー表示領域を表示するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_showPreview
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_showPreview

「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、ワークスペースモードのときは「On」が、レイアウトモードのときは「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

[プレビュー領域を表示する] チェックボックスがチェックされた状態になります。一覧画面を表示させたときに、プレビュー表示領域が表示されます。

「Off」を指定した場合

[プレビュー領域を表示する] チェックボックスがチェックされていない状態になります。一覧画面を表示させたときに、プレビュー表示領域は表示されません。

デフォルト値：

- ワークスペースモードの場合：On
- レイアウトモードの場合：Off

(3) 一覧表示領域とプレビュー表示領域の割合の指定

一覧表示領域とプレビュー表示領域の割合をパーセント単位で指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_listPreviewRate
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_listPreviewRate

一覧表示領域の割合の値を 10~90 の間で 10 刻みで指定してください。指定した値は、[一覧表示に関する設定] の [一覧の割合] テキストボックスに反映されます。また、[プレビューの割合] テキストボック

スには、「100 - 指定値」の数値が自動的に入力されます。一覧画面での一覧表示領域とプレビュー表示領域の割合が、指定した割合になります。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「40」が設定されます。

デフォルト値：40

2.12.7 プロパティファイルの詳細（一覧画面に表示するフィルタリング条件の設定）

[メール] ポートレットの一覧画面に表示するフィルタリング条件を指定するプロパティについて説明します。

設定した内容は、[設定] 画面（[ワークスペースごとの設定] タブを選択している場合）、および [設定] 画面（[レイアウトごとの設定] タブを選択している場合）の [一覧に表示する項目の設定] の [表示するフィルタ] に反映されます。

(1) フィルタリング条件に「未読フィルタ」を追加するかどうかの指定

フィルタリング条件に「未読フィルタ」を追加するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_filterUnread
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_filterUnread

[On] または [Off] を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

[On] を指定した場合

[未読フィルタ] チェックボックスがチェックされた状態になります。[受信メール一覧] 画面のフィルタリング条件に、「未読フィルタ」が追加されます。

[Off] を指定した場合

[未読フィルタ] チェックボックスがチェックされていない状態になります。[受信メール一覧] 画面のフィルタリング条件に、「未読フィルタ」は追加されません。

デフォルト値：On

(2) フィルタリング条件に「至急フィルタ」を追加するかどうかの指定

フィルタリング条件に「至急フィルタ」を追加するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_filterUrgent
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_filterUrgent

「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

〔至急フィルタ〕チェックボックスがチェックされた状態になります。一覧画面のフィルタリング条件に、「至急フィルタ」が追加されます。ただし、「下書きメール一覧」画面には、フィルタリング条件は表示されません。

「Off」を指定した場合

〔至急フィルタ〕チェックボックスがチェックされていない状態になります。一覧画面のフィルタリング条件に、「至急フィルタ」は追加されません。

デフォルト値：On

(3) フィルタリング条件に「親展フィルタ」を追加するかどうかの指定

フィルタリング条件に「親展フィルタ」を追加するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_filterConfidential
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_filterConfidential

「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

〔親展フィルタ〕チェックボックスがチェックされた状態になります。一覧画面のフィルタリング条件に、「親展フィルタ」が追加されます。ただし、「下書きメール一覧」画面には、フィルタリング条件は表示されません。

「Off」を指定した場合

〔親展フィルタ〕チェックボックスがチェックされていない状態になります。一覧画面のフィルタリング条件に、「親展フィルタ」は追加されません。

デフォルト値：On

(4) フィルタリング条件に「To/Cc/Bcc フィルタ」を追加するかどうかの指定

フィルタリング条件に「To/Cc/Bcc フィルタ」を追加するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_filterRecvType
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_filterRecvType

「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

「To/Cc/Bcc フィルタ」チェックボックスがチェックされた状態になります。[受信メール一覧] 画面、[保存メール一覧] 画面、および [検索結果一覧] 画面のフィルタリング条件に、「To/Cc/Bcc フィルタ」が追加されます。

「Off」を指定した場合

「To/Cc/Bcc フィルタ」チェックボックスがチェックされていない状態になります。[受信メール一覧] 画面、[保存メール一覧] 画面、および [検索結果一覧] 画面のフィルタリング条件に、「To/Cc/Bcc フィルタ」は追加されません。

デフォルト値：Off

(5) フィルタリング条件に「主題フィルタ」を追加するかどうかの指定

フィルタリング条件に「主題フィルタ」を追加するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_filterSubject
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_filterSubject

「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、ワークスペースモードのときは「On」が、レイアウトモードのときは「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

「主題フィルタ」チェックボックスがチェックされた状態になります。一覧画面のフィルタリング条件に、「主題フィルタ」が追加されます。ただし、[下書きメール一覧] 画面には、フィルタリング条件は表示されません。

「Off」を指定した場合

「主題フィルタ」チェックボックスがチェックされていない状態になります。一覧画面のフィルタリング条件に、「主題フィルタ」は追加されません。

デフォルト値：

- ワークスペースモードの場合：On
- レイアウトモードの場合：Off

(6) フィルタリング条件に「送信者/宛先フィルタ」を追加するかどうかの指定

フィルタリング条件に「送信者/宛先フィルタ」を追加するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_filterSender
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_filterSender

「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、ワークスペースモードのときは「On」が、レイアウトモードのときは「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

[送信者/宛先フィルタ] チェックボックスがチェックされた状態になります。一覧画面のフィルタリング条件に、「送信者/宛先フィルタ」が追加されます。ただし、[下書きメール一覧] 画面には、フィルタリング条件は表示されません。

「Off」を指定した場合

[送信者/宛先フィルタ] チェックボックスがチェックされていない状態になります。一覧画面のフィルタリング条件に、「送信者/宛先フィルタ」は追加されません。

デフォルト値：

- ワークスペースモードの場合：On
- レイアウトモードの場合：Off

(7) フィルタリング条件に「コミュニティフィルタ」を追加するかどうかの指定

フィルタリング条件に「コミュニティフィルタ」を追加するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_filterCommunity
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_filterCommunity

「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、ワークスペースモードのときは「On」が、レイアウトモードのときは「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

[コミュニティフィルタ] チェックボックスがチェックされた状態になります。一覧画面のフィルタリング条件に、「コミュニティフィルタ」が追加されます。ただし、[下書きメール一覧] 画面には、フィルタリング条件は表示されません。

「Off」を指定した場合

[コミュニティフィルタ] チェックボックスがチェックされていない状態になります。一覧画面のフィルタリング条件に、「コミュニティフィルタ」は追加されません。

デフォルト値：

- ワークスペースモードの場合：On
- レイアウトモードの場合：Off

2.12.8 プロパティファイルの詳細（一覧画面に表示する項目の設定）

[メール] ポートレットの一覧画面に表示する項目を指定するプロパティについて説明します。

(1)~(19)に示すプロパティで設定した内容は、[設定] 画面（[ワークスペースごとの設定] タブを選択している場合）、および [設定] 画面（[レイアウトごとの設定] タブを選択している場合）の [一覧に表示する項目の設定] の [一覧の項目表示/順序] または [一覧の項目幅] の各項目に反映されます。

(20)~(22)に示すプロパティで設定した内容は、[設定] 画面（[全般] タブを選択している場合）の [一覧表示に関する設定] の各項目に反映されます。

(1) メールを選択するためのチェックボックスを一覧画面に表示するかどうかの指定

メールを選択するためのチェックボックスを一覧画面に表示するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_showCheckBox
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_showCheckBox

[On] または [Off] を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、[On] が設定されます。

[On] を指定した場合

[一覧の項目表示/順序] の [現在の設定] に [チェックボックス] が表示されます。一覧画面には、チェックボックスが表示されます。

[Off] を指定した場合

[一覧の項目表示/順序] の [表示できる項目] に [チェックボックス] が表示されます。一覧画面にチェックボックスは表示されません。

デフォルト値：On

(2) メールを選択するチェックボックスの表示位置の指定

メールを選択するためのチェックボックスの表示位置を指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_checkBoxOrder
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_checkBoxOrder

一覧画面での表示位置として 1~9 の範囲の値を指定してください。

注意

次に示すプロパティのうち、同じ表示形式（ワークスペースモードまたはレイアウトモード）に対応するプロパティには同じ値を指定しないでください。

例えば、「hptl_clb_cml_setMax_checkBoxOrder」と「hptl_clb_cml_setWpAssortMentOrder」に同じ値を指定しないでください。

ワークスペースモードに対応するプロパティ

- hptl_clb_cml_setMax_checkBoxOrder

- hptl_clb_cml_setWpAssortMentOrder
- hptl_clb_cml_setMax_stateOrder
- hptl_clb_cml_setMax_recvTypeOrder
- hptl_clb_cml_setMax_titleOrder
- hptl_clb_cml_setMax_sendPersonOrder
- hptl_clb_cml_setMax_dateOrder
- hptl_clb_cml_setMax_sizeOrder
- hptl_clb_cml_setMax_deliveryTimeOrder

レイアウトモードに対応するプロパティ

- hptl_clb_cml_setDig_checkBoxOrder
- hptl_clb_cml_setLayAssortMentOrder
- hptl_clb_cml_setDig_stateOrder
- hptl_clb_cml_setDig_recvTypeOrder
- hptl_clb_cml_setDig_titleOrder
- hptl_clb_cml_setDig_sendPersonOrder
- hptl_clb_cml_setDig_dateOrder
- hptl_clb_cml_setDig_sizeOrder
- hptl_clb_cml_setDig_deliveryTimeOrder

指定した値は、[一覧の項目表示/順序] の [現在の設定] での表示順に反映されます。

一覧画面では、指定した値の小さい方から順に左から表示されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「1」が設定されます。

デフォルト値：1

(3) メールの種別を [保存メール一覧] 画面に表示するかどうかの指定

メールの種別（受信・送信）を [保存メール一覧] 画面に表示するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setWpShowAssortMent
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setLayShowAssortMent

[On] または [Off] を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

[On] を指定した場合

[一覧の項目表示/順序] の [現在の設定] に「種別」が表示されます。[保存メール一覧] 画面には、メールの種別が表示されます。

「Off」を指定した場合

「一覧の項目表示/順序」の「表示できる項目」に「種別」が表示されます。「保存メール一覧」画面にメールの種別は表示されません。

デフォルト値：On

(4) メールの種別の表示位置の指定

メールの種別の表示位置を指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setWpAssortMentOrder
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setLayAssortMentOrder

一覧画面での表示位置として 1~9 の範囲の値を指定してください。

指定する値に関する注意の詳細は、「2.12.8(2) メールを選択するチェックボックスの表示位置の指定」を参照してください。

指定した値は、「一覧の項目表示/順序」の「現在の設定」での表示順に反映されます。

一覧画面では、指定した値の小さい方から順に左から表示されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「2」が設定されます。

デフォルト値：2

(5) メールに設定されている属性およびメールの状態を一覧画面に表示するかどうかの指定

メールに設定されている属性（至急・返信要求あり・親展）およびメールの状態（既読・未読）を一覧画面に表示するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_showState
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_showState

「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

「一覧の項目表示/順序」の「現在の設定」に「状態」が表示されます。一覧画面には、メールに設定されている属性およびメールの状態を表すアイコンが表示されます。

「Off」を指定した場合

「一覧の項目表示/順序」の「表示できる項目」に「状態」が表示されます。一覧画面に、メールに設定されている属性およびメールの状態を表すアイコンは表示されません。

デフォルト値：On

(6) メールに設定されている属性およびメールの状態の表示位置の指定

メールに設定されている属性およびメールの状態の表示位置を指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_stateOrder
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_stateOrder

一覧画面での表示位置として 1~9 の範囲の値を指定してください。

指定する値に関する注意の詳細は、「2.12.8(2) メールを選択するチェックボックスの表示位置の指定」を参照してください。

指定した値は、[一覧の項目表示/順序] の [現在の設定] での表示順に反映されます。

一覧画面では、指定した値の小さい方から順に左から表示されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「3」が設定されます。

デフォルト値：3

(7) 受信種別を一覧画面に表示するかどうかの指定

メールの受信種別 (To・Cc・Bcc) を [受信メール一覧] 画面、[保存メール一覧] 画面、および [検索結果一覧] 画面に表示するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_showRecvType
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_showRecvType

[On] または [Off] を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

[On] を指定した場合

[一覧の項目表示/順序] の [現在の設定] に [To/Cc] が表示されます。[受信メール一覧] 画面、[保存メール一覧] 画面、および [検索結果一覧] 画面には、メールの受信種別が表示されます。

[Off] を指定した場合

[一覧の項目表示/順序] の [表示できる項目] に [To/Cc] が表示されます。

[受信メール一覧] 画面、[保存メール一覧] 画面、および [検索結果一覧] 画面に、メールの受信種別は表示されません。

デフォルト値：On

(8) 受信種別の表示位置の指定

メールの受信種別の表示位置を指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_recvTypeOrder
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_recvTypeOrder

一覧画面での表示位置として 1~9 の範囲の値を指定してください。

指定する値に関する注意の詳細は、「2.12.8(2) メールを選択するチェックボックスの表示位置の指定」を参照してください。

指定した値は、[一覧の項目表示/順序] の [現在の設定] での表示順に反映されます。

一覧画面では、指定した値の小さい方から順に左から表示されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「4」が設定されます。

デフォルト値：4

(9) 主題の表示位置の指定

メールの主題の表示位置を指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_titleOrder
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_titleOrder

一覧画面での表示位置として 1~9 の範囲の値を指定してください。

指定する値に関する注意の詳細は、「2.12.8(2) メールを選択するチェックボックスの表示位置の指定」を参照してください。

指定した値は、[一覧の項目表示/順序] の [現在の設定] での表示順に反映されます。

一覧画面では、指定した値の小さい方から順に左から表示されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「5」が設定されます。

デフォルト値：5

(10) 送信者および宛先を一覧画面に表示するかどうかの指定

メールの送信者および宛先を一覧画面に表示するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_sendPerson
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_sendPerson

「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

【一覧の項目表示/順序】の【現在の設定】に「送信者/宛先」が表示されます。一覧画面には、メールの送信者および宛先が表示されます。

「Off」を指定した場合

【一覧の項目表示/順序】の【表示できる項目】に「送信者/宛先」が表示されます。一覧画面にメールの送信者および宛先は表示されません。

デフォルト値：On

(11) 送信者および宛先の表示位置の指定

メールの送信者および宛先の表示位置を指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_sendPersonOrder
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_sendPersonOrder

一覧画面での表示位置として 1～9 の範囲の値を指定してください。

指定する値に関する注意の詳細は、「2.12.8(2) メールを選択するチェックボックスの表示位置の指定」を参照してください。

指定した値は、【一覧の項目表示/順序】の【現在の設定】での表示順に反映されます。

一覧画面では、指定した値の小さい方から順に左から表示されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「6」が設定されます。

デフォルト値：6

(12) 受信日時、送信日時、および保存日時を一覧画面に表示するかどうかの指定

メールの受信日時、送信日時、および保存日時を一覧画面に表示するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_showDate
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_showDate

「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

【一覧の項目表示/順序】の【現在の設定】に「日時」が表示されます。一覧画面には、メールの受信日時、送信日時、および保存日時が表示されます。

「Off」を指定した場合

【一覧の項目表示/順序】の【表示できる項目】に「日時」が表示されます。一覧画面に、メールの受信日時、送信日時、および保存日時は表示されません。

デフォルト値：On

(13) 受信日時、送信日時、および保存日時の表示位置の指定

メールの受信日時、送信日時、および保存日時の表示位置を指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_dateOrder
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_dateOrder

一覧画面での表示位置として 1~9 の範囲の値を指定してください。

指定する値に関する注意の詳細は、「2.12.8(2) メールを選択するチェックボックスの表示位置の指定」を参照してください。

指定した値は、【一覧の項目表示/順序】の【現在の設定】での表示順に反映されます。

一覧画面では、指定した値の小さい方から順に左から表示されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「7」が設定されます。

デフォルト値：7

(14) メールのサイズを一覧画面に表示するかどうかの指定

メールのサイズを一覧画面に表示するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_showSize
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_showSize

「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、ワークスペースモードのときは「On」が、レイアウトモードのときは「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

【一覧の項目表示/順序】の【現在の設定】に「サイズ」が表示されます。一覧画面には、メールのサイズが表示されます。

「Off」を指定した場合

【一覧の項目表示/順序】の【表示できる項目】に「サイズ」が表示されます。一覧画面にメールのサイズは表示されません。

デフォルト値：

- ワークスペースモードの場合：On
- レイアウトモードの場合：Off

(15) メールサイズの表示位置の指定

メールのサイズの表示位置を指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_sizeOrder
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_sizeOrder

一覧画面での表示位置として 1～9 の範囲の値を指定してください。

指定する値に関する注意の詳細は、「2.12.8(2) メールを選択するチェックボックスの表示位置の指定」を参照してください。

指定した値は、【一覧の項目表示/順序】の【現在の設定】での表示順に反映されます。

一覧画面では、指定した値の小さい方から順に左から表示されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「8」が設定されます。

デフォルト値：8

(16) メール配信日時を一覧画面に表示するかどうかの指定

メールの配信日時を【送信済みメール一覧】画面に表示するかどうかを指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_showDeliveryTime
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_showDeliveryTime

「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

「一覧の項目表示/順序」の「現在の設定」に「配信日時」が表示されます。「送信済みメール一覧」画面には、メールの配信日時が表示されます。

「Off」を指定した場合

「一覧の項目表示/順序」の「表示できる項目」に「配信日時」が表示されます。「送信済みメール一覧」画面にメールの配信日時は表示されません。

デフォルト値：Off

(17) メール配信日時の表示位置の指定

メールの配信日時の表示位置を指定します。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_deliveryTimeOrder
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_deliveryTimeOrder

一覧画面での表示位置として 1~9 の範囲の値を指定してください。

指定する値に関する注意の詳細は、「2.12.8(2) メールを選択するチェックボックスの表示位置の指定」を参照してください。

指定した値は、「一覧の項目表示/順序」の「現在の設定」での表示順に反映されます。

一覧画面では、指定した値の小さい方から順に左から表示されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「9」が設定されます。

デフォルト値：9

(18) 主題の幅の指定

一覧画面に表示されるメールの主題の幅を半角換算文字数で指定します。

指定する文字数の数え方は、hptl_clb_cml_multiByteCharCount の設定内容に従います。

hptl_clb_cml_multiByteCharCount の詳細は、「2.12.5(1) 画面に表示される文字の数え方の指定 (hptl_clb_cml_multiByteCharCount)」を参照してください。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：hptl_clb_cml_setMax_titleWidth
- レイアウトモードの場合：hptl_clb_cml_setDig_titleWidth

2~128 の範囲の値を指定してください。指定した値は、「一覧の項目幅」の「主題」テキストボックスに反映されます。一覧画面では、指定した文字数分の幅でメールの主題が表示されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、ワークスペースモードのときは「50」が、レイアウトモードのときは「28」が設定されます。

デフォルト値

- ワークスペースモードの場合：50
- レイアウトモードの場合：28

(19) 送信者および宛先の幅の指定

一覧画面に表示されるメールの送信者および宛先の幅を半角換算文字数で指定します。

指定する文字数の数え方は、`hptl_clb_cml_multiByteCharCount` の設定内容に従います。

`hptl_clb_cml_multiByteCharCount` の詳細は、「2.12.5(1) 画面に表示される文字の数え方の指定 (`hptl_clb_cml_multiByteCharCount`)」を参照してください。

ポートレットの表示形式によって、指定するプロパティが異なります。

指定するプロパティを次に示します。

- ワークスペースモードの場合：`hptl_clb_cml_setMax_sendPersonWidth`
- レイアウトモードの場合：`hptl_clb_cml_setDig_sendPersonWidth`

2~256 の範囲の値を指定してください。指定した値は、[一覧の項目幅] の [送信者/宛先] テキストボックスに反映されます。一覧画面では、指定した文字数分の幅でメールの送信者および宛先が表示されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「12」が設定されます。

デフォルト値：12

(20) 一覧画面で、日時の「年」を表示するかどうかの指定 (`hptl_clb_cml_setShowYear`)

一覧画面で、日時の「年」を表示するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

[日時の表示形式] で、[年を表示する] チェックボックスがチェックされた状態になります。一覧画面中のメールの受信日時や送信日時などの日付に、「年」が表示されます。

「Off」を指定した場合

[日時の表示形式] で、[年を表示する] チェックボックスがチェックされていない状態になります。一覧画面中のメールの受信日時や送信日時などの日付に、「年」は表示されません。

デフォルト値：On

(21) 一覧画面で、日時の「秒」を表示するかどうかの指定 (`hptl_clb_cml_setShowSecond`)

一覧画面で、日時の「秒」を表示するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

【日時の表示形式】で、【秒を表示する】チェックボックスがチェックされた状態になります。一覧画面中のメールの受信日時や送信日時などの日付に、「秒」が表示されます。

「Off」を指定した場合

【日時の表示形式】で、【秒を表示する】チェックボックスがチェックされていない状態になります。一覧画面中のメールの受信日時や送信日時などの日付に、「秒」は表示されません。

デフォルト値：On

(22) 一覧画面に表示されるメールの件数の指定 (hptl_clb_cml_setDisplayNum)

一覧画面に表示されるメールの件数を指定します。1～500の範囲の値を指定してください。指定した値は、【1ページあたりの表示件数】テキストボックスに反映されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「100」が設定されます。

デフォルト値：100

2.12.9 プロパティファイルの詳細 (宛先台帳の表示に関する設定)

【メール】ポートレットの宛先台帳の宛先一覧の表示に関するプロパティについて説明します。

設定した内容は、【設定】画面（【全般】タブを選択している場合）の【宛先台帳に関する設定】の各項目に反映されます。

なお、宛先台帳の宛先一覧とは、次の領域に表示される宛先一覧のことです。

- 【宛先台帳】画面の宛先一覧領域
- 宛先追加画面の宛先表示領域
- 宛先台帳参照画面の宛先一覧領域

(1) 宛先台帳の宛先一覧に表示される名前の表示文字数の指定 (hptl_clb_cml_setADBK_nameWidth)

宛先台帳の宛先一覧に表示される名前の表示文字数を指定します。2～255の範囲の値を指定してください。

指定する文字数の数え方は、hptl_clb_cml_multiByteCharCount の設定内容に従います。

hptl_clb_cml_multiByteCharCount の詳細は、「2.12.5(1) 画面に表示される文字の数え方の指定 (hptl_clb_cml_multiByteCharCount)」を参照してください。

指定した値は、【宛先一覧の表示文字数】の【名前】テキストボックスに反映されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「255」が設定されます。

デフォルト値：255

(2) 宛先台帳の宛先一覧に表示される宛先の表示文字数の指定 (hptl_clb_cml_setADBK_addressWidth)

宛先台帳の宛先一覧に表示される宛先の表示文字数を指定します。2～255 の範囲の値を指定してください。

指定する文字数の数え方は、hptl_clb_cml_multiByteCharCount の設定内容に従います。

hptl_clb_cml_multiByteCharCount の詳細は、「2.12.5(1) 画面に表示される文字の数え方の指定 (hptl_clb_cml_multiByteCharCount)」を参照してください。

指定した値は、[宛先一覧の表示文字数] の [宛先] テキストボックスに反映されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「255」が設定されます。

デフォルト値：255

(3) 宛先台帳の宛先一覧に表示されるコメントの表示文字数の指定 (hptl_clb_cml_setADBK_commentWidth)

宛先台帳の宛先一覧に表示されるコメントの表示文字数を指定します。2～255 の範囲の値を指定してください。

指定する文字数の数え方は、hptl_clb_cml_multiByteCharCount の設定内容に従います。

hptl_clb_cml_multiByteCharCount の詳細は、「2.12.5(1) 画面に表示される文字の数え方の指定 (hptl_clb_cml_multiByteCharCount)」を参照してください。

指定した値は、[宛先一覧の表示文字数] の [コメント] テキストボックスに反映されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「255」が設定されます。

デフォルト値：255

(4) 宛先台帳の宛先一覧に表示される項目を折り返すかどうかの指定 (hptl_clb_cml_setADBK_useWrap)

宛先台帳の宛先一覧に表示される項目が項目の幅に収まらない場合、折り返すかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

[宛先一覧の表示形式] の [改行の有無を指定する] チェックボックスがチェックされた状態になります。宛先台帳の宛先一覧に表示される項目が項目の幅に収まらない場合、折り返させるかどうかを設定できるようになります。

「Off」を指定した場合

[宛先一覧の表示形式] の [改行の有無を指定する] チェックボックスがチェックされていない状態になります。宛先台帳の宛先一覧に表示される項目が項目の幅に収まらない場合、Web ブラウザの仕様に従って折り返されます。

デフォルト値：Off

(5) 宛先台帳の宛先一覧に表示される名前を折り返すかどうかの指定
(hptl_clb_cml_setADBK_wrapName)

宛先台帳の宛先一覧に表示される名前を折り返すかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

【宛先一覧の表示形式】の【名前を改行して表示する】チェックボックスがチェックされた状態になります。宛先台帳の宛先一覧に表示される名前が折り返されます。

「Off」を指定した場合

【宛先一覧の表示形式】の【名前を改行して表示する】チェックボックスがチェックされていない状態になります。宛先台帳の宛先一覧に表示される名前は、折り返されずに1行で表示されます。

デフォルト値：On

(6) 宛先台帳の宛先一覧に表示される宛先を折り返すかどうかの指定
(hptl_clb_cml_setADBK_wrapAddress)

宛先台帳の宛先一覧に表示される宛先を折り返すかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

【宛先一覧の表示形式】の【宛先を改行して表示する】チェックボックスがチェックされた状態になります。宛先台帳の宛先一覧に表示される宛先が折り返されます。

「Off」を指定した場合

【宛先一覧の表示形式】の【宛先を改行して表示する】チェックボックスがチェックされていない状態になります。宛先台帳の宛先一覧に表示される宛先は、折り返されずに1行で表示されます。

デフォルト値：On

(7) 宛先台帳の宛先一覧に表示されるコメントを折り返すかどうかの指定
(hptl_clb_cml_setADBK_wrapComment)

宛先台帳の宛先一覧に表示されるコメントを折り返すかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

【宛先一覧の表示形式】の【コメントを改行して表示する】チェックボックスがチェックされた状態になります。宛先台帳の宛先一覧に表示されるコメントが折り返されます。

「Off」を指定した場合

【宛先一覧の表示形式】の【コメントを改行して表示する】チェックボックスがチェックされていない状態になります。宛先台帳の宛先一覧に表示されるコメントは、折り返されないで1行で表示されます。

デフォルト値：On

2.12.10 プロパティファイルの詳細（メール送信の設定）

【メール】ポートレットのメール送信に関するプロパティについて説明します。

(1)～(6)に示すプロパティで設定した内容は、【設定】画面（【全般】タブを選択している場合）の【メール送信に関する設定】の各項目に反映されます。

(7)に示すプロパティで設定した内容は、【設定】画面（【ワークスペースごとの設定】タブを選択している場合）の【メール送信に関する設定】に反映されます。

(1) 【メール作成】画面を表示させたときに、自動的に自分のアドレスを Bcc に追加するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_setBccAddress)

【メール作成】画面を表示させたときに、自動的に自分のアドレスを Bcc に追加するかどうかを指定します。

【On】または【Off】を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、【Off】が設定されます。

【On】を指定した場合

【メール送信時、自分宛に Bcc で送信する。】チェックボックスがチェックされた状態になります。【メール作成】画面を表示させたときに、自動的に【Bcc:】テキストボックスに自分のアドレスが追加されます。

【Off】を指定した場合

【メール送信時、自分宛に Bcc で送信する。】チェックボックスがチェックされていない状態になります。【メール作成】画面を表示させたときに、【Bcc:】テキストボックスに自分のアドレスは追加されません。

デフォルト値：Off

(2) メール送信時に必ず【送信の確認】画面を表示するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_setAddressCheck)

メール送信時に必ず【送信の確認】画面を表示するかどうかを指定します。【On】または【Off】を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、【Off】が設定されます。

【On】を指定した場合

【メール送信時、宛先確認画面を必ず表示する。】チェックボックスがチェックされた状態になります。メール送信時には、必ず【送信の確認】画面が表示されます。

「Off」を指定した場合

[メール送信時、宛先確認画面を必ず表示する。] チェックボックスがチェックされていない状態になります。メール送信時に [送信の確認] 画面は表示されません。

デフォルト値：Off

(3) 「メール作成」画面に表示される宛先をメールアドレスと名前のどちらで表示するかの指定 (hptl_clb_cml_editmailScreenAddressType)

[メール作成] 画面で、宛先をメールアドレスと名前のどちらで表示するかを指定します。「address」または「name」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「address」が設定されます。

「address」を指定した場合

[メール作成画面の宛先表示] の [メールアドレスで表示する] ラジオボタンが選択された状態になります。[メール作成] 画面の宛先が、メールアドレスで表示されます。

「name」を指定した場合

[メール作成画面の宛先表示] の [名前で表示する] ラジオボタンが選択された状態になります。[メール作成] 画面の宛先が、名前で表示されます。

デフォルト値：address

(4) 宛先に E-mail コメントとして名前を設定してメールを送信するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_setEmailComment)

宛先に E-mail コメントとして名前を設定してメールを送信するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

hptl_clb_cml_useEmailComment に「Off」を指定した場合、hptl_clb_cml_setEmailComment を指定しても無視されます。

hptl_clb_cml_useEmailComment の詳細は、「2.11.4(28) 宛先に E-mail コメントとして名前を設定してメールを送信できるようにするかどうかの指定 (hptl_clb_cml_useEmailComment)」を参照してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

[メールアドレスに名前を付加してメールを送信する。] チェックボックスがチェックされた状態になります。メールの送信時に「To」または「Cc」に設定した宛先および送信者の宛先に、E-mail コメントとして名前が設定されます。

「Off」を指定した場合

[メールアドレスに名前を付加してメールを送信する。] チェックボックスがチェックされていない状態になります。メールの送信時に「To」または「Cc」に設定した宛先および送信者の宛先に、E-mail コメントは設定されません。

デフォルト値：Off

(5) 送信者に E-mail コメントとして名前を設定してメールを送信するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_setSenderEmailComment)

送信者に E-mail コメントとして名前を設定してメールを送信するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

hptl_clb_cml_useEmailComment に「Sender」以外を指定した場合、hptl_clb_cml_setSenderEmailComment を指定しても無視されます。

hptl_clb_cml_useEmailComment の詳細は、「2.11.4(28) 宛先に E-mail コメントとして名前を設定してメールを送信できるようにするかどうかの指定 (hptl_clb_cml_useEmailComment)」を参照してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

[送信者のメールアドレスに名前を付加してメールを送信する。] チェックボックスがチェックされた状態になります。メールの送信時に送信者だけに E-mail コメントとして名前が設定されます。

「Off」を指定した場合

[送信者のメールアドレスに名前を付加してメールを送信する。] チェックボックスがチェックされていない状態になります。メールの送信時の送信者に、E-mail コメントは設定されません。

デフォルト値：Off

(6) メール本文に署名および配布 URL を挿入したときの挿入位置の指定 (hptl_clb_cml_setAutomaticInsertionPoint)

メール本文に署名および配布 URL を挿入したときの挿入位置を指定します。「top」または「bottom」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「bottom」が設定されます。

「top」を指定した場合

[本文にデータを追加する位置] の [本文の先頭] ラジオボタンが選択された状態になります。[メール] 作成画面で署名または配布 URL を挿入したときに、メール本文の先頭に挿入されます。

「bottom」を指定した場合

[本文にデータを追加する位置] の [本文の最後] ラジオボタンが選択された状態になります。[メール] 作成画面で署名または配布 URL を挿入したときに、メール本文の最後に挿入されます。

デフォルト値：bottom

(7) 「宛先指定」画面、および「代行受信者指定」画面を開いたときに最初に表示される画面の指定 (hptl_clb_cml_setMax_DefaultTab)

「宛先指定」画面、および「代行受信者指定」画面を表示させたときに、宛先選択領域に表示されるタブを指定します。「AddressBook」、「Community」、「DirectoryAccess」、または「DirectInput」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「DirectoryAccess」が設定されます。

「AddressBook」を指定した場合

「宛先指定画面を開いたときの選択状態のタブ」の「宛先台帳」ラジオボタンが選択された状態になります。「宛先指定」画面、および「代行受信者指定」画面を表示させたときに、宛先選択領域に「宛先台帳」タブが表示されます。

「Community」を指定した場合

「宛先指定画面を開いたときの選択状態のタブ」の「コミュニティ」ラジオボタンが選択された状態になります。「宛先指定」画面、および「代行受信者指定」画面を表示させたときに、宛先選択領域に「コミュニティ」タブが表示されます。

「DirectoryAccess」を指定した場合

「宛先指定画面を開いたときの選択状態のタブ」の「ユーザ検索」ラジオボタンが選択された状態になります。「宛先指定」画面、および「代行受信者指定」画面を表示させたときに、宛先選択領域に「ユーザ検索」タブが表示されます。

「DirectInput」を指定した場合

「宛先指定画面を開いたときの選択状態のタブ」の「直接入力」ラジオボタンが選択された状態になります。「宛先指定」画面、および「代行受信者指定」画面を表示させたときに、宛先選択領域に「直接入力」タブが表示されます。

デフォルト値：DirectoryAccess

2.12.11 プロパティファイルの詳細（新着メールの監視に関する設定）

「メール」ポートレットの新着メールの監視に関するプロパティについて説明します。

設定した内容は、「設定」画面（「全般」タブを選択している場合）の「未読メールの監視に関する設定」の各項目に反映されます。

(1) 定期的に新着メールの有無を確認するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_setCheckNewMail)

定期的に新着メールの有無を確認するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

hptl_clb_cml_checkNewMail に「Off」を指定した場合、hptl_clb_cml_setCheckNewMail を指定しても無視されます。

hptl_clb_cml_checkNewMail の詳細は、「2.11.4(58) 定期的に新着メールの有無を確認できるようにするかどうかの指定 (hptl_clb_cml_checkNewMail)」を参照してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Off」が設定されます。

「On」を指定した場合

「定期的に未読メールを監視する」チェックボックスがチェックされた状態になります。新着メールの有無が定期的に確認され、新着メールがある場合は「未読メール通知」画面が表示されます。

「Off」を指定した場合

「定期的に未読メールを監視する」チェックボックスがチェックされていない状態になります。新着メールの有無は確認されません。

デフォルト値：Off

(2) 新着メールの有無を確認する間隔の指定 (hptl_clb_cml_setCheckInterval)

定期的に新着メールの有無を確認する場合に、確認する間隔を分単位で指定します。

hptl_clb_cml_checkIntervalMin の指定値～60 の範囲の値を指定してください。指定した値は、[未読メールを監視する間隔] テキストボックスに反映されます。

hptl_clb_cml_checkNewMail に「Off」を指定した場合、hptl_clb_cml_setCheckInterval に指定した値は無視されます。

hptl_clb_cml_checkNewMail の詳細は、「2.11.4(58) 定期的に新着メールの有無を確認できるようにするかどうかの指定 (hptl_clb_cml_checkNewMail)」を参照してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「30」が設定されます。

デフォルト値：30

2.12.12 プロパティファイルの詳細 (印刷画面の設定)

[メール] ポートレットの印刷画面に関するプロパティについて説明します。

設定した内容は、[設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合) の [印刷画面に関する設定] の各項目に反映されます。

(1) 印刷画面に主題を表示するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_printSetShowTitle)

印刷画面にメールの主題を表示するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

[印刷画面に表示する項目] の [主題] チェックボックスがチェックされた状態になります。印刷画面には、メールの主題が表示されます。

「Off」を指定した場合

[印刷画面に表示する項目] の [主題] チェックボックスがチェックされていない状態になります。印刷画面にメールの主題は表示されません。

デフォルト値：On

(2) 印刷画面に宛先一覧を表示するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_printSetShowAddress)

印刷画面にメールの宛先一覧を表示するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

[印刷画面に表示する項目] の [宛先一覧] チェックボックスがチェックされた状態になります。印刷画面には、メールの宛先一覧が表示されます。

「Off」を指定した場合

[印刷画面に表示する項目] の [宛先一覧] チェックボックスがチェックされていない状態になります。印刷画面にメールの宛先一覧は表示されません。

デフォルト値：On

**(3) 印刷画面に送信者を表示するかどうかの指定
(hptl_clb_cml_printSetShowSendPerson)**

印刷画面にメールの送信者を表示するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

[印刷画面に表示する項目] の [送信者] チェックボックスがチェックされた状態になります。印刷画面には、メールの送信者が表示されます。ただし、作成中メール印刷画面には、メールの送信者は表示されません。

「Off」を指定した場合

[印刷画面に表示する項目] の [送信者] チェックボックスがチェックされていない状態になります。印刷画面にメールの送信者は表示されません。

デフォルト値：On

**(4) 印刷画面に受信/送信日時を表示するかどうかの指定
(hptl_clb_cml_printSetShowDate)**

印刷画面にメールの受信/送信日時を表示するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

[印刷画面に表示する項目] の [受信/送信日時] チェックボックスがチェックされた状態になります。印刷画面には、メールの受信/送信日時が表示されます。ただし、作成中メール印刷画面には、メールの受信/送信日時は表示されません。

「Off」を指定した場合

[印刷画面に表示する項目] の [受信/送信日時] チェックボックスがチェックされていない状態になります。印刷画面にメールの受信/送信日時は表示されません。

デフォルト値：On

**(5) 印刷画面にメールの属性を表示するかどうかの指定
(hptl_clb_cml_printSetShowAttribute)**

印刷画面にメールの属性（至急・返信要求・親展）を表示するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

【印刷画面に表示する項目】の【属性】チェックボックスがチェックされた状態になります。印刷画面には、メールの属性が表示されます。

「Off」を指定した場合

【印刷画面に表示する項目】の【属性】チェックボックスがチェックされていない状態になります。印刷画面にメールの属性は表示されません。

デフォルト値：On

**(6) 印刷画面に添付ファイルの一覧を表示するかどうかの指定
(hptl_clb_cml_printSetAttachedFile)**

印刷画面に添付ファイルの一覧を表示するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

【印刷画面に表示する項目】の【添付ファイルの一覧】チェックボックスがチェックされた状態になります。印刷画面には、添付ファイルの一覧が表示されます。

「Off」を指定した場合

【印刷画面に表示する項目】の【添付ファイルの一覧】チェックボックスがチェックされていない状態になります。印刷画面に添付ファイルの一覧は表示されません。

デフォルト値：On

**(7) 印刷画面に本来受信者を表示するかどうかの指定
(hptl_clb_cml_printSetShowOriginalRecipient)**

印刷画面にメールの本来受信者を表示するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

【印刷画面に表示する項目】の【本来受信者】チェックボックスがチェックされた状態になります。印刷画面には、メールの本来受信者が表示されます。ただし、作成中メール印刷画面には、メールの本来受信者は表示されません。

「Off」を指定した場合

【印刷画面に表示する項目】の【本来受信者】チェックボックスがチェックされていない状態になります。印刷画面にメールの本来受信者は表示されません。

デフォルト値：On

**(8) 印刷画面に配信日時を表示するかどうかの指定
(hptl_clb_cml_printSetShowDeliveryDate)**

印刷画面にメールの配信日時を表示するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

【印刷画面に表示する項目】の【配信日時】チェックボックスがチェックされた状態になります。印刷画面には、メールの配信日時が表示されます。

「Off」を指定した場合

【印刷画面に表示する項目】の【配信日時】チェックボックスがチェックされていない状態になります。印刷画面にメールの配信日時は表示されません。

デフォルト値：On

(9) 印刷画面に表示される文字列を折り返す位置の指定 (hptl_clb_cml_setChangeLine)

印刷画面に表示される文字列を折り返すときに、画面の横幅に合わせて折り返すか、指定された半角換算文字数で折り返すかを指定します。「Auto」または「Manual」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「Auto」が設定されます。

「Auto」を指定した場合

【改行位置】の【印刷画面の横幅で改行】ラジオボタンが選択された状態になります。印刷画面に表示される文字列は、画面の横幅に合わせて折り返されます。

「Manual」を指定した場合

【改行位置】の【指定された半角換算文字数で改行】ラジオボタンが選択された状態になります。印刷画面に表示される文字列は、hptl_clb_cml_setChangeLineNumber で指定した半角換算文字数で折り返されます。

hptl_clb_cml_setChangeLineNumber の詳細は、「2.12.12(10) 指定された半角換算文字数で折り返す場合の、半角換算文字数の指定 (hptl_clb_cml_setChangeLineNumber)」を参照してください。

デフォルト値：Auto

(10) 指定された半角換算文字数で折り返す場合の、半角換算文字数の指定 (hptl_clb_cml_setChangeLineNumber)

指定された半角換算文字数で折り返す場合の、半角換算文字数を指定します。20～500 の範囲の値を指定してください。

指定する文字数の数え方は、hptl_clb_cml_multiByteCharCount の設定内容に従います。

hptl_clb_cml_multiByteCharCount の詳細は、「2.12.5(1) 画面に表示される文字の数え方の指定 (hptl_clb_cml_multiByteCharCount)」を参照してください。

指定した値は、【改行位置】の【指定文字数】テキストボックスに反映されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「80」が設定されます。

デフォルト値：80

2.12.13 プロパティファイルの詳細（メールファイル作成に関する設定）

[メール] ポートレットのメールファイルの作成に関するプロパティについて説明します。

設定した内容は、[設定] 画面（[全般] タブを選択している場合）の [メールファイル作成に関する設定] の各項目に反映されます。

(1) 自分の PC にメールを保存するときのファイル名に含まれる項目と項目の並び順の指定 (hptl_clb_cml_setMLFNameltem)

自分の PC にメールを保存するときのファイル名に含まれる項目と、項目の並び順を指定します。「S（主題）」、「D（送受信日）」、「T（送受信時間）」、「N（送信者名）」、「A（送信者の宛先）」のうち、ファイル名に含みたい項目を示す文字を指定してください。

文字の指定順が、ファイル名に含まれる項目の並び順になります。例えば、ファイル名の文字列を主題、送受信日、送受信時間、送信者名の順にしたい場合は、「SDTN」と指定してください。この場合、ファイル名は「主題△送受信日△送受信時間△送信者名」となります。△は半角空白を示します。

指定した値は、[ファイル名の設定] の [ファイル名に使用する属性と順番] の [現在の設定] に反映されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「SDTN」が設定されます。

デフォルト値：SDTN

(2) 自分の PC にメールを保存するときのファイル名から、「Re:」および「Fw:」を削除するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_setMLFEditSubject)

自分の PC にメールを保存するときに、ファイル名から「Re:」および「Fw:」を削除するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「On」が設定されます。

「On」を指定した場合

[ファイル名の設定] の [主題から "Re:", "Fw:" を削除する] チェックボックスがチェックされた状態になります。自分の PC にメールを保存するときに、ファイル名から「Re:」および「Fw:」が削除されます。

「Off」を指定した場合

[ファイル名の設定] の [主題から "Re:", "Fw:" を削除する] チェックボックスがチェックされていない状態になります。自分の PC にメールを保存するときにファイル名から「Re:」および「Fw:」は削除されません。

デフォルト値：On

(3) 保存しようとしたメールのファイル名に使用できない文字が含まれていた場合に置き換わる文字の指定 (hptl_clb_cml_setMLFFileChar)

保存しようとしたメールのファイル名に Windows のファイル名として使用できない文字が含まれていた場合、代わりに使用する文字を指定します。

Windows のファイル名として使用できる文字を次に示します。

全角文字, 半角英数字, 半角かな, 半角記号の\$, %, ', -, _, @, {, }, ~, `; !, #, (,), ', およびピリオド (.)

これ以外の文字はファイル名に使用できません。

代わりに使用する文字には, Windows のファイル名として使用できる文字のどれかを指定してください。

指定した文字は, [ファイル名の設定] の [置換後の文字] テキストボックスに反映されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合, または不正な値を指定した場合は, 「_」が設定されます。

デフォルト値: _

2.12.14 プロパティファイルの詳細 (メールの振り分けに関する設定)

[メール] ポートレットのメールの振り分けに関するプロパティについて説明します。

設定した内容は, [設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合) の [振り分けたメールの扱い] の項目に反映されます。

(1) 振り分けたメールを一覧画面から削除するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_setDeleteSortedOut/Mail)

振り分けたメールを [受信メール一覧] 画面または [送信済みメール一覧] 画面から削除するかどうかを指定します。「On」または「Off」を指定してください。

hptl_clb_cml_sortOut に「Off」を指定した場合, hptl_clb_cml_setDeleteSortedOutMail を指定しても無視されます。

hptl_clb_cml_sortOut の詳細は, 「2.11.4(68) メール振り分けができるようにするかどうかの指定 (hptl_clb_cml_sortOut)」を参照してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合, または不正な値を指定した場合は, 「Off」が設定されます。

[On] を指定した場合

[受信メール一覧または送信済みメール一覧からメールを削除する] チェックボックスがチェックされた状態になります。振り分けたメールは [受信メール一覧] 画面または [送信済みメール一覧] 画面から削除されます。

[Off] を指定した場合

[受信メール一覧または送信済みメール一覧からメールを削除する] チェックボックスがチェックされていない状態になります。振り分けたメールは [受信メール一覧] 画面または [送信済みメール一覧] 画面に残ります。

デフォルト値: Off

2.13 Groupmax 通信ライブラリのプロパティ (hptl_clb_mrc.properties) の設定

この節では、Groupmax 通信ライブラリのプロパティファイル「hptl_clb_mrc.properties」の設定方法および各プロパティの詳細を説明します。

2.13.1 Groupmax 通信ライブラリのプロパティの設定方法

Groupmax 通信ライブラリでは、Groupmax のメール機能を利用するための設定をします。このプロパティは、必要に応じて変更してください。変更しない場合は、デフォルト値が設定されます。

プロパティファイルを変更するには、テキストエディタなどを使用します。ただし、Windows のメモ帳を使用してプロパティファイルを編集すると、ファイルを保存したときに、ファイルの先頭に「BOM」と呼ばれる制御コードが自動的に挿入されてしまいます。このため、Windows のメモ帳で編集したプロパティファイルを使用すると、エラーになる場合があります。プロパティファイルを変更する場合は、必ず Windows のメモ帳以外のテキストエディタを使用してください。

Groupmax 通信ライブラリのプロパティファイルの設定内容を表 2-23 に示します。

表 2-23 Collaboration - Mail で設定する Groupmax 通信ライブラリのプロパティ

項番	プロパティ名	設定内容	デフォルト値	省略の可否
1	TracePath	トレースの出力先	Collaboration Portal インストールディレクトリ¥ ¥clb_home¥log	×
2	TraceFileNum	トレースファイル面数	2	○
3	TraceFileSize	トレースファイルサイズ	20,971,520 (バイト)	○
4	TraceLevel	トレースレベル	30	○
5	MailPort	Groupmax Mail Server のポート番号	9,100	○
6	AuthenticationPort	認証サーバのポート番号	9,052	○
7	AuthenticationHostName	認証サーバのホスト名	localhost	○
8	TryRelogin	Groupmax Mail Server とのコネクションが切断された場合に、再接続をするかどうかの指定	true	○
9	MaxMailBodySize	受信できるメール本文のサイズの上限値の指定	512,000 (バイト)	○
10	CheckAddressFormat	宛先に指定した E-mail アドレスのフォーマットをチェックするかどうかの指定	true	○
11	ServerTimeout	認証サーバ、Groupmax Mail Server との通信のタイムアウト時間	300,000	○

項番	プロパティ名	設定内容	デフォルト値	省略の可否
12	GetMainEmailAddress	兼任ユーザのニックネームから主体ユーザの E-mail アドレスを取得するかどうか	false	○

(凡例)

○：省略できる

×：省略できない

Collaboration - Mail 01-00 の設定内容を引き継ぐ場合

01-00 の Collaboration - Mail の設定内容を引き継ぐ場合は、Collaboration - Mail 01-00 のプロパティファイルを使用します。

表 2-23 の項番 5～項番 8、項番 10 および項番 12 のプロパティをコピーして、Collaboration - Mail 01-00 のファイルに追加してください。

Collaboration - Mail 01-00 から移行する場合の作業の詳細は「付録 D.11 Collaboration - Mail 01-00 から移行する場合の作業」を参照してください。

2.13.2 プロパティファイルの記述形式と格納先 (Groupmax 通信ライブラリ)

プロパティファイルの記述形式および格納先について説明します。

プロパティファイルは、Java 2 Platform, Standard Edition のプロパティファイル形式です。

(1) 記述形式

プロパティファイルの記述形式を次に示します。

プロパティ名 = 値

- 改行までが値になります。
- プロパティ名と値は「= (半角のイコール)」でつながります。
- 行頭が「# (シャープ)」および「!(感嘆符)」の行はコメントと見なされます。
- 値の後ろには、空白やコメントなどの文字列は追加できません。追加した場合、不正な値と解釈されません。

[不正なコメントの例]

プロパティ名 = 値 #コメント

[正しいコメントの例]

プロパティ名 = 値

#コメント

- スペースだけの行は無視されます。
- 行頭および行末にスペースは入力できません。
- 値が存在しない行（「プロパティ名 = 」だけの行）を定義した場合、その行は無視されます。
- ファイルの中に日本語名が含まれる場合は、Java ツールの native2ascii を使ってエンコードする必要があります。Java ツールの詳細は、Java のドキュメントを参照してください。

- 出力先のディレクトリを指定する場合、区切り文字（記号）には、「¥¥」または「/」を使用してください。
例：hptl_clb_cml_logPath=C:¥¥tmp¥¥trace
- 指定した値の大文字と小文字を区別します。

(2) 格納先

プロパティファイルの格納先を次に示します。

Collaboration Portal インストールディレクトリ¥clb_home¥conf

2.13.3 プロパティファイルの記述例（Groupmax 通信ライブラリ）

Groupmax 通信ライブラリのプロパティファイルの記述例を次に示します。記述例で使用している値は、すべてデフォルトの値です。

```
# Trace setting
TracePath =
TraceFileNum = 2
TraceFileSize = 20971520
TraceLevel = 30

# Text contents size
MaxMailBodySize = 512000

# Server timeout
ServerTimeout = 300000

# For E-mail Address Format check
CheckAddressFormat = true

# For Additional Post setting
GetMainEmailAddress = false
```

2.13.4 プロパティファイルの詳細（Groupmax 通信ライブラリ）

Groupmax 通信ライブラリの各プロパティの詳細について説明します。

(1) トレース出力先の指定（TracePath）

トレースの出力先を指定します。ただし、日本語を含むディレクトリは指定できません。また、フォルダの区切りには「¥¥」を使用してください。指定したフォルダが存在していない場合は、指定した場所に、新しくフォルダが作成されます。

この値は省略できません。

なお、出力されるログファイルの名称は「hptl_clb_mrc_X.log」です。「X」にはログファイルの面数が表示されます。

デフォルト値：*Collaboration Portal* インストールディレクトリ¥¥clb_home¥¥log

! 注意事項

Collaboration - Mail のプロパティファイルのログ出力先および RAS 用 conf ファイルのログ出力先は、ここで指定したフォルダと同じフォルダを指定してください。

Collaboration - Mail のプロパティファイルの設定項目「hptl_clb_cml_logPath」については、「2.11.4(5) ログ出力先のフォルダの指定 (hptl_clb_cml_logPath)」を参照してください。RAS 用 Conf ファイルについては、「付録 G.3 RAS 用 Conf ファイルの設定」を参照してください。

(2) トレースファイル面数の指定 (TraceFileNum)

トレースファイルの面数を指定します。2面～16面の範囲で指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「2」が設定されます。

デフォルト値：2

(3) トレースファイルサイズの指定 (TraceFileSize)

トレースファイルのサイズを指定します。4,096～2,147,483,647バイトの範囲で指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「20971520」が設定されます。

デフォルト値：20971520

(4) トレースレベルの指定 (TraceLevel)

トレースレベルを指定します。値は 10, 20, 30, 40 のどれかを指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「30」が設定されます。

デフォルト値：30

トレースレベルと出力基準を次の表に示します。

表 2-24 トレースレベルと出力基準

トレースレベル	出力基準
10	発生したすべての例外をトレースし、出力します。
20	再現性のある障害に対し、障害の発生元となるコンポーネントを明確に切り分けるために使用するトレースレベルです。
30	障害の個所を詳細に特定するために使用するトレースレベルです。主なメンバ関数の開始や終了の情報を取得します。
40	障害の個所を詳細に特定するために使用するトレースレベルです。すべてのメンバ関数の開始や終了の情報を取得します。

(5) Groupmax Mail Server のポート番号の指定 (Groupmax 通信ライブラリ) (MailPort)

Groupmax Mail Server のポート番号を指定します。0～65,535の範囲で指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「9100」が設定されます。

デフォルト値：9100

(6) 認証サーバのポート番号の指定 (AuthenticationPort)

認証サーバのポート番号を指定します。0~65,535 の範囲で指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「9052」が設定されます。

デフォルト値：9052

(7) 認証サーバのホスト名の指定 (AuthenticationHostName)

認証サーバのホスト名を指定します。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「localhost」が設定されます。

デフォルト値：localhost

(8) コネクション切断時に再接続をするかどうかの指定 (TryRelogin)

Groupmax Mail Server とのコネクションが切断された場合に、再接続をするかどうかを指定します。「true」または「false」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「true」が設定されます。

「true」を指定した場合

再接続をします。

「false」を指定した場合

再接続をしません。

デフォルト値：true

(9) 受信できるメール本文のサイズの上限值の指定 (MaxMailBodySize)

受信できるメール本文のサイズの上限值をバイト単位で指定します。10,240~1,048,576 バイトの範囲で指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「512000」が設定されます。

デフォルト値：512000

指定したサイズを超えたメールを受信した場合は、指定したサイズまでの内容を取得します。

(10) E-mail アドレスのフォーマットをチェックするかどうかの指定 (CheckAddressFormat)

宛先に指定した E-mail アドレスのフォーマットをチェックするかどうかを指定します。「true」または「false」を指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「true」が設定されます。

[true] を指定した場合

E-mail アドレスのフォーマットをチェックします。次の場合、間違っただフォーマットと判定されます。

- null または空文字を含む
- 全角文字を含む
- ピリオド (.) で始まる
- ピリオド (.) が連続して二つ並んでいる
- 「@.」 という文字列を含む
- @ を一つも含まない
- @ を二つ以上含む
- 次に示す文字のどれかを含む
", (,), :, ;, <, >, [, ¥,], 半角スペース, 制御文字, 半角コンマ
- 半角かたかなを含む

[false] を指定した場合

E-mail アドレスのフォーマットをチェックしません。

デフォルト値：true

(11) 通信のタイムアウト時間の指定 (ServerTimeout)

認証サーバ、Groupmax Mail Server との通信のタイムアウト時間をミリ秒単位で指定します。0～2,147,483,647 の範囲で指定してください。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「300000」が設定されます。

デフォルト値：300000

(12) 兼任ユーザのニックネームから主体ユーザの E-mail アドレスを取得するかどうか (GetMainEmailAddress)

兼任機能を使用している場合に、宛先台帳にユーザを登録するとき、兼任ユーザのニックネームから主体ユーザの E-mail アドレスを取得するかどうかを指定します。「true」または「false」を指定してください。

主体ユーザの E-mail アドレスを取得する設定の場合、兼任ユーザにグループ宛先台帳の参照権や変更権などの権限を設定すると、主体ユーザに権限が設定されます。

この設定は省略できます。プロパティ名もしくは値を指定しない場合、または不正な値を指定した場合は、「false」が設定されます。

[true] を指定した場合

主体ユーザの E-mail アドレスを取得します。

「true」を指定した場合は、必要に応じて Groupmax Address Server の設定を変更します。Groupmax Address Server の設定方法の詳細は、「付録 H 兼任機能使用時の Groupmax Address Server の設定」を参照してください。

[false] を指定した場合

主体ユーザの E-mail アドレスを取得しません。

デフォルト値：false

2.14 メソッドキャンセル機能を利用する場合の注意事項

uCosminexus Application Server Standard のメソッドキャンセル機能を利用して、実行時間を監視する場合の注意事項について説明します。

メソッドキャンセル機能を利用して Collaboration の実行時間を監視する場合、メソッドタイムアウト時間を短く設定していると、受信したメールが途中でしか表示されなかったり、メールの送信に失敗したりするなど、エラーが多発することがあります。

このようなエラーが多発する場合は、メソッドタイムアウト時間の設定を変更してください。

なお、Collaboration - Mail では、メソッドキャンセルを禁止するために保護区リストファイルに設定するクラスはありません。

メソッドキャンセル機能を利用して Collaboration の実行時間を監視する方法の詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

3

Collaboration - Mail の運用

この章では、Collaboration - Mail の運用方法について説明します。

3.1 全文検索の準備

Collaboration - Mail では、メールの主題、メールの本文、または添付ファイルの全文検索に、HiRDB Text Search Plug-in を使用します。

HiRDB Text Search Plug-in のインデクス作成開始ユーティリティ (phnstartidx) を使用して n-gram インデクスを作成することで、データベースに保存されたメール、および添付ファイルが検索できるようになります。

なお、テキスト抽出に使用している Document Filter for Text Search がサポートしている文書だけが検索対象になります。Document Filter for Text Search の詳細は、マニュアル「Document Filter for Text Search Version 3」を参照してください。

全文検索する場合には、HiRDB Text Search Plug-in を使用する前に、次の準備をしてください。

- メール主題、またはメール本文に対する全文検索の準備
- 添付ファイルに対する全文検索の準備

なお、HiRDB Text Search Plug-in の設定方法の詳細は、「2.6.4 HiRDB Text Search Plug-in の設定」を参照してください。

3.1.1 メール主題、またはメール本文に対する全文検索の準備

HiRDB Text Search Plug-in のインデクス作成開始ユーティリティ (phnstartidx) を使用して、n-gram インデクスを作成します。

インデクス作成開始ユーティリティ (phnstartidx) の使用方法の詳細は、マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」を参照してください。

インデクス作成開始ユーティリティのコマンド引数の指定方法を次に示します。

- **-d インデクス識別子**
インデクス登録対象となるインデクス識別子を指定します。idx_contents2 を指定してください。
- **-w 同時実行指定**
このユーティリティと検索処理を同時に実行するかどうか、またはこのユーティリティと遅延登録を同時に実行するかどうかを指定します。検索も同時に実行されるため、必ずnowait_with_update を指定してください。
- **-l ログ取得方式**
インデクス登録処理でのログ取得方式を指定します。登録・検索の同時実行モードで動作させるため、次のように指定してください。
 - バックアップ運用する場合
-l p
 - バックアップ運用しない場合
-l a

指定例

バックアップ運用する場合

```
phnstartidx -d idx_contents2 -l p -w nowait_with_update
```

バックアップ運用しない場合

```
phnstartidx -d idx_contents2 -l a -w nowait_with_update
```

3.1.2 添付ファイルに対する全文検索の準備

(1) 全文検索用のデータの登録

メールに添付されたファイルの内容を全文検索するためには、HiRDB Text Search Plug-in の全文検索用データ登録コマンド (TSPIndexer) を使用して、全文検索用のデータを登録します。

全文検索用データ登録コマンドの使用方法は、マニュアル「HiRDB Text Search Plug-in Index Generator」を参照してください。

注意事項

- 負荷分散構成として、データベースサーバを別マシンで構成した場合は、Collaboration - Mail が提供する制御情報ファイルを複製して使用してください。
- 制御情報ファイルは、次に示すファイルを使用してください。

Collaboration - Mail インストールディレクトリ¥sample¥hptl_clb_cml_generator.txt

なお、Windows のメモ帳を使用してこのファイルを編集すると、ファイルを保存したときに、ファイルの先頭に「BOM」と呼ばれる制御コードが自動的に挿入されてしまいます。このため、Windows のメモ帳で編集したファイルを使用すると、エラーになる場合があります。ファイルを変更する場合は、必ず Windows のメモ帳以外のテキストエディタを使用してください。

また、次の項目はユーザ環境に合わせて変更してください。

- 認可識別子
- エラー情報出力先のパスとファイル
- HiRDB のバージョン
- Collaboration - Mail は、データベースを含めデータの文字コードとして UTF-8 を前提としているため、全文検索用データ登録コマンドのオプションとして、「-c utf-8」を指定してください。

(2) n-gram インデクスの作成

全文検索用のデータに対して、HiRDB Text Search Plug-in のインデクス作成開始ユーティリティ (phnstartidx) を使用して、n-gram インデクスを作成します。

インデクス作成開始ユーティリティ (phnstartidx) の使用方法は、マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」を参照してください。

インデクス作成開始ユーティリティのコマンド引数の指定方法を次に示します。

- **-d インデクス識別子**
インデクス登録対象となるインデクス識別子を指定します。idx_apdfi le2 を指定してください。
- **-w 同時実行指定**
このユーティリティと検索処理を同時に実行するかどうか、またはこのユーティリティと遅延登録を同時に実行するかどうかを指定します。検索も同時に実行されるため、必ずnowait_with_update を指定してください。
- **-l ログ取得方式**
インデクス登録処理でのログ取得方式を指定します。登録・検索の同時実行モードで動作させるため、次のように指定してください。

- バックアップ運用する場合
-l p
- バックアップ運用しない場合
-l a

指定例

バックアップ運用する場合

```
phnstartidx -d idx_apdfile2 -l p -w nowait_with_update
```

バックアップ運用しない場合

```
phnstartidx -d idx_apdfile2 -l a -w nowait_with_update
```

注意事項

全文検索用データ登録コマンドとインデクス作成開始ユティリティは同時に実行しないでください。

3.1.3 システムの負荷軽減と実行頻度

n-gram インデクスの作成と全文検索用のデータ登録の際に実行するユティリティおよびコマンドを次に示します。

- メールの主題およびメールの本文用のインデクス作成開始ユティリティ (phnstartidx)
- 添付ファイル用の全文検索用データ登録コマンド (TSPIndexer)
- 添付ファイル用のインデクス作成開始ユティリティ (phnstartidx)

なお、インデクス作成開始ユティリティ (phnstartidx) はメールの主題、およびメールの本文用の n-gram インデクスの作成時と、添付ファイル用の n-gram インデクスの作成時の、2 回実行します。

メールの主題およびメールの本文に対する全文検索の準備、および添付ファイルに対する全文検索の準備は、メールが検索される頻度を考慮して、定期的の実施してください。

！ 注意事項

n-gram インデクスの作成と全文検索用のデータ登録は、データ量に依存してその負荷が高くなります。このため、メールの主題およびメールの本文に対する全文検索の準備 (n-gram インデクスの作成) と、添付ファイルに対する全文検索の準備 (全文検索用のデータの登録、および n-gram インデクスの作成) は、別々の時間帯に実行してください。

また、全文検索用データ登録コマンド (TSPIndexer) とインデクス作成開始ユティリティ (phnstartidx) は同時に実行しないでください。

3.2 メールの本文に挿入した配布 URL にアクセス権を設定する機能の設定

個人フォルダに格納されているファイルの配布 URL を挿入したメールの送信時に、ファイルのアクセス権を設定する機能を有効にする方法について説明します。

この機能を有効にすることで、あらかじめファイルにアクセス権を設定する必要がなくなります。また、メールの宛先に指定したユーザ全員にアクセス権を設定できるため、アクセス権の設定し忘れを防げます。

個人フォルダのファイルのアクセス権を設定する機能を有効にするには、`hptl_clb_cml.properties` の `hptl_clb_cml_maxParseCount` に、1~10 の値を指定します。

`hptl_clb_cml_maxParseCount` の詳細は、「2.11.4(45) メール送信時にアクセス権を設定する対象に数える配布 URL の最大値の指定 (`hptl_clb_cml_maxParseCount`)」を参照してください。

ただし、Groupmax Address Server またはディレクトリサーバに登録されていない宛先には、アクセス権は設定されません。

このため、個人フォルダのファイルのアクセス権を設定する機能を有効にする場合は、`hptl_clb_cml.properties` の `hptl_clb_cml_checkEmailAddressLevel` に「2」を指定することをお勧めします。この設定をすることで、メールの送信時に、宛先が Groupmax Address Server またはディレクトリサーバに登録されているかどうかを確認できます。

`hptl_clb_cml_checkEmailAddressLevel` の詳細は、「2.11.4(32) E-mail アドレスの確認レベルの指定 (`hptl_clb_cml_checkEmailAddressLevel`)」を参照してください。

注意

配布 URL と通常の URL を混在して挿入した場合、通常の URL もアクセス権を設定する対象に数えられます。`hptl_clb_cml.properties` の `hptl_clb_cml_maxParseCount` に値を設定するときは、通常の URL もアクセス権を設定する対象に数えられることを考慮に入れて値を決定してください。

なお、同じ URL を複数挿入した場合は、重複する URL がすべてアクセス権を設定する対象に数えられます。

3.3 ファイルが添付されたメールが送信された場合にメッセージを表示させる機能の設定

hptl_clb_cml.properties の hptl_clb_cml_attention_AttachedFile に「On」を指定すると、ファイルが添付されたメールが送信された場合に、[送信の確認] 画面にメッセージが表示されます。

hptl_clb_cml_attention_AttachedFile の詳細は、「2.11.4(46) ファイルが添付されているメールが送信された場合にメッセージを表示するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_attention_AttachedFile)」を参照してください。

例えば、次のようなメッセージを表示させることで、ユーザに注意を促し情報漏洩を防げます。

メッセージの例

！警告！

このメールにはファイルが添付されています。間違った宛先に送信されないかどうか確認してください。

[送信の確認] 画面に表示されるメッセージは、メッセージ定義ファイルに記述します。メッセージ定義ファイルはシステム管理者が作成します。

ファイルが添付されたメールが送信された場合に、メッセージを表示させる運用にする手順を次に示します。

手順

1. hptl_clb_cml.properties の hptl_clb_cml_attention_AttachedFile に「On」を指定する。

hptl_clb_cml_attention_AttachedFile の詳細は、「2.11.4(46) ファイルが添付されているメールが送信された場合にメッセージを表示するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_attention_AttachedFile)」を参照してください。

2. メッセージ定義ファイルを作成する。

メッセージ定義ファイルは、インストール時には提供されません。

ファイルが添付されているメールが送信された場合に、メッセージを表示させる運用にするときは、必ずシステム管理者が作成してください。

[環境設定] 画面で Collaboration のメニューの表示言語を変更すると、[送信の確認] 画面に表示されるメッセージの言語も変更されます。このため、[環境設定] 画面で選択できるメニューの表示言語に応じたメッセージ定義ファイルを作成する必要があります。メニューの表示言語の変更方法については、マニュアル「Collaboration ユーザーズガイド」を参照してください。

メニューの表示言語によって、作成するファイルのファイル名が異なります。メニューの表示言語ごとのファイル名を次に示します。

メニューの表示言語として日本語を選択した場合

hptl_clb_msg_cml_attention_ja.properties

メニューの表示言語として英語を選択した場合

hptl_clb_msg_cml_attention.properties

3. 半角英数字および半角記号以外の文字を含むメッセージを表示させる場合は、Java ツールの native2ascii を実行してメッセージ定義ファイルの文字コードを変換する。

native2ascii は、メッセージ定義ファイルに対して実行してください。

SHIFT_JIS で記述されたメッセージ定義ファイルに対して native2ascii を実行すると、Windows 機種依存文字が文字化けするおそれがあります。この場合は、エンコードに Windows_31J を指定して native2ascii を実行してください。

Java ツールの詳細は、Java のドキュメントを参照してください。

この節では、[送信の確認] 画面に表示されるメッセージの作成方法を説明します。

3.3.1 メッセージ定義ファイルの作成方法

[送信の確認] 画面に表示されるメッセージをメッセージ定義ファイル (hptl_clb_msg_cml_attention_ja.properties または hptl_clb_msg_cml_attention.properties) に設定します。

Collaboration のメニューの表示言語として日本語を選択した場合は、hptl_clb_msg_cml_attention_ja.properties を作成し、メッセージを設定してください。また、Collaboration のメニューの表示言語として英語を選択した場合は、hptl_clb_msg_cml_attention.properties を作成し、メッセージを設定してください。

メッセージ定義ファイルを作成するには、テキストエディタなどを使用します。

メッセージ定義ファイルは uCosminexus Portal Framework の起動時に一度だけ参照されます。ポートレットの動作中にメッセージ定義ファイルを変更した場合は、その内容をポートレットに反映するために uCosminexus Portal Framework を再起動してください。

メッセージ定義ファイルの設定内容を次の表に示します。

表 3-1 メッセージ定義ファイルの設定内容

項番	プロパティ名	設定内容	省略時に仮定される値	プロパティの記述の要否
1	cml_Attention_AttachedFile_body	メッセージの本文	空白行	○
2	cml_Attention_AttachedFile_URL	リンク先のページの URL	空白行	○
3	cml_Attention_AttachedFile_COLOR	メッセージの文字色	#000000	○
4	cml_Attention_AttachedFile_fontsize	メッセージの文字サイズ	xsmall	○
5	cml_Attention_AttachedFile_window_height	cml_Attention_AttachedFile_URL に指定した URL に対応するページが表示される画面の高さ (単位: ピクセル)	600	○
6	cml_Attention_AttachedFile_window_width	cml_Attention_AttachedFile_URL に指定した URL に対応するページが表示される画面の幅 (単位: ピクセル)	800	○

(凡例)

○: 必ず記述する

3.3.2 メッセージ定義ファイルの記述形式

メッセージ定義ファイルの記述形式について説明します。

メッセージ定義ファイルは、Java 2 Platform, Standard Edition のプロパティファイル形式です。

メッセージ定義ファイルの記述形式を次に示します。

プロパティ名 = 値

- 改行までが値になります。
- プロパティ名と値は「= (半角のイコール)」でつながります。
- 行頭が「# (シャープ)」および「! (感嘆符)」の行はコメントと見なされます。
- 値の後ろには、空白やコメントなどの文字列は追加できません。追加した場合、不正な値と解釈されま

[不正なコメントの例]

プロパティ名 = 値 #コメント

[正しいコメントの例]

プロパティ名 = 値

#コメント

- スペースだけの行は無視されます。
- 行頭および行末にスペースは入力できません。
- 値が存在しない行（「プロパティ名 = 」だけの行）を定義した場合、その行は無視されます。
- ファイルの中に日本語名が含まれる場合は、Java ツールの native2ascii を使ってエンコードする必要があります。Java ツールの詳細は、Java のドキュメントを参照してください。

3.3.3 メッセージ定義ファイルの記述例

メッセージ定義ファイルの記述例を次に示します。

半角英数字および半角記号以外の文字を含むメッセージを表示させる場合は、Java ツールの native2ascii を実行して文字コードを変換します。

ただし、SHIFT_JIS で記述されたメッセージ定義ファイルに対して native2ascii を実行すると、Windows 機種依存文字が文字化けするおそれがあります。この場合は、エンコードに Windows_31J を指定して native2ascii を実行してください。

また、native2ascii は、メッセージ定義ファイルに対して実行してください。

Java ツールの詳細は、Java のドキュメントを参照してください。

native2ascii 実行前

```
cml_Attention_AttachedFile_body = このメールにはファイルが添付されています。
cml_Attention_AttachedFile_URL = http://www.XXX/index.html
cml_Attention_AttachedFile_COLOR = #000000
cml_Attention_AttachedFile_fontsize = xsmall
cml_Attention_AttachedFile_window_height = 600
cml_Attention_AttachedFile_window_width = 800
```

native2ascii 実行後

```
cml_Attention_AttachedFile_body = %u3053%u306e%u30e1%u30fc%u30eb%u306b%u306f
%u30d5%u30a1%u30a4%u30eb%u304c%u6dfb%u4ed8%u3055%u308c%u3066%u3044%u307e%u3059%u3002
cml_Attention_AttachedFile_URL = http://www.XXX/index.html
```

```
cml_Attention_AttachedFile_COLOR = #000000
cml_Attention_AttachedFile_fontsize = xsmall
cml_Attention_AttachedFile_window_height = 600
cml_Attention_AttachedFile_window_width = 800
```

3.3.4 メッセージ定義ファイルの設定内容

メッセージ定義ファイルの設定内容について説明します。

(1) メッセージの本文 (cml_Attention_AttachedFile_body)

[送信の確認] 画面に表示されるメッセージの本文を指定します。必ず 1 行で指定してください。途中で改行して表示させたい場合は、改行コード (¥n) を入力します。なお、改行コード以外のコード (¥t, ¥r など) はそのまま [送信の確認] 画面に表示されます。

半角英数字および半角記号以外の文字を含むメッセージを表示させる場合は、Java ツールの native2ascii を実行して文字コードを変換します。Java ツールの詳細は、Java のドキュメントを参照してください。

ただし、SHIFT_JIS で記述されたメッセージ定義ファイルに対して native2ascii を実行すると、Windows 機種依存文字が文字化けするおそれがあります。この場合は、エンコードに Windows_31J を指定して native2ascii を実行してください。

また、native2ascii は、メッセージ定義ファイルに対して実行してください。

このプロパティは必ず記述してください。

値の指定は省略できます。値の指定を省略すると、空白行が仮定されます。

(2) リンク先のページの URL (cml_Attention_AttachedFile_URL)

[送信の確認] 画面から参照させるリンク先のページの URL を指定します。

このプロパティは必ず記述してください。

値の指定は省略できます。値の指定を省略すると、空白行が仮定されます。

(3) メッセージの文字色 (cml_Attention_AttachedFile_COLOR)

[送信の確認] 画面に表示されるメッセージの文字色を指定します。CSS の color プロパティに指定できる値を指定してください。

このプロパティは必ず記述してください。

値の指定は省略できます。値の指定を省略すると、#000000 (黒) が仮定されます。

(4) メッセージの文字サイズ (cml_Attention_AttachedFile_fontsize)

[送信の確認] 画面に表示されるメッセージの文字サイズを指定します。CSS の font-size プロパティに指定できる値を指定してください。

このプロパティは必ず記述してください。

値の指定は省略できます。値の指定を省略すると、xsmall が仮定されます。

(5) リンク先のページが表示される画面の高さ
(cml_Attention_AttachedFile_window_height)

cml_Attention_AttachedFile_URL に指定した URL に対応するページが表示される画面の高さをピクセル単位で指定します。

このプロパティは必ず記述してください。

値の指定は省略できます。値の指定を省略すると、600 が仮定されます。

(6) リンク先のページが表示される画面の幅
(cml_Attention_AttachedFile_window_width)

cml_Attention_AttachedFile_URL に指定した URL に対応するページが表示される画面の幅をピクセル単位で指定します。

このプロパティは必ず記述してください。

値の指定は省略できます。値の指定を省略すると、800 が仮定されます。

3.4 不要なデータの削除

ディレクトリサーバや Groupmax Mail Server からユーザが削除されると、これらのデータは使われなくなり、不要になります。このため、Collaboration - Mail のデータベースからも削除する必要があります。

この節では、データベース上の不要なメール保存用のフォルダ、および宛先台帳を削除するための手順について説明します。

3.4.1 メール保存用のフォルダの削除

データベース上の不要なメール保存用のフォルダを削除するには、次に示す SQL を実行します。SQL 中の「ユーザID」には、削除したいユーザのユーザ ID を記述します。ユーザ ID を記述するときは、誤りのないように注意してください。

実行する SQL

```
delete from tbl_apdfile where
  fid=(select fid from tbl_forum where userid='ユーザID');
delete from tbl_aldyread where
  fid=(select fid from tbl_forum where userid='ユーザID');
delete from tbl_contents where
  fid=(select fid from tbl_forum where userid='ユーザID');
delete from tbl_opinion where
  fid=(select fid from tbl_forum where userid='ユーザID');
delete from tbl_state where
  fid=(select fid from tbl_forum where userid='ユーザID');
delete from tbl_attribute where
  fid=(select fid from tbl_forum where userid='ユーザID');
delete from tbl_importance where
  fid=(select fid from tbl_forum where userid='ユーザID');
delete from tbl_uaccess where
  fid=(select fid from tbl_forum where userid='ユーザID');
delete from tbl_sequence2 where
  category=(select fid from tbl_forum where userid='ユーザID');
delete from tbl_sequence1 where
  category=(select fid from tbl_forum where userid='ユーザID');
delete from tbl_mainforum where
  fid=(select fid from tbl_forum where userid='ユーザID');
delete from tbl_forum where userid='ユーザID';
```

3.4.2 宛先台帳の削除

データベース上の不要な宛先台帳を削除する方法について説明します。

不要な宛先台帳は、CalDelAddressList.bat コマンドを使用して削除します。

CalDelAddressList.bat コマンドの詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「CalDelAddressList.bat (宛先台帳削除)」を参照してください。

3.5 グループ宛先台帳の所有者の変更

異動やユーザ ID の変更などで、所有者が不明になったグループ宛先台帳の所有者を変更する方法について説明します。グループ宛先台帳の所有者は、CalChangeOwnerGrp.bat コマンドを使用して変更します。

CalChangeOwnerGrp.bat コマンドの詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「CalChangeOwnerGrp.bat (所有者変更)」を参照してください。

! 注意事項

コマンドの実行時、「変更後ユーザID」に指定した値は確認されません。このため、「変更後ユーザID」に間違っ
たユーザ ID や存在しないユーザのユーザ ID を指定しても、コマンドが実行されます。

出力されたログから、変更後の所有者のユーザ ID を確認してください。ログはコマンドを実行したフォルダに
出力されます。

3.6 ドラッグ & ドロップで添付ファイルをダウンロードできなかった場合の対処

メールに添付されているファイルをドラッグ & ドロップして PC にダウンロードすると、PC に一時フォルダが作成され、そこに一時ファイルが保存されます。

一時フォルダは、ファイルの保存が完了すると自動的に削除されます。しかし、添付ファイルのダウンロードに失敗した場合や、一時ファイルの作成に失敗した場合は、一時フォルダや一時ファイルが PC に残ることがあります。

削除されていない一時ファイルや一時フォルダが大量に存在すると、添付ファイルのダウンロードに失敗することがあります。

ユーザが添付ファイルのダウンロードに失敗した場合は、一時フォルダの作成先を知らせて、一時フォルダを削除するように指示してください。

一時フォルダの作成先を次に示します。

作成先フォルダ¥Collaboration-DAD¥<ユーザID><現在のシステムの時間><プロセスID>

注

文字列が斜体になっている個所は可変の文字列を表します。<ユーザID>、<現在のシステムの時間>、および<プロセスID>にはそれぞれユーザID、現在のシステムの時間、およびプロセスIDが入ります。

作成先フォルダは、次に示す優先順位で決定されます。

1. 環境変数 TMP に指定されているフォルダ*
2. 環境変数 TEMP に指定されているフォルダ*
3. C:¥WINDOWS

注※

環境変数 TMP または環境変数 TEMP に指定されているフォルダが存在しない場合、一時フォルダの作成時にエラーとなります。この場合は、環境変数 TMP または環境変数 TEMP の設定を見直してください。

4

Collaboration - Mail のコマンド

この章では、Collaboration - Mail のコマンドについて説明します。

4.1 コマンド一覧

Collaboration - Mail のコマンドを次の表に示します。

項番	コマンド名	機能概要
1	CalDelAddressList.bat (宛先台帳削除)	不要な宛先台帳またはグループ宛先台帳を削除します。
2	CalChangeOwnerGrp.bat (所有者変更)	グループ宛先台帳の所有者を変更します。

4.2 コマンドの詳細

コマンドの実行条件

コマンドを実行する前に、クライアント環境定義として、次に示す環境変数を設定してください。

表 4-1 コマンド実行前に設定する環境変数

項番	環境変数	設定する内容
1	PATH	Pdsql.exe が存在するパス
2	PDHOST	接続先データベースのホスト名
3	PDNAMEPORT	接続先データベースのポート番号
4	PDUSER	データベース接続時に使用するユーザ ID およびパスワード

注意事項

- UAC が有効に設定されている場合、次のどちらかの方法でバッチファイルを実行してください。
 - ・実行したいバッチファイルを右クリックし、[管理者として実行する] を選択する。
 - ・コマンドプロンプトを右クリックし、[管理者として実行する] を選択し、起動されたコマンドプロンプト上でバッチファイルを実行する。

CalDelAddressList.bat (宛先台帳削除)

形式

CalDelAddressList.bat △ {-p|-g|-a} △ユーザID

(凡例)

△：半角スペース

機能

データベース上の不要な宛先台帳、またはグループ宛先台帳を削除します。

なお、コマンドを実行すると、コマンドを実行したフォルダにログファイル (CalBacthCommand.log) が出力されます。

オプション

-p ユーザID

個人宛先台帳を削除する場合に指定します。

「ユーザID」に指定したユーザが所有者の個人宛先台帳が削除されます。

-g ユーザID

グループ宛先台帳を削除する場合に指定します。

「ユーザID」に指定したユーザが所有者のグループ宛先台帳が削除されます。

-a ユーザID

個人宛先台帳およびグループ宛先台帳を削除する場合に指定します。

「ユーザID」に指定したユーザが所有者の個人宛先台帳およびグループ宛先台帳が削除されます。

バッチファイルの格納先

Collaboration - Mail インストールディレクトリ¥bin

注意事項

- データベースのバックアップを取ってから、コマンドを実行してください。
- 削除したい個人宛先台帳、またはグループ宛先台帳が操作の対象になっていない状態で、コマンドを実行してください。
- 引数を省略すると、次のメッセージ (Usage) が表示されます。このとき、宛先台帳は削除されません。
"CalDelAddressList.bat [-p|-g|-a] UserID"
- データベース接続時にエラーが発生すると、コマンドを実行したフォルダにエラーログファイル (pderr.trc) が出力されます。エラーログファイルの詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド」を参照してください。
- グループ宛先台帳を削除しても、グループ宛先台帳のアクセス権レコードは削除されません。削除したグループ宛先台帳の所有者がディレクトリサーバから削除された場合は、グループ宛先台帳の設定を変更したときに削除されます。

使用例

「hitachi」というユーザ ID のユーザが所有しているグループ宛先台帳を削除する場合の例を次に示します。

```
CalDelAddressList.bat -g hitachi
```

CalChangeOwnerGrp.bat (所有者変更)

形式

```
CalChangeOwnerGrp.bat △変更前ユーザID △変更後ユーザID
```

(凡例)

△：半角スペース

機能

異動やユーザ ID の変更などで、所有者が不明になったグループ宛先台帳の所有者を変更します。

なお、コマンドを実行すると、コマンドを実行したフォルダにログファイル (CalBacthCommand.log) が出力されます。

バッチファイルの格納先

Collaboration - Mail インストールディレクトリ¥bin

注意事項

- データベースのバックアップを取ってから、コマンドを実行してください。
- グループ宛先台帳が操作の対象になっていない状態で、コマンドを実行してください。

- 引数を省略すると、次のメッセージ (Usage) が表示されます。このとき、宛先台帳の所有者は変更されません。
"CalChangeOwnerGrp.bat beforeUid afterUid"
- データベース接続時にエラーが発生すると、コマンドを実行したフォルダにエラーログファイル (pderr.trc) が出力されます。エラーログファイルの詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド」を参照してください。
- コマンドの実行時、「変更後ユーザ ID」に指定した値は確認されません。このため、「変更後ユーザ ID」に間違ったユーザ ID や存在しないユーザのユーザ ID を指定しても、コマンドが実行されます。必ず、存在するユーザ ID を指定してください。また、出力されたログから、変更後の所有者のユーザ ID を確認してください。ログはコマンドを実行したフォルダに出力されます。

使用例

グループ宛先台帳の所有者を「taro」というユーザ ID のユーザから、「hanako」というユーザ ID のユーザに変更する場合の例を次に示します。

```
CalChangeOwnerGrp.bat taro hanako
```

ログファイルの形式

Collaboration - Mail のコマンドを実行すると、コマンドを実行したフォルダにログファイル (CalBacthCommand.log) が出力されます。出力されるログファイルの形式を次に示します。

曜日 yyyy/mm/dd hh:mm:ss.ms 実行したコマンド

曜日

コマンドを実行した曜日が表示されます。ご使用の環境によっては、曜日は表示されません。

yyyy/mm/dd

コマンドを実行した年月日を示します。

yyyy：西暦

mm：月

dd：日

hh:mm:ss.ms

コマンドを実行した時間を示します。

hh：時

mm：分

ss.ms：秒

実行したコマンド

実行したコマンドが表示されます。

ログファイルの出力例を次に示します。

```
月 2006/06/17 15:03:45.67 CalChangeOwnerGrp.bat taro hanako
```

! 注意事項

ログは上書きされません。すでに出力されているログファイルがある場合は、そこにログが追加されます。また、ログファイルの最大容量は決まっています。

4 Collaboration - Mail のコマンド

コマンドを実行するたびにログファイルの容量が増えるため、不要なログファイルは削除することをお勧めします。

付録

付録 A Collaboration - Mail のインストールディレクトリ構成

Collaboration - Mail のインストールディレクトリのパスは次のとおりです。

Collaboration Portalインストールディレクトリ¥mail

Collaboration - Mail のインストールディレクトリ構成を次に示します。

Collaboration Portalインストールディレクトリ¥mail

```

-Readme.txt
-bin
  -CalChangeOwnerGrp.bat
  -CalDelAddressList.bat
-conf
  -hptl_clb_cml.properties
  -hptl_clb_cml_ras.conf
  -hptl_clb_cml_set.properties
  -hptl_clb_cml_ja.properties
  -hptl_clb_cml_en.properties
  -hptl_clb_mrc.properties
  -hptl_clb_cml_charset.properties
  -hptl_clb_cml_check_plugin.properties
-portlets
  -hptl_clb_cml.par
-sample
  -hptl_clb_cml_generator.txt
  -hptl_clb_cml_area.sql
  -hptl_clb_cml_adbk_area.sql
  -hptl_clb_cml_table.sql
  -hptl_clb_cml_adbk_table.sql
  -hptl_clb_cml_master.sql
  -hptl_clb_cml_master_sequence.sql
  -hptl_clb_cml_adbk_sequence.sql
  -hptl_clb_cml_grant.sql
  -hptl_clb_cml_tsindex.sql
  -hptl_clb_cml_0120to0130.sql
  -hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql
  -hptl_clb_cml_pdsys_shift_0150.txt
  -hptl_clb_cml_tbl_idx_shift_0150.sql
  -hptl_clb_cml_tbl_def_update.sql
-tool
-lib
  -hptl_clb_cal_cmd.jar
  -hptl_clb_mrc.jar
-conf
  -hptl_clb_cal_cmd.properties.sam
  -hptl_clb_msg_cal_errmsg.properties
  -hptl_clb_msg_cal_errmsg_ja.properties
-bin
  -config.bat.sam
  -getLocalAddr.bat
  -transLocalAddr.bat
  -delLocalAddr.bat
-lock
  -hptl_clb_cal_cmd.lock
-sample
  -columninfo_tbl_abaccess.txt
  -columninfo_tbl_address.txt
  -columninfo_tbl_addressbook.txt
  -columninfo_tbl_folder.txt
  -hptl_clb_cal_control_abid.txt.sam
  -hptl_clb_cal_control_access.txt.sam
  -hptl_clb_cal_control_address.txt.sam
  -hptl_clb_cal_control_adrbook.txt.sam
  -hptl_clb_cal_control_folder.txt.sam
  -runPdloadAbaccess.bat.sam
  -runPdloadAbid.bat.sam
  -runPdloadAddress.bat.sam
  -runPdloadAddressbook.bat.sam

```

```
|runPdloadConfig.bat.sam  
|runPdloadFolder.bat.sam
```

付録B モデルケースごとのデータベース容量

Collaboration - Mail では、次に示す条件ごとのモデルケースを提供しています。

表 B-1 モデルケースの一覧（メール保存用データベースの場合）

モデルケース	RRN (単位：人)	CMN (単位：通)	PFP×PFN (単位：個)
モデルケース 1	100	100	1
モデルケース 2	100	100	2
モデルケース 3	100	500	1
モデルケース 4	500	100	1
モデルケース 5	500	100	2
モデルケース 6	500	500	1
モデルケース 7	1,000	100	1
モデルケース 8	1,000	100	2
モデルケース 9	1,000	500	1
モデルケース 10	5,000	100	1
モデルケース 11	5,000	100	2
モデルケース 12	5,000	500	1

(凡例)

RRN：システム内で作成するフォルダの最大数（＝ユーザ数）

CMN：一つのフォルダに登録するメールの最大数

PFP×PFN：メール 1 通当たりの添付ファイルの数

表 B-2 モデルケースの一覧（宛先台帳用データベースの場合）

モデルケース	USR (単位：人)	GRP (単位：個)	GRA (単位：人)
モデルケース 1	100	100	50
モデルケース 2	100	100	100
モデルケース 3	100	500	50
モデルケース 4	500	100	50
モデルケース 5	500	100	100
モデルケース 6	500	500	50
モデルケース 7	1,000	100	50
モデルケース 8	1,000	100	100
モデルケース 9	1,000	500	50
モデルケース 10	5,000	100	50

モデルケース	USR (単位：人)	GRP (単位：個)	GRA (単位：人)
モデルケース 11	5,000	100	100
モデルケース 12	5,000	500	50

(凡例)

USR：宛先台帳の想定レコード数 (=ユーザ数)

GRP：システム内に作成されるグループ宛先台帳の数

GRA：一つのグループ宛先台帳を参照するユーザ数

ここで示した値と想定値が異なる場合は、想定値より大きい値のモデルケースを使用してください。例えばメール保存用のデータベースの場合、RRNの想定値が200のときは、RRNの値が500のモデルケースを使用してデータベースを構築してください。

なお、RD エリア、テーブル、およびインデクスの容量は、次の表に示す仮定値を使用して算出しています。

表 B-3 容量見積もりの仮定値 (メール保存用データベースの場合)

項番	記号	項目	仮定値	単位
1	CSB	主題の長さ (平均値)	72	バイト
2	CTX	本文の長さ (平均値)	2,560	バイト
3	PFS	メールに添付するファイルのファイルサイズ (平均値)	512,000	バイト
4	PPT	メールに添付するファイルの名前 (フルパス) の長さ (平均値)	20	バイト
5	CRP	一つのメールに指定する宛先の人数 (平均値)	5	人
6	UCE	ユーザの役職の英語名の長さ (平均値)	24	バイト
7	UCJ	ユーザの役職の日本語名の長さ (平均値)	12	バイト
8	UID	ユーザ ID の長さ (平均値)	8	バイト
9	UNE	ユーザの英語名の長さ (平均値)	16	バイト
10	UNJ	ユーザの日本語名の長さ (平均値)	15	バイト
11	URE	ユーザの所属する組織の英語名の長さ (平均値)	64	バイト
12	URJ	ユーザの所属する組織の日本語名の長さ (平均値)	48	バイト
13	UNN	ユーザのニックネーム	16	バイト
14	UEA	ユーザの E-mail アドレスの長さ	40	バイト
15	UEC	ユーザの E-mail コメントの長さ	16	バイト
16	PTR	添付ファイルサイズに含まれるテキストデータサイズの割合 (範囲：0.0~1.0 例：12.3%の場合は0.123)	0.5	—

(凡例)

—：ありません。

表 B-4 容量見積もりの仮定値（宛先台帳用データベースの場合）

項番	記号	項目	仮定値（単位：バイト）
1	ABK	宛先台帳用 ID 管理の想定レコード数	1
2	FDN	一つの宛先台帳内に作成されるフォルダの数	10
3	ADN	一つの宛先台帳内に登録される宛先の数	200
4	UID	ユーザ ID/持ち主 ID の長さ	8
5	JNM	ユーザの日本語名の長さ	15
6	ENM	ユーザの英語名の長さ	16
7	FLD	フォルダ名の長さ	15
8	ADR	宛先の長さ	32
9	CMT	コメントの長さ	15

ここに示した仮定値より大きい値を想定している場合は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド（Windows(R)用）」に記載されている見積もり式に「付録 C データベース容量の見積もりで使用する値」に示す値を代入して、データベース容量を見積もってください。

付録 B.1 モデルケースごとの RD エリアの容量

モデルケースごとの RD エリアの容量を次の表に示します。

表 B-5 モデルケースごとの RD エリアの容量（メール保存用）

RRN	RD エリア名	CMN : 100 PFP×PFN : 1		CMN : 100 PFP×PFN : 2		CMN : 500 PFP×PFN : 1	
		セグメント数	RD エリアの容量（単位：KB）	セグメント数	RD エリアの容量（単位：KB）	セグメント数	RD エリアの容量（単位：KB）
100	CMLR DDAT A10	181	29,128	181	29,128	903	144,696
	CMLR DDAT A20	723	115,880	723	115,880	3,612	578,304
	CMLR DDAT A30	35	2,896	69	5,620	172	13,864
	CMLR DDAT A40	66	5,380	66	5,380	329	26,436
	CMLR DDAT A50	1	176	1	176	1	176

RRN	RD エリア名	CMN : 100 PFP×PFN : 1		CMN : 100 PFP×PFN : 2		CMN : 500 PFP×PFN : 1	
		セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)
100	CMLR DDAT A60	1	176	1	176	1	176
	CMLR DDAT A70	12	1,056	12	1,056	12	1,056
	CMLR DIND X10	89	7,220	89	7,220	514	41,248
	CMLR DIND X20	10	896	10	896	48	3,936
	CMLR DIND X30	29	2,416	54	4,416	130	10,504
	CMLR DIND X40	15	1,296	15	1,296	70	5,700
	CMLR DIND X50	20	1,696	20	1,696	20	1,696
	CMLR DIND X60	2	256	2	256	2	256
	CMLR DLOB B10	630,000	5,048,320	1,260,000	10,095,616	3,150,000	25,238,528
	CMLR DLOB D10	30,484	244,736	30,484	244,736	150,484	1,206,272
	CMLR DLOB D20	810,484	6,494,208	1,620,484	12,984,320	4,050,484	32,453,632
	CMLR DLOB I10	48,808	392,192	48,808	392,192	72,395	581,632
	CMLR DLOB I20	960,709	7,698,432	1,898,296	15,209,472	4,711,060	37,745,664

RRN	RD エリア名	CMN : 100 PFP×PFN : 1		CMN : 100 PFP×PFN : 2		CMN : 500 PFP×PFN : 1	
		セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)
500	CMLR DDAT A10	903	144,696	903	144,696	4,514	722,680
	CMLR DDAT A20	3,612	578,304	3,612	578,304	18,056	2,890,256
	CMLR DDAT A30	172	13,864	344	27,636	860	68,948
	CMLR DDAT A40	329	26,436	329	26,436	1,642	131,560
	CMLR DDAT A50	1	176	1	176	1	176
	CMLR DDAT A60	1	176	1	176	1	176
	CMLR DDAT A70	20	1,696	20	1,696	20	1,696
	CMLR DIND X10	413	33,160	413	33,160	2,522	202,016
	CMLR DIND X20	48	3,936	48	3,936	237	19,068
	CMLR DIND X30	130	10,504	256	20,592	638	51,176
	CMLR DIND X40	70	5,700	70	5,700	348	27,956
	CMLR DIND X50	22	1,856	22	1,856	22	1,856
	CMLR DIND X60	2	256	2	256	2	256

RRN	RD エリア名	CMN : 100 PFP×PFN : 1		CMN : 100 PFP×PFN : 2		CMN : 500 PFP×PFN : 1	
		セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)
500	CMLR DLOB B10	3,150,000	25,238,528	6,300,000	50,477,056	15,750,000	126,190,592
	CMLR DLOB D10	150,484	1,206,272	150,484	1,206,272	750,484	6,013,952
	CMLR DLOB D20	4,050,484	32,453,632	8,100,484	64,902,144	20,250,484	162,247,680
	CMLR DLOB I10	72,395	581,632	72,395	581,632	269,490	2,160,640
	CMLR DLOB I20	4,711,060	37,745,664	9,398,998	75,304,960	23,462,818	187,984,896
1,000	CMLR DDAT A10	1,806	289,232	1,806	289,232	9,028	1,445,208
	CMLR DDAT A20	7,223	1,156,288	7,223	1,156,288	36,112	5,780,352
	CMLR DDAT A30	344	27,636	688	55,176	1,720	137,804
	CMLR DDAT A40	657	52,696	657	52,696	3,283	262,944
	CMLR DDAT A50	1	176	1	176	1	176
	CMLR DDAT A60	1	176	1	176	1	176
	CMLR DDAT A70	33	2,736	33	2,736	33	2,736
	CMLR DIND X10	821	131,568	821	65,828	5,038	403,452

RRN	RD エリア名	CMN : 100 PFP×PFN : 1		CMN : 100 PFP×PFN : 2		CMN : 500 PFP×PFN : 1	
		セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)
1,000	CMLR DIND X20	95	15,360	95	7,700	472	37,884
	CMLR DIND X30	256	20,592	511	41,008	1,271	101,856
	CMLR DIND X40	140	11,304	140	11,304	695	55,740
	CMLR DIND X50	30	2,496	30	2,496	30	2,496
	CMLR DIND X60	2	256	2	256	2	256
	CMLR DLOB B10	6,300,000	50,477,056	12,600,000	100,952,064	31,500,000	252,379,136
	CMLR DLOB D10	300,484	2,408,448	300,484	2,408,448	1,500,484	12,022,784
	CMLR DLOB D20	8,100,484	64,902,144	16,200,484	129,799,168	40,500,484	324,490,240
	CMLR DLOB I10	121,667	975,872	121,667	975,872	515,857	4,133,888
	CMLR DLOB I20	9,398,998	75,304,960	18,774,877	150,425,600	46,902,514	375,783,424
5,000	CMLR DDAT A10	9,028	1,445,208	9,028	1,445,208	45,139	7,225,240
	CMLR DDAT A20	36,112	5,780,352	36,112	5,780,352	180,556	28,900,488
	CMLR DDAT A30	1,720	137,804	3,440	275,512	8,598	688,480

RRN	RD エリア名	CMN : 100 PFP×PFN : 1		CMN : 100 PFP×PFN : 2		CMN : 500 PFP×PFN : 1	
		セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)
5,000	CMLR DDAT A40	3,283	262,944	3,283	262,944	16,415	1,314,336
	CMLR DDAT A50	4	416	4	416	4	416
	CMLR DDAT A60	4	416	4	416	4	416
	CMLR DDAT A70	123	9,940	123	9,940	123	9,940
	CMLR DIND X10	4,052	324,512	4,052	324,512	25,145	2,013,292
	CMLR DIND X20	472	37,884	472	37,884	6,348	508,336
	CMLR DIND X30	1,271	101,856	2,542	203,616	2,359	188,964
	CMLR DIND X40	695	55,740	695	55,740	3,472	278,076
	CMLR DIND X50	82	6,660	82	6,660	82	6,660
	CMLR DIND X60	5	496	5	496	5	496
	CMLR DLOB B10	31,500,000	252,379,136	63,000,000	504,757,248	157,500,000	1,261,890,560
	CMLR DLOB D10	1,500,484	12,022,784	1,500,484	12,022,784	7,500,484	60,095,488
	CMLR DLOB D20	40,500,484	324,490,240	81,000,484	648,976,384	202,500,484	1,622,434,816

		CMN : 100 PFP×PFN : 1		CMN : 100 PFP×PFN : 2		CMN : 500 PFP×PFN : 1	
RRN	RD エリア名	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)
5,000	CMLR DLOB I10	515,857	4,133,888	515,857	4,133,888	2,486,815	19,924,992
	CMLR DLOB I20	46,902,514	375,783,424	93,781,909	751,381,504	234,420,103	1,878,174,720

(凡例)

RRN : システム内で作成するフォルダの最大数 (=ユーザ数)

CMN : 一つのフォルダに登録するメールの最大数

PFP×PFN : メール 1 通当たりの添付ファイルの数

表 B-6 モデルケースごとの RD エリアの容量 (宛先台帳用)

		GRP : 100 GRA : 50		GRP : 100 GRA : 100		GRP : 500 GRA : 50	
USR	RD エリア名	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)
100	CMLADBKDA TA1	10	896	15	1,296	34	2,816
	CMLADBKDA TA2	145	11,704	145	11,704	434	34,840
	CMLADBKIDX 1	15	1,296	22	1,856	48	3,936
	CMLADBKIDX 2	136	10,984	136	10,984	405	32,520
	CMLADBKIDX 3	9	816	18	1,536	43	3,536
500	CMLADBKDA TA1	16	1,376	20	1,696	40	3,296
	CMLADBKDA TA2	434	34,840	434	34,840	723	57,980
	CMLADBKIDX 1	20	1,696	27	2,256	53	4,336
	CMLADBKIDX 2	405	32,520	405	32,520	672	53,896
	CMLADBKIDX 3	10	896	18	1,536	44	3,616

USR	RD エリア名	GRP : 100 GRA : 50		GRP : 100 GRA : 100		GRP : 500 GRA : 50	
		セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (単位: KB)
1,000	CMLADBKDATA1	23	1,936	28	2,336	47	3,856
	CMLADBKDATA2	795	63,744	795	63,744	1,084	86,884
	CMLADBKIDX1	29	2,416	36	2,976	63	5,136
	CMLADBKIDX2	740	59,340	740	59,340	1,009	80,880
	CMLADBKIDX3	11	976	19	1,616	45	3,696
5,000	CMLADBKDATA1	81	6,580	85	6,900	105	8,500
	CMLADBKDATA2	3,684	295,048	3,684	295,048	3,973	318,188
	CMLADBKIDX1	96	7,780	103	8,340	129	10,424
	CMLADBKIDX2	3,425	274,312	3,425	274,312	3,692	295,688
	CMLADBKIDX3	18	1,536	26	2,176	51	4,176

(凡例)

USR : 宛先台帳の想定レコード数 (=ユーザ数)

GRP : システム内に作成されるグループ宛先台帳の数

GRA : 一つのグループ宛先台帳を参照するユーザ数

付録 B.2 モデルケースごとのテーブルおよびインデクスのセグメント数

モデルケースごとのテーブルおよびインデクスのセグメント数を次に示します。

(1) モデルケース 1 の場合

モデルケース 1 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-7 モデルケース 1 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数 (メール保存用データベース)

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLRDDATA10	tbl_opinion	181

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
2	CMLRDDATA20	tbl_contents	723
3	CMLRDDATA30	tbl_apdfile	35
4	CMLRDDATA40	tbl_aldyread	66
5	CMLRDDATA50	tbl_sequence1	1
6	CMLRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CMLRDDATA70	tbl_forum	2
8		tbl_mainforum	1
9		tbl_uaccess	1
10		tbl_importance	1
11		tbl_attribute	1
12		tbl_state	1
13		tbl_mattribute	1
14		tbl_mimportance	1
15		tbl_mstate	1
16		tbl_param	1
17		tbl_mailuser	0
18		tbl_caccess	0
19		tbl_oaccess	0
20		tbl_mtcaccess	0
21		tbl_mtattribute	1
22	CMLRDINDX10	tbl_opinion のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス	10
23		idx_opinion1	2
24		idx_opinion2	2
25		idx_opinion3	2
26		idx_opinion4	2
27		idx_opinion5	2
28		idx_opinion6	2
29		idx_opinion7	2
30		idx_opinion8	2
31		idx_opinion9	15

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
32	CMLRDINDEX10	idx_opinion10	15
33		idx_opinion11	16
34		idx_opinion12	15
35		idx_opinion13	2
36	CMLRDINDEX20	tbl_contents のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス	10
37	CMLRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「FID」および「APDFILEID」に定義されているインデクス	10
38		idx_apdfile1	2
39		idx_apdfile3	15
40		idx_apdfile4	2
41	CMLRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「FID」, 「OPNID」, および「USERID」に定義されているインデクス	15
42	CMLRDINDEX50	tbl_forum のカラム「FID」に定義されているインデクス	1
43		tbl_forum のカラム「USERID」に定義されているインデクス	1
44		tbl_mainforum のカラム「FMAINID」に定義されているインデクス	1
45		idx_mainforum1	1
46		tbl_uaccess のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	1
47		idx_uaccess1	1
48		tbl_importance のカラム「FID」および「IMPID」に定義されているインデクス	1
49		tbl_attribute のカラム「FID」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1
50		tbl_state のカラム「FID」および「STATEID」に定義されているインデクス	1
51		tbl_mattribute のカラム「ATTRID」および「LANG」に定義されているインデクス	1
52	tbl_mimportance のカラム「IMPID」および「LANG」に定義されているインデクス	1	

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数	
53	CMLRDINDEX50	tbl_mimportance のカラム「STATEID」および「LANG」に定義されているインデクス	1	
54		tbl_param のカラム「PKEY」に定義されているインデクス	1	
55		tbl_mailuser のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	1	
56		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス <ul style="list-style-type: none"> • FID • COMID • WORKID • ROLEID 	1	
57		idx_caccess1	1	
58		tbl_oaccess のカラム「FID」および「ORGID」に定義されているインデクス	1	
59		idx_oaccess1	1	
60		tbl_mtcaccess のカラム「FTYPE」および「ROLEID」に定義されているインデクス	1	
61		tbl_mtattribute のカラム「FTYPE」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1	
62		CMLRDINDEX60	idx_sequence1	1
63			idx_sequence2	1

表 B-8 モデルケース 1 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数 (宛先台帳用データベース)

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLADBKDATA1	tbl_abid	1
2		tbl_addressbook	1
3		tbl_abaccess	5
4		tbl_folder	3
5	CMLADBKDATA2	tbl_address	145
6	CMLADBKIDX1	tbl_abid のカラム「ABIDSQ」に定義されているインデクス	1
7		tbl_addressbook のカラム「ABID」に定義されているインデクス	1

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
8	CMLADBKIDX1	IDX_ABOWNER	1
9		tbl_abaccess のカラム「ABID」, 「OBJID」, および「OBJTYPE」に定義さ れているインデクス	8
10		tbl_folder のカラム「ABID」および 「FLDID」に定義されているインデクス	3
11		IDX_FLDOFLD	1
12	CMLADBKIDX2	tbl_address のカラム「ABID」および 「ADRID」に定義されているインデクス	38
13		IDX_ADRFLD	11
14		IDX_ADRSTR	87
15	CMLADBKIDX3	IDX_ACCOBJID	9

(2) モデルケース 2 の場合

モデルケース 2 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-9 モデルケース 2 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数 (メール保存用データベース)

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLRDDATA10	tbl_opinion	181
2	CMLRDDATA20	tbl_contents	723
3	CMLRDDATA30	tbl_apdfile	69
4	CMLRDDATA40	tbl_aldyread	66
5	CMLRDDATA50	tbl_sequence1	1
6	CMLRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CMLRDDATA70	tbl_forum	2
8		tbl_mainforum	1
9		tbl_uaccess	1
10		tbl_importance	1
11		tbl_attribute	1
12		tbl_state	1
13		tbl_mattribute	1
14		tbl_mimportance	1
15	tbl_mstate	1	

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
16	CMLRDDATA70	tbl_param	1
17		tbl_mailuser	0
18		tbl_caccess	0
19		tbl_oaccess	0
20		tbl_mtcaccess	0
21		tbl_mtattribute	1
22		CMLRDINDX10	tbl_opinion のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス
23	idx_opinion1		2
24	idx_opinion2		2
25	idx_opinion3		2
26	idx_opinion4		2
27	idx_opinion5		2
28	idx_opinion6		2
29	idx_opinion7		2
30	idx_opinion8		2
31	idx_opinion9		15
32	idx_opinion10		15
33	idx_opinion11		16
34	idx_opinion12		15
35	idx_opinion13	2	
36	CMLRDINDX20	tbl_contents のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス	10
37	CMLRDINDX30	tbl_apdfile のカラム「FID」および「APDFILEID」に定義されているインデクス	20
38		idx_apdfile1	3
39		idx_apdfile3	28
40		idx_apdfile4	3
41	CMLRDINDX40	tbl_aldyread のカラム「FID」, 「OPNID」, および「USERID」に定義されているインデクス	15
42	CMLRDINDX50	tbl_forum のカラム「FID」に定義されているインデクス	1

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
43	CMLRDINDX50	tbl_forum のカラム「USERID」に定義されているインデクス	1
44		tbl_mainforum のカラム「FMAINID」に定義されているインデクス	1
45		idx_mainforum1	1
46		tbl_uaccess のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	1
47		idx_uaccess1	1
48		tbl_importance のカラム「FID」および「IMPID」に定義されているインデクス	1
49		tbl_attribute のカラム「FID」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1
50		tbl_state のカラム「FID」および「STATEID」に定義されているインデクス	1
51		tbl_mattribute のカラム「ATTRID」および「LANG」に定義されているインデクス	1
52		tbl_mimportance のカラム「IMPID」および「LANG」に定義されているインデクス	1
53		tbl_mimportance のカラム「STATEID」および「LANG」に定義されているインデクス	1
54		tbl_param のカラム「PKEY」に定義されているインデクス	1
55		tbl_mailuser のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	1
56		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス <ul style="list-style-type: none"> • FID • COMID • WORKID • ROLEID 	1
57		idx_caccess1	1
58		tbl_oaccess のカラム「FID」および「ORGID」に定義されているインデクス	1
59	idx_oaccess1	1	
60	tbl_mtcaccess のカラム「FTYPE」および「ROLEID」に定義されているインデクス	1	

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
61	CMLRDINDX50	tbl_mtattribute のカラム「FTYPE」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1
62	CMLRDINDX60	idx_sequence1	1
63		idx_sequence2	1

表 B-10 モデルケース 2 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数 (宛先台帳用データベース)

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLADBKDATA1	tbl_abid	1
2		tbl_addressbook	1
3		tbl_abaccess	10
4		tbl_folder	3
5	CMLADBKDATA2	tbl_address	145
6	CMLADBKIDX1	tbl_abid のカラム「ABIDSQ」に定義されているインデクス	1
7		tbl_addressbook のカラム「ABID」に定義されているインデクス	1
8		IDX_ABOWNER	1
9		tbl_abaccess のカラム「ABID」, 「OBJID」, および「OBJTYPE」に定義されているインデクス	15
10		tbl_folder のカラム「ABID」および「FLDID」に定義されているインデクス	3
11		IDX_FLDOFLD	1
12	CMLADBKIDX2	tbl_address のカラム「ABID」および「ADRID」に定義されているインデクス	38
13		IDX_ADRFLD	11
14		IDX_ADRSTR	87
15	CMLADBKIDX3	IDX_ACCOBJID	18

(3) モデルケース 3 の場合

モデルケース 3 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表B-11 モデルケース3の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数（メール保存用データベース）

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLRDDATA10	tbl_opinion	903
2	CMLRDDATA20	tbl_contents	3,612
3	CMLRDDATA30	tbl_apdfile	172
4	CMLRDDATA40	tbl_aldyread	329
5	CMLRDDATA50	tbl_sequence1	1
6	CMLRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CMLRDDATA70	tbl_forum	2
8		tbl_mainforum	1
9		tbl_uaccess	1
10		tbl_importance	1
11		tbl_attribute	1
12		tbl_state	1
13		tbl_mattribute	1
14		tbl_mimportance	1
15		tbl_mstate	1
16		tbl_param	1
17		tbl_mailuser	0
18		tbl_caccess	0
19		tbl_oaccess	0
20		tbl_mtcaccess	0
21	tbl_mtattribute	1	
22	CMLRDINDEX10	tbl_opinion のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス	48
23		idx_opinion1	21
24		idx_opinion2	21
25		idx_opinion3	21
26		idx_opinion4	21
27		idx_opinion5	26
28		idx_opinion6	21
29		idx_opinion7	21

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
30	CMLRDINDEX10	idx_opinion8	21
31		idx_opinion9	70
32		idx_opinion10	70
33		idx_opinion11	77
34		idx_opinion12	70
35		idx_opinion13	6
36		CMLRDINDEX20	tbl_contents のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス
37	CMLRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「FID」および「APDFILEID」に定義されているインデクス	48
38		idx_apdfile1	6
39		idx_apdfile3	70
40		idx_apdfile4	6
41	CMLRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「FID」, 「OPNID」, および「USERID」に定義されているインデクス	70
42	CMLRDINDEX50	tbl_forum のカラム「FID」に定義されているインデクス	1
43		tbl_forum のカラム「USERID」に定義されているインデクス	1
44		tbl_mainforum のカラム「FMAINID」に定義されているインデクス	1
45		idx_mainforum1	1
46		tbl_uaccess のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	1
47		idx_uaccess1	1
48		tbl_importance のカラム「FID」および「IMPID」に定義されているインデクス	1
49		tbl_attribute のカラム「FID」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1
50		tbl_state のカラム「FID」および「STATEID」に定義されているインデクス	1
51	tbl_mattribute のカラム「ATTRID」および「LANG」に定義されているインデクス	1	

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
52	CMLRDINDX50	tbl_mimportance のカラム「IMPID」および「LANG」に定義されているインデクス	1
53		tbl_mimportance のカラム「STATEID」および「LANG」に定義されているインデクス	1
54		tbl_param のカラム「PKEY」に定義されているインデクス	1
55		tbl_mailuser のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	1
56		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス <ul style="list-style-type: none"> • FID • COMID • WORKID • ROLEID 	1
57		idx_caccess1	1
58		tbl_oaccess のカラム「FID」および「ORGID」に定義されているインデクス	1
59		idx_oaccess1	1
60		tbl_mtcaccess のカラム「FTYPE」および「ROLEID」に定義されているインデクス	1
61		tbl_mtattribute のカラム「FTYPE」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1
62		CMLRDINDX60	idx_sequence1
63	idx_sequence2		1

表B-12 モデルケース3の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数（宛先台帳用データベース）

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLADBKDATA1	tbl_abid	1
2		tbl_addressbook	2
3		tbl_abaccess	24
4		tbl_folder	7
5	CMLADBKDATA2	tbl_address	434
6	CMLADBKIDX1	tbl_abid のカラム「ABIDSQ」に定義されているインデクス	1

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
7	CMLADBKIDX1	tbl_addressbook のカラム「ABID」に定義されているインデクス	1
8		IDX_ABOWNER	1
9		tbl_abaccess のカラム「ABID」, 「OBJID」, および「OBJTYPE」に定義されているインデクス	36
10		tbl_folder のカラム「ABID」および「FLDID」に定義されているインデクス	6
11		IDX_FLDOFLD	3
12	CMLADBKIDX2	tbl_address のカラム「ABID」および「ADRID」に定義されているインデクス	114
13		IDX_ADRFLD	32
14		IDX_ADRSTR	259
15	CMLADBKIDX3	IDX_ACCOBJID	43

(4) モデルケース 4 の場合

モデルケース 4 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-13 モデルケース 4 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数（メール保存用データベース）

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLRDDATA10	tbl_opinion	903
2	CMLRDDATA20	tbl_contents	3,612
3	CMLRDDATA30	tbl_apdfile	172
4	CMLRDDATA40	tbl_aldyread	329
5	CMLRDDATA50	tbl_sequence1	1
6	CMLRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CMLRDDATA70	tbl_forum	6
8		tbl_mainforum	2
9		tbl_uaccess	1
10		tbl_importance	3
11		tbl_attribute	1
12		tbl_state	2
13		tbl_mattribute	1

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
14	CMLRDDATA70	tbl_mimportance	1
15		tbl_mstate	1
16		tbl_param	1
17		tbl_mailuser	0
18		tbl_caccess	0
19		tbl_oaccess	0
20		tbl_mtcaccess	0
21		tbl_mtattribute	1
22		CMLRDINDX10	tbl_opinion のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス
23	idx_opinion1		9
24	idx_opinion2		9
25	idx_opinion3		9
26	idx_opinion4		9
27	idx_opinion5		9
28	idx_opinion6		9
29	idx_opinion7		9
30	idx_opinion8		9
31	idx_opinion9		70
32	idx_opinion10		70
33	idx_opinion11		77
34	idx_opinion12		70
35	idx_opinion13	6	
36	CMLRDINDX20	tbl_contents のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス	48
37	CMLRDINDX30	tbl_apdfile のカラム「FID」および「APDFILEID」に定義されているインデクス	48
38		idx_apdfile1	6
39		idx_apdfile3	70
40		idx_apdfile4	6

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
41	CMLRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム 「FID」, 「OPNID」, および 「USERID」 に定義さ れているインデクス	70
42	CMLRDINDEX50	tbl_forum のカラム 「FID」 に定義され ているインデクス	1
43		tbl_forum のカラム 「USERID」 に定義さ れているインデクス	1
44		tbl_mainforum のカラム 「FMAINID」 に 定義されているインデクス	2
45		idx_mainforum1	1
46		tbl_uaccess のカラム 「FID」 および 「USERID」 に定義されているインデクス	1
47		idx_uaccess1	1
48		tbl_importance のカラム 「FID」 および 「IMPID」 に定義されているインデクス	2
49		tbl_attribute のカラム 「FID」 および 「ATTRID」 に定義されているインデクス	1
50		tbl_state のカラム 「FID」 および 「STATEID」 に定義されているインデクス	1
51		tbl_mattribute のカラム 「ATTRID」 およ び 「LANG」 に定義されているインデクス	1
52		tbl_mimportance のカラム 「IMPID」 お よび 「LANG」 に定義されているインデク ス	1
53		tbl_mimportance のカラム 「STATEID」 および 「LANG」 に定義されているインデ クス	1
54		tbl_param のカラム 「PKEY」 に定義され ているインデクス	1
55		tbl_mailuser のカラム 「FID」 および 「USERID」 に定義されているインデクス	1
56	tbl_caccess の次のカラムに定義されてい るインデクス <ul style="list-style-type: none"> • FID • COMID • WORKID • ROLEID 	1	
57	idx_caccess1	1	

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
58	CMLRDINDEX50	tbl_oaccess のカラム「FID」および「ORGID」に定義されているインデクス	1
59		idx_oaccess1	1
60		tbl_mtcaccess のカラム「FTYPE」および「ROLEID」に定義されているインデクス	1
61		tbl_mtattribute のカラム「FTYPE」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1
62	CMLRDINDEX60	idx_sequence1	1
63		idx_sequence2	1

表 B-14 モデルケース 4 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数 (宛先台帳用データベース)

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLADBKDATA1	tbl_abid	1
2		tbl_addressbook	2
3		tbl_abaccess	6
4		tbl_folder	7
5	CMLADBKDATA2	tbl_address	434
6	CMLADBKIDX1	tbl_abid のカラム「ABIDSQ」に定義されているインデクス	1
7		tbl_addressbook のカラム「ABID」に定義されているインデクス	1
8		IDX_ABOWNER	1
9		tbl_abaccess のカラム「ABID」, 「OBJID」, および「OBJTYPE」に定義されているインデクス	8
10		tbl_folder のカラム「ABID」および「FLDID」に定義されているインデクス	6
11		IDX_FLDOFLD	3
12	CMLADBKIDX2	tbl_address のカラム「ABID」および「ADRID」に定義されているインデクス	114
13		IDX_ADRFLD	32
14		IDX_ADRSTR	259
15	CMLADBKIDX3	IDX_ACCOBJID	10

(5) モデルケース 5 の場合

モデルケース 5 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-15 モデルケース 5 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数（メール保存用データベース）

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLRDDATA10	tbl_opinion	903
2	CMLRDDATA20	tbl_contents	3,612
3	CMLRDDATA30	tbl_apdfile	344
4	CMLRDDATA40	tbl_aldyread	329
5	CMLRDDATA50	tbl_sequence1	1
6	CMLRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CMLRDDATA70	tbl_forum	6
8		tbl_mainforum	2
9		tbl_uaccess	1
10		tbl_importance	3
11		tbl_attribute	1
12		tbl_state	2
13		tbl_mattribute	1
14		tbl_mimportance	1
15		tbl_mstate	1
16		tbl_param	1
17		tbl_mailuser	0
18		tbl_caccess	0
19		tbl_oaccess	0
20		tbl_mtcaccess	0
21		tbl_mtattribute	1
22	CMLRDINDX10	tbl_opinion のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス	48
23		idx_opinion1	9
24		idx_opinion2	9
25		idx_opinion3	9
26		idx_opinion4	9

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
27	CMLRDINDEX10	idx_opinion5	9
28		idx_opinion6	9
29		idx_opinion7	9
30		idx_opinion8	9
31		idx_opinion9	70
32		idx_opinion10	70
33		idx_opinion11	77
34		idx_opinion12	70
35		idx_opinion13	6
36		CMLRDINDEX20	tbl_contents のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス
37	CMLRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「FID」および「APDFILEID」に定義されているインデクス	95
38		idx_apdfile1	11
39		idx_apdfile3	139
40		idx_apdfile4	11
41	CMLRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「FID」, 「OPNID」, および「USERID」に定義されているインデクス	70
42	CMLRDINDEX50	tbl_forum のカラム「FID」に定義されているインデクス	1
43		tbl_forum のカラム「USERID」に定義されているインデクス	1
44		tbl_mainforum のカラム「FMAINID」に定義されているインデクス	2
45		idx_mainforum1	1
46		tbl_uaccess のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	1
47		idx_uaccess1	1
48		tbl_importance のカラム「FID」および「IMPID」に定義されているインデクス	2
49		tbl_attribute のカラム「FID」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1
50		tbl_state のカラム「FID」および「STATEID」に定義されているインデクス	1

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数	
51	CMLRDINDX50	tbl_mattribute のカラム「ATTRID」および「LANG」に定義されているインデクス	1	
52		tbl_mimportance のカラム「IMPID」および「LANG」に定義されているインデクス	1	
53		tbl_mimportance のカラム「STATEID」および「LANG」に定義されているインデクス	1	
54		tbl_param のカラム「PKEY」に定義されているインデクス	1	
55		tbl_mailuser のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	1	
56		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス <ul style="list-style-type: none"> • FID • COMID • WORKID • ROLEID 	1	
57		idx_caccess1	1	
58		tbl_oaccess のカラム「FID」および「ORGID」に定義されているインデクス	1	
59		idx_oaccess1	1	
60		tbl_mtcaccess のカラム「FTYPE」および「ROLEID」に定義されているインデクス	1	
61		tbl_mtattribute のカラム「FTYPE」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1	
62		CMLRDINDX60	idx_sequence1	1
63			idx_sequence2	1

表 B-16 モデルケース 5 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数 (宛先台帳用データベース)

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLADBKDATA1	tbl_abid	1
2		tbl_addressbook	2
3		tbl_abaccess	10
4		tbl_folder	7
5	CMLADBKDATA2	tbl_address	434

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
6	CMLADBKIDX1	tbl_abid のカラム「ABIDSQ」に定義されているインデクス	1
7		tbl_addressbook のカラム「ABID」に定義されているインデクス	1
8		IDX_ABOWNER	1
9		tbl_abaccess のカラム「ABID」, 「OBJID」, および「OBJTYPE」に定義されているインデクス	15
10		tbl_folder のカラム「ABID」および「FLDID」に定義されているインデクス	6
11		IDX_FLDOFLD	3
12	CMLADBKIDX2	tbl_address のカラム「ABID」および「ADRID」に定義されているインデクス	114
13		IDX_ADRFLD	32
14		IDX_ADRSTR	259
15	CMLADBKIDX3	IDX_ACCOBJID	18

(6) モデルケース 6 の場合

モデルケース 6 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-17 モデルケース 6 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数（メール保存用データベース）

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLRDDATA10	tbl_opinion	4,514
2	CMLRDDATA20	tbl_contents	18,056
3	CMLRDDATA30	tbl_apdfile	860
4	CMLRDDATA40	tbl_aldyread	1,642
5	CMLRDDATA50	tbl_sequence1	1
6	CMLRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CMLRDDATA70	tbl_forum	6
8		tbl_mainforum	2
9		tbl_uaccess	1
10		tbl_importance	3
11		tbl_attribute	1

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
12	CMLRDDATA70	tbl_state	2
13		tbl_mattribute	1
14		tbl_mimportance	1
15		tbl_mstate	1
16		tbl_param	1
17		tbl_mailuser	0
18		tbl_caccess	0
19		tbl_oaccess	0
20		tbl_mtcaccess	0
21		tbl_mtattribute	1
22		CMLRDINDX10	tbl_opinion のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス
23	idx_opinion1		101
24	idx_opinion2		101
25	idx_opinion3		101
26	idx_opinion4		101
27	idx_opinion5		126
28	idx_opinion6		101
29	idx_opinion7		101
30	idx_opinion8		101
31	idx_opinion9		347
32	idx_opinion10		347
33	idx_opinion11		384
34	idx_opinion12		347
35	idx_opinion13	27	
36	CMLRDINDX20	tbl_contents のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス	237
37	CMLRDINDX30	tbl_apdf file のカラム「FID」および「APDFILEID」に定義されているインデクス	237
38		idx_apdf file1	27
39		idx_apdf file3	347

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
40	CMLRDINDEX30	idx_apdfile4	27
41	CMLRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「FID」, 「OPNID」, および「USERID」に定義さ れているインデクス	348
42	CMLRDINDEX50	tbl_forum のカラム「FID」に定義されて いるインデクス	1
43		tbl_forum のカラム「USERID」に定義さ れているインデクス	1
44		tbl_mainforum のカラム「FMAINID」に 定義されているインデクス	2
45		idx_mainforum1	1
46		tbl_uaccess のカラム「FID」および 「USERID」に定義されているインデクス	1
47		idx_uaccess1	1
48		tbl_importance のカラム「FID」および 「IMPID」に定義されているインデクス	2
49		tbl_attribute のカラム「FID」および 「ATTRID」に定義されているインデクス	1
50		tbl_state のカラム「FID」および 「STATEID」に定義されているインデクス	1
51		tbl_mattribute のカラム「ATTRID」およ び「LANG」に定義されているインデクス	1
52		tbl_mimportance のカラム「IMPID」お よび「LANG」に定義されているインデク ス	1
53		tbl_mimportance のカラム「STATEID」 および「LANG」に定義されているインデ クス	1
54		tbl_param のカラム「PKEY」に定義され ているインデクス	1
55		tbl_mailuser のカラム「FID」および 「USERID」に定義されているインデクス	1
56		tbl_caccess の次のカラムに定義されてい るインデクス <ul style="list-style-type: none"> • FID • COMID • WORKID • ROLEID 	1
57		idx_caccess1	1

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
58	CMLRDINDX50	tbl_oaccess のカラム「FID」および「ORGID」に定義されているインデクス	1
59		idx_oaccess1	1
60		tbl_mtcaccess のカラム「FTYPE」および「ROLEID」に定義されているインデクス	1
61		tbl_mtattribute のカラム「FTYPE」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1
62	CMLRDINDX60	idx_sequence1	1
63		idx_sequence2	1

表 B-18 モデルケース 6 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数（宛先台帳用データベース）

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLADBKDATA1	tbl_abid	1
2		tbl_addressbook	3
3		tbl_abaccess	24
4		tbl_folder	12
5	CMLADBKDATA2	tbl_address	723
6	CMLADBKIDX1	tbl_abid のカラム「ABIDSQ」に定義されているインデクス	1
7		tbl_addressbook のカラム「ABID」に定義されているインデクス	1
8		IDX_ABOWNER	1
9		tbl_abaccess のカラム「ABID」, 「OBJID」, および「OBJTYPE」に定義されているインデクス	36
10		tbl_folder のカラム「ABID」および「FLDID」に定義されているインデクス	10
11		IDX_FLDOFLD	4
12	CMLADBKIDX2	tbl_address のカラム「ABID」および「ADRID」に定義されているインデクス	189
13		IDX_ADRFLD	52
14		IDX_ADRSTR	431
15	CMLADBKIDX3	IDX_ACCOBJID	44

(7) モデルケース7の場合

モデルケース7の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表B-19 モデルケース7の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数（メール保存用データベース）

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLRDDATA10	tbl_opinion	1,806
2	CMLRDDATA20	tbl_contents	7,223
3	CMLRDDATA30	tbl_apdfile	344
4	CMLRDDATA40	tbl_aldyread	657
5	CMLRDDATA50	tbl_sequence1	1
6	CMLRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CMLRDDATA70	tbl_forum	11
8		tbl_mainforum	3
9		tbl_uaccess	2
10		tbl_importance	6
11		tbl_attribute	2
12		tbl_state	4
13		tbl_mattribute	1
14		tbl_mimportance	1
15		tbl_mstate	1
16		tbl_param	1
17		tbl_mailuser	0
18		tbl_caccess	0
19		tbl_oaccess	0
20		tbl_mtcaccess	0
21		tbl_mtattribute	1
22	CMLRDINDX10	tbl_opinion のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス	95
23		idx_opinion1	18
24		idx_opinion2	18
25		idx_opinion3	18
26		idx_opinion4	18

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
27	CMLRDINDEX10	idx_opinion5	18
28		idx_opinion6	18
29		idx_opinion7	18
30		idx_opinion8	18
31		idx_opinion9	139
32		idx_opinion10	139
33		idx_opinion11	154
34		idx_opinion12	139
35		idx_opinion13	11
36		CMLRDINDEX20	tbl_contents のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス
37	CMLRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「FID」および「APDFILEID」に定義されているインデクス	95
38		idx_apdfile1	11
39		idx_apdfile3	139
40		idx_apdfile4	11
41	CMLRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「FID」, 「OPNID」, および「USERID」に定義されているインデクス	140
42	CMLRDINDEX50	tbl_forum のカラム「FID」に定義されているインデクス	1
43		tbl_forum のカラム「USERID」に定義されているインデクス	2
44		tbl_mainforum のカラム「FMAINID」に定義されているインデクス	3
45		idx_mainforum1	2
46		tbl_uaccess のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	2
47		idx_uaccess1	2
48		tbl_importance のカラム「FID」および「IMPID」に定義されているインデクス	3
49		tbl_attribute のカラム「FID」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1
50		tbl_state のカラム「FID」および「STATEID」に定義されているインデクス	2

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
51	CMLRDINDX50	tbl_mattribute のカラム「ATTRID」および「LANG」に定義されているインデクス	1
52		tbl_mimportance のカラム「IMPID」および「LANG」に定義されているインデクス	1
53		tbl_mimportance のカラム「STATEID」および「LANG」に定義されているインデクス	1
54		tbl_param のカラム「PKEY」に定義されているインデクス	1
55		tbl_mailuser のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	1
56		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス <ul style="list-style-type: none"> • FID • COMID • WORKID • ROLEID 	1
57		idx_caccess1	2
58		tbl_oaccess のカラム「FID」および「ORGID」に定義されているインデクス	1
59		idx_oaccess1	1
60		tbl_mtcaccess のカラム「FTYPE」および「ROLEID」に定義されているインデクス	1
61		tbl_mtattribute のカラム「FTYPE」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1
62	CMLRDINDX60	idx_sequence1	1
63		idx_sequence2	1

表 B-20 モデルケース7 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数（宛先台帳用データベース）

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLADBKDATA1	tbl_abid	1
2		tbl_addressbook	3
3		tbl_abaccess	6
4		tbl_folder	13
5	CMLADBKDATA2	tbl_address	795

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
6	CMLADBKIDX1	tbl_abid のカラム「ABIDSQ」に定義されているインデクス	1
7		tbl_addressbook のカラム「ABID」に定義されているインデクス	1
8		IDX_ABOWNER	2
9		tbl_abaccess のカラム「ABID」, 「OBJID」, および「OBJTYPE」に定義されているインデクス	9
10		tbl_folder のカラム「ABID」 および「FLDID」に定義されているインデクス	11
11		IDX_FLDOFLD	5
12	CMLADBKIDX2	tbl_address のカラム「ABID」 および「ADRID」に定義されているインデクス	208
13		IDX_ADRFLD	58
14		IDX_ADRSTR	474
15	CMLADBKIDX3	IDX_ACCOBJID	11

(8) モデルケース 8 の場合

モデルケース 8 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-21 モデルケース 8 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数（メール保存用データベース）

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLRDDATA10	tbl_opinion	1,806
2	CMLRDDATA20	tbl_contents	7,223
3	CMLRDDATA30	tbl_apdfile	688
4	CMLRDDATA40	tbl_aldyread	657
5	CMLRDDATA50	tbl_sequence1	1
6	CMLRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CMLRDDATA70	tbl_forum	11
8		tbl_mainforum	3
9		tbl_uaccess	2
10		tbl_importance	6
11		tbl_attribute	2

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
12	CMLRDDATA70	tbl_state	4
13		tbl_mattribute	1
14		tbl_mimportance	1
15		tbl_mstate	1
16		tbl_param	1
17		tbl_mailuser	0
18		tbl_caccess	0
19		tbl_oaccess	0
20		tbl_mtcaccess	0
21		tbl_mttribute	1
22		CMLRDINDEX10	tbl_opinion のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス
23	idx_opinion1		18
24	idx_opinion2		18
25	idx_opinion3		18
26	idx_opinion4		18
27	idx_opinion5		18
28	idx_opinion6		18
29	idx_opinion7		18
30	idx_opinion8		18
31	idx_opinion9		139
32	idx_opinion10		139
33	idx_opinion11		154
34	idx_opinion12		139
35	idx_opinion13	11	
36	CMLRDINDEX20	tbl_contents のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス	95
37	CMLRDINDEX30	tbl_apdfid のカラム「FID」および「APDFID」に定義されているインデクス	189
38		idx_apdfid1	22
39		idx_apdfid3	278

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
40	CMLRDINDEX30	idx_apdfile4	22
41	CMLRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「FID」, 「OPNID」, および「USERID」に定義され ているインデクス	140
42	CMLRDINDEX50	tbl_forum のカラム「FID」に定義され ているインデクス	1
43		tbl_forum のカラム「USERID」に定義され ているインデクス	2
44		tbl_mainforum のカラム「FMAINID」に 定義されているインデクス	3
45		idx_mainforum1	2
46		tbl_uaccess のカラム「FID」および 「USERID」に定義されているインデクス	2
47		idx_uaccess1	2
48		tbl_importance のカラム「FID」および 「IMPID」に定義されているインデクス	3
49		tbl_attribute のカラム「FID」および 「ATTRID」に定義されているインデクス	1
50		tbl_state のカラム「FID」および 「STATEID」に定義されているインデクス	2
51		tbl_mattribute のカラム「ATTRID」およ び「LANG」に定義されているインデクス	1
52		tbl_mimportance のカラム「IMPID」お よび「LANG」に定義されているインデク ス	1
53		tbl_mimportance のカラム「STATEID」 および「LANG」に定義されているインデ クス	1
54		tbl_param のカラム「PKEY」に定義され ているインデクス	1
55		tbl_mailuser のカラム「FID」および 「USERID」に定義されているインデクス	1
56		tbl_caccess の次のカラムに定義されて いるインデクス <ul style="list-style-type: none"> • FID • COMID • WORKID • ROLEID 	1
57		idx_caccess1	2

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
58	CMLRDINDEX50	tbl_oaccess のカラム「FID」および「ORGID」に定義されているインデクス	1
59		idx_oaccess1	1
60		tbl_mtcaccess のカラム「FTYPE」および「ROLEID」に定義されているインデクス	1
61		tbl_mtattribute のカラム「FTYPE」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1
62	CMLRDINDEX60	idx_sequence1	1
63		idx_sequence2	1

表 B-22 モデルケース 8 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数 (宛先台帳用データベース)

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLADBKDATA1	tbl_abid	1
2		tbl_addressbook	3
3		tbl_abaccess	11
4		tbl_folder	13
5	CMLADBKDATA2	tbl_address	795
6	CMLADBKIDX1	tbl_abid のカラム「ABIDSQ」に定義されているインデクス	1
7		tbl_addressbook のカラム「ABID」に定義されているインデクス	1
8		IDX_ABOWNER	2
9		tbl_abaccess のカラム「ABID」, 「OBJID」, および「OBJTYPE」に定義されているインデクス	16
10		tbl_folder のカラム「ABID」および「FLDID」に定義されているインデクス	11
11		IDX_FLDOFLD	5
12		CMLADBKIDX2	tbl_address のカラム「ABID」および「ADRID」に定義されているインデクス
13	IDX_ADRFLD		58
14	IDX_ADRSTR		474
15	CMLADBKIDX3	IDX_ACCOBJID	19

(9) モデルケース 9 の場合

モデルケース 9 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-23 モデルケース 9 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数（メール保存用データベース）

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLRDDATA10	tbl_opinion	9,028
2	CMLRDDATA20	tbl_contents	36,112
3	CMLRDDATA30	tbl_apdfile	1,720
4	CMLRDDATA40	tbl_aldyread	3,283
5	CMLRDDATA50	tbl_sequence1	1
6	CMLRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CMLRDDATA70	tbl_forum	11
8		tbl_mainforum	3
9		tbl_uaccess	2
10		tbl_importance	6
11		tbl_attribute	2
12		tbl_state	4
13		tbl_mattribute	1
14		tbl_mimportance	1
15		tbl_mstate	1
16		tbl_param	1
17		tbl_mailuser	0
18		tbl_caccess	0
19		tbl_oaccess	0
20		tbl_mtcaccess	0
21		tbl_mtattribute	1
22	CMLRDINDX10	tbl_opinion のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス	472
23		idx_opinion1	202
24		idx_opinion2	202
25		idx_opinion3	202
26		idx_opinion4	202

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
27	CMLRDINDEX10	idx_opinion5	252
28		idx_opinion6	202
29		idx_opinion7	202
30		idx_opinion8	202
31		idx_opinion9	693
32		idx_opinion10	693
33		idx_opinion11	768
34		idx_opinion12	693
35		idx_opinion13	53
36		CMLRDINDEX20	tbl_contents のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス
37	CMLRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「FID」および「APDFILEID」に定義されているインデクス	472
38		idx_apdfile1	53
39		idx_apdfile3	693
40		idx_apdfile4	53
41	CMLRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「FID」, 「OPNID」, および「USERID」に定義されているインデクス	695
42	CMLRDINDEX50	tbl_forum のカラム「FID」に定義されているインデクス	1
43		tbl_forum のカラム「USERID」に定義されているインデクス	2
44		tbl_mainforum のカラム「FMAINID」に定義されているインデクス	3
45		idx_mainforum1	2
46		tbl_uaccess のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	2
47		idx_uaccess1	2
48		tbl_importance のカラム「FID」および「IMPID」に定義されているインデクス	3
49		tbl_attribute のカラム「FID」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1
50		tbl_state のカラム「FID」および「STATEID」に定義されているインデクス	2

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数	
51	CMLRDINDX50	tbl_mattribute のカラム「ATTRID」および「LANG」に定義されているインデクス	1	
52		tbl_mimportance のカラム「IMPID」および「LANG」に定義されているインデクス	1	
53		tbl_mimportance のカラム「STATEID」および「LANG」に定義されているインデクス	1	
54		tbl_param のカラム「PKEY」に定義されているインデクス	1	
55		tbl_mailuser のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	1	
56		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス <ul style="list-style-type: none"> • FID • COMID • WORKID • ROLEID 	1	
57		idx_caccess1	2	
58		tbl_oaccess のカラム「FID」および「ORGID」に定義されているインデクス	1	
59		idx_oaccess1	1	
60		tbl_mtcaccess のカラム「FTYPE」および「ROLEID」に定義されているインデクス	1	
61		tbl_mtattribute のカラム「FTYPE」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1	
62		CMLRDINDX60	idx_sequence1	1
63			idx_sequence2	1

表 B-24 モデルケース 9 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数 (宛先台帳用データベース)

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLADBKDATA1	tbl_abid	1
2		tbl_addressbook	4
3		tbl_abaccess	25
4		tbl_folder	17
5	CMLADBKDATA2	tbl_address	1,084

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
6	CMLADBKIDX1	tbl_abid のカラム「ABIDSQ」に定義されているインデクス	1
7		tbl_addressbook のカラム「ABID」に定義されているインデクス	2
8		IDX_ABOWNER	2
9		tbl_abaccess のカラム「ABID」, 「OBJID」, および「OBJTYPE」に定義されているインデクス	37
10		tbl_folder のカラム「ABID」および「FLDID」に定義されているインデクス	15
11		IDX_FLDOFLD	6
12	CMLADBKIDX2	tbl_address のカラム「ABID」および「ADRID」に定義されているインデクス	284
13		IDX_ADRFLD	78
14		IDX_ADRSTR	647
15	CMLADBKIDX3	IDX_ACCOBJID	45

(10) モデルケース 10 の場合

モデルケース 10 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-25 モデルケース 10 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数（メール保存用データベース）

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLRDDATA10	tbl_opinion	9,028
2	CMLRDDATA20	tbl_contents	36,112
3	CMLRDDATA30	tbl_apdfile	1,720
4	CMLRDDATA40	tbl_aldyread	3,283
5	CMLRDDATA50	tbl_sequence1	4
6	CMLRDDATA60	tbl_sequence2	4
7	CMLRDDATA70	tbl_forum	52
8		tbl_mainforum	10
9		tbl_uaccess	7
10		tbl_importance	26
11		tbl_attribute	7

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
12	CMLRDDATA70	tbl_state	16
13		tbl_mattribute	1
14		tbl_mimportance	1
15		tbl_mstate	1
16		tbl_param	1
17		tbl_mailuser	0
18		tbl_caccess	0
19		tbl_oaccess	0
20		tbl_mtcaccess	0
21		tbl_mtattribute	1
22		CMLRDINDX10	tbl_opinion のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス
23	idx_opinion1		85
24	idx_opinion2		85
25	idx_opinion3		85
26	idx_opinion4		85
27	idx_opinion5		85
28	idx_opinion6		85
29	idx_opinion7		85
30	idx_opinion8		85
31	idx_opinion9		693
32	idx_opinion10		693
33	idx_opinion11		768
34	idx_opinion12		693
35	idx_opinion13	53	
36	CMLRDINDX20	tbl_contents のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス	472
37	CMLRDINDX30	tbl_apdf file のカラム「FID」および「APDFILEID」に定義されているインデクス	472
38		idx_apdf file1	53
39		idx_apdf file3	693

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
40	CMLRDINDEX30	idx_apdfile4	53
41	CMLRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「FID」, 「OPNID」, および「USERID」に定義さ れているインデクス	695
42	CMLRDINDEX50	tbl_forum のカラム「FID」に定義されて いるインデクス	4
43		tbl_forum のカラム「USERID」に定義さ れているインデクス	5
44		tbl_mainforum のカラム「FMAINID」に 定義されているインデクス	12
45		idx_mainforum1	5
46		tbl_uaccess のカラム「FID」および 「USERID」に定義されているインデクス	7
47		idx_uaccess1	7
48		tbl_importance のカラム「FID」および 「IMPID」に定義されているインデクス	13
49		tbl_attribute のカラム「FID」および 「ATTRID」に定義されているインデクス	5
50		tbl_state のカラム「FID」および 「STATEID」に定義されているインデクス	9
51		tbl_mattribute のカラム「ATTRID」およ び「LANG」に定義されているインデクス	1
52		tbl_mimportance のカラム「IMPID」お よび「LANG」に定義されているインデク ス	1
53		tbl_mimportance のカラム「STATEID」 および「LANG」に定義されているインデ クス	1
54		tbl_param のカラム「PKEY」に定義され ているインデクス	1
55		tbl_mailuser のカラム「FID」および 「USERID」に定義されているインデクス	1
56	tbl_caccess の次のカラムに定義されてい るインデクス <ul style="list-style-type: none"> • FID • COMID • WORKID • ROLEID 	1	
57	idx_caccess1	5	

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
58	CMLRDINDX50	tbl_oaccess のカラム「FID」および「ORGID」に定義されているインデクス	1
59		idx_oaccess1	1
60		tbl_mtcaccess のカラム「FTYPE」および「ROLEID」に定義されているインデクス	1
61		tbl_mtattribute のカラム「FTYPE」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1
62	CMLRDINDX60	idx_sequence1	1
63		idx_sequence2	4

表 B-26 モデルケース 10 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数 (宛先台帳用データベース)

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLADBKDATA1	tbl_abid	1
2		tbl_addressbook	12
3		tbl_abaccess	10
4		tbl_folder	58
5	CMLADBKDATA2	tbl_address	3,684
6	CMLADBKIDX1	tbl_abid のカラム「ABIDSQ」に定義されているインデクス	1
7		tbl_addressbook のカラム「ABID」に定義されているインデクス	4
8		IDX_ABOWNER	8
9		tbl_abaccess のカラム「ABID」, 「OBJID」, および「OBJTYPE」に定義されているインデクス	15
10		tbl_folder のカラム「ABID」および「FLDID」に定義されているインデクス	49
11		IDX_FLDOFLD	19
12	CMLADBKIDX2	tbl_address のカラム「ABID」および「ADRID」に定義されているインデクス	963
13		IDX_ADRFLD	265
14		IDX_ADRSTR	2,197
15	CMLADBKIDX3	IDX_ACCOBJID	18

(11) モデルケース 11 の場合

モデルケース 11 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-27 モデルケース 11 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数（メール保存用データベース）

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLRDDATA10	tbl_opinion	9,028
2	CMLRDDATA20	tbl_contents	36,112
3	CMLRDDATA30	tbl_apdfile	3,440
4	CMLRDDATA40	tbl_aldyread	3,283
5	CMLRDDATA50	tbl_sequence1	4
6	CMLRDDATA60	tbl_sequence2	4
7	CMLRDDATA70	tbl_forum	52
8		tbl_mainforum	10
9		tbl_uaccess	7
10		tbl_importance	26
11		tbl_attribute	7
12		tbl_state	16
13		tbl_mattribute	1
14		tbl_mimportance	1
15		tbl_mstate	1
16		tbl_param	1
17		tbl_mailuser	0
18		tbl_caccess	0
19		tbl_oaccess	0
20		tbl_mtcaccess	0
21		tbl_mtattribute	1
22	CMLRDINDX10	tbl_opinion のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス	472
23		idx_opinion1	85
24		idx_opinion2	85
25		idx_opinion3	85
26		idx_opinion4	85

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
27	CMLRDINDEX10	idx_opinion5	85
28		idx_opinion6	85
29		idx_opinion7	85
30		idx_opinion8	85
31		idx_opinion9	693
32		idx_opinion10	693
33		idx_opinion11	768
34		idx_opinion12	693
35		idx_opinion13	53
36		CMLRDINDEX20	tbl_contents のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス
37	CMLRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「FID」および「APDFILEID」に定義されているインデクス	944
38		idx_apdfile1	106
39		idx_apdfile3	1,386
40		idx_apdfile4	106
41	CMLRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「FID」, 「OPNID」, および「USERID」に定義されているインデクス	695
42	CMLRDINDEX50	tbl_forum のカラム「FID」に定義されているインデクス	4
43		tbl_forum のカラム「USERID」に定義されているインデクス	5
44		tbl_mainforum のカラム「FMAINID」に定義されているインデクス	12
45		idx_mainforum1	5
46		tbl_uaccess のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	7
47		idx_uaccess1	7
48		tbl_importance のカラム「FID」および「IMPID」に定義されているインデクス	13
49		tbl_attribute のカラム「FID」および「ATTRID」に定義されているインデクス	5
50		tbl_state のカラム「FID」および「STATEID」に定義されているインデクス	9

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
51	CMLRDINDX50	tbl_mattribute のカラム「ATTRID」および「LANG」に定義されているインデクス	1
52		tbl_mimportance のカラム「IMPID」および「LANG」に定義されているインデクス	1
53		tbl_mimportance のカラム「STATEID」および「LANG」に定義されているインデクス	1
54		tbl_param のカラム「PKEY」に定義されているインデクス	1
55		tbl_mailuser のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	1
56		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス <ul style="list-style-type: none"> • FID • COMID • WORKID • ROLEID 	1
57		idx_caccess1	5
58		tbl_oaccess のカラム「FID」および「ORGID」に定義されているインデクス	1
59		idx_oaccess1	1
60		tbl_mtcaccess のカラム「FTYPE」および「ROLEID」に定義されているインデクス	1
61		tbl_mtattribute のカラム「FTYPE」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1
62	CMLRDINDX60	idx_sequence1	1
63		idx_sequence2	4

表 B-28 モデルケース 11 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数(宛先台帳用データベース)

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLADBKDATA1	tbl_abid	1
2		tbl_addressbook	12
3		tbl_abaccess	14
4		tbl_folder	58
5	CMLADBKDATA2	tbl_address	3,684

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
6	CMLADBKIDX1	tbl_abid のカラム「ABIDSQ」に定義されているインデクス	1
7		tbl_addressbook のカラム「ABID」に定義されているインデクス	4
8		IDX_ABOWNER	8
9		tbl_abaccess のカラム「ABID」, 「OBJID」, および「OBJTYPE」に定義されているインデクス	22
10		tbl_folder のカラム「ABID」 および「FLDID」に定義されているインデクス	49
11		IDX_FLDOFLD	19
12	CMLADBKIDX2	tbl_address のカラム「ABID」 および「ADRID」に定義されているインデクス	963
13		IDX_ADRFLD	265
14		IDX_ADRSTR	2,197
15	CMLADBKIDX3	IDX_ACCOBJID	26

(12) モデルケース 12 の場合

モデルケース 12 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-29 モデルケース 12 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数 (メール保存用データベース)

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLRDDATA10	tbl_opinion	45,139
2	CMLRDDATA20	tbl_contents	180,556
3	CMLRDDATA30	tbl_apdfile	8,598
4	CMLRDDATA40	tbl_aldyread	16,415
5	CMLRDDATA50	tbl_sequence1	4
6	CMLRDDATA60	tbl_sequence2	4
7	CMLRDDATA70	tbl_forum	52
8		tbl_mainforum	10
9		tbl_uaccess	7
10		tbl_importance	26
11		tbl_attribute	7

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
12	CMLRDDATA70	tbl_state	16
13		tbl_mattribute	1
14		tbl_mimportance	1
15		tbl_mstate	1
16		tbl_param	1
17		tbl_mailuser	0
18		tbl_caccess	0
19		tbl_oaccess	0
20		tbl_mtcaccess	0
21		tbl_mttribute	1
22		CMLRDINDEX10	tbl_opinion のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス
23	idx_opinion1		1,008
24	idx_opinion2		1,005
25	idx_opinion3		1,005
26	idx_opinion4		1,005
27	idx_opinion5		1,257
28	idx_opinion6		1,005
29	idx_opinion7		1,007
30	idx_opinion8		1,007
31	idx_opinion9		3,463
32	idx_opinion10		3,463
33	idx_opinion11		3,835
34	idx_opinion12		3,463
35	idx_opinion13	263	
36	CMLRDINDEX20	tbl_contents のカラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス	2,359
37	CMLRDINDEX30	tbl_apdfid のカラム「FID」および「APDFID」に定義されているインデクス	2,359
38		idx_apdfid1	263
39		idx_apdfid3	3,463

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
40	CMLRDINDEX30	idx_apdfile4	263
41	CMLRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「FID」, 「OPNID」, および「USERID」に定義されているインデクス	3,472
42	CMLRDINDEX50	tbl_forum のカラム「FID」に定義されているインデクス	4
43		tbl_forum のカラム「USERID」に定義されているインデクス	5
44		tbl_mainforum のカラム「FMAINID」に定義されているインデクス	12
45		idx_mainforum1	5
46		tbl_uaccess のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	7
47		idx_uaccess1	7
48		tbl_importance のカラム「FID」および「IMPID」に定義されているインデクス	13
49		tbl_attribute のカラム「FID」および「ATTRID」に定義されているインデクス	5
50		tbl_state のカラム「FID」および「STATEID」に定義されているインデクス	9
51		tbl_mattribute のカラム「ATTRID」および「LANG」に定義されているインデクス	1
52		tbl_mimportance のカラム「IMPID」および「LANG」に定義されているインデクス	1
53		tbl_mimportance のカラム「STATEID」および「LANG」に定義されているインデクス	1
54		tbl_param のカラム「PKEY」に定義されているインデクス	1
55		tbl_mailuser のカラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス	1
56	tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス <ul style="list-style-type: none"> • FID • COMID • WORKID • ROLEID 	1	
57	idx_caccess1	5	

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
58	CMLRDINDEX50	tbl_oaccess のカラム「FID」および「ORGID」に定義されているインデクス	1
59		idx_oaccess1	1
60		tbl_mtcaccess のカラム「FTYPE」および「ROLEID」に定義されているインデクス	1
61		tbl_mtattribute のカラム「FTYPE」および「ATTRID」に定義されているインデクス	1
62	CMLRDINDEX60	idx_sequence1	1
63		idx_sequence2	4

表 B-30 モデルケース 12 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数(宛先台帳用データベース)

項番	RD エリア	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CMLADBKDATA1	tbl_abid	1
2		tbl_addressbook	13
3		tbl_abaccess	28
4		tbl_folder	63
5	CMLADBKDATA2	tbl_address	3,973
6	CMLADBKIDX1	tbl_abid のカラム「ABIDSQ」に定義されているインデクス	1
7		tbl_addressbook のカラム「ABID」に定義されているインデクス	4
8		IDX_ABOWNER	8
9		tbl_abaccess のカラム「ABID」, 「OBJID」, および「OBJTYPE」に定義されているインデクス	42
10		tbl_folder のカラム「ABID」および「FLDID」に定義されているインデクス	53
11		IDX_FLDOFLD	21
12	CMLADBKIDX2	tbl_address のカラム「ABID」および「ADRID」に定義されているインデクス	1,038
13		IDX_ADRFLD	285
14		IDX_ADRSTR	2,369
15	CMLADBKIDX3	IDX_ACCOBJID	51

付録 C データベース容量の見積もりで使用する値

ここではデータベース容量を見積もる際に使用する値について説明します。データベース容量を見積もる場合は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に、ここで説明している値を代入してください。

付録 C.1 容量見積もりの前提条件

データベース容量を見積もる際の前提条件を次に示します。

- Collaboration - Mail のデータベースでは、ノースプリットオプションを使用しません。データ長を算出する場合は、ノースプリットオプションを使用しない場合の値を参照してください。
- Collaboration - Mail のデータベースでは、リバランス機能を使用しません。
- Collaboration - Mail のテーブルには、繰り返し列は存在しません。

マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照する際は、これらの条件を考慮してください。

付録 C.2 値の説明で使用する記号

値の説明で使用する記号を次の表に示します。

表 C-1 値の説明で使用する記号 (メール保存用)

分類	記号	説明	上限値	単位
保存フォルダ	RRN	システム内で作成するフォルダの最大数 (=ユーザー数)	メールポートレットを使用するユーザー数	人
ユーザ	UID	ユーザ ID の長さ (平均値)	8	バイト
	UNJ	ユーザの日本語名の長さ (平均値)	32	バイト
	UNE	ユーザの英語名の長さ (平均値)	32	バイト
	UCJ	ユーザの役職の日本語名の長さ (平均値)	32	バイト
	UCE	ユーザの役職の英語名の長さ (平均値)	32	バイト
	URJ	ユーザの所属する組織の日本語名の長さ (平均値)	128	バイト
	URE	ユーザの所属する組織の英語名の長さ (平均値)	128	バイト
	UNN	ユーザのニックネーム	32	バイト
	UEA	ユーザの Email アドレスの長さ	255	バイト
	UEC	ユーザの Email コメントの長さ	64	バイト
メールの内容	CSB	主題の長さ (平均値)	80	バイト
	CTX	本文の長さ (平均値)	—	バイト
	CMN	一つのフォルダに登録するメールの最大数	—	通
	CCS	主題の文字コード名	255	バイト

分類	記号	説明	上限値	単位
メールの内容	CCT	本文の文字コード名	255	バイト
	CRP	一つのメールに指定する宛先の人数 (平均値)	256	人
添付ファイル	PPT	メールに添付するファイルの名前 (フルパス) の長さ (平均値)	—	バイト
	PFS	メールに添付するファイルのファイルサイズ (平均値)	5,242,880	バイト
	PFN	一つのメールに添付するファイルの数 (平均値)	24	個
	PPF	フォルダに格納されたメールにファイルが添付される割合 (範囲: 0.0~1.0 例: 12.3%の場合は 0.123)	1	なし
	PTS	添付ファイルサイズに含まれるテキストデータサイズ (平均値)	5,242,880	バイト

(凡例)

—: 基準値はありません。使用している環境に合わせた数値を使用してください。

表 C-2 値の説明で使用する記号 (宛先台帳用)

記号	説明	基準値 (単位: バイト)
ABK	宛先台帳用 ID 管理の想定レコード数	1
USR	宛先台帳の想定レコード数 (=ユーザ数)	1,000
GRP	システム内に作成されるグループ宛先台帳の数	1,000
GRA	一つのグループ宛先台帳を参照するユーザ数	50
FDN	一つの宛先台帳内に作成されるフォルダの数	20
ADN	一つの宛先台帳内に登録される宛先の数	200
UID	ユーザ ID/持ち主 ID の長さ	10
JNM	ユーザの日本語名の長さ	20
ENM	ユーザの英語名の長さ	20
FLD	フォルダ名の長さ	20
ADR	宛先の長さ	50
CMT	コメントの長さ	100

付録 C.3 ユーザ用 RD エリアの容量見積もりで使用する値

ユーザ用 RD エリアの容量見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-3 ユーザ用 RD エリアの容量見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	RD エリア名	容量見積もりで使用する変数と代入値									
		$n^{※1}$	P	e	k	S	d_i	α_i	β_i	γ_i	
1	CMLRDDATA10	1	8,192	1	0	20	別途 算出 ※2	別途 算出 ※3	別途 算出 ※3	別途 算出 ※4	
2	CMLRDDATA20	1	8,192	1	0	20					
3	CMLRDDATA30	1	4,096	1	0	20					
4	CMLRDDATA40	1	4,096	1	0	20					
5	CMLRDDATA50	1	4,096	1	0	20					
6	CMLRDDATA60	1	4,096	1	0	20					
7	CMLRDDATA70	1	4,096	15	0	20					
8	CMLADBKDATA1	1	4,096	4	0	20					
9	CMLADBKDATA2	1	4,096	1	0	20					
10	CMLRDINDEX10	1	4,096	0	14	20					
11	CMLRDINDEX20	1	4,096	0	1	20					
12	CMLRDINDEX30	1	4,096	0	4	20					
13	CMLRDINDEX40	1	4,096	0	1	20					
14	CMLRDINDEX50	1	4,096	0	20	20					
15	CMLRDINDEX60	1	4,096	0	2	20					
16	CMLADBKIDX1	1	4,096	0	6	20					
17	CMLADBKIDX2	1	4,096	0	3	20					
18	CMLADBKIDX3	1	4,096	0	1	20					

注※1

ユーザ用 RD エリアを構成する HiRDB ファイルの数です。実際のユーザ環境に合わせて、RD エリアを構成するファイル数に変更してください。詳細はマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

注※2

HiRDB ファイルごとのセグメント数です。 α_i 、 β_i および γ_i の値を基にして算出してください。

注※3

表ごとの格納ページ数です。表の格納ページ数の算出方法については、「付録 C.4 表の格納ページ数の見積もりで使用する値」を参照してください。

注※4

インデクスごとの格納ページ数です。インデクスの格納ページ数の算出方法については、「付録 C.5 インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する値」を参照してください。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

付録 C.4 表の格納ページ数の見積もりで使用する値

表の格納ページ数の見積もりで使用する値について説明します。

なお、計算式中の「↑」は、「↑」で挟まれている数値の小数点以下を切り上げることを示します。

(1) フォルダテーブル (tbl_forum)

フォルダテーブル (tbl_forum) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-4 フォルダテーブル (tbl_forum) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_forum	RRN	4,096	30	別途算出※ 1	別途算出※ 2	33	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

フォルダテーブル (tbl_forum) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-5 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (フォルダテーブル (tbl_forum) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	FID	INTEGER	—	—
2	FNAME	MVARCHAR	120	UID
3	SHORTID	MVARCHAR	80	8
4	FSTATE	SMALLINT	—	—
5	USERID	MVARCHAR	255	UID
6	USERNAME	MVARCHAR	255	UNJ

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
7	ENUSERNAME	MVARCHAR	255	UNE
8	POST	MVARCHAR	255	UCJ
9	ENPOST	MVARCHAR	255	UCE
10	ORGNAME	MVARCHAR	255	URJ
11	ENORGNAME	MVARCHAR	255	URE
12	DESCRIPTION	MVARCHAR	4,800	0
13	FTYPE	SMALLINT	—	—
14	OPENDATE	TIMESTAMP	—	—
15	CLOSEDATE	TIMESTAMP	—	—
16	ENDDATE	TIMESTAMP	—	—
17	CLASSLEVEL	SMALLINT	—	—
18	UPPERID	INTEGER	—	—
19	TOPID	INTEGER	—	—
20	MAILHEAD	MVARCHAR	1,500	0
21	MAILFOOT	MVARCHAR	1,500	0
22	OPNMAIL	SMALLINT	—	—
23	INFOMAIL	SMALLINT	—	—
24	MAILTYPE	SMALLINT	—	—
25	MAILDATE	TIMESTAMP	—	—
26	LANG	VARCHAR	2	2
27	RESERVE1	MVARCHAR	255	0
28	RESERVE2	MVARCHAR	255	0
29	RESERVE3	MVARCHAR	255	0
30	TOTALSIZE	INTEGER	—	—
31	UPPERLIMIT	INTEGER	—	—
32	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
33	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d : データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

— : 該当しません。

(2) メインフォルダ ID テーブル(tbl_mainforum)

メインフォルダ ID テーブル(tbl_mainforum)の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-6 メインフォルダ ID テーブル(tbl_mainforum)の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_mainforum	RRN	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	4	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

メインフォルダ ID テーブル(tbl_mainforum)の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-7 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (メインフォルダ ID テーブル(tbl_mainforum)の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	FID	INTEGER	—	—
2	FMAINID	VARCHAR	40	40
3	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
4	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(3) メールテーブル (tbl_opinion)

メールテーブル (tbl_opinion) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-8 メールテーブル (tbl_opinion) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_opinion	RRN×CMN	8,192	30	別途算出※1	別途算出 ※2	64	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

メールテーブル (tbl_opinion) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-9 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (メールテーブル (tbl_opinion) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	OPNID	INTEGER	—	—
2	FID	INTEGER	—	—
3	USERID	MVARCHAR	255	UID
4	USERNAME	MVARCHAR	255	UNJ
5	ENUSERNAME	MVARCHAR	255	UNE
6	USERNICKNAME	MVARCHAR	48	UNN
7	POST	MVARCHAR	255	UCJ
8	ENPOST	MVARCHAR	255	UCE
9	ORGNAME	MVARCHAR	255	URJ
10	ENORGNAME	MVARCHAR	255	URE
11	RENEWDATE	TIMESTAMP	—	—
12	UPDATEFLG	SMALLINT	—	—
13	OPNCOUNT	SMALLINT	—	—

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
14	OPINIONCLASSIFICATION	SMALLINT	—	—
15	SUBJECT	MVARCHAR	255	CSB
16	ATTRID	SMALLINT	—	—
17	ATTRNAME	MVARCHAR	60	6
18	ENATTRNAME	MVARCHAR	60	4
19	IMPID	SMALLINT	—	—
20	IMPNAME	MVARCHAR	60	6
21	ENIMPNAME	MVARCHAR	60	6
22	PRIORITY	SMALLINT	—	—
23	SENSITIVITY	SMALLINT	—	—
24	STATEID	SMALLINT	—	—
25	STATENAME	MVARCHAR	60	6
26	ENSTATENAME	MVARCHAR	60	10
27	REPLYDEMAND	SMALLINT	—	—
28	YETALDYREAD	SMALLINT	—	—
29	APDFILE	SMALLINT	—	—
30	TERMDATE	TIMESTAMP	—	—
31	RESTERMDATE	TIMESTAMP	—	—
32	CONTENTSTOP*	MVARCHAR	255	255
33	MAILFLG	SMALLINT	—	—
34	SENDNUM	SMALLINT	—	—
35	SENDDATE	TIMESTAMP	—	—
36	MAILERRCD	VARCHAR	10	0
37	MAILERRMSG	MVARCHAR	255	0
38	TRANSRECEPDATE	TIMESTAMP	—	—
39	DISTDATETIME	TIMESTAMP	—	—
40	MESSAGEID	MVARCHAR	255	100
41	CLASSLEVEL	SMALLINT	—	—
42	UPPERID	INTEGER	—	—
43	LOWERID	INTEGER	—	—
44	LOWESTID	INTEGER	—	—

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
45	PREVID	INTEGER	—	—
46	FOLLOWID	INTEGER	—	—
47	TOPID	INTEGER	—	—
48	SORTID	VARCHAR	255	7
49	URL	VARCHAR	4,096	255
50	RETUSERID	MVARCHAR	255	2
51	RETUSERNAME	MVARCHAR	255	UNJ
52	RETENUSERNAME	MVARCHAR	255	UNE
53	RETUSERNICKNAME	MVARCHAR	48	UNN
54	RETPOST	MVARCHAR	255	UCJ
55	RETENPOST	MVARCHAR	255	UCE
56	RETORGNAME	MVARCHAR	255	0
57	RETENORGNAME	MVARCHAR	255	0
58	RETSTATE	SMALLINT	—	—
59	RESERVE1	MVARCHAR	255	10
60	RESERVE2	MVARCHAR	255	10
61	RESERVE3	MVARCHAR	255	0
62	MAILSIZE	INTEGER	—	—
63	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
64	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d : データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

— : 該当しません。

注※

CTX の値が 255 より小さい場合は、d の値には CTX を使用してください。

(4) 本文テーブル (tbl_contents)

本文テーブル (tbl_contents) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-10 本文テーブル (tbl_contents) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_contents	RRN×CMN	8,192	30	別途算出※ 1	別途算出※ 2	14	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

本文テーブル (tbl_contents) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-11 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (本文テーブル (tbl_contents) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	dの値	備考
1	OPNID	INTEGER	—	—	
2	FID	INTEGER	—	—	
3	GMAXINFO	SMALLINT	—	—	
4	INREPLYTOID	MVARCHAR	255	0	
5	REFERENCEID	MVARCHAR	4,096	150	
6	CONTENTTYPE	MVARCHAR	255	0	
7	RCV	BINARY	130,816	(UNJ + UNE + UNN + UEA + UEC + 19) × CRP	
8	RCP	MVARCHAR	512	UNJ + UNE + UNN + UEA + UEC + 4	
9	REP	MVARCHAR	512	0	
10	CONTENTS	BINARY	2,147,483,647	CTX	
11	TSDATA	SGMLTEXT	—	—	d_i の値は、マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB TextSearch Plug-in Version 9」のユーザー RD エリア容量 (文書検索プラグイン) に

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値	備考
11	TSDATA	SGMLTEXT	—	—	記載されている値を使用してください。
12	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—	
13	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—	

(凡例)

d : データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

— : 該当しません。

(5) 添付ファイルテーブル (tbl_apdfile)

添付ファイルテーブル (tbl_apdfile) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-12 添付ファイルテーブル (tbl_apdfile) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_apdfile	RRN×CMN×PFN ×PPF	4,096	30	別途算出*1	別途算出*2	13	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

添付ファイルテーブル (tbl_apdfile) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無 : なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-13 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (添付ファイルテーブル (tbl_apdfile) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値	備考
1	APDFILEID	INTEGER	—	—	

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値	備考
2	FID	INTEGER	—	—	
3	FILENAME	MVARCHAR	512	PPT	
4	CNTTYPE	VARCHAR	255	1	
5	FILESIZE	INTEGER	—	—	
6	APDFILE	BLOB	—	—	
7	TSDATA	SGMLTEXT	—	—	d _i の値は、マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB TextSearch Plug-in Version 9」のユーザ用 RD エリア容量 (文書検索プラグイン) に記載されている値を使用してください。
8	TSIDXFLG	INTEGER	—	—	
9	TSIDXSTATE	INTEGER	—	—	
10	TSIDXINFO	VARCHAR	8	1	
11	OPNID	INTEGER	—	—	
12	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—	
13	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—	

(凡例)

d: データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—: 該当しません。

(6) ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess)

ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応次の表に示します。

表 C-14 ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_uaccess	RRN	4,096	30	別途算出 ※1	別途算出 ※2	5	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-15 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	FID	INTEGER	—	—
2	USERID	MVARCHAR	255	UID
3	AUTHLEVEL	BINARY	4	4
4	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
5	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(7) 採番管理 1 テーブル (tbl_sequence1)

採番管理 1 テーブル (tbl_sequence1) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-16 採番管理 1 テーブル (tbl_sequence1) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_sequence1	RRN + 1	4,096	30	別途算出 ※1	別途算出 ※2	—	20	10

(凡例)

—：該当しません。

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

採番管理 1 テーブル (tbl_sequence1) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：あり

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-17 d_i および e_i の値の算出で使用する値（採番管理 1 テーブル (tbl_sequence1) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	CATEGORY	INTEGER	—	—
2	PVALUE	INTEGER	—	—
3	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
4	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）

—：該当しません。

(8) 採番管理 2 テーブル (tbl_sequence2)

採番管理 2 テーブル (tbl_sequence2) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-18 採番管理 2 テーブル (tbl_sequence2) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_sequence2	RRN	4,096	30	別途算出※1	別途算出 ※2	—	20	10

(凡例)

—：該当しません。

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

採番管理 2 テーブル (tbl_sequence2) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：あり

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-19 d_i および e_i の値の算出で使用する値（採番管理 2 テーブル (tbl_sequence2) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	CATEGORY	INTEGER	—	—
2	PVALUE	INTEGER	—	—
3	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
4	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

- d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）
- ：該当しません。

(9) 重要度テーブル (tbl_importance)

重要度テーブル (tbl_importance) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-20 重要度テーブル (tbl_importance) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_importance	RRN×3	4,096	30	別途算出 ^{※1}	別途算出 ^{※2}	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

重要度テーブル (tbl_importance) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-21 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (重要度テーブル (tbl_importance) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	FID	INTEGER	—	—
2	IMPID	SMALLINT	—	—
3	IMPNAME	MVARCHAR	60	9
4	ENIMPNAME	MVARCHAR	60	14
5	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
6	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d : データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

— : 該当しません。

(10) 属性テーブル (tbl_attribute)

属性テーブル (tbl_attribute) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-22 属性テーブル (tbl_attribute) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_attribute	RRN	4,096	30	別途算出 ※1	別途算出※2	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

属性テーブル (tbl_attribute) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無 : なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-23 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (属性テーブル (tbl_attribute) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	FID	INTEGER	—	—
2	ATTRID	SMALLINT	—	—
3	ATTRNAME	MVARCHAR	60	6
4	ENATTRNAME	MVARCHAR	60	4
5	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
6	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d : データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

— : 該当しません。

(11) 既読テーブル (tbl_aldyread)

既読テーブル (tbl_aldyread) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-24 既読テーブル (tbl_aldyread) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_aldyread	RRN×CMN	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	11	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

既読テーブル (tbl_aldyread) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無 : なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-25 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (既読テーブル (tbl_aldyread) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	OPNID	INTEGER	—	—
2	FID	INTEGER	—	—
3	USERID	MVARCHAR	255	UID
4	USERNAME	MVARCHAR	255	UNJ
5	ENUSERNAME	MVARCHAR	255	UNE
6	POST	MVARCHAR	255	UCJ
7	ENPOST	MVARCHAR	255	UCE
8	ORGNAME	MVARCHAR	255	URJ
9	ENORGNAME	MVARCHAR	255	URE
10	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
11	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d : データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

— : 該当しません。

(12) 状態テーブル (tbl_state)

状態テーブル (tbl_state) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-26 状態テーブル (tbl_state) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_state	RRN×2	4,096	30	別途算出 ※1	別途算出 ※2	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

状態テーブル (tbl_state) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-27 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (状態テーブル (tbl_state) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	FID	INTEGER	—	—
2	STATEID	SMALLINT	—	—
3	STATENAME	MVARCHAR	60	6
4	ENSTATENAME	MVARCHAR	60	10
5	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
6	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(13) 属性マスタテーブル (tbl_mattribute)

属性マスタテーブル (tbl_mattribute) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-28 属性マスタテーブル (tbl_mattribute) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_mattribute	2	4,096	30	別途算出 ^{※1}	別途算出 ^{※2}	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

属性マスタテーブル (tbl_mattribute) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-29 d_i および e_i の値の算出で使用する値（属性マスタテーブル (tbl_mattribute) の場合）

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	ATTRID	SMALLINT	—	—
2	LANG	VARCHAR	2	2
3	ATTRNAME	MVARCHAR	60	4
4	URL	VARCHAR	255	0
5	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
6	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）

—：該当しません。

(14) 重要度マスタテーブル (tbl_mimportance)

重要度マスタテーブル (tbl_mimportance) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-30 重要度マスタテーブル (tbl_mimportance) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_mimportance	6	4,096	30	別途算出※ 1	別途算出 ※2	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

重要度マスタテーブル (tbl_mimportance) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-31 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (重要度マスタテーブル (tbl_mimportance) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	IMPID	SMALLINT	—	—
2	LANG	VARCHAR	2	2
3	IMPNAME	MVARCHAR	60	14
4	URL	VARCHAR	255	25
5	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
6	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d : データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

— : 該当しません。

(15) 状態マスタテーブル (tbl_mstate)

状態マスタテーブル (tbl_mstate) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-32 状態マスタテーブル (tbl_mstate) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_mstate	4	4,096	30	別途算出* 1	別途算出* 2	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

状態マスタテーブル (tbl_mstate) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無 : なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-33 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (状態マスタテーブル (tbl_mstate) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	STATEID	SMALLINT	—	—
2	LANG	VARCHAR	2	2
3	STATENAME	MVARCHAR	60	10
4	URL	VARCHAR	255	21
5	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
6	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d : データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

— : 該当しません。

(16) パラメタ管理テーブル (tbl_param)

パラメタ管理テーブル (tbl_param) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-34 パラメタ管理テーブル (tbl_param) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_param	10	4,096	30	別途算出※ 1	別途算出※ 2	5	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

パラメタ管理テーブル (tbl_param) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-35 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (パラメタ管理テーブル (tbl_param) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	PKEY	VARCHAR	30	20
2	NAME	MVARCHAR	60	42
3	PVALUE	MVARCHAR	512	10
4	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
5	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d : データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

— : 該当しません。

(17) 予備テーブル 1 (tbl_mailuser)

予備テーブル 1 (tbl_mailuser) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-36 予備テーブル 1 (tbl_mailuser) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_mailuser	0	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	4	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

予備テーブル 1 (tbl_mailuser) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無 : なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-37 d_i および e_i の値の算出で使用する値（予備テーブル 1 (tbl_mailuser) の場合）

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	FID	INTEGER	—	—
2	USERID	MVARCHAR	255	0
3	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
4	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）

—：該当しません。

(18) 予備テーブル 2 (tbl_caccess)

予備テーブル 2 (tbl_caccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-38 予備テーブル 2 (tbl_caccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_caccess	0	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	7	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

予備テーブル 2 (tbl_caccess) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-39 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (予備テーブル 2 (tbl_caccess) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	FID	INTEGER	–	–
2	COMID	VARCHAR	40	0
3	WORKID	VARCHAR	16	0
4	ROLEID	VARCHAR	16	0
5	AUTHLEVEL	BINARY	4	0
6	CREATDATE	TIMESTAMP	–	–
7	UPDATDATE	TIMESTAMP	–	–

(凡例)

d : データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)
 – : 該当しません。

(19) 予備テーブル 3 (tbl_oaccess)

予備テーブル 3 (tbl_oaccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-40 予備テーブル 3 (tbl_oaccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_oaccess	0	4,096	30	別途算出 ※1	別途算出※2	5	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

予備テーブル 3 (tbl_oaccess) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無 : なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-41 d_i および e_i の値の算出で使用する値（予備テーブル 3 (tbl_oaccess) の場合）

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	FID	INTEGER	–	–
2	ORGID	MVARCHAR	255	0
3	AUTHLEVEL	BINARY	4	0
4	CREATDATE	TIMESTAMP	–	–
5	UPDATDATE	TIMESTAMP	–	–

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）

–：該当しません。

(20) 予備テーブル 4 (tbl_mtcaccess)

予備テーブル 4 (tbl_mtcaccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-42 予備テーブル 4 (tbl_mtcaccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_mtcaccess	0	4,096	30	別途算出 ※1	別途算出※2	5	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

予備テーブル 4 (tbl_mtcaccess) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-43 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (予備テーブル 4 (tbl_mtcaccess) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	FTYPE	SMALLINT	–	–
2	ROLEID	VARCHAR	16	0
3	AUTHLEVEL	BINARY	4	0
4	CREATDATE	TIMESTAMP	–	–
5	UPDATDATE	TIMESTAMP	–	–

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

–：該当しません。

(21) 予備テーブル 5 (tbl_mtattribute)

予備テーブル 5 (tbl_mtattribute) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-44 予備テーブル 5 (tbl_mtattribute) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_mtattribute	1	4,096	30	別途算出 ※1	別途算出 ※2	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

予備テーブル 5 (tbl_mtattribute) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-45 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (予備テーブル 5 (tbl_mtattribute) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	FTYPE	SMALLINT	—	—
2	ATTRID	SMALLINT	—	—
3	ATTRNAME	MVARCHAR	60	4
4	ENATTRNAME	MVARCHAR	60	4
5	CREATDATE	TIMESTAMP	—	—
6	UPDATDATE	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d: データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—: 該当しません。

(22) 宛先台帳用 ID 管理テーブル (tbl_abid)

宛先台帳用 ID 管理テーブル (tbl_abid) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-46 宛先台帳用 ID 管理テーブル (tbl_abid) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_abid	1	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	1	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

宛先台帳用 ID 管理テーブル (tbl_abid) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無: なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-47 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (宛先台帳用 ID 管理テーブル (tbl_abid) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	ABIDSQ	INTEGER	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(23) 宛先台帳テーブル (tbl_addressbook)

宛先台帳テーブル (tbl_addressbook) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-48 宛先台帳テーブル (tbl_addressbook) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_addressbook	USR + GRP	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	8	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

宛先台帳テーブル (tbl_addressbook) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-49 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (宛先台帳テーブル (tbl_addressbook) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	ABID	INTEGER	—	—
2	OWNERID	MVARCHAR	255	UID
3	OWNERTYPE	SMALLINT	—	—
4	ITEMNUM	INTEGER	—	—

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
5	FLDIDSQ	INTEGER	—	—
6	ADRIDSQ	INTEGER	—	—
7	OWNERNAME	MVARCHAR	255	JNM
8	ENOWNERNAME	MVARCHAR	255	ENM

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(24) アクセス権テーブル (tbl_abaccess)

アクセス権テーブル (tbl_abaccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-50 アクセス権テーブル (tbl_abaccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_abaccess	USR + GRP×GRA	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	4	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

アクセス権テーブル (tbl_abaccess) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-51 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (アクセス権テーブル (tbl_abaccess) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	ABID	INTEGER	—	—
2	ACCESSTYPE	INTEGER	—	—

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
3	OBJID	MVARCHAR	255	UID
4	OBJTYPE	SMALLINT	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(25) フォルダテーブル (tbl_folder)

フォルダテーブル (tbl_folder) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-52 フォルダテーブル (tbl_folder) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_folder	(USR + GRP) × FDN	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	4	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

フォルダテーブル (tbl_folder) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-53 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (フォルダテーブル (tbl_folder) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	ABID	INTEGER	—	—
2	FLDID	INTEGER	—	—
3	PFLDID	INTEGER	—	—
4	FLDNAME	MVARCHAR	255	FLD

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）

-：該当しません。

(26) 宛先情報テーブル (tbl_address)

宛先情報テーブル (tbl_address) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-54 宛先情報テーブル (tbl_address) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_address	(USR + GRP) × ADN	4,096	30	別途算出*1	別途算出*2	11	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

宛先情報テーブル (tbl_address) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-55 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (宛先情報テーブル (tbl_address) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	ABID	INTEGER	-	-
2	FLDID	INTEGER	-	-
3	ADRID	INTEGER	-	-
4	ADDRESS	MVARCHAR	255	ADR
5	ADRTYPE	SMALLINT	-	-
6	DESTTYPE	SMALLINT	-	-
7	USERTYPE	SMALLINT	-	-

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
8	USERID	MVARCHAR	255	UID
9	NAME	MVARCHAR	255	JNM
10	ENNAME	MVARCHAR	255	ENM
11	ADRCOMMENT	MVARCHAR	255	CMT

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）

－：該当しません。

付録 C.5 インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する値

インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する値について説明します。

なお、計算式中の「↑」は、「↑」で挟まれている数値の小数点以下を切り上げることを示します。

(1) フォルダテーブル (tbl_forum)

フォルダテーブル (tbl_forum) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、フォルダテーブル (tbl_forum) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-56 フォルダテーブル (tbl_forum) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	カラム「USERID」に定義されているインデクス	4,096	30	RRN	1	0	0	$\uparrow (UID + 1) \div 4 \uparrow \times 4$	RRN
2	カラム「FID」に定義されているインデクス	4,096	30	RRN	1	0	0	4	RRN

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(2) メインフォルダ ID テーブル (tbl_mainforum)

メインフォルダ ID テーブル (tbl_mainforum) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-57 メインフォルダ ID テーブル (tbl_mainforum) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	カラム「FMAINID」に定義されているインデクス	4,096	30	RRN	1	0	0	44	RRN
2	idx_mainforum1	4,096	30	RRN	1	0	0	4	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(3) メールテーブル (tbl_opinion)

メールテーブル (tbl_opinion) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-58 メールテーブル (tbl_opinion) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (1/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		a	b	c	d	
1	カラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス	4,096	30	RRN×CMN	1	—
2	idx_opinion1	4,096	30	RRN	CMN	CMN ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	CMN > 200 の場合
3	idx_opinion2	4,096	30	RRN	CMN	CMN ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	CMN > 200 の場合
4	idx_opinion3	4,096	30	RRN	CMN	CMN ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	CMN > 200 の場合
5	idx_opinion4	4,096	30	RRN	CMN	CMN ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	CMN > 200 の場合
6	idx_opinion5	4,096	30	RRN×2	↑CMN÷2↑	CMN×PFP ≤ 200 かつ CMN × (1-PFP) ≤ 200 の場合
		4,096	30	RRN	↑CMN÷2↑	CMN×PFP ≤ 200 かつ CMN × (1-PFP) > 200 の場合

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		a	b	c	d	
6	idx_opinion5	4,096	30	RRN	$\uparrow \text{CMN} \div 2 \uparrow$	CMN×PFP > 200 かつ CMN×(1-PFP) ≤200 の 場合
		4,096	30	0	0	CMN×PFP > 200 かつ CMN×(1-PFP) > 200 の 場合
7	idx_opinion6	4,096	30	RRN	CMN	CMN ≤200 の場合
		4,096	30	0	0	CMN > 200 の場合
8	idx_opinion7	4,096	30	RRN	CMN	CMN ≤200 の場合
		4,096	30	0	0	CMN > 200 の場合
9	idx_opinion8	4,096	30	RRN	CMN	CMN ≤200 の場合
		4,096	30	0	0	CMN > 200 の場合
10	idx_opinion9	4,096	30	RRN×CMN	1	—
11	idx_opinion10	4,096	30	RRN×CMN	1	—
12	idx_opinion11	4,096	30	RRN×CMN	1	—
13	idx_opinion12	4,096	30	RRN×CMN	1	—
14	idx_opinion13	4,096	30	1	RRN×CMN	RRN×CMN ≤200 の場合
		4,096	30	0	0	RRN×CMN > 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

—：該当しません。

表 C-59 メールテーブル (tbl_opinion) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (2/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		e	f	g	h	
1	<u>カラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス</u>	0	0	12	RRN	—
2	idx_opinion1	0	0	$\uparrow (\text{UID} + 9) \div 4 \uparrow \times 4$	0	CMN ≤200 の場合
		RRN	CMN	$\uparrow (\text{UID} + 9) \div 4 \uparrow \times 4$	0	CMN > 200 の場合
3	idx_opinion2	0	0	8	0	CMN ≤200 の場合
		RRN	CMN	8	0	CMN > 200 の場合

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		e	f	g	h	
4	idx_opinion3	0	0	8	0	CMN ≤ 200 の場合
		RRN	CMN	8	0	CMN > 200 の場合
5	idx_opinion4	0	0	8	0	CMN ≤ 200 の場合
		RRN	CMN	8	0	CMN > 200 の場合
6	idx_opinion5	0	0	8	0	CMN × PFP ≤ 200 かつ CMN × (1 - PFP) ≤ 200 の場合
		RRN	↑ CMN ÷ 2 ↑	8	0	CMN × PFP ≤ 200 かつ CMN × (1 - PFP) > 200 の場合
		RRN	↑ CMN ÷ 2 ↑	8	0	CMN × PFP > 200 かつ CMN × (1 - PFP) ≤ 200 の場合
		RRN × 2	↑ CMN ÷ 2 ↑	8	0	CMN × PFP > 200 かつ CMN × (1 - PFP) > 200 の場合
7	idx_opinion6	0	0	8	0	CMN ≤ 200 の場合
		RRN	CMN	8	0	CMN > 200 の場合
8	idx_opinion7	0	0	16	0	CMN ≤ 200 の場合
		RRN	CMN	16	0	CMN > 200 の場合
9	idx_opinion8	0	0	16	0	CMN ≤ 200 の場合
		RRN	CMN	16	0	CMN > 200 の場合
10	idx_opinion9	0	0	16	0	—
11	idx_opinion10	0	0	16	0	—
12	idx_opinion11	0	0	20	0	—
13	idx_opinion12	0	0	16	0	—
14	idx_opinion13	0	0	4	0	RRN × CMN ≤ 200 の場合
		1	RRN × CMN	4	0	RRN × CMN > 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

—：該当しません。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(4) 本文テーブル (tbl_contents)

本文テーブル (tbl_contents) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、本文テーブル (tbl_contents) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-60 本文テーブル (tbl_contents) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム「FID」および「OPNID」に定義されているインデクス</u>	4,096	30	RRN×CMN	1	0	0	12	RRN×CMN

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(5) 添付ファイルテーブル (tbl_apdfile)

添付ファイルテーブル (tbl_apdfile) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-61 添付ファイルテーブル (tbl_apdfile) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (1/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		a	b	c	d	
1	<u>カラム「FID」および「APDFILEID」に定義されているインデクス</u>	4,096	30	RRN×CMN×PFN×PFP	1	—
2	idx_apdfile1	4,096	30	1	↑RRN×CMN×PFN×PFP↑	RRN×CMN×PFN×PFP ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	RRN×CMN×PFN×PFP > 200 の場合
3	idx_apdfile3	4,096	30	RRN×CMN×PFN×PFP	1	—
4	idx_apdfile4	4,096	30	1	↑RRN×CMN×PFN×PFP↑	RRN×CMN×PFN×PFP ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	RRN×CMN×PFN×PFP > 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

-：該当しません。

表 C-62 添付ファイルテーブル (tbl_apdfile) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (2/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		e	f	g	h	
1	<u>カラム [FID] および [APDFILEID] に定義されているインデクス</u>	0	0	12	RRN×CMN×PFN×PFP	-
2	idx_apdfile1	0	0	4	0	RRN×CMN×PFN×PFP ≤ 200 の場合
		1	↑RRN×CMN×PFN×PFP ↑	4	0	RRN×CMN×PFN×PFP > 200 の場合
3	idx_apdfile3	0	0	16	0	-
4	idx_apdfile4	0	0	4	0	RRN×CMN×PFN×PFP ≤ 200 の場合
		1	↑RRN×CMN×PFN×PFP ↑	4	0	RRN×CMN×PFN×PFP > 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

-：該当しません。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(6) ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess)

ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-63 ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [FID] および [USERID] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	RRN	1	0	0	↑ (UID+9) ÷ 4 ↑ × 4	RRN
2	idx_uaccess1	4,096	30	RRN	1	0	0	↑ (UID+1) ÷ 4 ↑ × 4	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(7) 採番管理 1 テーブル (tbl_sequence1)

採番管理 1 テーブル (tbl_sequence1) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、採番管理 1 テーブル (tbl_sequence1) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-64 採番管理 1 テーブル (tbl_sequence1) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>idx_sequence1</u>	4,096	30	RRN + 1	1	0	0	4	RRN + 1

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(8) 採番管理 2 テーブル (tbl_sequence2)

採番管理 2 テーブル (tbl_sequence2) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、採番管理 2 テーブル (tbl_sequence2) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-65 採番管理 2 テーブル (tbl_sequence2) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>idx_sequence2</u>	4,096	30	RRN	1	0	0	4	RRN

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(9) 重要度テーブル (tbl_importance)

重要度テーブル (tbl_importance) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、重要度テーブル (tbl_importance) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-66 重要度テーブル (tbl_importance) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	カラム [FID] および [IMPID] に定義されているインデクス	4,096	30	RRN×3	1	0	0	8	RRN×3

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(10) 属性テーブル (tbl_attribute)

属性テーブル (tbl_attribute) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、属性テーブル (tbl_attribute) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-67 属性テーブル (tbl_attribute) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	カラム [FID] および [ATTRID] に定義されているインデクス	4,096	30	RRN	1	0	0	8	RRN

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(11) 既読テーブル (tbl_aldyread)

既読テーブル (tbl_aldyread) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、既読テーブル (tbl_aldyread) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-68 既読テーブル (tbl_aldyread) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	カラム [FID], [OPNID] および	4,096	30	RRN×CM N	1	0	0	$\uparrow (UID+15) \div 4 \uparrow \times 4$	RRN×CM N

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>「USERID」に定義されているインデクス</u>	4,096	30	RRN×CM N	1	0	0	↑ (UID+15) ÷ 4↑×4	RRN×CM N

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(12) 状態テーブル (tbl_state)

状態テーブル (tbl_state) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、状態テーブル (tbl_state) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-69 状態テーブル (tbl_state) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム「FID」および「STATEID」に定義されているインデクス</u>	4,096	30	RRN×2	1	0	0	8	RRN×2

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(13) 属性マスタテーブル (tbl_mattribute)

属性マスタテーブル (tbl_mattribute) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、属性マスタテーブル (tbl_mattribute) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-70 属性マスタテーブル (tbl_mattribute) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム「ATTRID」および「LANG」に定義されているインデク</u>	4,096	30	2	1	0	0	12	2

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(14) 重要度マスタテーブル (tbl_mimportance)

重要度マスタテーブル (tbl_mimportance) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、重要度マスタテーブル (tbl_mimportance) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-71 重要度マスタテーブル (tbl_mimportance) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	カラム「IMPID」および「LANG」に定義されているインデクス	4,096	30	6	1	0	0	12	6

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(15) 状態マスタテーブル (tbl_mstate)

状態マスタテーブル (tbl_mstate) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、状態マスタテーブル (tbl_mstate) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-72 状態マスタテーブル (tbl_mstate) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	カラム「STATEID」および「LANG」に定義されているインデクス	4,096	30	4	1	0	0	12	4

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(16) パラメタ管理テーブル (tbl_param)

パラメタ管理テーブル (tbl_param) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、パラメタ管理テーブル (tbl_param) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-73 パラメタ管理テーブル (tbl_param) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム「PKEY」に定義されているインデクス</u>	4,096	30	10	1	0	0	24	10

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(17) 予備テーブル 1 (tbl_mailuser)

予備テーブル 1 (tbl_mailuser) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、予備テーブル 1 (tbl_mailuser) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-74 予備テーブル 1 (tbl_mailuser) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム「FID」および「USERID」に定義されているインデクス</u>	4,096	30	0	1	0	0	$\uparrow (UID + 9) \div 4 \uparrow \times 4$	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(18) 予備テーブル 2 (tbl_caccess)

予備テーブル 2 (tbl_caccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-75 予備テーブル 2 (tbl_caccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム「FID」, 「COMID」, 「WORKID」および「ROLEID」に定義されているインデクス</u>	4,096	30	0	1	0	0	16	0

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
2	<u>idx_caccess1</u>	4,096	30	0	1	0	0	8	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(19) 予備テーブル 3 (tbl_oaccess)

予備テーブル 3 (tbl_oaccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-76 予備テーブル 3 (tbl_oaccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [FID] および [ORGID] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	0	1	0	0	12	0
2	<u>idx_oaccess1</u>	4,096	30	0	1	0	0	4	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(20) 予備テーブル 4 (tbl_mtcaccess)

予備テーブル 4 (tbl_mtcaccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、予備テーブル 4 (tbl_mtcaccess) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-77 予備テーブル 4 (tbl_mtcaccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [FTYPE] および [ROLEID] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	0	1	0	0	8	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(21) 予備テーブル 5 (tbl_mtattribute)

予備テーブル 5 (tbl_mtattribute) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、予備テーブル 5 (tbl_mtattribute) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-78 予備テーブル 5 (tbl_mtattribute) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [FTYPE] および [ATTRID] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	1	1	0	0	8	1

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(22) 宛先台帳用 ID 管理テーブル (tbl_abid)

宛先台帳用 ID 管理テーブル (tbl_abid) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、宛先台帳用 ID 管理テーブル (tbl_abid) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-79 宛先台帳用 ID 管理テーブル (tbl_abid) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [ABIDSQ] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	1	1	0	0	4	1

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(23) 宛先台帳テーブル (tbl_addressbook)

宛先台帳テーブル (tbl_addressbook) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-80 宛先台帳テーブル (tbl_addressbook) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [ABID] に定義されているインデクス (ABID)</u>	4,096	30	USR + GRP	1	0	0	4	USR + GRP
2	IDX_AOWNER	4,096	30	USR	$\uparrow (USR + GRP) \div USR$ \uparrow	0	0	$\uparrow (UID + 7) \div 4 \uparrow \times 4$	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(24) アクセス権テーブル (tbl_abaccess)

アクセス権テーブル (tbl_abaccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-81 アクセス権テーブル (tbl_abaccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [ABID], [OBJID] および [OBJTYPE] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	USR + GRP × GRA	1	0	0	$\uparrow (UID + 13) \div 4 \uparrow \times 4$	USR + GRP × GRA
2	IDX_ACCOBJID	4,096	30	USR + GRP × GRA	1	0	0	$\uparrow (UID + 13) \div 4 \uparrow \times 4$	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(25) フォルダテーブル (tbl_folder)

フォルダテーブル (tbl_folder) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-82 フォルダテーブル (tbl_folder) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム「ABID」および「FLDID」に定義されているインデクス</u>	4,096	30	(USR + GRP) × FDN	1	0	0	12	(USR + GRP) × FDN
2	IDX_FLDOFLD	4,096	30	(USR + GRP) × 2	↑ FDN ÷ 2 ↑	0	0	12	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(26) 宛先情報テーブル (tbl_address)

宛先情報テーブル (tbl_address) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-83 宛先情報テーブル (tbl_address) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				説明
		a	b	c	d	
1	<u>カラム「ABID」および「ADRID」に定義されているインデクス</u>	4,096	30	(USR + GRP) × ADN	1	—
2	IDX_ADRFLD	4,096	30	(USR + GRP) × ADN ÷ FDN	FDN	—
3	IDX_ADRSTR	4,096	30	(USR + GRP) × ADN ÷ 1.25	2	列 c の計算式中「1.25」は、一つの宛先台帳内に同じ宛先が存在する確率です。このマニュアルでは、25%の宛先が宛先台帳内で複数回存在すると想定しています。 また、d の値は「1.25」を切り上げた値です。

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

—：該当しません。

表 C-84 宛先情報テーブル (tbl_address) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数			
		e	f	g	h
1	カラム「ABID」および「ADRID」に定義されているインデクス	0	0	12	(USR+GRP)×ADN
2	IDX_ADRFLD	0	0	12	0
3	IDX_ADRSTR	0	0	$\uparrow (ADR + 13) \div 4 \uparrow \times 4$	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

付録 C.6 ユーザ LOB 用 RD エリアの見積もりで使用する値

ユーザ LOB 用 RD エリアの見積もりで使用する値について説明します。

(1) CMLRDLOBB10 の容量見積もりで使用する値

CMLRDLOBB10 の容量見積もりで使用する値を次に示します。

表 C-85 CMLRDLOBB10 の容量見積もりで使用する値

項番	見積もりで使用する変数			
	a※1	b	C _j	S _i
1	1	RRN×CMN×PFN×PFP	PFS	別途算出※2

注※1

ユーザ用 RD エリアを構成する HiRDB ファイルの数です。ご使用の環境に合わせて変更してください。詳細はマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

注※2

HiRDB ファイルごとのセグメント数です。b と C_j の値を基に算出してください。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(2) CMLRDLOBD10 および CMLRDLOBD20 の容量見積もりで使用する値

CMLRDLOBD10 および CMLRDLOBD20 の容量見積もりで使用する値を次に示します。なお、CMLRDLOBD10 および CMLRDLOBD20 は SGMLTEXT データ格納用 RD エリアです。

表 C-86 CMLRDLOBD10 および CMLRDLOBD20 の容量見積もりで使用する値

項番	RD エリア名	見積もりで使用する変数				
		a※1	b	C _j	docsize	S _i
1	CMLRDLOBD10	1	RRN×CMN + 2	別途算出※2	CSB + CTX + UNJ + UNE + 4	別途算出※3
2	CMLRDLOBD20	1	RRN×CMN×PFN×PFP + 2		PTS	

注※1

ユーザ用 RD エリアを構成する HiRDB ファイルの数です。ご使用の環境に合わせて変更してください。詳細はマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

注※2

C₁ および C₂ の値には、マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」のユーザ LOB 用 RD エリア容量に記載されている値を使用してください。

また、C₃ 以降の値はマニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」のユーザ LOB 用 RD エリア容量に記載されている計算式（一般の場合）を使用して算出してください。

注※3

HiRDB ファイルごとのセグメント数です。b と C_j の値を基に算出してください。

(3) CMLRDLOBI10 および CMLRDLOBI20 の容量見積もりで使用する値

CMLRDLOBI10 および CMLRDLOBI20 の容量見積もりで使用する値を次に示します。なお、CMLRDLOBI10 および CMLRDLOBI20 は n-gram インデクス情報格納用 RD エリアです。

また、次の条件を前提としています。

- 分割遅延登録を使用します。
- 統合情報は反映しません。
- 概念検索は使用しません。
- 通常インデクスまたは英文検索用インデクス (ENGLISH) が格納されています。

表 C-87 CMLRDLOBI10 および CMLRDLOBI20 の容量見積もりで使用する値

項番	RD エリア名	見積もりで使用する変数					
		a※1	b	C _j	docsize	doccnt	S _i
1	CMLRDLOBI10	1	8	別途算出※2	CSB + CTX + UNJ + UNE + 4	RRN×CMN	別途算出※3
2	CMLRDLOBI20	1	8		PTS	RRN×CMN×PFN×PFP	

注※1

ユーザ用 RD エリアを構成する HiRDB ファイルの数です。ご使用の環境に合わせて変更してください。詳細はマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

注※2

マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB TextSearch Plug-in Version 9」のユーザ LOB 用 RD エリア容量に記載されている計算式を使用して算出してください。ただし C_7 の値には「0」を使用してください。

また、データベースを新規構築する場合は、 C_8 の値は「UCS4 インデックスの場合（初期作成）」の計算式を使用して算出してください。すでに UCS2 インデックスで構築されているデータベースを UCS4 インデックスに変更する場合は、 C_8 の値は「UCS4 インデックスの場合」の計算式を使用して算出してください。

注※3

HiRDB ファイルごとのセグメント数です。b と C_j の値を基に算出してください。

付録 D 旧バージョンから移行する場合の設定

ここでは、Collaboration - Mail を次に示すバージョンからリビジョンアップする場合の作業、および注意事項について説明します。

- Collaboration - Mail 01-85 からリビジョンアップする場合
- Collaboration - Mail 01-70, 01-71, または 01-82 からリビジョンアップする場合
- Collaboration - Mail 01-50 または 01-52 からリビジョンアップする場合
- Collaboration - Mail 01-36 からリビジョンアップする場合
- Collaboration - Mail 01-35 からリビジョンアップする場合
- Collaboration - Mail 01-32 からリビジョンアップする場合
- Collaboration - Mail 01-30 からリビジョンアップする場合
- Collaboration - Mail 01-20 からリビジョンアップする場合
- Collaboration - Mail 01-10 からリビジョンアップする場合
- Collaboration - Mail 01-00 からリビジョンアップする場合

それぞれのバージョンから Collaboration - Mail をリビジョンアップする場合の作業、および Collaboration - Mail 01-30 以前のバージョンから移行する場合の注意事項について、次に示します。

付録 D.1 旧バージョンから移行する場合の注意事項

運用状況によっては、旧バージョンの構築時に見積もったデータベース容量のままでは容量が不足する場合があります。旧バージョンから移行する場合は、必ず現在使用しているデータベース容量を確認して、必要に応じてデータベース容量を拡張してください。データベース容量の見積もり方法の詳細は、「2.6.5 データベース容量の見積もり」を参照してください。

なお、次に示す RD エリアは、RD エリアの容量だけでなく Available Work Area の容量も確認する必要があります。

- CMLRDLOBI10
- CMLRDLOBI20

Available Work Area の容量が不足している場合は拡張してください。

Available Work Area の容量の確認方法、および拡張方法については、「付録 D.6 Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業」を参照してください。

また、RD エリアの最小セグメント数を「2.6.7(2) RD エリアの作成方法（メール保存用）」の表 2-7 および「2.6.7(3) RD エリアの作成方法（宛先台帳用）」の表 2-10 に示しています。容量を見積もり直した結果が、最小セグメント数よりも小さい場合は、RD エリアを拡張してください。RD エリアの拡張方法の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R) 用)」を参照してください。

付録 D.2 Collaboration - Mail 01-85 から移行する場合の作業

Collaboration - Mail 01-85 から移行する場合は、次の作業を実施します。

- Collaboration - Mail 01-85 の hptl_clb_cml.properties および hptl_clb_cml_set.properties のバックアップを取ります。今バージョンの hptl_clb_cml.properties および hptl_clb_cml_set.properties に、バックアップを取ったプロパティファイルの内容を反映してください。

付録 D.3 Collaboration - Mail 01-70, 01-71 または 01-82 から移行する場合の作業

Collaboration - Mail 01-70, 01-71 または 01-82 から移行する場合は、次の作業を実施します。

- Collaboration - Mail 01-70, 01-71 または 01-82 の hptl_clb_cml.properties および hptl_clb_cml_set.properties のバックアップを取ります。今バージョンの hptl_clb_cml.properties および hptl_clb_cml_set.properties に、バックアップを取ったプロパティファイルの内容を反映してください。
- HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用してテーブルの定義を変更します。定義の変更には次のテーブル定義変更ファイルを使用してください。

Collaboration - Mail インストールディレクトリ¥sample¥hptl_clb_cml_tbl_def_update.sql

会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

付録 D.4 Collaboration - Mail 01-50 または 01-52 から移行する場合の作業

Collaboration - Mail 01-50 または 01-52 から移行する場合は、次の作業を実施します。

- Collaboration - Mail 01-50 または 01-52 の hptl_clb_cml.properties および hptl_clb_cml_set.properties のバックアップを取ります。今バージョンの hptl_clb_cml.properties および hptl_clb_cml_set.properties に、バックアップを取ったプロパティファイルの内容を反映してください。
- HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用してテーブルの定義を変更します。定義の変更には次のテーブル定義変更ファイルを使用してください。

Collaboration - Mail インストールディレクトリ¥sample¥hptl_clb_cml_tbl_def_update.sql

会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

付録 D.5 Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業

Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合は、次の作業を実施します。

- Collaboration - Mail 01-36 の hptl_clb_cml.properties および hptl_clb_cml_set.properties のバックアップを取ります。今バージョンの hptl_clb_cml.properties および hptl_clb_cml_set.properties に、バックアップを取ったプロパティファイルの内容を反映してください。
- 次に示すテーブルのインデクス容量を見積もり直してください。

メール保存用のデータベース

採番管理 1 テーブル

採番管理 2 テーブル

宛先台帳用のデータベース

アクセス権テーブル

見積もり方法の詳細は、「2.6.5 データベース容量の見積もり」を参照してください。

- `hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql` を任意のディレクトリにコピーして、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を修正します。また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。

`hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql` を修正したら、データベース構成変更ユーティリティ (`pdmod`) を実行して、RD エリアを作成します。なお、既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ユーティリティを実行する前にファイルシステムに空き容量があるかどうかを確認してください。

コマンドの入力例を次に示します。

```
>pdmod -a 任意のディレクトリ¥hptl_clb_cml_area_shift_0150.sql
```

データベース構成変更ユーティリティ (`pdmod`) を実行すると、`CMLRDINDX60` および `CMLADBKIDX3` が作成されます。

データベース構成変更ユーティリティ (`pdmod`) の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

RD エリアの作成方法の詳細は、「2.6.7(2) RD エリアの作成方法 (メール保存用)」および「2.6.7(3) RD エリアの作成方法 (宛先台帳用)」を参照してください。

- `hptl_clb_cml_pdsys_shift_0150.txt` を編集して、HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。

グローバルバッファの詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

なお、`hptl_clb_cml_pdsys_shift_0150.txt` は、グローバルバッファと RD エリアを一对一で割り当てている場合を想定して記述されています。

- データベース定義ユーティリティ (`pddef`) を実行してテーブルおよびインデクスを作成します。

コマンドの入力例を次に示します。

```
>pddef hptl_clb_cml_tbl_idx_shift_0150.sql
```

データベース定義ユーティリティ (`pddef`) の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

- HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (`pdsqll`) を使用してテーブルの定義を変更します。定義の変更には次のテーブル定義変更ファイルを使用してください。

Collaboration - Mail インストールディレクトリ¥`sample¥hptl_clb_cml_tbl_def_update.sql`

会話型 SQL 実行ユーティリティ (`pdsqll`) の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

付録 D.6 Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業

Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合は、次に示す作業を実施してから、Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業を実施してください。Collaboration - Mail01-36 から移行する場合の作業の詳細は、「付録 D.5 Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業」を参照してください。

(1) 必ず実施する作業

- Collaboration - Mail 01-35 の `hptl_clb_cml.properties` および `hptl_clb_cml_set.properties` のバックアップを取ります。今バージョンの `hptl_clb_cml.properties` および `hptl_clb_cml_set.properties` に、バックアップを取ったプロパティファイルの内容を反映してください。
- インデクス情報変更ユーティリティ (`phnmodidx`) を使用して、次のインデクスの情報を UCS2 から UCS4 に変更します。
 - 本文テーブル (全文検索用テキストデータ) のインデクス

- 添付ファイル（全文検索用テキストデータ）のインデクス

phnmodidx のオプションは、次のように指定します。

-d オプション

情報を変更するインデクスのインデクス識別子を指定します。idx_contents2, または idx_apdfile2 を指定してください。

-v オプション

変更するインデクス定義項目を指定します。"INDEX_TYPE=UCS4"を指定してください。

指定例

本文テーブル（全文検索用テキストデータ）のインデクス情報を変更する場合

```
phnmodidx -d idx_contents2 -v "INDEX_TYPE=UCS4"
```

添付ファイル（全文検索用テキストデータ）のインデクス情報を変更する場合

```
phnmodidx -d idx_apdfile2 -v "INDEX_TYPE=UCS4"
```

インデクス情報変更ユティリティ (phnmodidx) の詳細は、マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」を参照してください。

- 次の見積もり式を使用して、本文テーブル（全文検索用テキストデータ）のインデクス、および添付ファイル（全文検索用テキストデータ）のインデクスの Available Work Area の容量を算出します。なお、Available Work Area の容量の単位はバイトです。

本文テーブル（全文検索用テキストデータ）のインデクスの Available Work Area の見積もり式

$$200 \times 1024 \times 1024 + \text{CMN} \times \text{RRN} \times (\text{CSB} + \text{CTX} + \text{UNJ} + \text{UNE} + 4) \times \text{PUU} \times 7$$

添付ファイル（全文検索用テキストデータ）のインデクスの Available Work Area の見積もり式

$$200 \times 1024 \times 1024 + \text{PFN} \times \text{PFP} \times \text{CMN} \times \text{RRN} \times \text{PFS} \times \text{PTR} \times \text{PUU} \times 7$$

見積もり式で使用している記号の意味

PUU：本文，主題，人の名前，および添付ファイルの内容に含まれる Windows Vista で拡張された文字 (JIS X0213) の割合 (範囲：0.0～1.0 例：12.3%の場合は 0.123)

これ以外の記号の詳細は、「付録 C.2 値の説明で使用する記号」を参照してください。

算出した値より、現在使用している Available Work Area の容量の方が少ない場合は、次に示す RD エリアを不足している分だけ拡張してください。

- CMLRDLOBI10
- CMLRDLOBI20

拡張した値は、すべて Available Work Area に割り当てられます。

RD エリアの拡張方法の詳細は、「2.6.7(2) RD エリアの作成方法 (メール保存用)」を参照してください。

なお、現在使用している Available Work Area の容量を確認するには、インデクス情報の取得ユティリティ (phnidxls) を使用します。

phnidxls のオプションは、次のように指定します。

-d オプション

Available Work Area の容量を確認したいインデクスのインデクス識別子を指定します。

idx_contents2, または idx_apdfile2 を指定してください。

-r オプション

-d オプションに指定したインデクスが存在する RD エリア名を指定します。CMLRDLOBI10, または CMLRDLOBI20 を指定してください。

指定例

本文テーブル（全文検索用テキストデータ）のインデクスの場合

```
phnidxls -d idx_contents2 -r CMLRDLOBI10
```

添付ファイル（全文検索用テキストデータ）のインデクスの場合

```
phnidxls -d idx_apdfi le2 -r CMLRDLOBI20
```

インデクス情報の取得ユーティリティ（phnidxls）の詳細は、マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」を参照してください。

(2) 必要に応じて実施する作業

[宛先確認] 画面の [所属組織] に所属組織の略称を表示させる運用の場合は、Groupmax Address Server 07-35 以降、および Groupmax Mail Server 07-35 以降を上書きインストールしてください。

Groupmax Address Server および Groupmax Mail Server のインストール方法の詳細は、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

付録 D.7 Collaboration - Mail 01-32 から移行する場合の作業

Collaboration - Mail 01-32 から移行する場合は、Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業、Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業、および次に示す作業をしてください。

リビジョンアップの作業は、次に示す順序で実施してください。

1. Collaboration - Mail 01-32 から移行する場合の作業
2. Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業
3. Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業

それぞれの作業の詳細は、次の個所を参照してください。

- 付録 D.5 Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業
- 付録 D.6 Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業

(1) 必ず実施する作業

- Collaboration - Mail 01-32 の hptl_clb_cml.properties および hptl_clb_cml_set.properties のバックアップを取ります。今バージョンの hptl_clb_cml.properties および hptl_clb_cml_set.properties に、バックアップを取ったプロパティファイルの内容を反映してください。

付録 D.8 Collaboration - Mail 01-30 から移行する場合の作業

Collaboration - Mail 01-30 から移行する場合は、Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業、Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業、および次に示す作業をしてください。

リビジョンアップの作業は、次に示す順序で実施してください。

1. Collaboration - Mail 01-30 から移行する場合の作業
2. Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業
3. Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業

それぞれの作業の詳細は、次の個所を参照してください。

- 付録 D.5 Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業
- 付録 D.6 Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業

(1) 必ず実施する作業

- Collaboration - Mail 01-30 の `hptl_clb_cml.properties` および `hptl_clb_cml_set.properties` のバックアップを取ります。今バージョンの `hptl_clb_cml.properties` および `hptl_clb_cml_set.properties` に、バックアップを取ったプロパティファイルの内容を反映してください。
- `hptl_clb_cml_check_plugin.properties` を次のフォルダにコピーします。
Collaboration - Mail インストールディレクトリ¥`conf`

付録 D.9 Collaboration - Mail 01-20 から移行する場合の作業

Collaboration - Mail 01-20 からリビジョンアップする場合は、Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業、Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業、Collaboration - Mail 01-30 から移行する場合の作業、および次に示す作業をしてください。

リビジョンアップの作業は、次に示す順序で実施してください。

1. Collaboration - Mail 01-20 から移行する場合の作業
2. Collaboration - Mail 01-30 から移行する場合の作業
3. Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業
4. Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業

それぞれの作業の詳細は、次の個所を参照してください。

- 付録 D.5 Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業
- 付録 D.6 Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業
- 付録 D.8 Collaboration - Mail 01-30 から移行する場合の作業

(1) 必ず実施する作業

- HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (`pdsqll`) を使用して、*Collaboration - Mail* インストールディレクトリ¥`sample¥hptl_clb_cml_0120to0130.sql` を実行します。
- `hptl_clb_cml_charset.properties` を次のフォルダにコピーします。
Collaboration - Mail インストールディレクトリ¥`conf`

(2) グループ宛先台帳の機能を利用する場合の作業

宛先台帳で必要とする RD エリアのサイズが大きくなります。運用に合わせて RD エリアのサイズを見直してください。なお、RD エリアを拡張する場合は、次に示す RD エリアをすべて拡張してください。

- 宛先情報のデータ
- 宛先情報以外のデータ
- 宛先情報のデータ用のインデクス
- 宛先情報以外のデータ用のインデクス

RD エリアを拡張する方法の詳細は、「2.6.7(3) RD エリアの作成方法（宛先台帳用）」を参照してください。

(3) Collaboration - Mail 01-20 の設定を引き継ぐ場合に実施する作業

Collaboration - Mail 01-20 の `hptl_clb_cml.properties` のバックアップを取ります。今バージョンの `hptl_clb_cml.properties` に、バックアップを取った Collaboration - Mail 01-20 の `hptl_clb_cml.properties` の内容を反映してください。

付録 D.10 Collaboration - Mail 01-10 から移行する場合の作業

Collaboration - Mail 01-10 からリビジョンアップする場合は、Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業、Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業、Collaboration - Mail 01-30 から移行する場合の作業、Collaboration - Mail 01-20 から移行する場合の作業、および次に示す作業をしてください。

リビジョンアップの作業は、次に示す順序で実施してください。

1. Collaboration - Mail 01-10 から移行する場合の作業
2. Collaboration - Mail 01-20 から移行する場合の作業
3. Collaboration - Mail 01-30 から移行する場合の作業
4. Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業
5. Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業

それぞれの作業の詳細は、次の個所を参照してください。

- 付録 D.5 Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業
- 付録 D.6 Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業
- 付録 D.8 Collaboration - Mail 01-30 から移行する場合の作業
- 付録 D.9 Collaboration - Mail 01-20 から移行する場合の作業

(1) 必ず実施する作業

- HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (`pdsq`) コマンドを使用して、*Collaboration - Mail* インストールディレクトリ `*sample*` `hptl_clb_cml_tsindex.sql` を実行し、データベースに保存されている添付ファイルを全文検索できる状態にします。
- データベースに保存されているメールおよび添付ファイルを全文検索の対象に設定します。設定方法の詳細は、「3.1 全文検索の準備」を参照してください。

(2) Collaboration - Mail 01-10 の設定を引き継ぐ場合に実施する作業

Collaboration - Mail 01-10 の `hptl_clb_cml.properties` を使用してください。今バージョンの `hptl_clb_cml.properties` から、Collaboration - Mail 01-10 との差分だけをコピーして、Collaboration - Mail 01-10 のファイルに追加します。コピーするプロパティの詳細は「2.11.1 Collaboration - Mail のプロパティの設定方法」を参照してください。

付録 D.11 Collaboration - Mail 01-00 から移行する場合の作業

Collaboration - Mail 01-00 からリビジョンアップする場合は、Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業、Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業、Collaboration - Mail 01-30 から移行する場合の作業、Collaboration - Mail 01-20 から移行する場合の作業、Collaboration - Mail 01-10 から移行する場合の作業、および次に示す作業をしてください。

リビジョンアップの作業は、次に示す順序で実施してください。

1. Collaboration - Mail 01-00 から移行する場合の作業
2. Collaboration - Mail 01-10 から移行する場合の作業
3. Collaboration - Mail 01-20 から移行する場合の作業
4. Collaboration - Mail 01-30 から移行する場合の作業
5. Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業
6. Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業

それぞれの作業の詳細は、次の個所を参照してください。

- 付録 D.5 Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業
- 付録 D.6 Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業
- 付録 D.8 Collaboration - Mail 01-30 から移行する場合の作業
- 付録 D.9 Collaboration - Mail 01-20 から移行する場合の作業
- 付録 D.10 Collaboration - Mail 01-10 から移行する場合の作業

(1) 必ず実施する作業

- メール保存用および宛先台帳用のデータベースを構築します。データベースの構築方法の詳細は、「2.6 Collaboration - Mail のデータベース構築」を参照してください。
- hptl_clb_cml.properties の [hptl_clb_cml_logPath] は必須項目となったため、[hptl_clb_cml_logPath] を設定します。
- Collaboration - Mail 01-00 の hptl_clb_mrc.properties から [WorkFolderPath] および [SingleSignOnLogin] を削除します。
- Collaboration - Mail 01-00 で hptl_clb_mrc.properties の [SingleSignOnLogin] に [True] を指定している場合、今バージョンでは hptl_clb_cml.properties の [hptl_clb_cml.properties_single_sign_on_login] に [True] を指定します。
- Collaboration - Mail 01-00 の Collaboration - Mail をインストールするときに *Collaboration Portal* インストールディレクトリ¥clb_home¥lib にコピーした hptl_clb_mrc.jar を削除します。*
- Collaboration - Mail 01-00 でクラスパスに追加した hptl_clb_mrc.jar を削除します。*

注※

Collaboration - Mail 01-00 の hptl_clb_mrc.jar が読み込まれてしまうため、今バージョンの Collaboration - Mail をインストールする前に、必ず Collaboration - Mail 01-00 の hptl_clb_mrc.jar を削除してください。削除しないと今バージョンの Collaboration - Mail を使用できません。

(2) Collaboration - Mail 01-00 の設定を引き継ぐ場合に実施する作業

- Collaboration - Mail 01-00 の hptl_clb_cml.properties を使用してください。今バージョンの hptl_clb_cml.properties から、Collaboration - Mail 01-00 との差分だけをコピーして、Collaboration - Mail 01-00 のファイルに追加します。コピーするプロパティの詳細は「2.11.1 Collaboration - Mail のプロパティの設定方法」を参照してください。
- Collaboration - Mail 01-00 の hptl_clb_mrc.properties を使用してください。今バージョンの hptl_clb_mrc.properties から、Collaboration - Mail 01-00 との差分だけをコピーして、

Collaboration - Mail 01-00 のファイルに追加します。コピーするプロパティの詳細は「2.13.1 Groupmax 通信ライブラリのプロパティの設定方法」を参照してください。

(3) 必要に応じて実施する作業

ここで挙げている作業は、使用している環境に合わせて必要に応じて実施してください。なお、この作業をしなくても、今バージョンの Collaboration - Mail の動作に影響はありません。

- Collaboration - Mail 01-00 で指定した `hptl_clb_cml.properties` の「`hptl_clb_cml_workFolderPath`」のフォルダ以下の内容が今バージョンにも引き継がれるため、Collaboration - Mail 01-00 の「`hptl_clb_cml_workFolderPath`」のフォルダ以下を削除します。
- Collaboration - Mail 01-00 のメッセージファイル (`ja_clb_cml_msg_message2.csv` および `en_clb_cml_msg_message2.csv`) は使用しないため、削除します。
なお、メッセージファイルを *Collaboration Portal* インストールディレクトリ`¥clb_home¥message` から削除する場合は、*Collaboration Portal* インストールディレクトリ`¥clb_home¥conf` `¥JXMessage.properties` から記述を削除してください。
メッセージファイルを *Collaboration Portal* インストールディレクトリ`¥clb_home¥message` から削除しない場合は、*Collaboration Portal* インストールディレクトリ`¥clb_home¥conf` `¥JXMessage.properties` の記述も削除しません。

付録 D.12 旧バージョンから引き継がれる設定内容

(1) Collaboration - Mail 01-10 から引き継がれる設定内容

Collaboration - Mail 01-10 の [設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合)、[設定] 画面 ([ワークスペースごとの設定] タブを選択している場合)、および [設定] 画面 ([レイアウトごとの設定] タブを選択している場合) で設定した内容、ならびに [署名編集] 画面で設定した内容がすべて引き継がれます。

(2) Collaboration - Mail 01-00 から引き継がれる設定内容

Collaboration - Mail 01-00 の [環境設定] 画面から登録した設定内容は、今バージョンにも引き継がれます。

なお、Collaboration - Mail 01-00 の [環境設定] 画面から [登録する] ボタン、または [OK] ボタンをクリックした場合は、設定内容を変更したかどうかに関係なく、今バージョンの [設定] 画面の [システムの設定に従う] チェックボックスはチェックされません。

Collaboration - Mail 01-00 から今バージョンに引き継がれる内容を次に示します。

- [メール送信時、自分宛に Bcc で送信する] チェックボックスがチェックされている場合
今バージョンでは、[設定] 画面 ([全般] タブを選択している場合) の [メール送信時、自分宛に Bcc で送信する] チェックボックスがチェックされている状態になります。
- [メール作成/返信/転送時、文頭に以下の署名を挿入する] チェックボックスがチェックされている場合
今バージョンでは、[署名編集] 画面の [メール作成時にこの署名をつける] チェックボックスがチェックされている状態になります。
- 署名が入力されている場合
今バージョンでは、[署名編集] 画面の署名編集領域に署名が入力されている状態になります。

付録 E メール保存用のデータベースを使用しない場合の作業

hptl_clb_cml.properties の hptl_clb_cml_useDatabase に「Off」を指定すると、メール保存用のデータベースを使用しません。この場合に必要な設定、および注意事項について説明します。

付録 E.1 メール保存用のデータベースを使用しない場合の設定

メール保存用のデータベースを使用しない場合、hptl_clb_cml.properties の hptl_clb_cml_db_schema の設定は省略できます。メール保存用のデータベースを使用する場合は、必ず設定してください。

hptl_clb_cml_db_schema の詳細は、「2.11.4(10) メール保存用のデータベースのスキーマ名の指定 (hptl_clb_cml_db_schema)」を参照してください。

また、ナビゲーションビューから [保存メール] アンカーおよび [下書きメール] アンカーを削除する必要があります。ナビゲーションビューから [保存メール] アンカーおよび [下書きメール] アンカーを削除する方法を次に示します。

手順

1. *Collaboration* インストールディレクトリ¥deploy_work¥adportlets¥hptlclbcml¥PORTLET-INF ¥tree-def.xml の次の部分を削除して、WAR ファイルを作成し直します。

```
<!-- 保存メール -->
<item>
<display-name>SAVED_MAIL</display-name>

<default-icon-url>images/cml_list_saved.gif</default-icon-url>

<portlet-uri-parameter>func=viewrootlist&viewid=preservroot</portlet-uri-parameter>

<windowopen-parameter-key>main.window.style</windowopen-parameter-key>
</item>

<!-- 下書きメール -->
<item>
<display-name>DRAFT_MAIL</display-name>

<default-icon-url>images/cml_list_draft.gif</default-icon-url>

<portlet-uri-parameter>func=viewrootlist&viewid=draftroot</portlet-uri-parameter>

<windowopen-parameter-key>main.window.style</windowopen-parameter-key>
</item>
```

WAR ファイルの作成方法およびデプロイ方法の詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

付録 E.2 メール保存用のデータベースを使用しない場合の注意事項

メール保存用のデータベースを使用しない場合、[メール] ポートレットの画面に表示されない項目があります。

[メール] ポートレットの画面に表示されない項目を次の表に示します。

表 E-1 【メール】 ポートレットの画面に表示されない項目

項番	画面名	表示されない項目
1	<ul style="list-style-type: none"> • [受信メール一覧] 画面 • [送信済みメール一覧] 画面 	[表示▼] メニューの次の項目 <ul style="list-style-type: none"> • [保存メール一覧] • [下書きメール一覧] [オプション▼] メニューの [保存メールの使用量]
2	<ul style="list-style-type: none"> • [受信メール] (プレビュー) 画面 • [受信メール] (別ウィンドウ) 画面 • [送信済みメール] (プレビュー) 画面 • [送信済みメール] (別ウィンドウ) 画面 	<ul style="list-style-type: none"> • [アクション▼] メニューの [保存] •  アイコン
3	<ul style="list-style-type: none"> • [設定] 画面 ([ワークスペースごとの設定] タブを選択している場合) • [設定] 画面 ([レイアウトごとの設定] タブを選択している場合) 	[一覧に表示する項目の設定] の [種別]

付録 F Groupmax サーバを利用する場合の注意事項

Collaboration - Mail の接続先メールサーバが Groupmax Mail Server の場合、次に示す注意事項があります。

(1) メール主題の長さ

主題に設定できるのは、Groupmax Mail Server で設定したメール本文のサイズの上限值までの文字列です。

(2) メール宛先個数の制限

メールの宛先に指定できる個数は、「To」、「Cc」および「Bcc※」を合計して最大 256 件です。256 件を超えて宛先を指定した場合は、送信時にエラーになります。

注※

自分宛に Bcc で送信する設定の場合、Bcc として設定した自分の宛先も含まれます。

(3) 添付ファイル数の制限

メールに添付できるファイルの個数は最大 24 個です。なお、メールの送信時に日本語および英語以外の文字コードを指定した場合、添付できるファイルの数は 22 個までになります。

また、外部の E-mail クライアントから 24 個を超えたファイルが添付されたメールを受信した場合は、Groupmax Mail Server で 24 個を超えたファイルを削除します。

(4) 組織メールの制限

組織メールは使用できません。また、組織から送られたメールは参照できますが、返信はできません。

(5) メールオプションの制限

受信者名公開の機能は利用できません。

また、メールに「親展」を指定すると自動的に「代行受信禁止」が指定されます。「代行受信禁止」は解除できません。

(6) 受信メールの未既読の状態について

Collaboration - Mail で受信メールをプレビュー表示および別ウィンドウ表示した場合は、Groupmax Mail Server の受信メールの状態も開封済みになります。

付録 G Collaboration - Mail の障害対策

付録 G.1 障害対策の流れ

Collaboration - Mail の障害時には、エンドユーザの Web ブラウザにメッセージが出力されます。メッセージの ID を基に、マニュアル「Collaboration - Mail ユーザーズガイド」を参照して障害要因の確認・対策を実施してください。

また、Groupmax 通信ライブラリの障害時には、次のファイルを参照して、障害要因の確認・対策を実施してください。Groupmax 通信ライブラリのトレースファイルの詳細は、「付録 G.2 Groupmax 通信ライブラリのトレースファイル」を参照してください。

- Groupmax 通信ライブラリのトレースファイル
- Groupmax Mail Server の nxclog ファイル
- Mail - SMTP のログファイル※

注※

Groupmax Mail Server で配信エラーが発生する場合は、Mail - SMTP のログファイルが必要になります。

付録 G.2 Groupmax 通信ライブラリのトレースファイル

Groupmax 通信ライブラリのトレースファイルの出力形式、および出力される内容について説明します。

出力される内容に従って、障害要因の確認・対策を実施してください。

Groupmax 通信ライブラリトレースファイルは、プロパティファイルで指定した場所に出力されます。トレースファイル出力先の指定方法の詳細は、「2.13.4(1) トレース出力先の指定 (TracePath)」を参照してください。

Groupmax 通信ライブラリトレースファイルの出力形式を次に示します。

図 G-1 Groupmax 通信ライブラリのトレースファイルの出力形式

1	5	16	33	50	59	68	85	90	
番号	日付	時刻	AP名	pid	tid	メッセージID	種別	メッセージテキスト	CRLF

トレースファイルの各項目の詳細を次に示します。

表 G-1 トレースファイルの各項目の詳細

項番	カラム名	内容	説明
1	番号	トレースレコードの個番 (4けた)	—
2	日付	トレースの取得日付 yyyy/mm/dd	yyy : 年 mm : 月 dd : 日
3	時刻	トレースの取得時刻 hh:mm:ss.sss	hh : 時 mm : 分

項番	カラム名	内容	説明
3	時刻	トレースの取得時刻 hh:mm:ss.sss	ss：秒 sss：ミリ秒
4	AP 名	アプリケーション識別名	「MRC」 が出力されます。
5	pid	プロセス識別子	JavaVM が Runtime のインスタ ンスに付与したハッシュ値が出 力されます。
6	tid	スレッド識別子	JavaVM が Thread のインスタ ンスに付与したハッシュ値が出 力されます。
7	メッセージ ID	メッセージ ID	メッセージの ID が出力されま す。
8	種別	イベント種別	<p>トレースの契機となるイベント 種別が出力されます。 それぞれのイベント種別の意味 を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FB 関数の開始 • FE 関数の終了 • EC 例外の発生 • PB 他プログラムの呼び出し • PE ほかのプログラムからの戻り • CP 任意のチェックポイントイベ ント • OC 特定オブジェクトの生成 • OD 特定オブジェクトの終了
9	メッセージテキスト	メッセージテキスト	<p>例外時にはエラーメッセージテ キストが出力されます。 そのほかの場合は、トレース情報 が出力されます。 出力されるメッセージは 0～ 4095 バイトです。</p>

付録 G.3 RAS 用 Conf ファイルの設定

Collaboration では RAS 情報収集機能を提供しています。RAS 情報収集機能とは、RAS 機能によってログファイルに出力された Collaboration の各ポートレットのエラーメッセージやスタックトレース情報を収集して、一つのファイルにまとめる機能です。RAS 情報収集機能については、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

Collaboration - Mail には RAS 用 Conf ファイル「hptl_clb_cml_ras.conf」があります。RAS 用 Conf ファイルの格納先を次に示します。

Collaboration Portal インストールディレクトリ¥clb_home¥conf

RAS 用 Conf ファイルの設定値を次に示します。

表 G-2 RAS 用 Conf ファイルの設定値

項番	設定値	内容
1	<i>Collaboration Portal</i> インストールディレクトリ ¥clb_home¥conf	プロパティファイルの格納先 ^{※1}
2	<i>Collaboration Portal</i> インストールディレクトリ ¥clb_home¥message	リソースファイルの格納先 ^{※1}
3	ログ出力フォルダ	ログファイルの出力先 ^{※2}

注※1

デフォルトでは Collaboration 共個の RAS 用 Conf ファイル (hptl_clb_ccu_ras.conf) に記述されるため、指定しません。ただし、Collaboration - Mail のプロパティファイルやリソースファイルを別フォルダにコピーした場合は、項番 1「プロパティファイルの格納先」および項番 2「リソースファイルの格納先」を指定してください。

注※2

Collaboration - Mail のプロパティファイル (hptl_clb_cml.properties) の定義項目 hptl_clb_cml_logPath、Groupmax 通信ライブラリのプロパティファイル (hptl_clb_mrc.properties) の定義項目 TracePath、および項番 3「ログファイルの出力先」には、すべて同じフォルダを指定してください。

Collaboration - Mail のプロパティファイルの定義項目「hptl_clb_cml_logPath」については、「2.11.4(5) ログ出力先のフォルダの指定 (hptl_clb_cml_logPath)」を参照してください。Groupmax 通信ライブラリのプロパティファイルの定義項目「TracePath」については、「2.13.4(1) トレース出力先の指定 (TracePath)」を参照してください。

RAS 用 Conf ファイルの初期設定

Collaboration - Mail が提供する RAS 用 Conf ファイルには、表 G-2 の項番 3「ログファイルの出力先」だけが記述されています。ただし、デフォルトでは指定しなくてもよいため、コメントアウトされています。

RAS 用 Conf ファイルのデフォルトの設定内容を次に示します。

#C:¥Program Files¥Hitachi¥Collaboration¥clb_home¥log[※]

注※

ディレクトリの区切りは「¥」と記述してください。

付録 H 兼任機能使用時の Groupmax Address Server の設定

兼任機能を使用する場合の Groupmax Address Server の設定方法について説明します。

兼任機能使用時に兼任ユーザの宛先から主体ユーザの E-mail アドレスを取得する設定をした場合、gmpublicinfo ファイルの環境変数 NICKNAME_CACHE_LIMIT の値に、アドレス管理ドメインに登録したユーザ数より大きい値を設定してください。

この設定をすることで、Groupmax Address Server の性能を上げることができます。

gmpublicinfo ファイルの詳細は、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

なお、兼任ユーザの宛先から主体ユーザの E-mail アドレスを取得する設定をした場合とは、次のどちらかの設定をした場合を指します。

- hptl_clb_cml.properties の hptl_clb_cml_getMainEmailAddress に「On」を指定した。
- Groupmax 通信ライブラリのプロパティの GetMainEmailAddress に「true」を指定した。

hptl_clb_cml_getMainEmailAddress の詳細は、「2.11.4(47) 兼任ユーザの宛先から主体ユーザの E-mail アドレスを取得するかどうかの指定 (hptl_clb_cml_getMainEmailAddress)」を参照してください。

GetMainEmailAddress の詳細は、「2.13.4(12) 兼任ユーザのニックネームから主体ユーザの E-mail アドレスを取得するかどうか (GetMainEmailAddress)」を参照してください。

付録I Collaboration - Mail の監査ログ

ここでは、Collaboration - Mail が対象としている監査事象、および監査ログが出力される操作について説明します。Collaboration - Mail の監査ログに出力されるメッセージの詳細は、「付録K 監査ログのメッセージ」を参照してください。

次の項目の詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

- 監査ログの出力先
- 監査ログの出力形式
- 監査ログの各項目の意味

Collaboration - Mail で監査ログの取得対象となるのは、次の監査事象に関する操作です。なお、Groupmax Address Server - Monitor/Data Collection を使用すると、Collaboration - Mail の監査ログに出力されている以外の情報を参照できます。

表 I-1 Collaboration - Mail の監査ログの取得対象となる監査事象

項番	監査事象	説明
1	AccessControl	アクセス制御されているリソースに対する操作が実行されたことを示します。 次に示すリソースに対する操作が対象となります。 <ul style="list-style-type: none"> • 親展メール • 宛先台帳
2	ConfigurationAccess	アクセス制御に関する設定が変更されたことを示します。 次に示す操作が対象となります。 <ul style="list-style-type: none"> • 親展パスワードの変更 • グループ宛先台帳に対する操作
3	Failure	次の事象が発生したことを示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 必須キーの取得に失敗した • プロパティファイルのキーに指定されている値の読み込みに失敗した 対象のプロパティファイルを次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • hptl_clb_cml.properties
4	ContentAccess	操作の成功または失敗を示します。
5	AnomalyEvent	異常な値が入力されたことを示します。 すべてのリクエストが対象となります。

付録 I.1 監査ログが出力される操作

監査事象と監査ログが出力される操作の対応を次の表に示します。

表 I-2 監査事象と監査ログが出力される操作の対応

監査事象	操作
AccessControl	親展パスワードの入力
	グループ宛先台帳のルートフォルダの作成

監査事象	操作
AccessControl	グループ宛先台帳のルートフォルダの設定内容の参照
	グループ宛先台帳のルートフォルダの設定の変更
	グループ宛先台帳のルートフォルダの削除
	宛先台帳の参照
	宛先台帳にフォルダを作成
	宛先台帳のフォルダ名の変更
	宛先台帳のフォルダの移動
	宛先台帳のフォルダの削除
	宛先台帳に宛先を追加・移動
	宛先台帳に登録されている宛先の変更
	宛先台帳に登録されている宛先の削除
	宛先台帳のエクスポート
	宛先台帳のインポート
	ConfigurationAccess
グループ宛先台帳のルートフォルダの作成	
グループ宛先台帳のルートフォルダの設定内容の参照	
グループ宛先台帳のルートフォルダの設定の変更	
グループ宛先台帳のルートフォルダの削除	
ContentAccess	一覧画面の表示
	メール本文の表示
	メールの送信（返信・転送・再送を含む）
	メールの削除
	メールの保存（受信メールまたは送信済みメール）
	複数のメールの一括保存（受信メールまたは送信済みメール）
	メールの移動（受信メールまたは送信済みメール）
	複数のメールの一括移動（受信メールまたは送信済みメール）
	下書きメールの保存
	メールファイルの作成
	自分の PC に保存したメールファイルの表示
	メールの宛先を宛先台帳に登録
	印刷画面の表示

監査事象	操作
ContentAccess	添付ファイルを自分の PC に保存 (ドラッグ & ドロップでの保存を含む)
	メール配信の取り消し
	メールの開封状態の確認
	下書きメールの編集
	メールの検索
	作成中のメールに署名を挿入
	署名の参照
	署名の編集
	親展パスワードの入力
	親展パスワードの変更
	[代行受信者指定] 画面の表示
	代行受信者の指定
	代行受信者の削除
	[ファイル共有] ポートレットにファイルを登録するときの, デフォルトの登録先の変更
	データベースに保存したメールの容量の確認
	自動転送・自動返信定義の一覧の参照
	自動転送・自動返信定義の作成
	自動転送・自動返信定義の内容の参照
	自動転送・自動返信定義の変更
	自動転送・自動返信定義の状態 (有効/無効) の変更
	自動転送・自動返信定義の削除
	グループ宛先台帳のルートフォルダの作成
	グループ宛先台帳のルートフォルダの設定内容の参照
	グループ宛先台帳のルートフォルダの設定の変更
	グループ宛先台帳のルートフォルダの削除
	[宛先の編集] 画面の表示
	宛先台帳の参照
	宛先のソート
	宛先台帳にフォルダを作成
	[フォルダ名の変更] 画面の表示
	宛先台帳のフォルダ名の変更

監査事象	操作
ContentAccess	宛先台帳のフォルダの移動
	宛先台帳のフォルダの削除
	宛先台帳に宛先を追加・移動
	宛先台帳に登録されている宛先の変更
	宛先台帳に登録されている宛先の削除
	宛先台帳のエクスポート
	宛先台帳のインポート
	新着メールの有無の確認※
	メールの振り分け（受信メールまたは送信済みメール）
	振り分けルールの一覧の取得
	振り分けルールの取得
	振り分けルールの追加
	振り分けルールの変更
	振り分けルールの削除

注

Failure および AnomalyEvent はエラーが発生した時に出力されます。

注※

システムが自動的に確認します。

なお、ほかのコンポーネントから [メール] ポートレットにアクセスした場合も監査ログが出力されます。監査事象と監査ログが出力される操作の対応を次の表に示します。

表 I-3 監査事象と監査ログが出力される操作の対応（ほかのコンポーネントから宛先台帳にアクセスした場合）

監査事象	操作
AccessControl	[コンタクトリスト] フォルダに宛先を登録
	ナビゲーションビューにコンタクトリストを表示
	宛先台帳の参照
ContentAccess	メールの新着情報の表示
	[新着情報] ポートレットでメールを参照
	[コンタクトリスト] フォルダに宛先を登録
	ナビゲーションビューにコンタクトリストを表示
	宛先台帳の参照
	宛先の検索

付録I.2 監査ログに出力されるオブジェクト情報と動作情報

監査ログに出力されるオブジェクト情報と動作情報を次に示します。

(1) 監査ログに出力されるオブジェクト情報

監査ログに出力されるオブジェクト情報を次の表に示します。

表I-4 監査ログに出力されるオブジェクト情報

項番	オブジェクト情報	意味
1	AddressBookID :宛先台帳 ID	宛先台帳
2	AgentID :エージェント ID	自動転送, または自動返信の定義
3	AttachFileID :添付ファイル ID	添付ファイル
4	ConfidentialPassword	親展パスワード
5	FolderID :フォルダ ID	宛先台帳のフォルダ
6	MailID :メール ID	メール
7	プロパティ名	プロパティファイルのキー
8	プロパティファイル名	プロパティファイル

(2) 監査ログに出力される動作情報

監査ログに出力される動作情報を次の表に示します。

表I-5 監査ログに出力される動作情報

項番	動作情報	意味
1	Add	<ul style="list-style-type: none"> • インポート • 作成 • 送信 • 登録 • 保存 • 一括保存
2	Delete	削除
3	Enforce	実施
4	Occur	エラーの発生
5	Refer	<ul style="list-style-type: none"> • 印刷 • エクスポート • 検索 • 参照 • 署名の挿入 • 親展パスワードの入力

項番	動作情報	意味
5	Refer	<ul style="list-style-type: none">宛先のソート
6	Update	<ul style="list-style-type: none">移動更新署名の編集代行受信者の指定代行受信者の削除

付録 J メール の 自動転送 ・ 自動返信機能 の 詳細メッセージ

メール の 自動転送 ・ 自動返信機能 の 詳細メッセージ の 形式 と、 マニュアル で の 記載形式 を 示し ます。

なお、ここで説明するメッセージは、次に示す操作を実行したエンドユーザの Web ブラウザに出力されま
す。

- メール の 自動転送 ・ 自動返信 の 定義 の 設定
- メール の 自動転送 ・ 自動返信 の 定義 の 変更

付録 J.1 メール の 自動転送 ・ 自動返信機能 の 詳細メッセージ の 形式

メール の 自動転送 ・ 自動返信機能 の 詳細メッセージ の 形式 を 説明し ます。メッセージ は、メッセージ ID と
それに続くメッセージテキストで構成されます。形式を次に示します。

KDCPnnnnn-Y メッセージテキスト

メッセージ ID は、次の内容を示しています。

KDCP

メール の 自動転送 ・ 自動返信機能 の 詳細メッセージ である こと を 示し ます。

nnnnn

メッセージ の 番号 を 示し ます。

Y

メッセージ の 種類 を 示し ます。

E：エラーメッセージであることを表します。

付録 J.2 メール の 自動転送 ・ 自動返信機能 の 詳細メッセージ の 記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を示します。

メッセージ ID

メッセージテキスト

メッセージの内容を補完して説明します。

(O)

メッセージを確認したあとにシステム管理者がする処理を説明します。この説明に従って対処してく
ださい。

付録 J.3 メール の 自動転送 ・ 自動返信機能 の メッセージ の 詳細

KDCP01001-E

The specified argument is incorrect.(XXXX)

(XXXX：詳細コード)

Groupmax Agent Server に指定された定義が不正です。

(O)

詳細コードを参照して、エラーの原因を特定してください。

KDCP01002-E

The ARC Session has not been initialized.(XXXX)

(XXXX：詳細コード)

セッションを初期化していません。

(O)

詳細コードを参照して、エラーの原因を特定してください。

KDCP01101-E

The number of server connections has reached upper limit hence it is not connected.(XXXX)

(XXXX：詳細コード)

Groupmax Agent Server への同時接続数が最大数を超過しました。

(O)

しばらくしてからもう一度実行しても同じエラーが表示される場合は、Groupmax Agent Server の状態を確認してください。

KDCP01102-E

The same user has already connected from other machines with the agent server.(XXXX)

(XXXX：詳細コード)

別のクライアントから、同じアカウントで Groupmax Agent Server に接続しています。

(O)

- ほかの Groupmax Agent Server を同時に使用している場合は、その Groupmax Agent Server を終了してからもう一度やり直してください。
- エラーが頻発する場合は、Groupmax Agent Server のログインセッションが残ったままになっていないかどうかを確認してください。
- エラーが頻発する場合は、ほかのユーザが同じアカウントでログインしていないかどうかを確認してください。

KDCP01103-E

Not connected with agent server.(XXXX)

(XXXX：詳細コード)

Groupmax Agent Server との接続に失敗しました。

(O)

Groupmax Agent Server の状態を確認してください。

KDCP01104-E

Definition contents of server agent are incorrect.(XXXX)

(XXXX：詳細コード)

作成または変更しようとしている自動転送/自動返信の定義内容が間違っています。

(O)

作成した定義内容に間違いがないかどうかを見直してください。

KDCP01105-E

The number of server agent registration cannot be registered in the upper bound value because it achieved it.(XXXX)

(XXXX：詳細コード)

自動転送/自動返信の定義の登録数が登録可能な上限値を超えるため、登録できません。

(O)

不要な定義を削除するようユーザに個知するか、登録可能な定義の上限値を変更してください。

KDCP02001-E

Agent server is busy.(XXXX)

(XXXX：詳細コード)

Groupmax Agent Server が混み合っています。

(O)

しばらくしてからもう一度実行しても同じエラーが表示される場合は、Groupmax Agent Server の状態を確認してください。

KDCP02002-E

The agent server is not activated.(XXXX)

(XXXX：詳細コード)

Groupmax Agent Server が停止しているおそれがあります。

(O)

Groupmax Agent Server の状態を確認してください。

KDCP02004-E

Communication system is busy.(XXXX)

(XXXX：詳細コード)

Groupmax Agent Server との通信が混み合っています。

(O)

しばらくしてからもう一度実行しても同じエラーが表示される場合は、Groupmax Agent Server のログ出力ファイルの状態を確認してください。ログ出力ファイルの詳細コードからエラーの原因を特定してください。

KDCP02005-E

Communication system error.(XXXX)

(XXXX：詳細コード)

Groupmax Agent Server との通信でエラーが発生しました。

(O)

Groupmax Agent Server のログ出力ファイルの状態を確認して、詳細コードからエラーの原因を特定してください。

KDCP02006-E

Communication system socket error. (Socket Init/ Connect Error).(XXXX)

(XXXX：詳細コード)

Groupmax Agent Server との通信で、ソケット関数エラーが発生しました。

(O)

Groupmax Agent Server のログ出力ファイルの状態を確認して、詳細コードからエラーの原因を特定してください。

KDCP09001-E

Unexpected error has occurred.(XXXX)

(XXXX：詳細コード)

Groupmax Agent Server で予期しないエラーが発生しました。

(O)

詳細コードを参照して、エラーの原因を特定してください。

付録 K 監査ログのメッセージ

監査ログに出力されるメッセージについて説明します。

付録 K.1 監査ログのメッセージの記載形式

このマニュアルでの監査ログのメッセージの記載形式について説明します。

KDCOnnnnn-Y

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
メッセージの出力項目名	メッセージの出力項目の意味	メッセージの出力内容

(凡例)

可変値に関する説明

出力ポイント

メッセージが出力されるタイミング

各項目の詳細を次に示します。

KDCOnnnnn-Y

メッセージ ID は、次の内容を示しています。

KDCO

[メール] ポートレットのメッセージであることを示します。

nnnnn

メッセージの番号を示します。

Y

メッセージの種類を示します。

E: エラーメッセージであることを表します。

W: 警告メッセージであることを表します。

I: 個知メッセージであることを表します。

メッセージの内容

メッセージに出力される項目の内容を表に示します。

ここでは、メッセージごとに固有の意味を持つ項目、または固有の値が出力される項目について説明します。すべてのメッセージで共個の意味を持つ項目、または共個の値が出力される項目については、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

可変値に関する説明

文字列が斜体になっている項目は、可変の文字列を表します。

また、メッセージテキストの自由記述中の可変値に表示される情報を「AA...AA: 表示される情報」(AA...AA は任意の英字) の形式で示します。可変値に関する説明の記述例を次に示します。

(例)

AA...AA: ユーザ ID

BB...BB：メール ID

出力ポイント

メッセージが出力されるタイミングを示します。

付録 K.2 監査ログのメッセージの詳細

KDCO20011-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20011-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	AccessControl
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
op	動作情報	Enforce
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、親展メールにアクセスしました。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

出力ポイント

親展パスワードの入力

KDCO20012-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20012-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	AccessControl
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
op	動作情報	Enforce
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、親展メールにアクセスしました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

出力ポイント

親展パスワードの入力

KDCO20013-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20013-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	AccessControl
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
op	動作情報	Enforce
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、宛先台帳(AddressBookID : BB...BB)にアクセスしました。 (成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 宛先台帳 ID※

注※

グループ宛先台帳のルートフォルダを作成したときは出力されません。

出力ポイント

宛先台帳に対する操作の実行

KDCO20014-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20014-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	AccessControl
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
op	動作情報	Enforce
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、宛先台帳(AddressBookID : BB...BB)にアクセスしました。 (失敗)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 宛先台帳 ID※

注※

グループ宛先台帳のルートフォルダを作成したときは出力されません。

出力ポイント

宛先台帳に対する操作の実行

KDCO20101-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20101-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	ConfidentialPassword
op	動作情報	Update
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、親展パスワードを変更しました。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

出力ポイント

親展パスワードの変更

KDCO20102-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20102-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressBookID：宛先台帳 ID
op	動作情報	Add
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、グループ宛先台帳(BB...BB)を作成しました (所有者:CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：グループ宛先台帳名（宛先台帳 ID）

CC...CC：所有者のユーザ ID

出力ポイント

グループ宛先台帳のルートフォルダの作成

KDCO20103-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20103-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressBookID：宛先台帳 ID
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、グループ宛先台帳(BB...BB)を参照しました (所有者:CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：グループ宛先台帳名（宛先台帳 ID）

CC...CC：所有者のユーザ ID

出力ポイント

グループ宛先台帳のルートフォルダの設定内容の参照

KDCO20104-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20104-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressBookID：宛先台帳 ID
op	動作情報	Update

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、グループ宛先台帳(BB...BB)を更新しました (所有者:CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：グループ宛先台帳名 (宛先台帳 ID)

CC...CC：所有者のユーザ ID

出力ポイント

グループ宛先台帳のルートフォルダの設定内容の変更

KDCO20105-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20105-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressBookID：宛先台帳 ID
op	動作情報	Delete
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、グループ宛先台帳(BB...BB)を削除しました。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：宛先台帳 ID

出力ポイント

グループ宛先台帳のルートフォルダの削除

KDCO20106-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20106-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
obj	オブジェクト情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
op	動作情報	Add
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、グループ宛先台帳(BB...BB)を作成しました (参照可能組織:CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 宛先台帳 ID

CC...CC : 参照可能組織の組織 ID

出力ポイント

グループ宛先台帳のルートフォルダの作成

KDCO20107-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20107-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
op	動作情報	Add
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、グループ宛先台帳(BB...BB)を作成しました (参照可能ユーザ:CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : グループ宛先台帳名 (宛先台帳 ID)

CC...CC : 参照可能ユーザのユーザ ID

出力ポイント

グループ宛先台帳のルートフォルダの作成

KDCO20108-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20108-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、グループ宛先台帳(BB...BB)を参照しました (参照可能組織:CC...CC)。 (成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : グループ宛先台帳名 (宛先台帳 ID)

CC...CC : 参照可能組織の組織 ID

出力ポイント

グループ宛先台帳のルートフォルダの設定内容の参照

KDCO20109-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20109-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、グループ宛先台帳(BB...BB)を参照しました (参照可能ユーザ:CC...CC)。 (成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : グループ宛先台帳名 (宛先台帳 ID)

CC...CC : 参照可能ユーザのユーザ ID

出力ポイント

グループ宛先台帳のルートフォルダの設定内容の参照

KDCO20110-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20110-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
op	動作情報	Update
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、グループ宛先台帳(BB...BB)を更新しました (参照可能組織:CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : グループ宛先台帳名 (宛先台帳 ID)

CC...CC : 参照可能組織の組織 ID

出力ポイント

グループ宛先台帳のルートフォルダの設定内容の変更

KDCO20111-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20111-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
op	動作情報	Update
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、グループ宛先台帳(BB...BB)を更新しました (参照可能ユーザ:CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : グループ宛先台帳名 (宛先台帳 ID)

CC...CC : 参照可能ユーザのユーザ ID

出力ポイント

グループ宛先台帳のルートフォルダの設定内容の変更

KDCO20202-E

メッセージの内容		
出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20202-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	Failure
result	監査事象の結果	Occurence
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	プロパティ名
op	動作情報	Occur
objloc	オブジェクトロケーション情報	プロパティファイル名
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がプロパティファイル(BB...BB)のキー(CC...CC)を読み込みました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：プロパティファイル名

CC...CC：プロパティ名

出力ポイント

プロパティファイルの読み込み

KDCO20301-I

メッセージの内容		
出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20301-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、BB...BB の CC...CC を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：「受信メール一覧」、「送信済みメール一覧」、「保存メール一覧」、「下書きメール一覧」または「未読メール」

CC...CC : 「表示」 または 「取得」

出力ポイント

- 一覧画面の表示
- 未読のメールの取得

KDCO20302-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20302-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, BB...BB の CC...CC を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 「受信メール一覧」, 「送信済みメール一覧」, 「保存メール一覧」, 「下書きメール一覧」 または 「未読メール」

CC...CC : 「表示」 または 「取得」

出力ポイント

- 一覧画面の表示
- 未読のメールの取得

KDCO20303-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20303-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	MailID : メール ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add 次のどちらかの操作を実行した場合

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> メールファイルの作成 メールの振り分け（受信メールまたは送信済みメール） Refer 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> メールの返信 メールの転送 メールの再送 下書きメールの編集 印刷画面の表示
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, BB...BB(MailID: CC...CC*, 主題: DD...DD)の EE...EE を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID
BB...BB：メールの種別
CC...CC：メール ID
DD...DD：メールの主題
EE...EE：実行した操作

注※

メールファイルに対して操作した場合は、「mlf」が表示されます。メール ID は表示されません。

出力ポイント

- メールの返信
- メールの転送
- メールの再送
- 下書きメールの編集
- 印刷画面の表示
- メールファイルの作成
- メールの振り分け（受信メールまたは送信済みメール）

KDCO20304-E

メッセージの内容		
出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20304-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
obj	オブジェクト情報	MailID : メール ID

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add 次のどちらかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・メールファイルの作成 ・メールの振り分け（受信メールまたは送信済みメール） • Refer 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・メールの返信 ・メールの転送 ・メールの再送 ・下書きメールの編集 ・印刷画面の表示
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, BB...BB(MailID: CC...CC※, 主題: DD...DD)の EE...EE を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：メールの種別

CC...CC：メール ID

DD...DD：メールの主題

EE...EE：実行した操作

注※

メールファイルに対して操作した場合は、「mlf」が表示されます。メール ID は表示されません。

出力ポイント

- ・メールの返信
- ・メールの転送
- ・メールの再送
- ・下書きメールの編集
- ・印刷画面の表示
- ・メールファイルの作成
- ・メールの振り分け（受信メールまたは送信済みメール）

KDCO20305-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20305-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
obj	オブジェクト情報	MailID : メールID
op	動作情報	Delete
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, BB...BB(CC...CC)を削除しました。(成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザID

BB...BB : メールの種別

CC...CC : メールID

出力ポイント

- メールの削除
- メールの移動*
- 複数メールの一括移動*

注※

メールの移動, または複数メールの一括移動に成功した場合, 「KDCO20347-I」と「KDCO-20305-I」の二つのメッセージが出力されます。

KDCO20306-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージID	KDCO20306-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
obj	オブジェクト情報	MailID : メールID
op	動作情報	Delete
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, BB...BB(CC...CC)を削除しました。(失敗)

(凡例)

AA...AA : ユーザID

BB...BB : メールの種別

CC...CC : メールID

出力ポイント

- メールの削除
- メールの移動*

- 複数メールの一括移動*

注※

メールの移動処理中、メールの保存に成功したが削除に失敗した場合、「KDCO20347-I」と「KDCO20306-E」の二つのメッセージが出力されます。

KDCO20307-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20307-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
op	動作情報	Add
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、宛先を宛先台帳に登録しました(BB...BB)。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：宛先台帳に登録した宛先

出力ポイント

メールの宛先を宛先台帳に登録

KDCO20308-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20308-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	MailID : メール ID
op	動作情報	Add
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、宛先を宛先台帳に登録しました(BB...BB)。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：宛先台帳に登録した宛先

出力ポイント

メールの宛先を宛先台帳に登録

KDCO20309-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20309-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AttachFileID : 添付ファイル ID
op	動作情報	Add
objloc	オブジェクトロケーション情報	MailID : メール ID またはメールボックス ID
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, BB...BB(CC...CC)の添付ファイル保存を行いました(DD...DD)。(成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 「受信メール」, 「送信済みメール」, 「保存メール(受信)」, 「保存メール(送信)」, または 「下書きメール」

CC...CC : メール ID (ただし, 「保存メール(受信)」, 「保存メール(送信)」, 「下書きメール」の場合は, メールボックス ID)

DD...DD : 添付ファイル名

出力ポイント

添付ファイルを自分の PC に保存

KDCO20310-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20310-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AttachFileID : 添付ファイル ID

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
op	動作情報	Add
objloc	オブジェクトロケーション情報	MailID : メール ID またはメールボックス ID
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, BB...BB(CC...CC)の添付ファイル保存を行いました (DD...DD)。 (失敗)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 「受信メール」, 「送信済みメール」, 「保存メール(受信)」, 「保存メール(送信)」, または 「下書きメール」

CC...CC : メール ID (ただし, 「保存メール(受信)」, 「保存メール(送信)」, 「下書きメール」 の場合は, メールボックス ID)

DD...DD : 添付ファイル名

出力ポイント

添付ファイルを自分の PC に保存

KDCO20311-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20311-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, 検索結果一覧の表示を行いました (検索条件 : BB...BB)。 (成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 検索した語句

出力ポイント

メールの検索

KDCO20312-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20312-E

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、検索結果一覧の表示を行いました (検索条件: BB...BB)。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユーザID

BB...BB：検索した語句

出力ポイント

メールの検索

KDCO20313-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージID	KDCO20313-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
obj	オブジェクト情報	MailID : メールID 親展パスワードの入力を実行した場合
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add 振り分けルールの追加を実行した場合 • Delete 振り分けルールの削除を実行した場合 • Refer 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・親展パスワードの入力 ・データベースに保存したメールの容量の確認 ・[代行受信者指定] 画面の表示 ・振り分けルールの一覧の取得 ・振り分けルールの取得 • Update 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・親展パスワードの変更

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代行受信者の指定 ・ 代行受信者の削除 ・ [ファイル共有] ポートレットにファイルを登録するときの、デフォルトの登録先の変更 ・ 振り分けルールの変更
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、BB...BB の CC...CC を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：操作の対象

CC...CC：実行した操作

出力ポイント

- 親展パスワードの入力
- 親展パスワードの変更
- データベースに保存したメールの容量の確認
- [代行受信者指定] 画面の表示
- 代行受信者の指定
- 代行受信者の削除
- [ファイル共有] ポートレットにファイルを登録するときの、デフォルトの登録先の変更
- 振り分けルールの一覧の取得
- 振り分けルールの取得
- 振り分けルールの追加
- 振り分けルールの変更
- 振り分けルールの削除

KDCO20314-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20314-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	MailID：メール ID 親展パスワードの入力を実行した場合
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add 振り分けルールの追加を実行した場合

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Delete 振り分けルールの削除を実行した場合 • Refer 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> • 親展パスワードの入力 • データベースに保存したメールの容量の確認 • [代行受信者指定] 画面の表示 • 振り分けルールの一覧の取得 • 振り分けルールの取得 • Update 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> • 親展パスワードの変更 • 代行受信者の指定 • 代行受信者の削除 • [ファイル共有] ポートレットにファイルを登録するときの、デフォルトの登録先の変更 • 振り分けルールの変更
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、BB...BB の CC...CC を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：操作の対象

CC...CC：実行した操作

出力ポイント

- 親展パスワードの入力
- 親展パスワードの変更
- データベースに保存したメールの容量の確認
- [代行受信者指定] 画面の表示
- 代行受信者の指定
- 代行受信者の削除
- [ファイル共有] ポートレットにファイルを登録するときの、デフォルトの登録先の変更
- 振り分けルールの一覧の取得
- 振り分けルールの取得
- 振り分けルールの追加
- 振り分けルールの変更
- 振り分けルールの削除

KDCO20315-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20315-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、新規メールに署名挿入を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

出力ポイント

署名の挿入

KDCO20316-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20316-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、新規メールに署名挿入を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

出力ポイント

署名の挿入

KDCO20317-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20317-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add 次のどちらかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・新規メールのメールファイルの作成 ・作成したメールを送信した場合 • Refer 新規メールの印刷画面を表示した場合
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、新規メール(主題: BB...BB)の CC...CC を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA: ユーザ ID

BB...BB: メール の 主題

CC...CC: 実行した操作

出力ポイント

- 新規メールの印刷画面の表示
- 新規メールのメールファイルの作成
- 作成したメールの送信

KDCO20318-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20318-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add 次のどちらかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・新規メールのメールファイルの作成 ・作成したメールを送信した場合 • Refer 新規メールの印刷画面を表示した場合
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、新規メール(主題: BB...BB)の CC...CC を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：メールの主題

CC...CC：実行した操作

出力ポイント

- 新規メールの印刷画面の表示
- 新規メールのメールファイルの作成
- 作成したメールの送信

KDCO20319-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20319-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Refer 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の PC に保存したメールファイルの表示 ・署名の挿入 ・メールの到着情報の表示 • Update 署名の編集を実行した場合
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、BB...BB の CC...CC を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：操作の対象

CC...CC：実行した操作

出力ポイント

- 自分の PC に保存したメールファイルの表示
- 署名の挿入
- 署名の編集
- メールの新着情報の表示

KDCO20320-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20320-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種類	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Refer 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> • 自分の PC に保存したメールファイルの表示 • 署名の挿入 • メールの新着情報の表示 • Update 署名の編集を実行した場合
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、BB...BB の CC...CC を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：操作の対象

CC...CC：実行した操作

出力ポイント

- 自分の PC に保存したメールファイルの表示
- 署名の挿入
- 署名の編集
- メールの新着情報の表示

KDCO20321-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20321-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種類	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、自動転送/自動返信定義の一覧取得を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

出力ポイント

自動転送・自動返信定義の一覧の参照

KDCO20322-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20322-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、自動転送/自動返信定義の一覧取得を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

出力ポイント

自動転送・自動返信定義の一覧の参照

KDCO20325-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20325-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AgentID : エージェント ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add 自動転送・自動返信定義の作成を実行した場合 • Refer 自動転送・自動返信定義の内容の参照を実行した場合 • Update 自動転送・自動返信定義の変更を実行した場合

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、自動転送/自動返信定義(BB...BB)の CC...CC を行いました (定義名: DD...DD)。(成功)

(凡例)

AA...AA: ユーザ ID

BB...BB: エージェント ID

CC...CC: 実行した操作

DD...DD: 自動転送, または自動返信の定義の名称

出力ポイント

- 自動転送・自動返信定義の作成
- 自動転送・自動返信定義の内容の参照
- 自動転送・自動返信定義の変更

KDCO20326-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20326-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AgentID : エージェント ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add 自動転送・自動返信定義の作成を実行した場合 • Refer 自動転送・自動返信定義の内容の参照を実行した場合 • Update 自動転送・自動返信定義の変更を実行した場合
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、自動転送/自動返信定義(BB...BB)の CC...CC を行いました (定義名: DD...DD)。(失敗)

(凡例)

AA...AA: ユーザ ID

BB...BB: エージェント ID

CC...CC: 実行した操作

DD...DD: 自動転送, または自動返信の定義の名称

出力ポイント

- 自動転送・自動返信定義の作成

- 自動転送・自動返信定義の内容の参照
- 自動転送・自動返信定義の変更

KDCO20329-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20329-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	FolderID : フォルダ ID
op	動作情報	Refer
objloc	オブジェクトロケーション情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, BB...BB(CC...CC)の DD...DD を行いました。(成功)

(凡例)

- AA...AA : ユーザ ID
- BB...BB : 宛先台帳
- CC...CC : 宛先台帳 ID
- DD...DD : 「フォルダ一覧取得」または「宛先一覧取得」

出力ポイント

- 宛先台帳の参照
- 宛先のソート

KDCO20330-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20330-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	FolderID : フォルダ ID
op	動作情報	Refer

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
objloc	オブジェクトロケーション情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, BB...BB(CC...CC)の DD...DD を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 宛先台帳

CC...CC : 宛先台帳 ID

DD...DD : 「フォルダ一覧取得」または「宛先一覧取得」

出力ポイント

- 宛先台帳の参照
- 宛先のソート

KDCO20331-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20331-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	FolderID : フォルダ ID
op	動作情報	Add
objloc	オブジェクトロケーション情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, BB...BB(CC...CC)のフォルダ作成(DD...DD)を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 宛先台帳

CC...CC : 宛先台帳 ID

DD...DD : フォルダ名またはフォルダ ID

出力ポイント

宛先台帳にフォルダを作成

KDCO20332-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20332-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	FolderID : フォルダ ID
op	動作情報	Add
objloc	オブジェクトロケーション情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, BB...BB(CC...CC)のフォルダ作成(DD...DD)を行いました。 (失敗)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 宛先台帳

CC...CC : 宛先台帳 ID

DD...DD : フォルダ名またはフォルダ ID

出力ポイント

宛先台帳にフォルダを作成

KDCO20333-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20333-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	FolderID : フォルダ ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Refer [フォルダ名の変更] 画面を表示した場合 • Update 宛先台帳のフォルダ名の変更を実行した場合
objloc	オブジェクトロケーション情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、BB...BB(CC...CC)の DD...DD を行いました(フォルダ名：EE...EE)。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：宛先台帳

CC...CC：宛先台帳 ID

DD...DD：「フォルダ名取得」または「フォルダ名変更」

EE...EE：フォルダ名

出力ポイント

- [フォルダ名の変更] 画面の表示
- 宛先台帳のフォルダ名の変更

KDCO20334-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20334-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	FolderID：フォルダ ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Refer [フォルダ名の変更] 画面を表示した場合 • Update 宛先台帳のフォルダ名の変更を実行した場合
objloc	オブジェクトロケーション情報	AddressBookID：宛先台帳 ID
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、BB...BB(CC...CC)の DD...DD を行いました(フォルダ名：EE...EE)。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：宛先台帳

CC...CC：宛先台帳 ID

DD...DD：「フォルダ名取得」または「フォルダ名変更」

EE...EE：フォルダ名

出力ポイント

- [フォルダ名の変更] 画面の表示

- 宛先台帳のフォルダ名の変更

KDCO20337-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20337-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
obj	オブジェクト情報	AddressID : 宛先 ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> Add 宛先台帳に宛先を追加した場合 Delete 宛先台帳に登録されている宛先の削除を実行した場合 Refer [宛先の編集] 画面の表示を実行した場合 Update 次のどちらかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> 宛先台帳に登録されている宛先を変更 宛先台帳に登録されている宛先の移動
objloc	オブジェクトロケーション情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、BB...BB(CC...CC)の DD...DD(EE...EE)を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 宛先台帳

CC...CC : 宛先台帳 ID

DD...DD : 実行した操作

EE...EE : 宛先

出力ポイント

- [宛先の編集] 画面の表示
- 宛先台帳に宛先を追加
- 宛先台帳に登録されている宛先の移動
- 宛先台帳に登録されている宛先の変更
- 宛先台帳に登録されている宛先の削除

KDCO20338-E

メッセージの内容		
出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20338-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressID : 宛先 ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add 宛先台帳に宛先を追加した場合 • Delete 宛先台帳に登録されている宛先の削除を実行した場合 • Refer [宛先の編集] 画面の表示を実行した場合 • Update 次のどちらかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・宛先台帳に登録されている宛先を変更 ・宛先台帳に登録されている宛先の移動
objloc	オブジェクトロケーション情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, BB...BB(CC...CC)の DD...DD(EE...EE)を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 宛先台帳

CC...CC : 宛先台帳 ID

DD...DD : 実行した操作

EE...EE : 宛先

出力ポイント

- [宛先の編集] 画面の表示
- 宛先台帳に宛先を追加
- 宛先台帳に登録されている宛先の移動
- 宛先台帳に登録されている宛先の変更
- 宛先台帳に登録されている宛先の削除

KDCO20339-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20339-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add グループ宛先台帳のルートフォルダの作成 • Delete グループ宛先台帳のルートフォルダを削除した場合 • Refer グループ宛先台帳のルートフォルダの設定内容を参照した場合 • Update グループ宛先台帳のルートフォルダの設定を変更した場合
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、グループ宛先台帳(BB...BB)の CC...CC(DD...DD)を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 宛先台帳 ID

CC...CC : 実行した操作

DD...DD : グループ宛先台帳のルートフォルダのフォルダ名

出力ポイント

- グループ宛先台帳のルートフォルダの作成
- グループ宛先台帳のルートフォルダの設定内容の参照
- グループ宛先台帳のルートフォルダの設定の変更
- グループ宛先台帳のルートフォルダの削除

KDCO20340-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20340-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
obj	オブジェクト情報	AddressBookID : 宛先台帳ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add グループ宛先台帳のルートフォルダの作成 • Delete グループ宛先台帳のルートフォルダを削除した場合 • Refer グループ宛先台帳のルートフォルダの設定内容を参照した場合 • Update グループ宛先台帳のルートフォルダの設定を変更した場合
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、グループ宛先台帳(BB...BB)の CC...CC(DD...DD)を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 宛先台帳 ID

CC...CC : 実行した操作

DD...DD : グループ宛先台帳のルートフォルダのフォルダ名

出力ポイント

- グループ宛先台帳のルートフォルダの作成
- グループ宛先台帳のルートフォルダの設定内容の参照
- グループ宛先台帳のルートフォルダの設定の変更
- グループ宛先台帳のルートフォルダの削除

KDCO20341-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20341-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
obj	オブジェクト情報	FolderID : フォルダID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add 宛先台帳のインポートを実行した場合 • Delete 宛先台帳のフォルダを削除した場合

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> Refer 宛先台帳のエクスポートを実行した場合 Update 宛先台帳のフォルダを移動した場合
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, BB...BB(CC...CC)の DD...DD を行いました(フォルダ ID : EE...EE)。(成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 宛先台帳

CC...CC : 宛先台帳 ID

DD...DD : 実行した操作

EE...EE : フォルダ ID

出力ポイント

- 宛先台帳のフォルダの移動
- 宛先台帳のフォルダの削除
- 宛先台帳のエクスポート
- 宛先台帳のインポート

KDCO20342-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20342-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	FolderID : フォルダ ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> Add 宛先台帳のインポートを実行した場合 Delete 宛先台帳のフォルダを削除した場合 Refer 宛先台帳のエクスポートを実行した場合 Update 宛先台帳のフォルダを移動した場合
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, BB...BB(CC...CC)の DD...DD を行いました(フォルダ ID : EE...EE)。(失敗)

(凡例)

- AA...AA：ユーザ ID
- BB...BB：宛先台帳
- CC...CC：宛先台帳 ID
- DD...DD：実行した操作
- EE...EE：フォルダ ID

出力ポイント

- 宛先台帳のフォルダの移動
- 宛先台帳のフォルダの削除
- 宛先台帳のエクスポート
- 宛先台帳のインポート

KDCO20343-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20343-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、宛先台帳の宛先を検索しました(宛先：BB...BB)。(成功)

(凡例)

- AA...AA：ユーザ ID
- BB...BB：宛先

出力ポイント

- 宛先の検索

KDCO20344-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20344-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、宛先台帳の宛先を検索しました(宛先:)。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

出力ポイント

宛先の検索

KDCO20345-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20345-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressBookID：宛先台帳 ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add [コンタクトリスト] フォルダに宛先を登録した場合 • Refer ナビゲーションビューにコンタクトリストを表示した場合
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、BB...BBしました。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：実行した操作

出力ポイント

- [コンタクトリスト] フォルダに宛先を登録
- ナビゲーションビューにコンタクトリストを表示

KDCO20346-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20346-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
obj	オブジェクト情報	AddressBookID : 宛先台帳ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add [コンタクトリスト] フォルダに宛先を登録した場合 • Refer ナビゲーションビューにコンタクトリストを表示した場合
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、BB...BBしました。(失敗)

(凡例)

AA...AA : ユーザID

BB...BB : 実行した操作

出力ポイント

- [コンタクトリスト] フォルダに宛先を登録
- ナビゲーションビューにコンタクトリストを表示

KDCO20347-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージID	KDCO20347-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
obj	オブジェクト情報	MailID : メールID
op	動作情報	Add
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、BB...BB(MailID: CC...CC, 主題: DD...DD)を保存しました(SavemailID : EE...EE)。(成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザID

BB...BB : 「受信メール」または「送信済みメール」

CC...CC : メールID

DD...DD : メールの主題

EE...EE : メール保存時に付与されるID

出力ポイント

- メールの保存 (受信メールまたは送信済みメール)

- メールの移動（受信メールまたは送信済みメール）
- 複数のメールの一括移動（受信メールまたは送信済みメール）

KDCO20348-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20348-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
obj	オブジェクト情報	MailID : メール ID
op	動作情報	Add
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、BB...BB(MailID: CC...CC, 主題 : DD...DD)を保存しました(SavemailID : EE...EE)。(失敗)

(凡例)

- AA...AA : ユーザ ID
- BB...BB : 「受信メール」または「送信済みメール」
- CC...CC : メール ID
- DD...DD : メールの主題
- EE...EE : メール保存時に付与される ID

出力ポイント

- メールの保存（受信メールまたは送信済みメール）
- メールの移動（受信メールまたは送信済みメール）
- 複数のメールの一括移動（受信メールまたは送信済みメール）

KDCO20349-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20349-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
op	動作情報	Add

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、新規メール(主題: BB...BB)を下書き保存しました (SavemailID: CC...CC)。 (成功)

(凡例)

AA...AA: ユーザ ID

BB...BB: メールの主題

CC...CC: メール保存時に付与される ID

出力ポイント

下書きメールの保存

KDCO20350-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20350-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
op	動作情報	Add
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、新規メール(主題: BB...BB)を下書き保存しました (SavemailID: CC...CC)。 (失敗)

(凡例)

AA...AA: ユーザ ID

BB...BB: メールの主題

CC...CC: メール保存時に付与される ID

出力ポイント

下書きメールの保存

KDCO20351-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20351-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
obj	オブジェクト情報	AgentID : エージェント ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Delete 自動転送・自動返信定義の削除を実行した場合 • Update 自動転送・自動返信定義の状態（有効/無効）の変更を実行した場合
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、自動転送/自動返信定義(BB...BB)の CC...CC を行いました。 (成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : エージェント ID

CC...CC : 実行した操作

出力ポイント

- 自動転送・自動返信定義の状態（有効/無効）の変更
- 自動転送・自動返信定義の削除

KDCO20352-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20352-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AgentID : エージェント ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Delete 自動転送・自動返信定義の削除を実行した場合 • Update 自動転送・自動返信定義の状態（有効/無効）の変更を実行した場合
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、自動転送/自動返信定義(BB...BB)の CC...CC を行いました。 (失敗)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : エージェント ID

CC...CC : 実行した操作

出力ポイント

- 自動転送・自動返信定義の状態（有効/無効）の変更

- 自動転送・自動返信定義の削除

KDCO20353-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20353-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	MailID : メール ID
op	動作情報	Delete
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、送信済みメール(MailID : BB...BB)の配信の取消を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : メール ID

出力ポイント

メール配信の取り消し

KDCO20354-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20354-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	MailID : メール ID
op	動作情報	Delete
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、送信済みメール(MailID : BB...BB)の配信の取消を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : メール ID

出力ポイント

メール配信の取り消し

KDCO20355-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20355-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressID : 宛先 ID
op	動作情報	Update
objloc	オブジェクトロケーション情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、宛先台帳(BB...BB)の宛先種別変更(CC...CC)を行いました。 (成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 宛先台帳 ID

CC...CC : 宛先 ID

出力ポイント

宛先台帳に登録されている宛先の変更 (送信種別の変更)

注意

すでに削除されている宛先の送信種別を変更した場合も、このメッセージ (KDCO20355-I) が出力されます。

KDCO20356-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20356-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AddressID : 宛先 ID

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
op	動作情報	Update
objloc	オブジェクトロケーション情報	AddressBookID : 宛先台帳 ID
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、宛先台帳(BB...BB)の宛先種別変更(CC...CC)を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 宛先台帳 ID

CC...CC : 宛先 ID

出力ポイント

宛先台帳に登録されている宛先の変更 (送信種別の変更)

KDCO20357-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20357-I
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AttachFileID : 添付ファイル ID
op	動作情報	Add
objloc	オブジェクトロケーション情報	MailID : メール ID
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が、BB...BB(CC...CC)の添付ファイル保存を行いました。(成功)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 「受信メール」, 「送信済みメール」, 「保存メール」, または 「下書きメール」

CC...CC : メール ID

出力ポイント

添付ファイルをローカル PC にドラッグ & ドロップで保存

KDCO20358-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20358-E
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj	オブジェクト情報	AttachFileID : 添付ファイル ID
op	動作情報	Add
objloc	オブジェクトロケーション情報	MailID : メール ID
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が, BB...BB(CC...CC)の添付ファイル保存を行いました。(失敗)

(凡例)

AA...AA : ユーザ ID

BB...BB : 「受信メール」, 「送信済みメール」, 「保存メール」, または 「下書きメール」

CC...CC : メール ID

出力ポイント

添付ファイルをローカル PC にドラッグ & ドロップで保存

KDCO20401-W

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCO20401-W
compid	コンポーネント名	Mail_Portlet
ctgry	監査事象の種別	AnomalyEvent
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
op	動作情報	Occur
msg	自由記述	—

(凡例)

— : 出力されません。

出力ポイント

不正なパラメタの入力

付録 L このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 L.1 関連マニュアル

Collaboration のマニュアル体系を次に示します。

- Collaboration がどのようなものか、イメージをつかみたいときに

Collaboration
ファーストステップガイド

- 機能概要や操作方法を知りたいときに

Collaboration
ユーザーズガイド

Collaboration -
Online Community Management
ユーザーズガイド

Collaboration -
Directory Access
ユーザーズガイド

Collaboration - Mail
ユーザーズガイド

Collaboration - Schedule
ユーザーズガイド

Collaboration - Forum
ユーザーズガイド

Collaboration -
File Sharing
ユーザーズガイド

Collaboration -
Bulletin board
ユーザーズガイド

- システムの構築や環境設定の方法を知りたいときに

Collaboration
導入ガイド

- システムの移行方法を知りたいときに

Collaboration
移行ガイド

Collaboration -
Online Community Management
システム管理者ガイド

Collaboration -
Directory Access
システム管理者ガイド

Collaboration - Mail
システム管理者ガイド

Collaboration - Schedule
システム管理者ガイド

Collaboration - Forum
システム管理者ガイド

Collaboration -
File Sharing
システム管理者ガイド

Collaboration -
File Sharing
メッセージ

Collaboration -
Bulletin board
システム管理者ガイド

(凡例)

■ : Collaboration 共通、または Collaboration 全体の情報を記載しているマニュアルを示します。

□ : Collaboration のコンポーネントごとの情報を記載しているマニュアルを示します。

Collaboration のマニュアルおよびその他の関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- Collaboration ファーストステップガイド (3020-3-H02)
Collaboration 製品を初めてお使いいただく方のためのご紹介マニュアルです。Collaboration でできることや、ポートレットの基本的な使用方法について説明しています。
- Collaboration ユーザーズガイド (3020-3-H22)

Collaboration の概要、ログイン・ログアウトおよび画面のレイアウト変更の操作方法について説明しています。

また、トップメニュー、ナビゲーションビュー、[新着情報] ポートレット、[リンク集] ポートレットの機能および操作方法について説明しています。

- Collaboration 導入ガイド (3020-3-H01)

Collaboration 製品を導入するための、システム構築、環境設定、および運用方法について説明しています。

- Collaboration 移行ガイド (3020-3-H44)

Collaboration のシステムの移行方法について説明しています。

エンドユーザ向けマニュアル

- Collaboration - Online Community Management ユーザーズガイド (3020-3-H04)

コミュニティ管理の機能および操作方法について説明しています。

- Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド (3020-3-H06)

ユーザ検索の機能および操作方法について説明しています。

- Collaboration - Mail ユーザーズガイド (3020-3-H08)

メールの機能および操作方法について説明しています。

- Collaboration - Schedule ユーザーズガイド (3020-3-H10)

スケジュールの機能および操作方法について説明しています。

- Collaboration - Forum ユーザーズガイド (3020-3-H12)

電子会議室の機能および操作方法について説明しています。

- Collaboration - File Sharing ユーザーズガイド (3020-3-H15)

ファイル共有の機能および操作方法について説明しています。

- Collaboration - Bulletin board ユーザーズガイド (3020-3-H24)

電子掲示板の機能および操作方法について説明しています。

システム管理者向けマニュアル

- Collaboration - Online Community Management システム管理者ガイド (3020-3-H03)

コミュニティ管理を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

- Collaboration - Directory Access システム管理者ガイド (3020-3-H05)

ユーザ検索を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

- Collaboration - Schedule システム管理者ガイド (3020-3-H09)

スケジュールを利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

- Collaboration - Forum システム管理者ガイド (3020-3-H11)

電子会議室を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

- Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド (3020-3-H13)

ファイル共有を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

- Collaboration - File Sharing メッセージ (3020-3-H14)

ファイル共有のメッセージの形式、メッセージおよび対処方法について説明しています。

- Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド (3020-3-H23)

電子掲示板を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

その他のマニュアル

- **uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド (3020-3-H71)**
uCosminexus Portal Framework の機能およびポータルの構築方法について説明しています。
- **uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド (3020-3-H72)**
ポータルの運用方法について説明しています。
- **uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド (3020-3-H73)**
ポートレットの開発方法および開発時に使用する API について説明しています。
- **Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編 (3020-3-D10)**
Groupmax Address Server と Groupmax Mail Server の機能, および使用方法について説明しています。
- **Groupmax Mail - SMTP Version 7 運用ガイド (3020-3-D13)**
Groupmax Mail - SMTP Version 7 の環境設定と運用方法について説明しています。
- **Cosminexus V9 アプリケーションサーバ システム構築・運用ガイド (3020-3-Y02)**
Cosminexus のアプリケーションサーバを導入してシステムを構築・運用する方法について説明しています。
- **Cosminexus V9 アプリケーションサーバ アプリケーション設定操作ガイド (3020-3-Y13)**
Cosminexus のアプリケーションサーバでの, サーバ管理コマンドを使用した J2EE アプリケーションおよびリソースの操作について説明しています。
- **Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(アプリケーション/リソース定義) (3020-3-Y17)**
システムを構築・運用するとき, またはアプリケーションを開発するとき使用するファイルの定義方法について説明しています。
- **HiRDB Text Search Plug-in Index Generator (3000-6-289)**
Text Search Plug-in Index Generator を使って, 全文検索用テキストデータを抽出する方法について説明しています。
- **ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用) (3020-6-452)**
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB のシステムの構築方法, データベースの作成方法, およびシステムとデータベースの設計方法について説明しています。
- **ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム運用ガイド (Windows(R)用) (3020-6-454)**
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB のシステム運用方法について説明しています。
- **ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用) (3020-6-455)**
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB のコマンドについて説明しています。
- **ノンストップデータベース HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド (3020-6-456)**
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB のデータベース言語である SQL を使用して, ユーザアプリケーションプログラムを開発するための基礎技術, および HiRDB クライアントの環境設定について説明しています。
- **HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9 (3020-6-481)**
HiRDB Text Search Plug-in のシステム構築, 環境設定および運用方法について説明しています。
- **Document Filter for Text Search Version 3 (3020-3-D59)**

Document Filter for Text Search の機能、環境設定方法および使用方法について説明しています。

付録L.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記		製品名
Groupmax	Groupmax Address Server	Groupmax Address Server Version 7
	Groupmax Address Server - Monitor/Data Collection	Groupmax Address Server - Monitor/Data Collection Version 6
	Groupmax Agent Server	Groupmax Agent Server Version 5
	Groupmax Mail - SMTP	Groupmax Mail - SMTP Version 7
	Groupmax Mail Server	Groupmax Mail Server Version 7
Collaboration - Bulletin board		次の製品の電子掲示板機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-91
Collaboration - Directory Access		次の製品のユーザ検索機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-91
Collaboration - File Sharing		次の製品のファイル共有機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91
Collaboration - Forum		次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91
Collaboration - Mail 01-00		次の製品のメール機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-00
Collaboration - Mail 01-10		次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-10
Collaboration - Mail 01-20		次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-20
Collaboration - Mail 01-30		次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-30

表記	製品名
Collaboration - Mail 01-30	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-30
Collaboration - Mail 01-32	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-32 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-32
Collaboration - Mail 01-35	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-35 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-35
Collaboration - Mail 01-36	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-36 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-36
Collaboration - Mail 01-50	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-50, 07-51, および 07-52 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-50, 07-51, および 07-52
Collaboration - Mail 01-70	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-70 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-70
Collaboration - Mail 01-82	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-82, 07-83, 07-84, および 07-85 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-82, 07-83, 07-84, および 07-85
Collaboration - Mail 01-85	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-86 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-86
Collaboration - Mail 01-91	次の製品のメール機能および宛先台帳機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-91
Collaboration - Online Community Management	次の製品のコミュニティ管理機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-91
Collaboration - Schedule	次の製品のスケジュール機能および ToDo 機能 <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-91

このマニュアルでは、特に断りのない場合は、Collaboration - Mail 01-91 のことを Collaboration - Mail と表記しています。

付録L.3 英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
API	Application Programming Interface
ASCII	American Standard Code for Information Interchange
BLOB	Binary Large Object
BOM	Byte Order Mark
CLOB	Character Large Object
CSS	Cascading Style Sheets
JavaVM	Java Virtual Machine
JIS	Japan Industrial Standard
LOB	Large Object
OS	Operating System
PC	Personal Computer
RAS	Reliability, Availability, Serviceability
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol
UAC	User Account Control
URL	Uniform Resource Locator
WOW64	Windows On Windows 64

付録L.4 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024² バイト, 1,024³ バイト, 1,024⁴ バイトです。

付録 M 用語解説

(英字)

E-mail コメント

E-mail アドレスに付加されるコメントです。

Collaboration - Mail では、「To」または「Cc」に指定した宛先および送信者の宛先に E-mail コメントとして名前を設定して、メールを送信できます。受信者のメールクライアントが E-mail コメントを表示するものであれば、メールの受信時に宛先表示部分に E-mail コメントが表示されます。

Groupmax

業務効率と生産性の向上を目的として、業務の形態に合わせて利用できる日立のグループウェアです。

URL

Uniform Resource Locators の略です。インターネット上にあるリソースを一意に指し示すためのものです。

Web ブラウザ

World Wide Web 環境を構成するソフトウェアの一つです。Web サーバに HTML データの送信などを要求し、HTML データを画面に表示します。

(ア行)

宛先台帳

個人宛先台帳とグループ宛先台帳の総称です。

アドレス管理ドメイン

Groupmax Address Server および Groupmax Mail Server のシステムで、一つのサーバが管理する範囲です。

一覧画面

次に示す画面のことです。

- [受信メール一覧] 画面
- [送信済みメール一覧] 画面
- [下書きメール一覧] 画面
- [保存メール一覧] 画面
- [検索結果一覧] 画面

印刷画面

次に示す画面のことです。

- 受信メール印刷画面
- 作成中メール印刷画面
- 送信済みメール印刷画面

(カ行)

監査ログ

監査ログとは、ユーザが [メール] ポートレットに対して実行した操作の実行履歴のことです。監査ログはファイルに出力されます。監査者が監査ログを調査することで、「いつ」「だれが」「何をしたか」を知ることができます。

グループ宛先台帳

組織やユーザ間で共有できる宛先台帳です。

グループ宛先台帳登録フォルダ

グループ宛先台帳の最上位のフォルダです。グループ宛先台帳登録フォルダの直下には、グループ宛先台帳のルートフォルダだけを作成できます。

作成者

グループ宛先台帳のルートフォルダを作成できるユーザです。システム管理者、またはシステム管理者が指定したユーザが、作成者の権限を持ちます。

参照権

グループ宛先台帳に登録されている宛先を参照できる権限です。

所有者

グループ宛先台帳の表示名を変更したり、グループ宛先台帳に指定されているアクセス権を変更したりできるユーザです。

変更権

グループ宛先台帳に対して、宛先の登録、編集、および削除を実行できる権限です。

ルートフォルダ

グループ宛先台帳登録フォルダの直下に作成されるフォルダです。
グループ宛先台帳のルートフォルダの直下には、宛先を登録できません。

兼任

一人のユーザが複数の組織に所属したり、役職に就いたりすることです。

本来所属している組織のユーザを「**主体ユーザ**」と呼びます。

それ以外の組織に所属しているユーザを「**兼任ユーザ**」と呼びます。

兼任機能

主体ユーザと兼任ユーザを関連づけて、一人のユーザと見なす機能です。

個人宛先台帳

個人専用の宛先台帳です。なお、画面上では「宛先台帳」と表示されます。

個人フォルダ

[ファイル共有] ポートレットのフォルダの一つで、ユーザ個人が所有するファイルおよびフォルダを格納するためのフォルダの総称です。

(ナ行)

ニックネーム

Groupmax のシステムでメールを送受信するときに使用する宛先の形式です。

(ハ行)

パーソナライズ情報

Collaboration のポータル画面のレイアウトや設定内容など、ユーザがカスタマイズした情報です。

Collaboration - Mail の場合は、一覧画面の内容がパーソナライズ情報に当たります。

配布 URL

ファイル共有ポートレットに保存されているファイルの保存場所を示す URL です。メールの本文に挿入できます。

振り分けルール

メールを [ファイル共有] ポートレットのフォルダに振り分けるためのルールです。メールの主題、送信者名、送受信日などを設定できます。メールの振り分けを実行すると、振り分けルールに従ってそれぞれのフォルダにメールが振り分けられます。

(マ行)

メールファイル

拡張子が「mlf」の、Groupmax 独自のファイルです。「ファイル名.mlf」という形式で表示されます。

索引

A

AuthenticationHostName 113
AuthenticationPort 113

C

CalChangeOwnerGrp.bat 134
CalDelAddressList.bat 133
CheckAddressFormat 113
cml_Attention_AttachedFile_body 125
cml_Attention_AttachedFile_COLOR 125
cml_Attention_AttachedFile_fontsize 125
cml_Attention_AttachedFile_URL 125
cml_Attention_AttachedFile_window_height 126
cml_Attention_AttachedFile_window_width 126
Collaboration - Mail 01-00 から移行する場合の作業 248
Collaboration - Mail 01-10 から移行する場合の作業 248
Collaboration - Mail 01-20 から移行する場合の作業 247
Collaboration - Mail 01-30 から移行する場合の作業 246
Collaboration - Mail 01-32 から移行する場合の作業 246
Collaboration - Mail 01-35 から移行する場合の作業 244
Collaboration - Mail 01-36 から移行する場合の作業 243
Collaboration - Mail 01-50 または 01-52 から移行する場合の作業 243
Collaboration - Mail 01-70, 01-71 または 01-82 から移行する場合の作業 243
Collaboration - Mail 01-85 から移行する場合の作業 242
Collaboration - Mail とは 2
Collaboration - Mail のインストール 12
Collaboration - Mail のインストールディレクトリ構成 138
Collaboration - Mail の運用 117
Collaboration - Mail の概要 1
Collaboration - Mail の環境構築の前提条件 8
Collaboration - Mail の環境設定 7
Collaboration - Mail の環境設定の流れ 9
Collaboration - Mail の監査ログ 258

Collaboration - Mail のシステム構成 5
Collaboration - Mail の障害対策 254
Collaboration - Mail の前提 OS 6
Collaboration - Mail の前提プログラム 5
Collaboration - Mail のデータベース構築 14
Collaboration - Mail のプロパティ
(hptl_clb_cml.properties) の設定 36
Collaboration - Mail のプロパティの設定方法 36
Cosminexus DABroker Library の設定 30

D

DB connector の設定 32

E

E-mail アドレスとして判別するかどうかの指定 46
E-mail アドレスの確認レベルの指定 51
E-mail アドレスのフォーマットをチェックするかどうかの指定 113
E-mail コメント [用語解説] 319

G

GetMainEmailAddress 114
Groupmax 319
Groupmax Agent Server のタイムアウト時間の指定 54
Groupmax Agent Server のポート番号の指定 53
Groupmax Agent Server のホスト名または IP アドレスの指定 53
Groupmax Agent Server の名称の指定 54
Groupmax Mail Server アドレスの指定 43
Groupmax Mail Server の認証ポート番号の指定 43
Groupmax Mail Server のポート番号の指定 43
Groupmax Mail Server のポート番号の指定 (Groupmax 通信ライブラリ) 112
Groupmax サーバを利用する場合の注意事項 253
Groupmax 通信ライブラリのトレースファイル 254
Groupmax 通信ライブラリのトレースファイルの出力形式 254
Groupmax 通信ライブラリのプロパティ
(hptl_clb_mrc.properties) の設定 109
Groupmax 通信ライブラリのプロパティの設定方法 109

H

-
- HiRDB Text Search Plug-in の設定 14
 - HiRDB の環境変数グループの設定 28
 - HiRDB のシステム共通定義の追加 25
 - HiRDB ファイルシステム領域の作成 16
 - hptl_clb_cml_adbk_group_access_set 64
 - hptl_clb_cml_adbk_group_create_org_list 66
 - hptl_clb_cml_adbk_group_create_user_list 65
 - hptl_clb_cml_adbk_group_delete 67
 - hptl_clb_cml_adbk_maxEntryNum 64
 - hptl_clb_cml_adbk_sort_address_list 67
 - hptl_clb_cml_adbk_specify_owner_create_group 66
 - hptl_clb_cml_adbk_specify_owner_edit_group 67
 - hptl_clb_cml_addressbookHeight 47
 - hptl_clb_cml_addressbookWidth 47
 - hptl_clb_cml_addressCheck 46
 - hptl_clb_cml_addrJudgeLogic 57
 - hptl_clb_cml_agent_hostname_XX 53
 - hptl_clb_cml_agent_name_XX 54
 - hptl_clb_cml_agent_port_XX 53
 - hptl_clb_cml_agent_server_num 53
 - hptl_clb_cml_agent_timeout_XX 54
 - hptl_clb_cml_application_name 47
 - hptl_clb_cml_attachFileDisplayStyle 62
 - hptl_clb_cml_attention_AttachedFile 58
 - hptl_clb_cml_AutomaticInsertionPoint 60
 - hptl_clb_cml_cacheTemporaryList 61
 - hptl_clb_cml_character_encoding 48
 - hptl_clb_cml_checkEmailAddressLevel 51
 - hptl_clb_cml_checkIntervalMin 64
 - hptl_clb_cml_checkNewMail 63
 - hptl_clb_cml_db_schema 45
 - hptl_clb_cml_displayCopyClipboardMenu 59
 - hptl_clb_cml_displayOrgName 52
 - hptl_clb_cml_displaySortOutFolderShortcut 68
 - hptl_clb_cml_editmailHeight 46
 - hptl_clb_cml_editmailScreenAddressType 100
 - hptl_clb_cml_editmailWidth 46
 - hptl_clb_cml_errorSaveFile 59
 - hptl_clb_cml_filter_history 45
 - hptl_clb_cml_fromMLF 51
 - hptl_clb_cml_gmax_auth_port 43
 - hptl_clb_cml_gmax_hostname 43
 - hptl_clb_cml_gmax_mail_port 43
 - hptl_clb_cml_jndi_datasource_name 48
 - hptl_clb_cml_jsp_content_type 48
 - hptl_clb_cml_logEncoding 45
 - hptl_clb_cml_logFileNum 45
 - hptl_clb_cml_logfileSize 45
 - hptl_clb_cml_logLevel 44
 - hptl_clb_cml_logPath 44
 - hptl_clb_cml_mainWindowHeight 46
 - hptl_clb_cml_mainWindowWidth 46
 - hptl_clb_cml_max_attached_filesize 43
 - hptl_clb_cml_max_signature_name_size 51
 - hptl_clb_cml_max_signature_num 51
 - hptl_clb_cml_maxParseCount 57
 - hptl_clb_cml_maxSaveMailSize 55
 - hptl_clb_cml_moveMailListScreen 62
 - hptl_clb_cml_multiByteCharCount 79
 - hptl_clb_cml_printSetAttachedFile 105
 - hptl_clb_cml_printSetShowAddress 103
 - hptl_clb_cml_printSetShowAttribute 104
 - hptl_clb_cml_printSetShowDate 104
 - hptl_clb_cml_printSetShowDeliveryDate 105
 - hptl_clb_cml_printSetShowOriginalRecipient 105
 - hptl_clb_cml_printSetShowSendPerson 104
 - hptl_clb_cml_printSetShowTitle 103
 - hptl_clb_cml_priorityExternalAddressType 63
 - hptl_clb_cml_receiveSizeMax 56
 - hptl_clb_cml_saveFileShare 59
 - hptl_clb_cml_saveMailListScreen 61
 - hptl_clb_cml_setADBK_addressWidth 97
 - hptl_clb_cml_setADBK_commentWidth 97
 - hptl_clb_cml_setADBK_nameWidth 96
 - hptl_clb_cml_setADBK_useWrap 97
 - hptl_clb_cml_setADBK_wrapAddress 98
 - hptl_clb_cml_setADBK_wrapComment 98
 - hptl_clb_cml_setADBK_wrapName 98
 - hptl_clb_cml_setAddressCheck 99
 - hptl_clb_cml_setAutomaticInsertionPoint 101
 - hptl_clb_cml_setBccAddress 99
 - hptl_clb_cml_setChangeLine 106
 - hptl_clb_cml_setChangeLineNumber 106
 - hptl_clb_cml_setCheckInterval 103
 - hptl_clb_cml_setCheckNewMail 102
 - hptl_clb_cml_setDeleteSortedOutMail 108
 - hptl_clb_cml_setDig_checkBoxOrder 86
 - hptl_clb_cml_setDig_dateOrder 92
 - hptl_clb_cml_setDig_deliveryTimeOrder 94
 - hptl_clb_cml_setDig_filterCommunity 85
 - hptl_clb_cml_setDig_filterConfidential 83
 - hptl_clb_cml_setDig_filterRecvType 83
 - hptl_clb_cml_setDig_filterSender 84
 - hptl_clb_cml_setDig_filterSubject 84
 - hptl_clb_cml_setDig_filterUnread 82
 - hptl_clb_cml_setDig_filterUrgent 82

- hptl_clb_cml_setDig_listPreviewRate 81
 hptl_clb_cml_setDig_recvTypeOrder 90
 hptl_clb_cml_setDig_sendPerson 91
 hptl_clb_cml_setDig_sendPersonOrder 91
 hptl_clb_cml_setDig_sendPersonWidth 95
 hptl_clb_cml_setDig_showCheckBox 86
 hptl_clb_cml_setDig_showDate 91
 hptl_clb_cml_setDig_showDeliveryTime 93
 hptl_clb_cml_setDig_showNoReadMail 80
 hptl_clb_cml_setDig_showPreview 81
 hptl_clb_cml_setDig_showRecvType 89
 hptl_clb_cml_setDig_showSize 92
 hptl_clb_cml_setDig_showState 88
 hptl_clb_cml_setDig_sizeOrder 93
 hptl_clb_cml_setDig_stateOrder 89
 hptl_clb_cml_setDig_titleOrder 90
 hptl_clb_cml_setDig_titleWidth 94
 hptl_clb_cml_setDisplayNum 96
 hptl_clb_cml_setEmailComment 100
 hptl_clb_cml_setLayAssortMentOrder 88
 hptl_clb_cml_setLayShowAssortMent 87
 hptl_clb_cml_setMax_checkBoxOrder 86
 hptl_clb_cml_setMax_dateOrder 92
 hptl_clb_cml_setMax_DefaultTab 101
 hptl_clb_cml_setMax_deliveryTimeOrder 94
 hptl_clb_cml_setMax_filterCommunity 85
 hptl_clb_cml_setMax_filterConfidential 83
 hptl_clb_cml_setMax_filterRecvType 83
 hptl_clb_cml_setMax_filterSender 84
 hptl_clb_cml_setMax_filterSubject 84
 hptl_clb_cml_setMax_filterUnread 82
 hptl_clb_cml_setMax_filterUrgent 82
 hptl_clb_cml_setMax_listPreviewRate 81
 hptl_clb_cml_setMax_recvTypeOrder 90
 hptl_clb_cml_setMax_sendPerson 91
 hptl_clb_cml_setMax_sendPersonOrder 91
 hptl_clb_cml_setMax_sendPersonWidth 95
 hptl_clb_cml_setMax_showCheckBox 86
 hptl_clb_cml_setMax_showDate 91
 hptl_clb_cml_setMax_showDeliveryTime 93
 hptl_clb_cml_setMax_showNoReadMail 80
 hptl_clb_cml_setMax_showPreview 81
 hptl_clb_cml_setMax_showRecvType 89
 hptl_clb_cml_setMax_showSize 92
 hptl_clb_cml_setMax_showState 88
 hptl_clb_cml_setMax_sizeOrder 93
 hptl_clb_cml_setMax_stateOrder 89
 hptl_clb_cml_setMax_titleOrder 90
 hptl_clb_cml_setMax_titleWidth 94
 hptl_clb_cml_setMLFEditSubject 107
 hptl_clb_cml_setMLFFileChar 107
 hptl_clb_cml_setMLFNameItem 107
 hptl_clb_cml_setSenderEmailComment 101
 hptl_clb_cml_setShowSecond 95
 hptl_clb_cml_setShowYear 95
 hptl_clb_cml_setSystemSetUpLay 79
 hptl_clb_cml_setSystemSetUpWhole 79
 hptl_clb_cml_setSystemSetUpWp 79
 hptl_clb_cml_setWpAssortMentOrder 88
 hptl_clb_cml_setWpShowAssortMent 87
 hptl_clb_cml_single_sign_on_login 48
 hptl_clb_cml_sortOut 68
 hptl_clb_cml_standard_language 54
 hptl_clb_cml_unchangeableAddressCheck 49
 hptl_clb_cml_useAgent 53
 hptl_clb_cml_useDatabase 54
 hptl_clb_cml_useEmailComment 50
 hptl_clb_cml_viewmailHeight 47
 hptl_clb_cml_viewmailWidth 47
 hptl_clb_cml_warnAttachedFileSharing 60
 hptl_clb_cml_workFolderPath 45
- J**
-
- J2EE Resources のデータソースの指定 31
- K**
-
- KDCO20011-I 269
 KDCO20012-E 269
 KDCO20013-I 270
 KDCO20014-E 270
 KDCO20101-I 271
 KDCO20102-I 271
 KDCO20103-I 272
 KDCO20104-I 272
 KDCO20105-I 273
 KDCO20106-I 273
 KDCO20107-I 274
 KDCO20108-I 274
 KDCO20109-I 275
 KDCO20110-I 275
 KDCO20111-I 276
 KDCO20202-E 277
 KDCO20301-I 277
 KDCO20302-E 278
 KDCO20303-I 278
 KDCO20304-E 279
 KDCO20305-I 280

KDCO20306-E 281
 KDCO20307-I 282
 KDCO20308-E 282
 KDCO20309-I 283
 KDCO20310-E 283
 KDCO20311-I 284
 KDCO20312-E 284
 KDCO20313-I 285
 KDCO20314-E 286
 KDCO20315-I 287
 KDCO20316-E 288
 KDCO20317-I 288
 KDCO20318-E 289
 KDCO20319-I 290
 KDCO20320-E 290
 KDCO20321-I 291
 KDCO20322-E 292
 KDCO20325-I 292
 KDCO20326-E 293
 KDCO20329-I 294
 KDCO20330-E 294
 KDCO20331-I 295
 KDCO20332-E 295
 KDCO20333-I 296
 KDCO20334-E 297
 KDCO20337-I 298
 KDCO20338-E 299
 KDCO20339-I 299
 KDCO20340-E 300
 KDCO20341-I 301
 KDCO20342-E 302
 KDCO20343-I 303
 KDCO20344-E 303
 KDCO20345-I 304
 KDCO20346-E 304
 KDCO20347-I 305
 KDCO20348-E 306
 KDCO20349-I 306
 KDCO20350-E 307
 KDCO20351-I 307
 KDCO20352-E 308
 KDCO20353-I 309
 KDCO20354-E 309
 KDCO20355-I 310
 KDCO20356-E 310
 KDCO20357-I 311
 KDCO20358-E 311
 KDCO20401-W 312
 KDCP01001-E 264

KDCP01002-E 265
 KDCP01101-E 265
 KDCP01102-E 265
 KDCP01103-E 265
 KDCP01104-E 265
 KDCP01105-E 266
 KDCP02001-E 266
 KDCP02002-E 266
 KDCP02004-E 266
 KDCP02005-E 266
 KDCP02006-E 267
 KDCP09001-E 267

M

MailPort 112
 MaxMailBodySize 113

R

RAS 用 Conf ファイルの設定 256
 RD エリアの作成 17
 RD エリアの作成方法 (宛先台帳用) 22
 RD エリアの作成方法 (メール保存用) 18
 RD エリアへの割り当て 25
 RD エリアを作成するときの注意事項 17

S

ServerTimeout 114

T

TraceFileNum 112
 TraceFileSize 112
 TraceLevel 112
 TracePath 111
 TryRelogin 113

U

uCosminexus Portal Framework 以外のシングルサ
 インオンプログラムでユーザ認証して、Groupmax
 Mail Server へ接続するかどうかの指定 48
 URL 319

W

Web ブラウザ 319

あ

値の説明で使用する記号 192

[宛先確認] 画面の [所属組織] に表示される組織名の指定 52

[宛先指定] 画面, および [代行受信者指定] 画面を開いたときに最初に表示される画面の指定 101

[宛先台帳] 画面の高さの指定 47

[宛先台帳] 画面の幅の指定 47

宛先台帳削除 133

宛先台帳の宛先一覧に表示される宛先の表示文字数の指定 97

宛先台帳の宛先一覧に表示される宛先を折り返すかどうかの指定 98

宛先台帳の宛先一覧に表示される項目を折り返すかどうかの指定 97

宛先台帳の宛先一覧に表示されるコメントの表示文字数の指定 97

宛先台帳の宛先一覧に表示されるコメントを折り返すかどうかの指定 98

宛先台帳の宛先一覧に表示される名前の表示文字数の指定 96

宛先台帳の宛先一覧に表示される名前を折り返すかどうかの指定 98

宛先台帳の宛先一覧をソートできるようにするかどうかの指定 67

宛先台帳の削除 127

宛先台帳 [用語解説] 319

宛先に E-mail コメントとして名前を設定してメールを送信するかどうかの指定 100

宛先に E-mail コメントとして名前を設定してメールを送信できるようにするかどうかの指定 50

宛先の判別方法の指定 57

[宛先をクリップボードへコピー] メニューを表示するかどうかの指定 59

アドレス管理ドメイン [用語解説] 319

アプリケーション名の指定 47

い

一覧画面で, 日時の「年」を表示するかどうかの指定 95

一覧画面で, 日時の「秒」を表示するかどうかの指定 95

一覧画面に表示されるメールの件数の指定 96

一覧画面 [用語解説] 319

一覧画面を表示させたときに, プレビュー表示領域を表示するかどうかの指定 81

一覧情報をキャッシュに保存するかどうかの指定 61

一覧表示領域とプレビュー表示領域の割合の指定 81

印刷画面に宛先一覧を表示するかどうかの指定 103

印刷画面に受信/送信日時を表示するかどうかの指定 104

印刷画面に主題を表示するかどうかの指定 103

印刷画面に送信者を表示するかどうかの指定 104

印刷画面に添付ファイルの一覧を表示するかどうかの指定 105

印刷画面に配信日時を表示するかどうかの指定 105

印刷画面に表示される文字列を折り返す位置の指定 106

印刷画面に本来受信者を表示するかどうかの指定 105

印刷画面にメールの属性を表示するかどうかの指定 104

印刷画面 [用語解説] 319

インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する値 224

え

エージェント機能を使用するかどうかの指定 53

か

外部宛先の E-mail コメントと E-mail アドレスのどちらを優先して表示するかの指定 63

画面に表示される文字の数の指定 79

環境定義ファイルに指定するパラメタ 15

監査ログが出力される操作 258

監査ログのメッセージ 268

監査ログのメッセージの記載形式 268

監査ログのメッセージの詳細 269

監査ログ [用語解説] 319

き

旧バージョンから移行する場合の設定 242

旧バージョンから移行する場合の注意事項 242

旧バージョンから引き継がれる設定内容 250

く

グループ宛先台帳登録フォルダ [用語解説] 320

グループ宛先台帳の作成時に所有者を変更できるかどうかの指定 66

グループ宛先台帳の所有者がグループ宛先台帳を削除できるかどうかの指定 67

グループ宛先台帳の所有者の変更 128

グループ宛先台帳の設定変更時に所有者を変更できるかどうかの指定 67

グループ宛先台帳 [用語解説] 320

グループ宛先台帳を作成できる組織の指定 66

グループ宛先台帳を作成できるユーザの指定 65

グループ宛先台帳を使用するかどうかの指定 64

グローバルバッファ設定時の注意事項 25

グローバルバッファの設定 24

グローバルバッファの容量の計算 25

け

- 兼任機能使用時の Groupmax Address Server の設定 257
- 兼任機能〔用語解説〕 320
- 兼任ユーザの宛先から主体ユーザの E-mail アドレスを取得するかどうかの指定 [Collaboration - Mail] 58
- 兼任ユーザのニックネームから主体ユーザの E-mail アドレスを取得するかどうか [Groupmax 通信ライブラリ] 114
- 兼任ユーザ〔用語解説〕 320
- 兼任〔用語解説〕 320

こ

- 個人宛先台帳〔用語解説〕 320
- 個人フォルダ〔用語解説〕 320
- コネクション切断時に再接続をするかどうかの指定 113
- コネクションを共有する場合に必要な設定項目 33
- コネクションを共有できるコンポーネントと共有イメージ 33
- コマンドの実行条件 133
- コンテンツタイプの指定 48
- コンフィグレーションプロパティの設定項目 32

さ

- 作成者〔用語解説〕 320
- 作成する RD エリアの一覧 (宛先台帳用) 23
- 作成する RD エリアの一覧 (メール保存用) 18
- 参照権〔用語解説〕 320

し

- [システムの設定に従う] チェックボックスがチェックされた状態にするかどうかの指定 79
- システムの負荷軽減と実行頻度 120
- 実行時プロパティの設定項目 32
- 指定された半角換算文字数で折り返す場合の、半角換算文字数の指定 106
- 自分の PC にメールを保存するときのファイル名から、[Re:] および [Fw:] を削除するかどうかの指定 107
- 自分の PC にメールを保存するときのファイル名に含まれる項目と項目の並び順の指定 107
- 受信種別の表示位置の指定 90
- 受信種別を一覧画面に表示するかどうかの指定 89
- 受信できるメール本文のサイズの上限値の指定 113

- 受信日時, 送信日時, および保存日時の表示位置の指定 92
- 受信日時, 送信日時, および保存日時を一覧画面に表示するかどうかの指定 91
- [受信メール一覧] 画面, および [送信済みメール一覧] 画面から, データベースへメールを移動できるようにするかどうかの指定 62
- [受信メール一覧] 画面, および [送信済みメール一覧] 画面から, データベースへメールを保存できるようにするかどうかの指定 61
- [受信メール一覧] 画面に未読のメールだけを表示するかどうかの指定 80
- 受信メールの未既読の状態について 253
- 主題の幅の指定 94
- 主題の表示位置の指定 90
- 主体ユーザ〔用語解説〕 320
- 障害対策の流れ 254
- 使用する Groupmax Agent Server の台数の指定 53
- 使用するプラグイン 15
- 署名および配布 URL のメール本文への挿入位置を変更できるようにするかどうかの設定 60
- 署名のタイトルに指定できる文字数の上限の指定 51
- 所有者変更 134
- 所有者〔用語解説〕 320
- 新着メールの有無を確認する間隔の最小値の指定 64
- 新着メールの有無を確認する間隔の指定 103

せ

- 前提となる環境の設定 11
- 全文検索の準備 118

そ

- 送信者および宛先の幅の指定 95
- 送信者および宛先の表示位置の指定 91
- 送信者および宛先を一覧画面に表示するかどうかの指定 90
- 送信者に E-mail コメントとして名前を設定してメールを送信するかどうかの指定 101
- 送信者または宛先の表示言語の指定 54
- 組織メールの制限 253
- ソフトウェア構成 5

つ

- 通信のタイムアウト時間の指定 114

て

- 定期的に新着メールの有無を確認するかどうかの指定 102

定期的に新着メールの有無を確認できるようにするか
 どうかの指定 63
 データソース名の指定 48
 データベース構築の前提条件 14
 データベースに保存できるメールのサイズの上限値の
 指定 55
 データベース容量の見積もり 15
 データベース容量の見積もりで使用する値 192
 テーブルおよびインデックスの作成 26
 添付ファイルサイズ合計の上限値の指定 43
 添付ファイル数の制限 253
 添付ファイルに対する全文検索の準備 119
 添付ファイルを表示する形式の指定 62

と

ドラッグ & ドロップで添付ファイルをダウンロード
 できなかった場合の対処 129
 トレース出力先の指定 111
 トレースファイルサイズの指定 112
 トレースファイルの各項目の詳細 254
 トレースファイル面数の指定 112
 トレースレベルの指定 112

な

ナビゲーションビューに振り分けフォルダへのショー
 トカットを表示できるようにするかどうかの指定
 68

に

ニックネーム 320
 認証サーバのポート番号の指定 113
 認証サーバのホスト名の指定 113

は

パーソナライズ情報 320
 パーソナライズ情報の見積もり 13
 ハードウェア構成 5
 配布 URL 320

ひ

一つの宛先台帳に登録できるフォルダおよび宛先の上
 限の指定 64
 表の格納ページ数の見積もりで使用する値 195

ふ

ファイルが添付されたメールが送信された場合にメッ
 セージを表示させる機能の設定 122

ファイルが添付されているメールが送信された場合に
 メッセージを表示するかどうかの指定 58
 ファイル共有に登録できなかったファイルをメールに
 添付するかどうかの設定 59
 ファイル共有のファイルを添付するときに警告メッ
 セージを表示させるかどうかの設定 60
 フィルタリング条件に「To/Cc/Bcc フィルタ」を追
 加するかどうかの指定 83
 フィルタリング条件に「コミュニティフィルタ」を追
 加するかどうかの指定 85
 フィルタリング条件に「至急フィルタ」を追加するか
 どうかの指定 82
 フィルタリング条件に「親展フィルタ」を追加するか
 どうかの指定 83
 フィルタリング条件に「送信者/宛先フィルタ」を追
 加するかどうかの指定 84
 フィルタリング条件に「未読フィルタ」を追加するか
 どうかの指定 82
 フィルタリング条件の履歴を保存する個数の指定 45
 不要なデータの削除 127
 振り分けたメールを一覧画面から削除するかどうかの
 指定 108
 振り分けルール [用語解説] 321
 プロパティファイルの記述形式と格納先
 (Collaboration - Mail) 41
 プロパティファイルの記述形式と格納先 (Groupmax
 通信ライブラリ) 110
 プロパティファイルの記述形式と格納先 ([メール]
 ポートレットの環境設定) 76
 プロパティファイルの記述例 (Collaboration - Mail)
 41
 プロパティファイルの記述例 (Groupmax 通信ライブ
 ラリ) 111
 プロパティファイルの記述例 ([メール] ポートレット
 の環境設定) 77
 プロパティファイルの詳細 (Collaboration - Mail)
 43
 プロパティファイルの詳細 (Groupmax 通信ライブラ
 リ) 111
 プロパティファイルの詳細 (宛先台帳の表示に関する
 設定) 96
 プロパティファイルの詳細 (一覧画面に関する設定)
 80
 プロパティファイルの詳細 (一覧画面に表示する項目
 の設定) 85
 プロパティファイルの詳細 (一覧画面に表示するフィ
 ルタリング条件の設定) 82
 プロパティファイルの詳細 (印刷画面の設定) 103

プロパティファイルの詳細 (画面の表示に関する設定) 79
 プロパティファイルの詳細 (新着メールの監視に関する設定) 102
 プロパティファイルの詳細 ([設定] 画面の状態に関する設定) 78
 プロパティファイルの詳細 (メール送信の設定) 99
 プロパティファイルの詳細 (メールの振り分けに関する設定) 108
 プロパティファイルの詳細 (メールファイル作成に関する設定) 107

へ

別ウィンドウ表示画面の高さの指定 47
 別ウィンドウ表示画面の幅の指定 47
 変更権 [用語解説] 320

ほ

ほかのコンポーネントとコネクションを共有する場合の設定 33
 保存しようとしたメールのファイル名に使用できない文字が含まれていた場合に置き換わる文字の指定 107
 保存できる署名の数の上限の指定 51

ま

マスタレコードの作成 26

め

メール宛先個数の制限 253
 メールオプションの制限 253
 メールサーバから取得するメールの上限数の指定 56
 [メール作成] ウィンドウの高さの指定 46
 [メール作成] ウィンドウの幅の指定 46
 [メール作成] 画面に表示される宛先をメールアドレスと名前のどちらで表示するかの指定 100
 [メール作成] 画面を表示させたときに、自動的に自分のアドレスを Bcc に追加するかどうかの指定 99
 メール作成時にファイルの添付方法を選択できるようにするかどうかの設定 59
 メール主題の長さ 253
 [メール送信時, 宛先確認画面を必ず表示する。] チェックボックスを変更可能にするかどうかの指定 49
 メール送信時にアクセス権を設定する対象に数える配布 URL の最大値の指定 57
 メール送信時に必ず [送信の確認] 画面を表示するかどうかの指定 99

メールに設定されている属性およびメールの状態の表示位置の指定 89
 メールに設定されている属性およびメールの状態を一覧画面に表示するかどうかの指定 88
 メールサイズの表示位置の指定 93
 メールサイズを一覧画面に表示するかどうかの指定 92
 メール自動転送・自動返信機能の詳細メッセージ 264
 メール自動転送・自動返信機能の詳細メッセージの記載形式 264
 メール自動転送・自動返信機能の詳細メッセージの形式 264
 メール自動転送・自動返信機能のメッセージの詳細 264
 メール主題、またはメールの本文に対する全文検索の準備 118
 メール種別の表示位置の指定 88
 メール種別を [保存メール一覧] 画面に表示するかどうかの指定 87
 メール配信日時の表示位置の指定 94
 メール配信日時を一覧画面に表示するかどうかの指定 93
 メール振り分けができるようにするかどうかの指定 68
 メール本文に署名および配布 URL を挿入したときの挿入位置の指定 101
 メール本文に挿入した配布 URL にアクセス権を設定する機能の設定 121
 メールファイル (ファイル名.mlf) を表示する前に確認するかどうかの指定 51
 メールファイル [用語解説] 321
 [メール] ポートレットの環境設定に関するプロパティ (hptl_clb_cml_set.properties) の設定 70
 [メール] ポートレットの環境設定に関するプロパティの設定方法 70
 [メール] ポートレットを別ウィンドウに表示させたときの高さの指定 46
 [メール] ポートレットを別ウィンドウに表示させたときの幅の指定 46
 メール保存用のデータベースのスキーマ名の指定 45
 メール保存用のデータベースを使用しない場合の作業 251
 メール保存用のデータベースを使用しない場合の設定 251
 メール保存用のデータベースを使用しない場合の注意事項 251
 メール保存用のデータベースを使用するかどうかの指定 54

メール保存用のフォルダの削除 127
 メールを選択するためのチェックボックスを一覧画面
 に表示するかどうかの指定 86
 メールを選択するチェックボックスの表示位置の指定
 86
 メソッドキャンセル機能を利用する場合の注意事項
 115
 メッセージ定義ファイルの記述形式 124
 メッセージ定義ファイルの記述例 124
 メッセージ定義ファイルの作成方法 123
 メッセージ定義ファイルの設定内容 125
 メッセージの本文 125
 メッセージの文字サイズ 125
 メッセージの文字色 125

も

文字コードの指定 48
 文字コードの変更 14
 モデルケースごとの RD エリアの容量 142
 モデルケースごとのデータベース容量 140
 モデルケースごとのテーブルおよびインデクスのセグ
 メント数 149

ゆ

ユーザ LOB 用 RD エリアの見積もりで使用する値
 239
 ユーザ権限の設定 14
 ユーザ用 RD エリアの容量見積もりで使用する値 193

よ

容量見積もりの前提条件 192

り

リンク先のページが表示される画面の高さ 126
 リンク先のページが表示される画面の幅 126
 リンク先のページの URL 125

る

ルートフォルダ [用語解説] 320

ろ

ログ出力先のフォルダの指定 44
 ログファイルサイズの指定 45
 ログファイルの形式 135
 ログファイルの文字コードの指定 45
 ログファイル面数の指定 45
 ログレベルの指定 44

わ

ワークファイルを作成するフォルダの指定 45